

名古屋市蓬左文庫所蔵資料目録（1）

『青窓紀聞』目次

「幕末維新書簡集」内訳目録

平成 30 年 3 月

名古屋市蓬左文庫



平成 29 年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）

刊行にあたって

尾張徳川家の御文庫を起源とする蓬左文庫は、徳川家康の旧蔵書である駿河御^{するが}護^{おゆずり}本^{ぼん}や、初代^{よしなお}義直をはじめ歴代藩主が収集した書物を中心に、およそ 11 万点の古典籍を所蔵しており、日本有数の古典の宝庫として知られています。

その蔵書には、重要文化財「河内^{かわち}本源氏物語」をはじめとする、いわゆる「古典」の名品のみならず、尾張名古屋の歴史や文化を探る上で重要な価値を持つ歴史資料や記録が数多く含まれています。それらを紹介し、地域の歴史解明に広く活用していただくことは、地域に根差した市民の文庫として、蓬左文庫に求められる重要な役割であるといえます。

本書はそれらのなかでも一つの核となる幕末維新期の資料のなかから、尾張藩の重臣^{たいどうじ}大道寺家の用人・水野^{みずの}正信^{まさのぶ}が著した記録『青窓^{せいそう}紀聞』の目次と、幕末に活躍した尾張藩の儒者・水野彦^{ひこ}三郎^{さぶろう}のもとに伝わった書簡の目録を刊行するものです。各史料の詳しい内容はそれぞれの解題に譲りますが、これらはいずれも、幕末維新期における尾張藩の政治・文化・社会的な動向を知る上で欠かせない、第一級の歴史資料であるといえます。

折しも本年は、明治維新から 150 年を迎え、改めてこの時代が注目を集めています。こうした関心の広がりを一過性の流行にとどめず、確かな史実に基づいて歴史を探求するきっかけとするには、その基礎となる歴史資料の存在が欠かせません。しかしながら適切な目録や解題なくして、膨大な歴史資料をひもとくことは困難であるといえます。平成 29 年度文化庁文化遺産総合活用推進事業の成果である本書が、微力ながらこれらの史料を活用する手助けとなり、地域の歴史を探求するための、よき道しるべとなれば幸いです。

平成 30 年 3 月
名古屋市蓬左文庫

目次

● 刊行にあたって	i
● 『青窓紀聞』 解題	iii
● 「幕末維新書簡集」 解題	vii
○ 『青窓紀聞』 目次	1
・ 凡例	3
・ 各巻の収録年代	5
・ 目次	9
○ 「幕末維新書簡集」 内訳目録	125
・ 凡例	127
・ 目録	129

せいそう きぶん
『青窓紀聞』 解題

名古屋市蓬左文庫
学芸員 木村慎平

はじめに

本書に収録した『青窓紀聞』目次は、名古屋市蓬左文庫が所蔵する『青窓紀聞』全 204 冊の各冊に記された内容を示したものである。『青窓紀聞』¹は、尾張藩の重臣・大道寺家の用人を務めた水野正信（幼名万太郎、通称三四郎・与十郎・清八郎・三右衛門、1805～68）が著した記録である。

蓬左文庫は正信旧蔵書 800 点余りを所蔵しており、『青窓紀聞』もそのなかに含まれる²。これらは蓬左文庫を設立した尾張徳川家十九代当主・徳川義親（1886～1976）の命により、書誌学者の植松安らが大正時代に調査・収集したものである³。その内容は、『青窓紀聞』のほか、海外や蝦夷地関係の地誌などをまとめた『青牖叢書』⁴（104 冊）、政治関係の文書を書写した『資治雜笈』⁵（94 冊）など、膨大な記録・自筆写本・編纂物が大半を占めている。

正信は歳の近い主君大道寺直寅（玄蕃・1804～62）の側に仕え、秘書的な役割を担っていた⁶。こうした職務上、正信はさまざまな情報を収集する必要があったと考えられるが、それにしても残された自筆写本の量は尋常ではない。正信と交流のあった儒学者の細野要齋（忠陳）は「正信常に当世の見聞を筆記するを以て楽とし、昼夜筆を把て間断なし」⁷と評しているが、これは決して誇張ではないだろう。

ここでは、『青窓紀聞』の成り立ちや記述内容、そして背景にある水野正信の情報網について、ごく簡単に紹介しておきたい。

『青窓紀聞』の成り立ち

前述のとおり『青窓紀聞』は全 204 冊からなっている。現存する『青窓紀聞』は巻一が欠けており、巻二が第一冊となっている。その巻二の記述は文化 11 年（1814）から始まっ

¹ 請求番号：33-3。

² 水野正信旧蔵書の一部は徳川林政史研究所にも所蔵されている。これは昭和 25 年（1950）に蓬左文庫蔵書が名古屋市に移管された際、財団法人徳川黎明会に残されたものである。

³ 植松の調査によって作成された水野家蔵書の目録として「水野乙吉書類目録」（名古屋市蓬左文庫蔵、請求番号：27-160）がある。

⁴ 請求番号：32-240。

⁵ 請求番号：33-1。細野要齋によれば、『資治雜笈』は安政 2 年（1855）、正信が江戸在府中に筆写したものであるという（「菴の滴 感興漫筆」十五、名古屋市教育委員会『名古屋叢書 第二十卷』名古屋市教育委員会、p173）。

⁶ 正信の経歴については「御年表」（請求番号：32-30）および「恩顧録」（32-92）を参照。

⁷ 「菴の滴 感興漫筆」三四（前掲『名古屋叢書 第二十二卷』、p133）。

ており、最終巻にあたる巻二百二⁸は、正信が没する直前の慶応4年（明治元年・1868）におよんでいる。各巻が収録された情報の年代と同時に書き留められたとすれば、正信はおよそ50年にわたって『青窓紀聞』を記し続けたことになる。しかしながら、巻二の記述が始まる文化11年、正信はわずか8～9歳であり、いまだ大道寺家への出仕⁹も果たしておらず、この年から執筆・編纂を始めたとは考えにくい。

実際、巻二の記事をみると「反古」や神野仲雄という人物の「随筆」から書写したとする記述が随所に見られる。神野仲雄は大道寺家に仕えた正信の先輩格にあたる人物である¹⁰。これと関連して注目すべきは、巻二の冒頭に「郁李園随筆 卷之第三」という表題が記されている点である。実は蓬左文庫に伝わる水野正信旧蔵書のなかに、『青窓紀聞』とは別に全六巻からなる『郁李園随筆』1冊¹¹が存在する。そこには「三」も含まれるが、その内容は『青窓紀聞』巻二とは全く異なっており、両者は整合していない。だが、『郁李園随筆』に含まれる記事は文政以前の内容に限られ、やはり神野の随筆や反古の写しが多く含まれている。これらを踏まえると、『郁李園随筆』は『青窓紀聞』以前にある程度まとめられており、そこから洩れた記事や、その他の雑多な記録を編年にまとめなおして、初期の『青窓紀聞』が編纂されたのではないだろうか。

更に、第2冊目にあたる巻三のうち、文政3年（1820）の刃傷沙汰と仇討について記した箇所（55丁、56丁）には、末尾に「右文政七申年つゐに復讐を遂げたり、始末申年の巻に出之」とある。なお、この一文は後筆の注記ではなく本文中に記されている。そこで「文政七申年」の巻、すなわち巻六をみると、第7丁からこの仇討に関する記事が記されている。ここから推測すると、正信はまず文政7年以降に巻六にあたる部分の編集をおこない、そののちに巻二の記事を編集したと考えられるのである。以上の点から、少なくとも最初期の部分は後年にまとめられたと考えて間違いないだろう¹²。そして後年の巻も、情報を主題ごとに整理分類していることをみると、こうした編纂作業は全編にわたって行われたと考えられる。その意味で、『青窓紀聞』は単なる日記や逐次的な記録ではなく、編年に整理された一種の「編纂物」と捉えたほうが妥当であろう。

記述量と内容の変遷

『青窓紀聞』の記述量を年ごとに見ると嘉永6年（1853）のペリー来航を境にして急激

⁸ 『青窓紀聞』の巻次構成は一冊一巻が基本であるが、例外として巻二と巻百八十が欠巻、巻三十三と巻四十四がそれぞれ上下に分かれ、巻百八十七が甲乙に分かれている。また、巻百二に附録1冊が附属している。

⁹ 正信が初めて出仕したのは文政元年（1818）である（前掲注<6>「恩顧録」参照）。

¹⁰ 太田正弘『補訂版 尾張著述家総覧』（太田正弘、2005年）によれば、神野仲雄（権右衛門）は大道寺家の家来で文政11年（1828）に没している。

¹¹ 請求番号：37-74。

¹² なお、細野要齋は安政3年（1856）に水野から『青窓紀聞』と思われる雑記のうち、「安政三丙辰の一」の1冊を借用、書写している。細野によればこれは第46冊であったというが、現在の『青窓紀聞』のうち「安政三丙辰之一」は第七十三巻（第74冊）であり、冊数が大幅に増加している。このことも『青窓紀聞』の最初期部分が後年に追加された可能性を示唆する（「葎の滴 感興漫筆」十六、前掲『名古屋叢書 第二十巻』p247）。

に増大している。具体的には、『青窓紀聞』の年別冊数をみると、嘉永5年以前は年平均1冊強で、多い年でも年3冊であるのに対し、嘉永6年は12冊となり、以降は年平均10冊弱となっているのである。

すでに指摘されているとおり、ペリー来航の衝撃は流通する政治情報の爆発的な増大をもたらした。幕府や諸藩の発するごく限られた公式情報に飽き足らない人々は、かわら版や錦絵といった民間の印刷媒体、あるいは種々のうわさ話によって、その好奇心を埋め合わせたのである。そうしたさまざまな情報は、情報を求める各地の武士や村役人、学者らによって書き留められ、多くの冊子や綴りにまとめられた。それらは一般に「風説留」と呼ばれている。『青窓紀聞』もそうした幕末における風説留の一種といえる。

記事の内容からみても、ペリー来航は大きな画期となっている。ペリー来航以前には名古屋城下やその周辺での寺社開帳、祭礼、見世物興業など娯楽や信仰に関わるできごと、刃傷沙汰や火事、雷など城下の些末な事件が中心を占めている。ところが、ペリー来航以後は対外関係を含む政治情勢に関する情報が明らかに増大し、他を圧倒しているのである。

ただし、ペリー来航以前にも異国船に関する記事はみられるし、弘化4年(1847)に信濃を襲った大地震に、とりわけ多くの紙幅を費やしていることは注目に値する。ペリー来航が大きな画期となっていることは確かだが、それ以前の異国船来航や大災害を通じて、正信が全国的な社会情勢、政治情勢への関心を深めていったことがうかがえよう。

正信の交友関係と情報網

『青窓紀聞』に記録された膨大な情報の背景には、尾張にとどまらない正信の幅広い交友関係が存在した。一例を挙げれば、「北海道」の名付け親として知られる探検家の松浦武四郎からの書状が何点か書写されている。松浦は正信が蝦夷地関係の優れた写本を所蔵していることを、江戸の蕃書調所に出仕していた尾張の本草学者・伊藤圭介から伝え聞き、正信との交流をもったのである¹³。

このほかにも、江戸や京都の尾張藩邸からもたらされる情報はもちろん、函館や敦賀、長崎など全国各地からもたらされた情報が書き留められており、尾張藩の一陪臣にすぎない正信が、意外なほど幅広い情報網を築いていたことをうかがわせる。『青窓紀聞』には、こうしたネットワークを通じて得られた独自の情報が書き留められており、史料としての大きな特徴となっている。

こうして正信が収集した情報は、同好の藩士らの間で共有されていた。この点で、同時代の尾張に、正信のような「記録魔」的な人物が少なからず存在したことは注目に値する。例えば先に名前の出た細野要齋は、「葎の滴」と題した膨大な随筆を残しているし、細野が正信の「同好の士」と評した小寺玉晁¹⁴、名古屋城の百科事典『金城温古録』を著した奥村得

¹³ 土井康弘『日本最初の理学博士 伊藤圭介の研究』(皓星社、2005年) p161~179。

¹⁴ 小寺は、もとは水野正信と同じく大道寺家の家臣で、のちに尾張藩士の野崎氏、高橋氏に仕えた尾張藩の陪臣である(「葎の滴 感興漫筆」十六、前掲『名古屋叢書 第二十巻』p226)。

義らも、それぞれ膨大な記録を残している。細野によれば、正信や玉晁は同好の「好事家」たちとともに、毎月のように「好古会」「同好会」を開催していた¹⁵。彼らはこうした集まりを通じて情報を交換していたため、互いの記録には同じ内容の記事がみられる。『青窓紀聞』は、こうした尾張における記録文化の所産ともいえるだろう。

おわりに

以上、『青窓紀聞』の成り立ちと変遷、そしてその背景にある正信の情報網についてみてきた。204冊におよぶ膨大な記録からは、江戸時代末における庶民の営み、歴史災害に関する情報、そして幕末動乱期における尾張藩の動向など、さまざまな情報を読み取ることができる。

このように、豊富な情報を持つ『青窓紀聞』が極めて有益な史料であることは言うまでもないが、量が膨大であるだけに、概略を把握する手段なしにその活用は極めて難しい状態であった。この目次が『青窓紀聞』を一層活用する足がかりとなれば幸いである。

¹⁵ 「葎の滴 感興漫筆」十五（前掲『名古屋叢書 第二十巻』）。また、明治9年（1876）には「同好会社有志」の主催で追善会が開かれた。それによれば同好会には野口道直、岡田啓、小田切春江といった『尾張名所図会』の編纂に関わった人々を含む、多くの会員が存在したことがわかる（「葎の滴 感興漫筆」四十一、前掲『名古屋叢書 第二十二巻』p354～356）。

「幕末維新書簡集」解題

名古屋市蓬左文庫
学芸員 木村慎平

はじめに

本書に収録した「幕末維新書簡集」内訳目録は、名古屋市蓬左文庫が所蔵する、幕末から明治初年にかけての書簡や草稿を年代ごとに綴じ込んだ簿冊 13 件の内訳目録である。また、本目録には掲載できなかったが、同系統の資料として下記の 5 件が蓬左文庫に伝わっている。

- ・文武世話一条（元和元年） 請求番号：27-20
- ・二度目御上京之記（文久三年） 請求番号：27-37
- ・公武御一和（文久三年） 請求番号：27-97
- ・征長総督 付水戸暴徒通行 請求番号：27-98
- ・急御用ニ而東下一条（文久三年） 請求番号：27-166

これらに綴じ込まれた文書には書簡だけでなく日記の断片のようなメモ書き、文書の草案など雑多な史料も含まれるが、ここでは便宜上既存の表題を生かして「書簡集」と呼称したい。これらの書簡集に共通しているのは、収録された書状の宛名に「水野彦三郎」の名前が多くみられることである。水野彦三郎（忠雄）¹は尾張藩の御儒者を務めた人物で、徳川慶勝^{よしかつ}の側近として幕末維新时期における尾張藩政の中枢に関与した人物である。このため、これらの資料は幕末維新时期における尾張藩政の内実を知る上で貴重な一次史料であると考えられる。

これらの資料は従来から名古屋市蓬左文庫で閲覧に供されており、開架書棚にはマイクロフィルムからの紙焼本も配架されているが、量が膨大である上に収録された文書一点ごとの内訳目録が存在しなかったため、全体像の把握が難しく、十分に活用されてきたとは言いがたい²。ここでは、書簡集利用の一助として、その来歴について若干の考察を記しておきたい。

水野彦三郎（忠雄）について

まず、書簡集の旧蔵者と思われる水野彦三郎の経歴についてまとめておきたい。「藩士名

¹ 目録中に見られる「霞洲」は彦三郎の号と思われる。

² これらの書簡集を活用した研究は、管見の範囲では下記の藤田英昭氏による一連の研究に限られる。藤田英昭「慶応元年前後における徳川玄同の政治的位置」（『日本歴史』658号、2003年）、同「文久二・三年の尾張藩と中央政局」（家近良樹編『もうひとつの明治維新』有志舎、2006年）、同「幕末の徳川將軍家と尾張家十五代徳川茂徳」（『金鯨叢書』第41輯、2014年）、同「慶応三年における尾張徳川家の政治動向」（『同』第43輯、2016年）。

「藩士名寄」³によれば、水野彦三郎は嘉永4年（1851）3月5日、「学業相励追々上達」が認められ、三人扶持を与えられている。この年の2月4日、彦三郎の父松軒が病死しており、父の家督を継いだものと考えられる。松軒は天保3年（1832）に医術出精を認められて五人扶持を与えられ、同13年（1842）には寄合御医師となり七人扶持を与えられている。このように、彦三郎は御医師の子として生まれ、自らも学問に励むことで扶持を与えられたが、彦三郎自身は父松軒とは異なり儒学の道に進んだ。

彦三郎は安政6年（1859）に「御儒者」となったのを皮切りに、文久2年（1862）には「奥御儒者」、元治元年（1864）には「明倫堂教授次座」と、儒学関係の役職を歴任した。その後、留書奉行、町奉行格等を経て版籍奉還後の明治2年（1869）10月には名古屋藩権少参事となっている。この間、加増や足高を積み重ね、文久3年（1863）には「永々御目見以上」を仰せ付けられるなど、着実に出世を遂げている。

こうした出世の背景には、尾張徳川家十四代当主であり、隠居後も幕末維新期の尾張藩政を主導した徳川慶勝の側近として彦三郎が果たした役割があったと考えられる。このことは、「藩士名寄」には明記されないものの、書簡集に収録された史料を概観すれば明らかである。これらの史料のなかには、慶勝の名前で作成された諸文書の草案と思われる文書もみられ、そうした文書の作成に彦三郎が関与していたと思われる。恐らく彦三郎は儒者としての教養を基盤に、慶勝の施策を支えるブレーンの一人として、幕末維新期における尾張藩政の中枢に関わる立場にあったと考えられる⁴。

尾張藩政において培われた彦三郎の能力は、廃藩後も文部省の官僚として発揮された。廃藩置県後、彦三郎（明治以後は諱の「忠雄」を使用。ここでは便宜上、通称の「彦三郎」で統一）は明治5年（1872）2月に県への事務引継ぎを終えると、明治6年（1873）3月末、大講義に補せられて教部省に出仕したのち、同年12月から文部省に出仕した⁵。彦三郎はこれ以後明治18年（1885）まで文部省に奉職し、その間、内国勸業博覧会審査官や東京師範学校の礼節取調掛などを兼職している。文部省における彦三郎の勤務成績は優秀だったようで「事務老練頗ル御用弁」と評され、たびたび褒賞や慰労金を下賜され、最終的には准奏任御用掛に昇進した。没年は不明だが、明治24年（1891）1月に危篤となり、これを機に従六位に叙位されており、こののち間もなく亡くなったと推測される⁶。

彦三郎の叙位にあたっては旧犬山藩主の男爵成瀬正肥が推薦文を寄せた⁷。成瀬は幕末に尾張藩付家老として慶勝を支えた人物である。成瀬によれば、彦三郎の最大の功績は維新前後の朝幕間における周旋活動にあり、江戸城引き渡しにあたって幕吏の説得に尽力したことであった。同時に提出された履歴書によれば、彦三郎は水戸藩や結城藩に対する勤王

³ 「藩士名寄」（徳川林政史研究所蔵）。

⁴ この点については、さしあたり<注1>の藤田氏による諸研究を参照。

⁵ 「一等属水野忠雄御用掛被命ノ件」『公文録』明治十七年・第百九十七巻・官吏進退（文部省）、（国立公文書館蔵）。

⁶ 「水野忠雄特旨ヲ以テ新叙ノ件」『官吏進退』明治二十四年官吏進退八・叙位一（国立公文書館蔵）。

⁷ 前掲<注5>参照。

誘引工作にも関与したという。また、戊辰戦争において名古屋藩が北越に出兵した際、「軍事参謀」として活躍したこと、明治天皇の東幸にあたって三河、遠江、駿河三国の情勢探索に尽力したことも記されている。なお、明治8年(1875)1月の段階では彦三郎の本籍地は「第一大区三小区東二葉町廿四番地」(現名古屋市東区)である⁸。この時すでに彦三郎は東京府に寄留して文部省に出仕しており、本籍地は浅尾種充という人物の邸地とされ、同人が寄留引受人となっている。

資料の伝来について

書簡集の伝来を考えるうえでまず注目すべきは、書簡を綴じる台紙に文部省用箋の復古紙が使われていることである。前述のように彦三郎は廃藩置県後、文部省に長く奉職していた。このことから、書簡集は彦三郎本人が、同省の復古紙を台紙にして年代ごとにまとめたものと考えられる。では、彦三郎はなぜこのような書簡の整理を行ったのだろうか。

結論から記せば、この書簡の整理は尾張徳川家における家史編纂に関連して進められたと考えられる。明治5年(1872)、政府は正院に歴史課を設置して歴史編纂事業を開始し、旧大名や公家に資料の提供を求めた⁹。これを受けて、尾張徳川家では幕末から明治初年にかけての事蹟をまとめる必要が生じた¹⁰。尾張徳川家は明治7年(1874)、政府に「徳川義宜家記」(全9冊)および「徳川家譜」(全4冊)を提出したが¹¹、その後も幕末の慶勝・茂徳・義宜三代の事蹟をまとめる作業を独自に進めた。その成果は明治30年前後には『三世紀事略』としてまとめられている。だが蓬左文庫と徳川林政史研究所に所蔵されている『三世紀事略』には、編纂の名前は一切記されていない¹²。また、蓬左文庫が所蔵する「三世紀事略草稿」¹³には付箋で修正意見が記されており、そこには尾崎良知¹⁴をはじめ、勝野良順、志水忠平、中村修ら旧尾張藩士の署名がみられ、彼らが原稿の修正作業に携わったことが確認できるが、肝心の原稿執筆者はやはり不明である。

ところが、名古屋市鶴舞中央図書館が所蔵する『三世紀事略』の題籤には「水野只雄奉

⁸ 「尾参士族名簿」(徳川林政史研究所蔵)。

⁹ 正院歴史課における歴史(維新史)編纂事業については松沢裕作「明治政府の同時代史編纂『復古記』とその周辺」(箱石大編『戊辰戦争の史料学』勉誠出版、2013年)を参照。

¹⁰ 正院歴史課における歴史編纂事業に対応した尾張徳川家の動向を知る史料として「御系譜御事蹟編纂取調帳」(名古屋市蓬左文庫蔵、請求番号27-125)がある。

¹¹ 「徳川義宜家記(尾張名古屋)」「徳川家譜(尾張名古屋)」(東京大学史料編纂所蔵)。なお、この時期の歴史編纂事業にともない、旧大名・公家などから歴史課に提出された「家記」類は約500点にのぼるといふ(松沢前掲<注8>p178参照)。

¹² なお、『三世紀事略』の蓬左文庫本を底本とした全文翻刻は『名古屋叢書』第5巻(名古屋市教育委員会、1962年)に収録されている。

¹³ 請求番号27-123。

¹⁴ 尾崎良知(荒川甚作)は、明治21年(1888)12月7日に尾張徳川家18代義礼から「御家政向御相談役」を依頼され、同23年(1890)6月18日に義礼から「故従一位徳川慶勝公の御行状編纂方」を依頼されている(尾崎忠征・尾崎良知著、尾崎知光編『旅雁秘録』、2003年)。尾崎は同29年(1896)に『文公行状』(名古屋市蓬左文庫蔵、請求番号129-44)および『文公逸事』(名古屋市蓬左文庫蔵、請求番号129-46)を独自に編纂して尾張徳川家に献納しているが、『三世紀事略』の修正作業にも同時に携わっていたと考えられる。

君命編」と記されているのである¹⁵。「只雄」と「忠雄」では字が異なるものの、編者が旧尾張藩士であることを前提とすれば、水野彦三郎（忠雄）を指すと考えてよいだろう。鶴舞図書館本は明治末から大正初めに行われた『名古屋市史』編纂事業にともない、尾張徳川家の所蔵本（現在の蓬左文庫本か）を市史編纂係が書写したものである。このため鶴舞図書館本の中に編者名が記されているのは不可解であるが、恐らく書写の際に市史編纂係が尾張徳川家の関係者から聞いた編者名を追記したのではないだろうか。

『三世紀事略』の編纂に水野彦三郎が関与したとすれば、書簡を整理したのも同書を編纂するための資料整理であったと考えられる。このことの傍証として、蓬左文庫が所蔵する「明治四十五年三月 名古屋邸より送附書目」¹⁶が参考になる。この目録は尾張徳川家十九代当主の徳川義親^{よしちか}が維新史編纂のため、名古屋大曾根邸^{おおぞね}から自身の居住する東京（仲ノ町学問所か水道端邸）に運ばせた資料の目録である。この目録の「三号土蔵一位様御履歴材料書類入長持内」という項目のなかに、「文久三亥年公武御一和」「文久三亥年」「元治元子年」「慶応二年寅年」「明治元辰年」「明治元年正月より」「明治二巳年」「明治三年年来翰」という書目が、それぞれ「一束」として記載されている。このうち「文久三亥年公武御一和」は現在の「公武御一和（文久三年）」に、「明治三年年来翰」は「明治三年來翰」にそれぞれ該当すると考えられる。これを前提とすれば、現状と完全には一致しないものの、他の書目もそれぞれ現在の各年書簡に該当すると推定できるのではないだろうか。要するに、明治45年（1912）の段階で、書簡集は尾張徳川家大曾根邸の三号土蔵に「一位様御履歴材料」、すなわち徳川慶勝の履歴資料として収蔵されていたと考えられるのである。

以上の点から、少なくともこれらの書簡集が、明治期の尾張徳川家において進められた、慶勝の事蹟編纂のために整理・収集されたことは確実であろう。

おわりに

まとめると、本目録に掲載した書簡集は、幕末維新时期に徳川慶勝を支えた儒者の水野彦三郎が、自身のもとに存在した来翰や書付を、尾張徳川家における徳川慶勝（および茂徳、義宜）の事蹟編纂のために整理し、最終的に尾張徳川家に納めたものであると考えられる。こうした経緯を踏まえれば、整理に当たって事蹟編纂に不都合な史料を排除するなど、一定の取舍選択が行われた可能性も否定できない。こうした点は、明治以降の尾張徳川家における維新史編纂事業の全体像のなかで、改めて検討する必要があるだろう。

とはいえ、これらの書簡集自体は公開を前提にまとめられたものではなく、あくまで事蹟編纂の材料として整理されたものであり、後年の編纂物等では得られない情報を豊富に含む一次史料であることは間違いない。本目録の公開により、これらの史料を活用した研究の進展を期待したい。

¹⁵ この点は蟹江和子氏のご教示による。

¹⁶ 請求番号 27-152。

『青窓紀聞』 目次

『青窓紀聞』目次 凡例

- ・本目次は名古屋市蓬左文庫が所蔵する『青窓紀聞』（請求番号 33-3）の目次である。
- ・「各巻の収録年代」は、各巻に収録されている記事の年代を一覧にし、対応する目次の頁数を記したものである。
- ・「各巻の収録年代」において、改元があった年は、改元の月日と本文の内容に関わらず、改元後の元号のみ記した。
- ・項目の採用基準は下記のとおりである。ただし、この基準はあくまで原則であり、実際には本文の内容と構成が極めて複雑であるため、必ずしも厳密に適用されていない。
 - (1) 原本冒頭に目次が付されている場合は、これに従って項目を採録し、本文と照合して適宜内容を補った。
 - (2) 原本冒頭に目次が付されておらず、本文中に表題を付して項目が立てられている場合は、これに従って項目を採録した。
 - (3) 原本に冒頭目次、本文中の項目などが記されていない場合は、本文の内容に応じて適宜項目を採録した。
- ・項目の記述方法は、原本目次の記述をそのまま翻刻した箇所、編者が独自に記述した箇所が混在しているが、あえて統一していない。

利用にあたって

資料の一部には、その時代的背景から、基本的人権にかかわる不適切な表現が含まれています。歴史資料は後世に正しく伝えられることが必要ですが、それとともに歴史のなかに正しく位置づけられることが大切です。本資料についても、それを生みだした政治的・経済的・社会的背景を正しくとらえた上で理解する必要があります。このような考えから、資料の記述をそのまま掲載している箇所がありますが、そうした表現の使用を肯定するものではありません。資料の利用にあたってはその点をご理解いただき、歴史的現実によく学び、真の民主社会実現のための一助としていただきますよう望むものです。

謝辞

本目次の作成にあたり、下記の方々にご助言・ご協力いただきました。（敬称略・五十音順）
犬飼伊保子 笥真理子 末松美咲 種田裕子 羽賀祥二 藤森禎子 堀内亮介 前田智子
松原国世 真野智恵 山中雅子

各巻の収録年代

巻(冊)	和暦(西暦)	目次頁
巻一(欠)	-	-
巻二(1)	文化11年(1814)～同14年(1817)	9
巻三(2)	文政元年(1818)～同3年(1820)	9
巻四(3)	文政4年(1821)～同5年(1822)	12
巻五(4)	文政6年(1823)	16
巻六(5)	文政7年(1824)	17
巻七(6)	文政8年(1825)～同9年(1826) 補遺:文政7年(1824)	18
巻八(7)	文政10年(1827)	22
巻九(8)	文政11年(1828)～同12年(1829)	24
巻十(9)	天保元年(1830)	27
巻十一(10)	天保2年(1831)	28
巻十二(11)	天保3年(1832)	29
巻十三(12)	天保4年(1833)～同5年(1834)	30
巻十四(13)	天保6年(1835)	32
巻十五(14)	天保7年(1836)	33
巻十六(15)	天保8年(1837)	33
巻十七(16)	天保9年(1838)	34
巻十八(17)	天保9年(1838)	34
巻十九(18)	天保10年(1839)	34
巻二十(19)	天保10年(1839)	34
巻二十一(20)	天保11年(1840)	35
巻二十二(21)	天保12年(1841)	35
巻二十三(22)	天保12年(1841)	35
巻二十四(23)	天保13年(1842)	36
巻二十五(24)	天保13年(1842)	36
巻二十六(25)	天保13年(1842)	37
巻二十七(26)	天保14年(1843)	38
巻二十八(27)	天保14年(1843)	38
巻二十九(28)	天保14年(1843)	39
巻三十(29)	弘化元年(1844)	39
巻三十一(30)	弘化2年(1845)	40
巻三十二(31)	弘化3年(1846)	41
巻三十三上(32)	弘化4年(1847)	41
巻三十三下(33)	弘化4年(1847)	42
巻三十四(34)	弘化4年(1847)	42
巻三十五(35)	嘉永元年(1848)	43
巻三十六(36)	嘉永2年(1849)	44
巻三十七(37)	嘉永2年(1849)	44
巻三十八(38)	嘉永3年(1850)	45
巻三十九(39)	嘉永3年(1850)	45
巻四十(40)	嘉永4年(1851)	46
巻四十一(41)	嘉永4年(1851)	47
巻四十二(42)	嘉永5年(1852)	48
巻四十三(43)	嘉永5年(1852)	48
巻四十四上(44)	嘉永6年(1853)	49
巻四十四下(45)	嘉永6年(1853)	51
巻四十五(46)	嘉永6年(1853)	51
巻四十六(47)	嘉永6年(1853)	52
巻四十七(48)	嘉永6年(1853)	52
巻四十八(49)	嘉永6年(1853)	52
巻四十九(50)	嘉永6年(1853)	53
巻五十(51)	嘉永6年(1853)	53
巻五十一(52)	嘉永6年(1853)	53
巻五十二(53)	嘉永6年(1853)	54
巻五十三(54)	嘉永6年(1853)	54
巻五十四(55)	嘉永6年(1853)	55
巻五十五(56)	安政元年(1854)	55
巻五十六(57)	安政元年(1854)	56

各巻の収録年代

巻(冊)	和暦(西暦)	目次頁
巻五十七(58)	安政元年 (1854)	56
巻五十八(59)	安政元年 (1854)	57
巻五十九(60)	安政元年 (1854)	57
巻六十(61)	安政元年 (1854)	58
巻六十一(62)	安政元年 (1854)	58
巻六十二(63)	安政元年 (1854)	58
巻六十三(64)	安政元年 (1854)	59
巻六十四(65)	安政元年 (1854)	60
巻六十五(66)	安政元年 (1854)	61
巻六十六(67)	安政2年 (1855)	61
巻六十七(68)	安政2年 (1855)	62
巻六十八(69)	安政2年 (1855)	63
巻六十九(70)	安政2年 (1855)	64
巻七十(71)	安政2年 (1855)	64
巻七十一(72)	安政2年 (1855)	64
巻七十二(73)	安政2年 (1855)	64
巻七十三(74)	安政3年 (1856)	65
巻七十四(75)	安政3年 (1856)	66
巻七十五(76)	安政3年 (1856)	66
巻七十六(77)	安政3年 (1856)	67
巻七十七(78)	安政3年 (1856)	67
巻七十八(79)	安政3年 (1856)	68
巻七十九(80)	安政4年 (1857)	68
巻八十(81)	安政4年 (1857)	68
巻八十一(82)	安政4年 (1857)	69
巻八十二(83)	安政4年 (1857)	70
巻八十三(84)	安政4年 (1857)	70
巻八十四(85)	安政4年 (1857)	70
巻八十五(86)	安政4年 (1857)	71
巻八十六(87)	安政4年 (1857)	71
巻八十七(88)	安政4年 (1857)	71
巻八十八(89)	安政5年 (1858)	72
巻八十九(90)	安政5年 (1858)	72
巻九十(91)	安政5年 (1858)	73
巻九十一(92)	安政5年 (1858)	74
巻九十二(93)	安政5年 (1858)	74
巻九十三(94)	安政5年 (1858)	75
巻九十四(95)	安政6年 (1859)	75
巻九十五(96)	安政6年 (1859)	75
巻九十六(97)	安政6年 (1859)	76
巻九十七(98)	安政6年 (1859)	76
巻九十八(99)	万延元年 (1860)	77
巻九十九(100)	万延元年 (1860)	77
巻百(101)	万延元年 (1860)	78
巻百一(102)	万延元年 (1860)	78
巻百二(103)	万延元年 (1860)	79
巻百二附録(104)	安政5年 (1858) ~ 万延元年 (1860)	79
巻百三(105)	文久元年 (1861)	80
巻百四(106)	文久元年 (1861)	80
巻百五(107)	文久元年 (1861)	80
巻百六(108)	文久元年 (1861)	81
巻百七(109)	文久2年 (1862)	81
巻百八(110)	文久2年 (1862)	81
巻百九(111)	文久2年 (1862)	82
巻百十(112)	文久2年 (1862)	82
巻百十一(113)	文久2年 (1862)	83
巻百十二(114)	文久2年 (1862)	84
巻百十三(115)	文久3年 (1863)	85

各巻の収録年代

巻(冊)	和暦(西暦)	目次頁
卷百十四(116)	文久3年 (1863)	85
卷百十五(117)	文久3年 (1863)	85
卷百十六(118)	文久3年 (1863)	86
卷百十七(119)	文久3年 (1863)	87
卷百十八(120)	文久3年 (1863)	87
卷百十九(121)	文久3年 (1863)	88
卷百二十(122)	文久3年 (1863)	88
卷百二十一(123)	文久3年 (1863)	89
卷百二十二(124)	文久3年 (1863)	90
卷百二十三(125)	文久3年 (1863)	90
卷百二十四(126)	文久3年 (1863)	90
卷百二十五(127)	文久3年 (1863)	90
卷百二十六(128)	文久3年 (1863)	90
卷百二十七(129)	文久3年 (1863)	90
卷百二十八(130)	文久3年 (1863)	90
卷百二十九(131)	文久3年 (1863)	91
卷百三十(132)	元治元年 (1864)	91
卷百三十一(133)	元治元年 (1864)	92
卷百三十二(134)	元治元年 (1864)	92
卷百三十三(135)	元治元年 (1864)	93
卷百三十四(136)	元治元年 (1864)	94
卷百三十五(137)	元治元年 (1864)	94
卷百三十六(138)	元治元年 (1864)	94
卷百三十七(139)	元治元年 (1864)	95
卷百三十八(140)	元治元年 (1864)	96
卷百三十九(141)	元治元年 (1864)	96
卷百四十(142)	元治元年 (1864)	97
卷百四十一(143)	元治元年 (1864)	97
卷百四十二(144)	元治元年 (1864)	97
卷百四十三(145)	元治元年 (1864)	98
卷百四十四(146)	元治元年 (1864)	99
卷百四十五(147)	元治元年 (1864)	99
卷百四十六(148)	元治元年 (1864)	99
卷百四十七(149)	元治元年 (1864)	99
卷百四十八(150)	元治元年 (1864)	100
卷百四十九(151)	慶応元年 (1865)	100
卷百五十(152)	慶応元年 (1865)	100
卷百五十一(153)	慶応元年 (1865)	100
卷百五十二(154)	慶応元年 (1865)	100
卷百五十三(155)	慶応元年 (1865)	101
卷百五十四(156)	慶応元年 (1865)	101
卷百五十五(157)	慶応元年 (1865)	101
卷百五十六(158)	慶応元年 (1856)	102
卷百五十七(159)	慶応元年 (1865)	102
卷百五十八(160)	慶応元年 (1865)	103
卷百五十九(161)	慶応元年 (1865)	103
卷百六十(162)	慶応2年 (1866)	104
卷百六十一(163)	慶応2年 (1866)	104
卷百六十二(164)	慶応2年 (1866)	105
卷百六十三(165)	慶応2年 (1866)	105
卷百六十四(166)	慶応2年 (1866)	106
卷百六十五(167)	慶応2年 (1866)	106
卷百六十六(168)	慶応2年 (1866)	107
卷百六十七(169)	慶応2年 (1866)	108
卷百六十八(170)	慶応2年 (1866)	108
卷百六十九(171)	慶応2年 (1866)	109
卷百七十(172)	慶応2年 (1866)	109
卷百七十一(173)	慶応3年 (1867)	109

各巻の収録年代

巻(冊)	和暦(西暦)	目次頁
卷百七十二(174)	慶応3年 (1867)	110
卷百七十三(175)	慶応3年 (1867)	110
卷百七十四(176)	慶応3年 (1867)	110
卷百七十五(177)	慶応3年 (1867)	110
卷百七十六(178)	慶応3年 (1867)	110
卷百七十七(179)	慶応3年 (1867)	111
卷百七十八(180)	慶応3年 (1867)	112
卷百七十九(181)	慶応3年 (1867)	112
卷百八十(欠)	-	113
卷百八十一(182)	慶応3年 (1867)	113
卷百八十二(183)	明治元年 (1868)	113
卷百八十三(184)	明治元年 (1868)	114
卷百八十四(185)	明治元年 (1868)	115
卷百八十五(186)	明治元年 (1868)	115
卷百八十六(187)	明治元年 (1868)	115
卷百八十七甲(188)	明治元年 (1868)	116
卷百八十七乙(189)	明治元年 (1868)	117
卷百八十八(190)	明治元年 (1868)	117
卷百八十九(191)	明治元年 (1868)	118
卷百九十(192)	明治元年 (1868)	118
卷百九十一(193)	明治元年 (1868)	119
卷百九十二(194)	明治元年 (1868)	119
卷百九十三(195)	明治元年 (1868)	119
卷百九十四(196)	明治元年 (1868)	120
卷百九十五(197)	明治元年 (1868)	120
卷百九十六(198)	明治元年 (1868)	120
卷百九十七(199)	明治元年 (1868)	121
卷百九十八(200)	明治元年 (1868)	121
卷百九十九(201)	明治元年 (1868)	121
卷二百(202)	明治元年 (1868)	122
卷二百一(203)	明治元年 (1868)	122
卷二百二(204)	明治元年 (1868)	122

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
(巻一)	-	-	(欠巻)
巻二(1) 文化11年(1814)～文化14年(1817)			
文化年雜記之二 十一甲戌ヨリ十四丁丑ニ至ル			
2(1)	1	文化11年	郁李園隨筆卷之第三
2(1)	1		神野仲雄方ニ有之反古写置(詠歌抄)
2(1)	1	1月28日	於知多郡笠原岡之如六角筒掘出之
2(1)	1		東掛所本堂くづす
2(1)	2	3月	大須門前見世物、茶釜蓋の鳴音にて晴雨知る
2(1)	2		因州鳥取城主松平因幡守領分高年之者、白髮献上
2(1)	3		尾州役人諷刺歌・句
2(1)	4	6月11日	(紀州日高郡出世)徳本和尚御勅号、松葉屋瀬川問答
2(1)	6	10月16日	玉置大和守辞世
2(1)	7	文化12年	
2(1)	7	1月18日	東本願寺築始る
2(1)	7	2月13日	大須真福寺五重塔建立之斬初有之
2(1)	7	4月17日	東照大神君二百回御忌、於日光
2(1)	7		於名府、御神忌に付千部御法事御修行被仰付(御法会、御修行之次第左之通)
2(1)	24	4月3日	野崎騒動之一件
2(1)	25	6・7月	枇杷島川出水
2(1)	25		近衛様御下向、市谷にて御馳走、御能御番組
2(1)	26	4月中旬	城南清寿院江上役者来り、大芝居興行、つま琴大流行
2(1)	26	秋の頃	城南清寿院の大芝居へ上役者来り、復讐高音靴、大入
2(1)	26	卯月	予、疫疾におかされたる
2(1)	26	3月	日光へ拝礼
2(1)	26	6月25日	大雨、落雷
2(1)	26	12月	本町大手枿形見付番所出来
2(1)	27	文化13年	大須門前において足芸をする見世物来る
2(1)	27	5月18日	桑名在郷土井村百姓源八の妻、如凶男子出生
2(1)	27	冬	醜婆々(疫病神)まいり候よし申触、防禦の為市中門々に南天等つるし申候
2(1)	27		於東都、観世大夫一代能翌春へ延引興行、其節悪口の狂歌、名録、番組
2(1)	36		籠ぬけ、将棋盤、碁盤のり、曲馬のり、足稽来る
2(1)	36		沢村田之助(役者)の辞世
2(1)	36		近松彦之進辞世
2(1)	36	夏	御使番長野与次郎長屋より出火
2(1)	36	12月	御作事奉行加藤甚五左衛門、馬に食われ相果申候
2(1)	37	文化14年	
2(1)	37	3月頃	春日井郡矢田村の老婆、信仰病気平癒の由
2(1)	37		大須にて曲馬、紙のり、見世物
2(1)	37	4月15日	於東都、深川八幡宮杉立信吉大矢数通矢有之
2(1)	37		竹腰山城守殿初而江府一年詰被相勤之
2(1)	38		江戸一惣矢数
2(1)	42	4月9日	江戸両国柳橋、万屋八兵衛にて大酒、大食あまり之儀
2(1)	42	5月24日	万松寺寂照和尚遷化、珍牛和尚入院
2(1)	44		京都祇園神輿洗ぬり物、遊女屋の芸子いろいろ趣向たて出る
2(1)	44	秋	踐祚に付上使并諸大名衆御使等(役儀)
2(1)	50	10月上旬	南寺町西本願寺にて、東都第一之画工葛飾北斎、百二十畳敷之達磨大師を画く(図)
2(1)	51		珍牛大和尚へ国君の上啓(齊朝御判)
2(1)	52		杉立信吉之深川八幡ニ掛る札の写并門弟山本米吉札
2(1)	52		大嘗会之節御製
2(1)	52		大風雨、上州大風前代未聞
2(1)	53		播州高砂の産物、相生松葉多葉粉
2(1)	53		神野氏隨筆(遊女身請けの西国武士、人並ならぬ職業の由、將軍家齊公帰御の折足なき提灯持)
2(1)	55		文化年中京都所司代酒井若狭守殿謹役之砌、禁裏より御衣服の儀、御足高増額
2(1)	55		今川了簡懸智仲満江制詞の条々、狂歌仙半行
2(1)	56		諸方山因窮寺涙如来悪縁起、ちょんがれ、太平楽、古今無双万金談、虚空損保左津略縁起御詠歌、和讃
巻三(2) 文政元年(1818)年～同3年(1820)			
文政元戌寅 同二己卯 同三庚辰			
3(2)	1	1月20日	出来町黄檗大鏡寺五百羅漢二時の鐘相濟、今日鐘楼手斧始の式あり
3(2)	1	2月20日	夜六半時、大なる光物良より坤へ飛行く
3(2)	1	2月21日	熱田海蔵門外西側東向に舞台しつらひ奉納の能あり
3(2)	4	春	橋町裏芝居小屋、表町江出す

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
3(2)		4月27日	熱田大宮御修復につき外遷宮あり、大賑合
3(2)		3月15日	中地震あり
3(2)		4月	日置橋、伝馬橋掛直る
3(2)			この頃岐阜にて打首になりし者の辞世
3(2)		5月5日	熱田神祭に付馬の塔、大概見たる数
3(2)		5月18日	二十三年目にて七間町より馬を出しける
3(2)		6月6日	児島備後(知多郡名和村)高山大権現を祭り加持祈祷、召捕らる
3(2)		6月17日	中之町堀切東北角高木伝右衛門屋敷焼失
3(2)		6月27日	七間町一丁目から三丁目狐のあとあり
3(2)		6月頃	御深井へウハバミ出候由
3(2)			肥州より豪潮(天台律の僧)来尾、於万松禅寺准提観音の法にて加持、宝篋印塔建立
3(2)		6月	日置手代町に幽霊出る、町内にて百万遍、万松寺珍牛和尚江施餓鬼
3(2)		5月	日置くずや遊参船初音丸出来
3(2)		8月28日	戸田町嶋庄前に銭六貫かかけ九把車ニのせ捨有之
3(2)		水無月の頃	木曾の方にて相對死せし妓の書置の写
3(2)		4月	吹立新規出来、六月より通用之旨公儀御触来る
3(2)		8月10日	前津長道当たり二町焼失
3(2)		9月13日	枇杷島榊彦娘呉服町近江屋利兵衛方へ縁組 道具行けるを枇杷島百姓三百人出て打碎
3(2)		9月13日	万松寺稲荷社修覆、遷宮
3(2)		9月19日	祭礼賑わう
3(2)		9月	尾頭橋欄干替わる
3(2)		10月	ムサンド(無三殿)橋直る
3(2)		9月23日	熱田正遷宮、二十四～二十六日馬の塔出る
3(2)		10月10日	遠山彦左衛門家老沢田助左衛門聳養子藤八、義妹を殺し十五日切腹
3(2)		11月	町奉行衆役宅出来、直二田宮半兵衛引移 是迄伊藤次郎左衛門控を引上げ
3(2)		12月12日	渡辺兵庫殿加判御免差控御解尾州に早登り 此時諸役御年寄加判此時悪口諷刺歌
3(2)			章善院様御事御解仰出候に付、孚式大権現崇奉 右に付十二月十一日於市谷殿中御能御番組
3(2)		12月28日	夜八半頃東小屋不残焼失
3(2)		10月	国君之御実母、一橋家の御隠居様御家に御引受 其節の狂歌
3(2)			石河太郎殿事勝手困窮に付、願二仍而十ヶ年の間在所駒塚江引越諸事 勤事御免被成下
3(2)		文政2年元旦	終日雪、深雪、門松につらら
3(2)			去年より事共挙げて作れる狂詩七律二首
3(2)		2月26日	巾下北鷹匠町元鷹匠隠居高垣八郎平、不行跡に付召捕
3(2)		1月17日	京知恩院より円光大師之像南寺町光明寺へ着、講中幟を立迎ふ
3(2)		1月17日	東寺町常題目本立寺 本堂再興成就入仏供養あり
3(2)		2月8日	初午、熱田元服再初る
3(2)		3月18日	桜の町清水寺三十三体観音成就、本尊開帳中かたがた大賑合
3(2)		3月15日	熱田舞楽再興、本年より本式神事に
3(2)			幸心村庚申開帳中本堂棟上
3(2)		4月1日	熱田本遠寺立像釈迦如来桜之町通所にて開帳
3(2)			南寺町極楽寺に京本山栗生光明寺より円光大師木像入輿
3(2)		4月8日	熱田大宮へ九尺の織物絵馬奉納、競馬の図
3(2)		4月23日	大須大塔櫓つき門前町より築始
3(2)			海東郡戸田村山田源治、はやて除施薬を和久屋伝七方にてほどこす
3(2)		閏4月1日	精妙寺什物、兆殿司涅槃像損して物修復供養あり
3(2)		閏4月4日	広小路神明神主宅風呂焼失
3(2)		閏4月23日	熱田田嶋祭主にて大々神楽執行
3(2)		5月4日	雷鳴大風雨
3(2)		5月14日	久屋町一丁目少々火事
3(2)		5月25日	甚目寺鐘楼建立成就
3(2)		5月28日	大雷雨
3(2)			江戸保己檢校、群書類聚全備して又其続を撰んとす、名府の珍書探索、 熱田の日本紀、大須の古書吟味書写 河村氏蔵書、琵琶嶋青物問屋市兵衛所持の蔵書も書写
3(2)		当夏	巷説一般ニ流布す、其図如左(神社姫)
3(2)			小判壺判吹替 六月触 九月二十日から通用
3(2)			町芸者役所へ書上候由之写
3(2)		3月19日	朝、御堀に相對死の者あり
3(2)		2月頃	三の丸病犬あり
3(2)		4月25日	於広小路神明北野天神開帳
3(2)		4月28日	駿河町西蓮寺にて嵯峨釈尊開帳
3(2)		4月	乾の方に稲星出る
3(2)		4月	屋根虫わくこと一般也、もちの値段あがる

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
3(2)	22	5月15日	馬の塔 辰巳櫓にて上覧あり
3(2)	23	春	阿弥陀寺裏門通り抜け出来しける
3(2)	23		一両年朝顔の流行甚だし
3(2)	23	6月23日	高垣八郎平、不行跡、御咎
3(2)	24	6月12日	大地震
3(2)	25	6月15日	大雷大雨
3(2)	25	6月21日	巾下押切十六屋の娘、斬られ候よし
3(2)	25	6月	山王裏にて子殺しあり
3(2)	25	6月26日	大雷鳴 落雷箇所
3(2)	26	6月29日	大雷鳴 落雷箇所
3(2)	26	7月	熱田御芦蔵 大賑合い 芝居
3(2)	26	7月14日	万松寺宝篋印塔 千燈供養
3(2)	26	7月24日	陀羅尼塔花供養
3(2)	26	7月16日	五条橋普請皆出来 今日より通る
3(2)	27	7月18日	巾下正覚寺堂再建の地築棒にて幼児つかれて死申候 十九日ニ寺より葬礼
3(2)	27	7月14日	高田真行院江勢州一身田より親鸞上人五十四才の木像来る 二十五日～二十八日開帳
3(2)	27		此頃大変つくし
3(2)	27	8月2日	非人清吉火罪
3(2)	27	8月1日	於阿弥陀寺紀州道成寺本尊開帳あり 縁起の写
3(2)	29		道成寺縁起に付ての一つの物語あり
3(2)	30	8月上旬	高木八郎左衛門殿家来久野屯と申す者、一両札、五匁札を作り入牢
3(2)	30	8月29日	東小屋又々火事あり
3(2)	30	8月25日	矢田合凶火地雷火
3(2)	30	9月25日	岸上某の妻出斬打首
3(2)	31	7月28日	東懸所(東掛所)へ大虹梁の檼、堀川木場より引(木曾川材木流)
3(2)	31	8月3日	福德村聖徳寺に皇太子千二百回開帳
3(2)	31	8月	久屋町一丁目全泉庵に金比羅社建立
3(2)	31	9月17日	蒲焼町真広寺、親鸞上人尊像并靈宝弘通
3(2)	31	9月28日	於東寺町妙蓮寺、日蓮上人尊像十月一日～十月十三日開帳、賑合
3(2)	31	10月	於南寺町光明寺、徳本行者一周忌
3(2)	31	10月5日	清須山王に豊蔵門建立、手斧始
3(2)	31	10月14日	於堀川聖運寺、小湊の貫主説法あり
3(2)	31	10月21日	光り物、西を通る
3(2)	31	11月10日	二の宮富突、広井八幡へ持出し興行
3(2)	32		此節の米相場、右の通りの相場に付諸色引下候、評判諷刺歌
3(2)	33	11月晦日	水野藤兵衛中間、落馬半死半生
3(2)	33		米価下直に付、武家難渋ニ候付、色々御容赦筋あり
3(2)	35	11月28日	初雪 積雪大
3(2)	35	11月28日	尾頭泰雲寺向へ出火
3(2)	35	12月16日	車道御持組火事有之
3(2)	36	文政3年	文政三年庚辰年
3(2)	36	1月17日	わた屋町下方弥三郎組より出火
3(2)	36	当春	三日はしか流行す
3(2)	36		熱田はた屋町目林庵再建
3(2)	36	2月	熱田新年祭、町々家並挑灯初る
3(2)	36	2月22日	於七寺太子堂にて聖徳太子千二百遠忌執行
3(2)	36		国君御放鷹の時、高蔵寺山にて奇石を得給ふ
3(2)	36	3月9日	広小路庚申堂金比羅開眼供養
3(2)	36	3月23日	笠寺仁王門棟上、入仏供養、ねりの次第
3(2)	37		嘉千代様十九日御逝去に付二十八日迄物静、諸所開帳日延
3(2)	37	4月9日	万松寺御霊屋御修理出来
3(2)	37	4月16日	東の方雷鳴雨降、北東は雪降、つらら
3(2)	37	4月21日	納屋裏浄信寺にて三州野寺本証寺宝物弘通、太子遠忌に付而なり
3(2)	37	5月1日	木下正三郎(御役者) 倅重太郎扇びらき能あり
3(2)	37	5月5日	熱田馬の塔、本馬はなし
3(2)	38	文政3年	文政三庚辰歳
3(2)	38	2月28日	五十日間荒子村静海山観音寺本尊円通大土開眼
3(2)	38		同頃より天道山光照寺開帳、大賑合
3(2)	38		同時粟薬師開帳あり
3(2)	38		東輪寺に大仏造営の願済、六月地形場所定の式あり
3(2)	38	6月	地形場所定の式あり
3(2)	38	2月	中嶋郡妙興村妙興寺宝物弘通、尾州中島郡長島山妙興報恩禅寺略像起
3(2)	43	3月16日	定光寺辺、濃州兼山辺、筒茶碗程のヒョウ降
3(2)	43	3月24日	巷説(庚申開運の日)
3(2)	45	夏	広井八幡社内にて富突興行
3(2)	45	4月	広井八幡社内にて兎共相撲
3(2)	45	5月	笠寺仁王門供養有之

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
3(2)	45	3月23日	万松寺、宝蔵出来の供養あり
3(2)	45	5月26日	白壁町山本兵蔵外長屋焼失
3(2)	46	5月12日	三ッ蔵伝光院ニ西国順礼観音建立
3(2)	46	5月17日	終日雨天、馬の塔俄馬多し
3(2)	46	5月18日	枇杷島川八合程西、美濃は切レ所も有之よし
3(2)	46	5月26日	大風雨つよく雷鳴あり、建中寺・香積院等大破損
3(2)	46		此頃入鹿池にてウワバミ鉄炮にて打候由
3(2)	46		熱田大山伝馬町の富士の巻狩衾り物
3(2)	46	6月7日	終日大雨 十二日より西風晴天
3(2)	46		陳元賛百五十回忌、建中寺にて礼物等をなす、追善詩作あり
3(2)	46	6月15日	片端試楽ニ御園町上にて紙細工の大灯籠作る
3(2)	47	6月21日	東輪寺大仏殿地形場所定の式
3(2)	47	夏	当夏所々楓まばらニあり
3(2)	47	7月	赤塚医師弟子、火附て召捕らる
3(2)	47	7月23日	ナカセ空にて折々強雨ふる、此夜禅寺町瑞泉寺大松折る
3(2)	47	7月25日	高橋河内守殿卒去、三日鳴物停止
3(2)	47		木綿製小犬はやる
3(2)	48	9月26日	大須大塔柱建あり
3(2)	48	9月27日	納屋町火事
3(2)	49	5月15日	内津の辺にて大蛇(ウハバミ)を獵人と百姓兩人して打留候よし
3(2)	49	5月18日	大坂高麗橋三丁目、桜井謡稽古場におみて尚齒會
3(2)	49		東の町与助今年百才、大道寺家日雇
3(2)	50	6月	銀子吹直し七月二日より通用
3(2)	50	7月	熱田灯明場所嵩大浚あり(是ハ公儀普請也)
3(2)	50	8月15日	満月に近星出、月を貫く
3(2)	50		米価下直につき御容赦筋左之通又々触アリ
3(2)	51	7月19日	矢田にて石川伴右衛門、式十貫大筒を打
3(2)	51		此頃上行坊、無料にて加持に灸点いたし大流行評判
3(2)	52		二十一大師ヶ所
3(2)	53		日蓮宗僧英智院説法
3(2)	53		大道寺孫蔵殿屋敷境有之候二かかえの松、倒れる
3(2)	53	9月27日	納屋町火事
3(2)	53	当冬	芸妓評判記二冊物板本出来御停止
3(2)	55		大久保加賀宗より榊原主計頭に届候書付之写(侍輩乱心復讐)
3(2)	56	当冬	小便取、一統に頼来候
3(2)	57	12月	山澄将監豊尚、津田縫殿信任之両候結構被仰付ける
3(2)	57	10月17日	成瀬侯家中屋敷 火事
3(2)	57	10月22日	成瀬浄翁(隼人正)死去
3(2)	57	10月26日	鳴物停止
3(2)	57	11月8日	日置頭性寺門棒上
3(2)	57	11月15日	於桑名町下福泉寺、手嶋先生の門人心学興行
3(2)	57		大須大塔根石すわる
3(2)	57	11月18日	二分金拵え礮に
3(2)	57	11月19日	玄海家四百軒焼失
3(2)	57	12月	大須塔初重組かかる
3(2)	57		極楽寺門二円光大師印牌建
3(2)	58		庚文政三辰年大小
3(2)	65		竹田秘法/自子香薬、金造散
3(2)	66		千金錢備御家中の好薬
3(2)	67		名古屋下賣の段

巻四(3) 文政4年(1821)～同5年(1822)

巻(冊)	丁	年代	事項
文政四辛巳 同五壬午			
4(3)	1	1月元	古井村光正寺と言禅寺より出火
4(3)	1	1月3日	勝川船場に京の欠落者伊勢参りの者等来り金銀取上召捕られる
4(3)	2	冬比	城東藤成村為右衛門宅に古狐あり、奇怪の事共あり
4(3)	2	2月17日	巾下新馬場西石井隆庵屋敷出火
4(3)	2	2月	名古屋、熱田、池鯉鮒風邪大流行
4(3)	3		大角力せいて十日勝負附
4(3)	4	2月17日	五十日間甚目寺開帳、参詣繁昌、芝居見世物等あり
4(3)	4	2月25日	部田祐福寺開帳
4(3)	4	2月15日	禅寺町光充寺へチマ薬師開帳
4(3)	4	3月25日	禅寺町慈眼院弁天開帳
4(3)	4	3月20日	新福寺村新福村開帳
4(3)	4	3月15日	巾下正覚寺棟上あり
4(3)	4	3月8日	稲生円福寺開帳
4(3)	4	3月5日	川名村シノホウ寺にて丹羽郡龍光寺観音開帳
4(3)	4	2月15日	百日間笠寺観音開帳大繁昌、見世物あり
4(3)	4		半田村重吉が漂泊の異国の品を見する帳の写し

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
4(3)	7	3月17日	初雷、大風雨
4(3)	7	3月8日	東寺町御堂照遠寺法会あり
4(3)	7	4月1日	江戸より府君御着城
4(3)	7	4月10日	陽七郎様御逝去(家齊公御四十男)
4(3)	7		上島町雷車新規出来
4(3)	7	4月17日	御祭礼之日
4(3)	7	4月中	尾州所々甘露ふる
4(3)	7	4月22日	隼人正殿大曾根屋敷出火
4(3)	7	4月28日	巾下新道法蔵寺にて奥州阿弥陀寺靈宝弘通
4(3)	7	5月3日	雨なくして大雷三ツ、小雷二ツ鳴
4(3)	7	5月5日	熱田馬の塔
4(3)	8	5月18日	俄馬大ニ出る、辰巳矢倉にて御覧あり
4(3)	8	6月1日	巾下祭の内、新道下の切車新規ニ出来、大伝馬町橋弁慶人形上る
4(3)	8	7月13日	巾下新道住居志水小八郎殿奴部屋頭松五郎子分、松五郎妾をつれ逃行、召捕らる
4(3)	8	7月23日	大雷大雨、落雷箇所
4(3)	8	7月23日	夜九時過、伏見町下行当りにて女を斬
4(3)	9	7月晦日	夜六時過、光物西北より東へ飛行
4(3)	9	8月1日	御蔵御堀端にてとち鳩を取
4(3)	9	8月4日	大風
4(3)	9	8月7日	雷鳴大雨、矢田にて車打あり、豊場村川筋キレ候由
4(3)	9	8月22日	大雷大雨
4(3)	9	8月11日	御松明方揚火あり 評判悪しく 御松明方の悪口
4(3)	9	8月20日	法華宗海にて施餓鬼あり
4(3)	9	9月	金毘羅三十三所と云事を始たり
4(3)	11	10月24日	巾下新馬場大津土左衛門長屋斗焼失
4(3)	11		書付(紀州様より御達之由にて得之)
4(3)	13	11月	御触(水野出羽守殿より御城附江被相渡書付写)
4(3)	13	11月24日	熱田大宮司家門前にて奉納之射的有之
4(3)	13	12月	御船方役所、川端之内御水主組之北へ移る
4(3)	13		松前侯、文化四年蝦夷騒動の節奥州梁川へ移り候処、元の如く松前領知ニ相成候由
4(3)	14	12月	矢場清涼地蔵堂、南面にす
4(3)	14		去年之通ニ米価二割引、一統承知する者なく候故、農方役所へ願候由
4(3)	14	11月11日	本町駒庄にて 京都天岳という者 人相等考え申し候
4(3)	14	12月2日	蔵科被仰付候者之記
4(3)	16	12月15日	長堀筋富永武大夫屋敷焼失
4(3)	16	12月15日	矢田村多葉粉やより出火
4(3)	16	大晦日	大森村出火あり
4(3)	16		昌栄と云者あり、出生の時男根女根の境分明ならず
4(3)	17	春	鳥追三味線胡弓入女鳥追多し
4(3)	17		広小路へ居合貫藁うり、こまを廻す
4(3)	17		御祭礼画図三光堂に被仰付
4(3)	17		熱田川さらへ此節より初
4(3)	17	3月5日	御堂照遠寺祖師堂上棟、入仏
4(3)	18	3月9日	東光寺境内金比羅再建、拝殿新造今日上棟、十日供養、両日大賑合
4(3)	18	3月10日	禪寺町慈照院弁天并本尊正観音むし籠りの正観音開帳、十三、十七、二十五日平家琵琶奉納
4(3)	18	3月19日	法花寺にて祖帰遠忌
4(3)	18		惣見寺鐘樓西江引
4(3)	18	3月21日	甚目寺寺中性徳院堂前五葉の松より露の如くなるもの降、垂露の松と名づく
4(3)	18		桜之町清水寺四十八夜別行説法あり
4(3)	18	4月9日	性高院寺中一行院にて、林玄教堂門人、曲文字席出
4(3)	18		清洲より西の在泥ふる
4(3)	18		小牧町ケイコはなし弓を持、長刀鎗持等も出来
4(3)	18	27日	桜之町教授寺にて三州平院靈宝弘通
4(3)	19	5月15日	桑名町福泉寺にて伝教大師一千年大遠忌法会
4(3)	19	5月15日	大旱にて雨乞い諸所へかかる
4(3)	19		先達而知多郡師崎より雨乞の礼
4(3)	20	5月18日	馬の塔
4(3)	20	6月1日	妙蓮寺にて日家上人、日淳上人年忌兼法会
4(3)	21	6月4日	熱田宮谷観音にて田鶴丸門弟狂歌、団扇合あり
4(3)	21	6月15日	夜、西中道にて心中あり
4(3)	21	6月15日	広小路神明富突
4(3)	21	6月16日	宮谷団合の品、庚申(広小路)にかざる
4(3)	21		津島みよし流し止候由
4(3)	21		当年六月ハ九月頃の如し、却而病人多し
4(3)	21		性高院江幽霊出ると評判あり

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
4(3)	21	6月初	葉栗郡墨田村江珍しき大鳥とらへ献ず
4(3)	21	7月9日	夜深更北、宵より東北の空赤し
4(3)	21		今以ヒデリ
4(3)	21	7月16日	光り物出る
4(3)	21	8・9月頃	尾頭町名古屋/佐屋両海道追分の石建替る
4(3)	22	7月頃	日でりに付 雨乞
4(3)	22	8月14日	享保年津浪の百回忌にて、熱田本遠寺施餓鬼も格別ニして大法会に似たり
4(3)	22	9月頃	性高院内一行院の庭ニ大岩を造
4(3)	22	9月22日	禅寺町聚福院観音開眼供養
4(3)	22		玄猪御祝被下餅
4(3)	22	11月	東掛所堂柱不少立そろひ、下の重の屋根西の方出来
4(3)	22		藤形賑合にて、藤なり出世かんどし大流行
4(3)	23	11月13日	お堂照遠寺中に秋山居士の石宝塔建立
4(3)	23	文政5年	文政五壬午歳
4(3)	24	1月5日	東杉村少々出火
4(3)	24	1月6日	西在少々出火
4(3)	24	1月7日	大雪
4(3)	24	1月25日	小地震あり
4(3)	24		建中寺文誉上人東行に付、相応時にて御忌あり
4(3)	24	1月23日	上中村妙行寺にて清正公像初テ開扉
4(3)	24		御発駕早く候に付、閏月二日出代り
4(3)	24	閏1月17日	故大野彦三郎三回忌、追薦之能あり
4(3)	24		大須塔二重目出来
4(3)	24		御器所新田庄屋にて和唐紙すき始申候
4(3)	24	1月	尾頭橋にて江戸の金比羅参り
4(3)	26		正月より懸所新堂に足代かける
4(3)	26	3月6日	久屋誓願寺にて三万日回向あり
4(3)	26	2月2日	貞宗院にて薬師開帳
4(3)	26	2月18日	継鹿尾山八葉蓮台寺本尊千手観音開帳
4(3)	26	2月6日	瀬古石山寺本尊観世音開帳
4(3)	26	閏1月10日	濃州新長谷寺本尊十一面観音開帳
4(3)	26	2月18日	大高長寿寺鸞巢正観音開帳
4(3)	26	4月21日	津町下法光寺にて善光寺、勝曼寺宝物弘通
4(3)	26	2月18日	玉屋町現相寺にて聖徳寺宝物弘通
4(3)	26	閏1月	ぬびす町下にて御作事方日雇一人切腹
4(3)	27	1月10日	寺社奉行所にて申渡の趣、広井浄信寺の儀
4(3)	27	閏1月24日	夜、禅寺町にて男女を殺し母手負
4(3)	27	閏1月25日	稲葉宿山田市三郎家不残焼失
4(3)	27	閏1月28日	前津春日前組屋敷より出火
4(3)	28	閏1月下旬	御園町下正福寺に子供の首捨テ有之
4(3)	28	2月18日	雷鳴、落雷
4(3)	28	2月	本町七丁目道具屋平兵衛宅へ参候者
4(3)	28		京都、田川三朝、色々秘事伝授
4(3)	28		米壺粒片面に百字書他、紙一寸四方に大日本国、東海道五十三次他
4(3)	29	2月20日	夜、光り物二百程出之由
4(3)	29	2月	千両富初り
4(3)	29	3月2日	石町杉村匠作出火のよし、火事無、風呂の火強かりし迄也
4(3)	29	3月上旬	本町の広小路の橋かわる
4(3)	29	3月11日	熱田舞楽あり、今年太鼓出来
4(3)	29	3月中	栄国寺にて善光寺常灯明供養
4(3)	29	3月13日	大雨、大雷
4(3)	29		堀川の花、大賑合 水茶屋、料理茶屋、菓子屋軒をならべる(歌、図)
4(3)	30	3月1日	公方様家齊公従一位左大臣、西丸家慶公正二位内大臣、転任
4(3)	30	4月12日	万松寺珍牛和尚遷化、五月十日葬儀
4(3)	30	4月14日	引始雨天に付翌十五日ニ成ル
4(3)	31	4月21日	巾下ほうろく町角合羽屋、家内の道具不残焼失
4(3)	31	5月28日	桜の町筋大津町と鍛冶屋町の間出火
4(3)	31	5月25日	津島御宮東へ一町、大松の小股、風なく折れる
4(3)	31	5月20日頃	新田辺の家の灰部屋并雪隠、夜の間に西向になる
4(3)	31	5月6日	江戸より申参候書付(異国船渡来)
4(3)	32		水野御代官所愛知郡一色村百姓悴、七月七日出生、人相書、体格書
4(3)	33	6月1日	巾下祭り雨天にて延引、二日ニ済
4(3)	33	6月12日	地震、大雷 十三日、雷風雨、雷火あり
4(3)	33	6月14日	朝、関東同者四百五十人の連中一群に通る
4(3)	33	6月17日	御堀に身投
4(3)	33	6月15日	天王祭りの日、山澄将監殿屋敷外の大松、無風にて折れる

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
4(3)	33	6月5日	日本橋懸替り、渡初め被仰付侯者年令
4(3)	34	6月22日	熱田御芦へ献じ候船祭り有之
4(3)	34	6月より	定日飛脚相止
4(3)	34		上州館林領主松平右近将監殿へ徳之佐様御養子被仰出
4(3)	34	6月	御小納戸林与左衛門切腹
4(3)	34	7月27日	大雨
4(3)	34	8月4日	日置ハサマ山神通より半町程東より東の行当り迄丸やけ
4(3)	34	8月14日	橋町吉良や某より出火
4(3)	35	8月上旬	伊藤次郎左衛門前に捨子、鈴木多門治前にも捨子
4(3)	35	8月28日頃	伊勢町蒲焼町上ル東側、鍵屋貞吉座敷壁に親鸞上人像移る
4(3)	35	9月19日	桜の町坂白山前にて女を殺し候
4(3)	35	10月上旬	大坂、頓死流行
4(3)	36	10月4日	夜、片端東平岩某、いな七百余打
4(3)	36	10月19日	稲荷くんしゅ(薫習・薫修カ)
4(3)	36		東掛所江何方の者にや大蠟燭二丁上侯由
4(3)	36	11月1日	東本坊棟上略記
4(3)	38		御高塚の腰板とれる
4(3)	38	12月13日	余程地震
4(3)	38	12月26日	小地震
4(3)	38		二十七日、中地震
4(3)	38	10月頃	よしこのぶしといへるうたはやり出す
4(3)	39	冬	広小路朝日神明宮華表建かわる
4(3)	39		堀田十郎兵衛殿の小侍、新川にて御精進日に流死
4(3)	39		御老中土居大炊頭殿、水野出羽守一万石つつ加増 他
4(3)	39	12月21日	日置山の神より出火(凶)
4(3)	41	3月18日	惣見寺禅堂供養
4(3)	41	3月28日	熱田新太々神楽初る
4(3)	41	4月21日	大津町下法光寺にて三州勝曼寺靈宝弘通
4(3)	41	5月5日	熱田馬の塔
4(3)	41	5月13日	熱田獵師横須賀辺にて鯨の子を引上
4(3)	41	5月18日	御茶壺通行
4(3)	41		三州辺より子供の流し者あり
4(3)	41	5月20日	蒲焼町東、真広寺にて越後国菩提樹山蓮休寺宝物弘通、焼鮎の御旧跡
4(3)	42	6月13日	建中寺において源孝様五十回法事
4(3)	42		御深井御堀の中に大鯰の髭を出せしと言沙汰あり
4(3)	42		尾頭橋辺、天王祭、初て舟祭をする
4(3)	42		オランダ製と号して蚊退香といふ蚊やりいぶし出初る
4(3)	42	4月北	法花寺町妙泉寺にて中山流祈禱繁昌
4(3)	42	7月2日	熱田風強く、御神馬前松の木折れる
4(3)	42	7月5日	中道少々火事
4(3)	42		戸部村みよし、熱田へ着、大賑合
4(3)	42	7月27日	本遠寺通所にて開山日澄上人四百五十回
4(3)	42	8月15日	桜天神にて薩埵先生心学の講釈有之
4(3)	42	8月20日	日置白山にて再神楽あり
4(3)	42		東懸所(東掛所)再建
4(3)	43	9月3日	七面松高梢へ空よりふとんふりかかる
4(3)	43	9月	橋の寮下屋敷かし座敷に成
4(3)	43	9月上旬	東懸所(東掛所)本堂破風へ猿の大ほり物上る
4(3)	43	9月上旬	広小路久屋町辻番所、西へ移る
4(3)	43		滝川豊後守忠暁殿、隣家下条庄右衛門正香殿屋敷を引上る
4(3)	43	8月末	枇杷島大橋かけ直る
4(3)	43	9月	高須賀村仙助、菊を作り芸妓を呼、大賑合
4(3)	43	9月	上島村裏加嶋忠左衛門、引越
4(3)	43	10月19日	古渡り稲荷えびす祭り、今年から初る
4(3)	43		獅子舞、寄物細工、壬生狂言
4(3)	44		全獣糖という菓子、落雁出る、猿の形(凶)
4(3)	44	10月28日	懸所(掛所)上棟大工行列しらへ足揃有之
4(3)	44	11月朔	東掛所上棟の式
4(3)	45		橋町辺、煮うり屋多し、御上棟餅、しきしませんべい、八橋せんべい
4(3)	45		ちんわんねこニヤアチウぶしはやる
4(3)	45	6日	上棟かざり物棟梁所へ送る
4(3)	45	11月15日	西懸所(西掛所)玄関書院手斧始あり
4(3)	45	11月16日	枇杷島大橋出来、渡り初の式あり
4(3)	46		玉屋町宿屋ニ江戸の者止まりて、大黒寿命丸といふ菓を引札にいたし出す
4(3)	46		子供もてあそび
4(3)	46	12月15日	大光院僧堂上棟
4(3)	46	冬	今冬より熱田浜辺ニ桜多く植付る
4(3)	46		除日、如意村

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
巻五(4)		文政6年 (1823)	
文政六未			
5(4)	1	1月20日	知多郡寺本村天智帝勅願所法海寺本尊、薬師如来開扉
5(4)	1	1月20日	巾下新道焼失少々 (凶)
5(4)	1	1月24日	木曾山村伊勢守良由殿卒去
5(4)	1	2月17日	龍泉寺開帳
5(4)	1	3月2日	木ヶ崎長母寺開帳
5(4)	1		天道山光照寺前立開帳もあり
5(4)	2	1月17日	久屋全泉庵にて女自害
5(4)	2	2月	押切穢多江江州の穢多仲満大男来る
5(4)	2	3月9日	児の宮大神楽、十八日迄
5(4)	2	3月8日	五百羅漢供養大施餓鬼
5(4)	2	3月始	寺社方に呼出され候東本坊列座の僧 自殺
5(4)	2	3月24日	東綿屋町野中、出火
5(4)	3	3月26日	下飯田村にて伊勢参宮の迎ひに参り候者、熟酔したる所火事二成候由
5(4)	3		町方吟味役野村清二郎宅にて召仕の男女変死
5(4)	3	3月16日	堀川、女川流あり
5(4)	3	3月	巾下新道にて、子二人たたき殺し候女有之
5(4)	3		宮町車の幕今年かわる、淀町指南車も新しくなる
5(4)	3	4月21日	奥御舞台にて御慰の御能あり
5(4)	4	4月3日	吹上十三御門外御庭おみて上覧相撲之次第
5(4)	9	4月22日	西丸御殿中御書院番所部屋おみて相番同士、刃傷に及候始末
5(4)	23		右一件に付追而御目付触来る
5(4)	24	6月	武州忍大水、江戸隅田川高水
5(4)	24	7月2日	南鎌作りの二人土器野にて磔
5(4)	25	7月上	東掛所虹梁楊あり
5(4)	25	7月26日	水野彦四郎長屋焼失
5(4)	25	7月	御芦にて大賑合
5(4)	25	7月	旱天続き、豪潮律師へ祈禱被仰付け共効験なし
5(4)	25		盆天少々出申候
5(4)	26	7月	水戸表より書状写 (異国船渡来)
5(4)	29		紀州儒者川合讓平より高須の姉への来簡 (四月十九日~六月まで日照続 農業出来ず、水争い、盗賊浪人あふれ騒動あり)
5(4)	30		外之状 (紀州日照 百姓騒動)
5(4)	31		外に紀州よりの状 (紀州日照 百姓騒動)
5(4)	31		高野山高徳院使僧之供に承候、騒動元のおこり
5(4)	33	8月	桑名騒動に付佐屋より差出候書付写
5(4)	35		桑名親類より小寺江来簡
5(4)	37		所替え衆中
5(4)	37		熱田浜端之家二間つつ南へ出す
5(4)	38	8月	江戸来状 (九月頃より天候不順、強風に而大騒動、市谷屋敷はじめ被害)
5(4)	38	9月26日	くゑ日九日続き候
5(4)	38		大坂に而女盗人召捕
5(4)	39	9月21日	巾下万松寺領新屋より西へ入所焼失
5(4)	39	9月28日	御園下同円屋敷焼失、同日穢多一軒焼失
5(4)	39	11月12日	小地震
5(4)	39	11月15日	熱田伝馬町つる屋女房、相対死
5(4)	39	11月25日	京町通古手やの者二人切らる
5(4)	39	11月25日	河野喜市、流罪
5(4)	39	11月10日	津嶋御木引、大賑合
5(4)	39	11月15日	東掛所東堂へ本尊入仏、行列大概
5(4)	40	11月15日	京六条本山御門主居間より出火
5(4)	44	11月末	呉服町下の辻番にて酔犯人来りて辻番の汁を奪い食し候由
5(4)	44	12月8日	西新町大筒役鈴木彦兵衛屋敷焼失
5(4)	44	12月14日	大曾根八幡前少々出火
5(4)	44	12月	名府町中木刀にてタタキ歩行の士有之、二人差控被仰付
5(4)	44		今年の事をあけて作れる詩
5(4)	44		経宗騒動
5(4)	45		弘法繁昌二十一カ所廻り始
5(4)	45		東懸所 (東掛所) 新御堂の後講中詰所出来
5(4)	45	大晦日	東輪寺裏火事
5(4)	46	春	熱田舞楽の太鼓 奉納
5(4)	46	2月15日	東寺町妙蓮寺鬼子母神開帳千巻陀羅尼供養、音楽説法
5(4)	46		同日より南寺町極楽寺四十八夜前時念仏執行説法
5(4)	46		堀川端の桜去年より弥増にて、茶屋数多、天王崎辺に渡し舟出る
5(4)	46		法花寺町本成寺祖師法会
5(4)	46	2月20日	白山村円福寺十一面観音開帳并靈宝弘通

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
5(4)	46	2月28日	下条村常泉寺、聖観音開帳
5(4)	46	3月4日	杉村心入寺本尊明星見釈迦如来子安薬師開帳
5(4)	46	2月28日	杉村久国寺子育観音開帳
5(4)	46		甚目寺本堂の大黒六年前盗行、当三月何者共しらず持来り居置、二十三日別当東輪坊へかえる
5(4)	46	4月2日	長者町六丁目桶屋火事
5(4)	46	4月2日	稲生秋葉にて火防の祈祷
5(4)	46	4月4日	栄国寺へ善光寺如来の模像入仏
5(4)	47	4月13日	本町長者町車引初済
5(4)	47		益屋町大峰入けいご山伏の衆相止
5(4)	47	4月26日	九十軒町円明寺にて石然寺宝物弘通
5(4)	47		蒲焼町真広寺にて親鸞上人宝物、自作聖人像弘通
5(4)	47	4月21日	日置の獵師海亀を得、見物大賑含
5(4)	47	5月5日	熱田馬の塔少々出ル
5(4)	47	5月18日	清湛院様(齊朝公御簾中)御法事に付、馬の塔二十四日ニ有之
5(4)	48		巾下新道の男一人乱心、子供を殺す
5(4)	48	6月6日	裏町新長屋中橋裏天王祭
5(4)	48	6月3日頃	広小路作り物あり
5(4)	48	6月4日	熱田神戸舞台をかけ、おどり、芝居様々有
5(4)	48	6月7日	熱田今道から馬の塔出す
5(4)	48		本町通広小路下ル東側びいどろやにて新製まるめら糖と云菓子出す
5(4)	48		本町通蒲焼町さがる東側錦屋にて京都おたびやきと云新製出す
5(4)	48		熱田太子町時疫大流行すへしとの事に付、熱田日々馬の塔出る
5(4)	48	6月11日	小田井祭御覧
5(4)	48	6月16日	若宮祭
5(4)	48		西懸所(西掛所)玄関、書院地築賑合申候
5(4)	48		熱田蔵之前孫二郎、木の目長次郎、此度大宮司家から火消役頭ニ申付
5(4)	49		柳原御物見の跡、知多郡岩窟寺豪潮律師の通所となる
5(4)	49		竹皮屋次郎八、大蒲新田開発
5(4)	49	26日	犬山内津辺大雪
5(4)	49	29日	夜、熱田御新物地より光り物出ル
5(4)	49	8月	笠寺の御芦熱田大瀬古へ着
5(4)	49	8月	京都梶原日就上人と日比津定徳寺と法論一件
5(4)	49		今年八世の中能く、在々祭り等多し
5(4)	49	8月26日	鳴海辺大雨、龍天上せし由
5(4)	49	9日	市之宮天道開帳
5(4)	49		上赤池村薬師開帳
5(4)	49	9月11日	萱津妙勝寺祖師遠忌、千部児音楽、説法会
5(4)	49	9月15日	禅寺町永安寺鐘の供養
5(4)	49	9月20日	巾下新道西の林、火事
5(4)	50	9月19日	妙善寺本堂棟上
5(4)	50		夜毎に弘法大師奉加
5(4)	50		らくだという獣大坂へ来り、評判高し
5(4)	50		庚申かめ、あるく
5(4)	50	9月16日	広井番人頼母子芝居興行
5(4)	50	10月19日	山王姪子祭
5(4)	50		犬之御触有之
5(4)	50	11月10日	初雪、同夜三之丸内火事
5(4)	51	11月11日	東御坊入仏のしらへねりの足揃あり
5(4)	51	11月15日	東懸所(東掛所)本尊入仏
5(4)	51	11月16日	供養、読経音楽
5(4)	51	11月19日	新御堂内陣江雑人参詣を免し、以後ハ皆禁止す
5(4)	51	11月15日	京都本山東本願寺門跡居門より出火、不残焼失
5(4)	51	11月17日	中橋裏大行院火まつり初る
5(4)	51		京都東本山焼失に付、東懸所古御堂仮殿の為、京都表へ遣す管相成候由

巻六(5) 文政7年(1824)

文政七甲申

6(5)	1	1月14日	地震数回
6(5)	1	1月18日	大須塔柱立、五重目
6(5)	1	1月25日	裏町新屋敷にて女を殺し男死す
6(5)	1	1月29日	引廻し獄門一人あり
6(5)	1	1月23日	桜天神にて連歌初会あり、花ノ本相伝と書林毎に札を出す
6(5)	1		中杉村に片手指三本、片手指七本の子生れ候由
6(5)	1	2月	南鐮吹替被仰出目方減、四月より通用
6(5)	2	1月9日	住吉町下米屋某、乱心して嫁をきる
6(5)	2	1月25日	朝日橋にて身投あり
6(5)	2	1月末	東掛所、火の玉出る

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
6(5)	2	春	野間内海、義朝朝臣首池血わく
6(5)	2	2月朔	江戸大火の由申来状
6(5)	3	2月19日	中郷常楽寺本尊薬師如来開帳
6(5)	3	3月14日	笠寺本尊観世音開帳
6(5)	3	3月2日	美濃谷汲開帳
6(5)	3	3月8日	大龍寺五百羅漢供養、十二日大施餓鬼
6(5)	3	3月1日	古井村善久寺開帳
6(5)	3	3月初	麻疹流行、口上語り
6(5)	6	5月7日	真広寺にて開帳
6(5)	6		東馬場石谷稽古場訃鞠流行
6(5)	7		任せ坊という外道人、知多成岩村に起る
6(5)	7		一兩年以前、上行坊という僧市中徘徊灸を授く
6(5)	7		去る辰年小田原家の足軽兄弟親の敵討、水戸領内にて本望遂ぐ
6(5)	27	5月	壹朱判出来(凶)、七月より通用
6(5)	28		膳所主本多家領分湖水二大鯰死浮候由、腹中に大判七十兩
6(5)	28	今年	天王車玉屋町文字書欄千紫に成、其外色々修覆有之
6(5)	28		大久保見町具師鋳屋佐助、大坂行の途中亀山宿にて盗人に殺され死す
6(5)	28	6月13日	天王崎祭之節騒動す
6(5)	29	7月2日	長久寺前の者、北在にて心中
6(5)	29	7月5日	町々芸者町役所へ被呼出、酌女芸子体之儀御尋、御咎あり、諷刺数へ歌
6(5)	31		江戸表御咎芸者之内、左之書付得たり
6(5)	34	7月11日	鉢かぶり呪文三唱流行
6(5)	34	7月26日	熱田誓願寺、壁にもたれ飛脚切腹
6(5)	34	8月21日	稲生にて御松明方揚火あり
6(5)	34	8月21日	わた屋町住居平岩有門、子を折檻にて殺し、不評判也
6(5)	34	8月	伝馬橋御普請あり
6(5)	35	8月1日	東寺町常德寺にて開帳、大群衆
6(5)	35		津島天王外遷宮五月なりしに、天王旧郷三宅村江飛去給ひしと風聞あり
6(5)	35	8月	甲州身延山八棟焼失
6(5)	35	8月3日	巾下海福寺前出火
6(5)	35	8月17日	甚目寺内一乗院本尊如意輪観音開帳
6(5)	37	閏8月12日	新居屋村法性寺本尊薬師如来并小野小町守本尊如意輪観音開帳
6(5)	37	7月	日光山剣之峯江立候製札(凶)
6(5)	37	5月	奥州二本松温泉ふきぬけ、人死有之候由
6(5)	37		法華宗説法僧本用院(日就)、日比津定徳寺日潤と宗論に相成

巻七(6) 文政8年(1825)～文政9年(1826) 補遺：文政7年(1824)

文政八乙酉 文政九丙戌 補遺文政七甲申

7(6)	1	1月15日	終日大雨、熱田射的海蔵門より相勤
7(6)	1	当春	惣見寺門前垣出来
7(6)	1	1月晦日	熱田火事、二軒焼失
7(6)	1	2月7日	長嶋町三丁目盲人の妻、我家ニ火を附、被召捕
7(6)	1	2月11日	春日井郡瀬古村石山寺本尊観音開帳
7(6)	1	2月5日	春日井郡上条村大光寺本尊十一面観音開帳
7(6)	1	2月21日	黄檗大龍寺本尊弘法大師作地藏開帳、三月十一日～十五日、羅漢供養
7(6)	1	2月12日	前原入鹿白雲寺天道宮本地大日如来開帳
7(6)	1	2月18日	小松寺本尊観音開帳
7(6)	2	2月25日	木ヶ崎長母寺にて東福寺毘沙門天開帳
7(6)	2	2月12日	津田太郎左衛門殿中間、女中をころし下牢
7(6)	2	2月13日	日置橋辺若き男一人流死、辰巳杵辺に女一人流死、相對死
7(6)	2	2月13日	熱田伝馬町美濃屋太左衛門、子がいぢ人折檻しける内死にゆく
7(6)	2	2月17日	本重町にて女自害
7(6)	2	2月上旬	建中寺裏にて鉄炮塚裏うどんや首くくり
7(6)	2		此節評判にいわく、銀上る金下る、王づを取ピシャとナル
7(6)	3	2月28日	西水主町にて力持の会あり
7(6)	3		大須天満宮、今年より鈴の舞始る
7(6)	3	3月2日	稲生にて御小人某、妻を殺し切腹
7(6)	3	3月3日	南禅寺性高院寺中一行院にて蜂須賀弘法大師并靈宝等開帳
7(6)	3	3月6日	万松寺前の筋善篤寺の堀に身投、中嶋郡天池村百姓の娘を何者か殺して捨て候由
7(6)	3	3月15日	熱田舞楽
7(6)	4	3月19日	本重町にて縊死者あり、同日高木八郎左衛門殿家来某切腹
7(6)	4		二十日、大坂浪人殺害される
7(6)	4	3月2日	八事山にて弘法大師供養
7(6)	4		今年成瀬隼人正、安藤帯刀三日登城、その後中山備中守、竹腰山城守、水野飛騨守も同様月並御札登城
7(6)	5	3月29日	御帰国木曾路御登り道にて御中間頭切腹、御女中一人乱心自害
7(6)	5	3月22日	尾頭渡辺半蔵殿控屋敷焼失
7(6)	5	3月26日	狝宜町八切焼失、野呂瀬半兵衛殿控屋敷

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
7(6)		5	近年犬多く、追々御触之趣有之候
7(6)		5	大津町下広小路上ル西側、板屋某内にて弥陀如来懸物の尊像、人を欺く
7(6)		6	紀伊宰相齊順卿今年初て御入部
7(6)		6	4月 御家中初町共御儉約之御触
7(6)		6	4月19日 出来町居宅一軒焼失
7(6)		6	4月上旬 木曾川にて子守りの少女子を負いながら流死
7(6)		6	4月16日 日置無三殿橋辺に男一人流死
7(6)		6	6月上 若宮鳥居建直る
7(6)		6	6月11日 小田井祭、二十三日に延る
7(6)		6	6月2日 日置子殺ばば二人はりつけ、広小路にて三人打首
7(6)		7	6月29日 若宮社内の松、雨風なきにねち折れる
7(6)		7	7月1日 落雷
7(6)		7	7月上旬 杉の町にて何やら喰つくと言説あり
7(6)		8	6月27日 光明寺の僧、熱田新柏屋お山をころし自殺損じる
7(6)		8	7月1日 堀川端御船手手代、殺人し立退申候
7(6)		8	7月11日 流川御先手組小川瀬平妻自殺
7(6)		8	7月27日 石河左左衛門殿新知被下(千五百石)
7(6)		8	8月11日 雨降出し、十四日大風雨、上有知辺大水、長良川切レ所数百
7(6)		8	8月22日 女御(鷹司様御女)御入内、京都江使差登
7(6)		9	右御入内に付御進上物
7(6)		12	松平周防守殿京都所司代被仰付、引渡として御老中水野出羽守殿上京に付御進上物
7(6)		13	午年より流行る二上りよしこのふし、此節より本調子にかへて少しづつかわる
7(6)		14	1月18日 大須門前にて鳥の羽根細工、らくだの写、蛤ぼたん猫虎扇かけさくらづくし 名古屋細工
7(6)		14	桜天神時の鐘の鐘楼上にあやしき者出ると云沙汰
7(6)		14	2月8日 長者町蒲焼町角豆腐屋火事
7(6)		14	堀川桜渡し舟停止
7(6)		14	東本坊新堂二階に金網をはる
7(6)		14	2月25日 大須天満宮開扉
7(6)		14	龍泉寺に桜植樹、志主は医師亀井氏
7(6)		14	3月11日 書肆永楽屋東四郎土蔵出火
7(6)		14	八事山弘法大師千年忌ねり行列先年同様
7(6)		14	3月26日 和泉町中村検校師藤田勾当追善有
7(6)		14	4月16日 大雨故、十七日舞楽、十八日御祭礼
7(6)		15	東御坊北広場奇麗に成
7(6)		15	5月5日 熱田中道町本馬、余は俄馬
7(6)		15	先月より天道町清安寺にて徳重上人説法
7(6)		15	くらがりの森にて旅僧入水
7(6)		15	5月18日 馬の塔、海東郡今宿村佐与姫のだし甚目寺へ出す、百年目にでると言説
7(6)		15	大須馬の塔、御覧もあり
7(6)		15	御儉約触後、武家の家内芝居見物なし
7(6)		15	5月19日 大須の堂へ幽霊出るといふ沙汰
7(6)		16	桜之町天満宮のむかへ紙屋某に珍薬売り、懐中すれば富貴延命知恵を得るとあり
7(6)		16	6月14日 三宅村天王祭に舟祭初る
7(6)		16	6月14日 袋町医王寺、弘法大師誕生会供養
7(6)		16	6月28日 南寺町阿弥陀寺にて徳住勸戒
7(6)		16	町々びいどろかんざし流行
7(6)		16	7月18日 白壁町後藤氏火事
7(6)		16	8月1日 門前町、乳母子を抱え有しに、馬に食い付かれる
7(6)		16	8月5日 津島火事、地震
7(6)		16	8月6日 車道火事、八日小牧火事
7(6)		16	8月15日 広井八幡祭、二十一日迄延る、御覧の為
7(6)		16	8月21日 地震
7(6)		16	8月23日 稻生河原にて揚火
7(6)		17	阿弥陀寺本町通借家普請成就
7(6)		17	8月24日 清安寺に徳本上人の石碑宝塔建立
7(6)		17	此節、辰己に珍星いなぼし出る(凶)
7(6)		17	8月 彼岸中、東懸所(東掛所)にて七間町聖徳寺に門言解講釈
7(6)		17	9月4日 御仕置者有之
7(6)		17	先月より八事山前住ケンカウ比丘府下へ出て説法
7(6)		17	9月18日 光蓮寺の鐘供養
7(6)		17	9月18日 清寿院観音開帳
7(6)		17	9月20日 桜の町靈岳院先住和尚追善画会 二十一日、古物会
7(6)		18	10月 御姫様屋敷南、通り抜の町こしらへ江川までの道に突通し町出来る
7(6)		18	田安御簾中様御逝去

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
7(6)	18		此頃三州より来るさつまいも毒ありとて死する者多し
7(6)	18		七寺弁天社作事再建
7(6)	18		納屋裏江川端にて軍書夜講流行
7(6)	18	11月1日	西懸所(西掛所)書院玄関棟上
7(6)	18	11月15日	米札引替
7(6)	18	12月	折々雪、米価高
7(6)	18	12月22日	古渡いなり正遷宮
7(6)	18	8月下旬	尾州いな星出る
7(6)	18		去年閏八月より番附に成居候輩
7(6)	21	文政9年	文政九丙戌歳
7(6)	21	3月4日	繼鹿尾山乘連台寺本尊開帳
7(6)	21	3月5日	三州豊川稻荷開帳
7(6)	21	1月21日	上島裏真行院にて下野国高田山一身田兼帯所天拝一光三尊仏開帳、此時楊弓見せ物
7(6)	21	1月下	栄国寺にて善光寺分身如来開帳
7(6)	21	3月11日	出来町大龍寺五百羅漢供養、十五日大施餓鬼
7(6)	21	1月25日	知多郡木田村觀福寺十一面觀音開帳
7(6)	21	3月12日	堀弥九郎三男為三郎、長者町お富を殺し自殺
7(6)	22	3月12日	魚之棚間屋次郎左衛門裏出火
7(6)	22	5月5日	熱田、十八日大須、馬の塔
7(6)	22	5月21日	大風、江川端家損失
7(6)	22	5月28日	直七郎様従三位中将被任、江戸へ御使天野新太郎殿
7(6)	22	6月4日	天野新太郎殿定光寺御告、御名代大道寺玄蕃
7(6)	22	6月4日	落雷箇所
7(6)	23	6月6日	東海道石部宿杖つき坂の上、往還端の家倒壊大松不残折れる
7(6)	23	6月12日	大雷
7(6)	23	6月24日	巾下江川町江川橋より一町不残焼失
7(6)	23	7月8日	御園下道円屋敷差物師に鬼の子生れる
7(6)	23	7月25日	地震
7(6)	23	7月23日	熱田新田より龍天上、新田所々に行き当たる
7(6)	24	8月12日	小川町山伏法印、獵を好み沖にくらしける、流死
7(6)	24	8月17日	天道山高照寺富御免始る
7(6)	24	9月朔年	橋の寮にて未生流大会、極楽寺にて楊弓大会
7(6)	24		中将様より田安家愛姫様江御結納之次第
7(6)	25	8月25日	大須天神鈴の舞始る
7(6)	25	9月3日	津島正遷宮
7(6)	25	9月15日	中村清正公柱立
7(6)	25	10月4日	清寿院芝居にて一朱判作り召捕られる
7(6)	26	10月6日	東杉にて小出鉄蔵切腹
7(6)	26	10月29日	石切町光明寺にて今井幸右衛門追薦謠、觀世流謠の巧者なりしゆへ
7(6)	26	11月18日	玉僊連書画会、橋之寮にてあり
7(6)	26	11月26日	大惣酔雪楼にて琴基書画会有、催主安藤蟻殿
7(6)	26	11月29日	一朱つくり礫
7(6)	26	12月14日	東杉村心入寺門前、三軒焼失
7(6)	26	12月15日	大雷
7(6)	26		今年米価存外よし、二万石御買上
7(6)	27	1月1日	雪雨、二日より晴、八日地震、十三日より国府宮開運守を出す
7(6)	27	1月15日	御的射終日雨天、十八日大須初觀音
7(6)	27	2月2日	積雪、二十九日中野高畑火事、勝川辺火事
7(6)	27		世間痲瘡流行
7(6)	27		本国寺の貫首下向、諸末寺にて説法
7(6)	27		久屋町一丁目にて痲瘡のまじないに牛の玉をにぎらせる
7(6)	27	3月2日	西水主町長円寺にて知多郡大野村光明寺宝物弘通
7(6)	27		犬山繼鹿尾山觀音開帳
7(6)	27	3月朔	火事沙汰多し
7(6)	27	3月28日	法花寺町にて本国寺宝物内拝
7(6)	27	4月8日	東御坊北かまへの堀へ身投あり
7(6)	27		八事山普門堂再建
7(6)	27	4月17日	御祭礼
7(6)	28	4月20日	雨天、初雷
7(6)	28	5月5日	菖蒲皮町玄乘寺開帳十四日迄日のべ、十五日施餓鬼
7(6)	28	5月13日	前津酔雪楼にて古筆書画会
7(6)	28		日でりにて所々雨乞
7(6)	28	5月20日	日置礼馬、二十一日強風雨
7(6)	28	5月23日	似セ銀作り御仕置あり
7(6)	28	5月28日	御堂山門二天の像、京都にて彫刻して今日着
7(6)	28		藤八五文(清正公の伝のよし)の図
7(6)	28	6月	町々天王祭の儀
7(6)	28		水からくり人形四人にて白をひかせる翫び出る

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
7(6)	28		熱田祭中瀬の車、幕かわり
7(6)	28	6月12日	御堂山門二天王入仏供養、千巻陀羅尼、児音楽
7(6)	28	6月12日	伝馬橋裏火事、水野八郎右衛門へ雷、松河戸村女雷に打れ死候よし
7(6)	28	6月26日	若宮大松風なくして倒れる、奇談あり
7(6)	28		杉の丁にて異獣喰つくよし
7(6)	29		御園町下鬼子生れ額に二つのこぶあり
7(6)	29		法華寺町下松徳寺にて花角力興行
7(6)	29	7月22日	式朱銀作り今日御仕置
7(6)	29	7月	八百屋町に木曾海道須原宿十二色漬けの店出る
7(6)	29	8月1日	この日に雑煮の餅食べばはやり病をのがれる風説あり
7(6)	29		ことしは豊年也と云
7(6)	29	8月20日	法華寺町法輪寺にて京の妙頭寺姿見祖師三菩薩の御骨其外宝物弘通
7(6)	29	9月5日	己になる金にあたり開運富貴の修法すへしという一枚摺、本屋に出る
7(6)	29		町々に犬防ぎ御触出、町々竹の木戸を拵る
7(6)	29	10月1日	火事、遠し
7(6)	30	10月5日	天道留広小路神明をみて初会
7(6)	30		物静の触芝居江廻て後間違の由ほどきあり
7(6)	30	10月9日	野村泰順風呂焼出す
7(6)	30	10月20日	地しん
7(6)	30	10月21日	永安寺山門棟上供養
7(6)	30	12月25日	市之宮地蔵寺火事
7(6)	32		黑白問答記
7(6)	33		下乗橋井水野出羽守殿門扉楽書の写(狂歌狂句)
7(6)	34	9月	手に入候御城書写 (松平豊後守書状 薩摩右嶋之内室嶋沖に七月八日異国船漂来)
7(6)	35		尾州所々辻番追々御修覆
7(6)	35		来酉年日光御社参御延引
7(6)	35		此節生花所々大流行、古流、来生、八代流他、柳薬師夜開帳中生花あり
7(6)	36	9月21日	仙洞御所修学院の御山荘へ御幸 (御行列 院御製 列御用向参向并送迎)
7(6)	54		千秋錦駕記
7(6)	63	10月9日	評定所仰付 (小普請組吉田勘之丞小十人組徳山松衛と刃傷、勘之丞切腹被仰付)
7(6)	65	10月19日	降雪、雪尺三尺
7(6)	65	10月	江戸四谷敵討
7(6)	(68)	11月9日	堀川聖運寺前にて船頭叩合、半死半生
7(6)	(68)	12月1日	高野孫兵衛中間銀札作り捕る
7(6)	(68)	12月4日	七間町浅野屋利右衛門召仕の女小便瓶へ落て死す
7(6)	(68)	12月4日	堀越村火事
7(6)	(68)	12月	国府宮富御免
7(6)	(68)	12月	土器野おみて死罪の女
7(6)	68	12月25日	前津経堂筋紺屋より出火
7(6)	68		富士見藤根半分焼(凶)
7(6)	70		天野氏より高岳院に建し牌の写
7(6)	72		今申年春去冬より柳樽風誹諧流行、柴田承慶(雅名水魚洞)社中の句、 撰集して桜鯛と号し書林へ出す
7(6)	72		津島御選宮に付御木引
7(6)	72	2月9日	初雷、広井辺雹ふる
7(6)	72	2月20日	日比津村定徳寺にて祖師遠忌
7(6)	72	2月26日	桜天神に木下正三郎舞囃子奉納
7(6)	72		堀川の桜花虫つき当年は悪し
7(6)	72	2月25日	大なる雹ふる
7(6)	72	3月	藤嶋村聖林寺開帳、十日迄桜誓願寺にて部田裕福寺小三尊開帳
7(6)	72	3月24日	児の宮にて流行病はやりはしかの祈祷修行
7(6)	72	4月10日	強風、若宮八幡宮大鳥居倒れる
7(6)	73	4月17日	雨天、十八日御祭礼相済
7(6)	73	4月25日	橋の寮にて池の坊立花
7(6)	73	5月4日	雷鳴、万松寺寺中万年寺江落雷
7(6)	73		蒲焼町真広寺にて下総の国結城称名寺玉日の宮の木像外靈宝弘通
7(6)	73	5月18日	馬の塔少し出る
7(6)	73	6月6日	裏丁作り物、上畠ハ江戸両国の景、江川新町ハ堀川の桜、他いろいろ造り物
7(6)	73	6月8日	地震
7(6)	74	6月15日	片端へ見廻車
7(6)	74	6月16日	若宮車、御覧なし
7(6)	74		愛知郡嶋田地蔵利生有とて流行、参詣多し
7(6)	74	6月21日	十一日雨天にて延引、二十三日上覧可有之に付、二十一日引初、二十三日祭をする
7(6)	74	6月28日	津嶋天王仮遷宮、雨天に付二十九日に成

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
7(6)	74	7月8日	雷雨、犬山辺強く雷火にて焼失する所あり、葉栗郡瀬戸村人家焼失、建中寺前へも落
7(6)	74	7月29日	南方にて雷つよし
7(6)	74	当夏	門前町にて芸子かんざしと云物を仕出す (図)
7(6)	75		らくだぐし流行 (図)
7(6)	75		巾下新道にて人を斧にて殺し縊死
7(6)	75		熱田誓願時前にて自害者有之
7(6)	75	8月4日	巾下西浅間町火事
7(6)	75	8月19日	先御門主三十三回忌、東懸所 (東掛所)
7(6)	75		熱田材木町に延場初る
7(6)	75		栄国寺にて滞山上人説法、太子談講釈也
7(6)	75		大池殺生人夥し
7(6)	75		蟹江の茶屋へ門前町の仏具屋を殺せし者来る、入牢に成
7(6)	75		此頃津嶋天王御正体三宅に飛行し給ふ、三宅群集夥し
7(6)	75		前津あまざげ長屋の下やしきかし座しきに出来、酔雪楼といふ
7(6)	75		此所あみだ寺堀口観音堂南へうつる
7(6)	76	9月	東懸所 (東掛所) 新堂向拝の柱高二大虹梁の下に疵出来す
7(6)	76	10月頃	おたふくあめとて白あめを小口切にして辻売する有、かそえ歌ちゃかほんぶしをうる
7(6)	76		久屋町全泉庵を瑠璃光寺と改称
7(6)	76	10月15日	七つ寺弁天かくら初る
7(6)	76	10月16日	七間町聖徳寺向へ少々やける
7(6)	76	10月21日	雷鳴
7(6)	76	11月1日	西本坊対面所玄闕作事柱立
7(6)	76		東本坊北組屋敷二組御いせ山側へ引、火除地と成
7(6)	76		広小路居合抜、見物人怪我あり、故に停止に相成
7(6)	77	11月18日	入寒、夕方雷鳴
7(6)	77		七寺に弘法大師百度参りの石立、願主片岡仁左衛門
7(6)	77		報恩講中、折々雪降
7(6)	77	11月24日	二十四日大光院明王堂手斧始
7(6)	77		此節東懸所 (東掛所) 本堂前大銅籠燈建
7(6)	77	12月4日	堀越村火事
7(6)	77		栄国寺門番部屋少々焼る
7(6)	77		此寒中雪多し、大雪はなし
7(6)	77	12月27日	火災のさたあり

巻八(7) 文政10年 (1827)

文政十丁亥

8(7)	1	元旦	晴天、五日より小雨
8(7)	1		大須の塔九輪上がり、かこいをとる
8(7)	1		広小路にあめ細工上手出る、くじにてとらせる
8(7)	1		岩塚村吉田氏所持の古刀鳴動す
8(7)	1		七面横町門を後へ引、借家出来
8(7)	1		一橋儀同様御逝去、物静中に付、桜之町天神祭三月に成
8(7)	1	1月25日	雷雨、霪ふる
8(7)	1		万松寺前の者伊勢へらくだに付行て殺される
8(7)	1		長崎の氷あめ売りの唐人ちゃらめるをふく
8(7)	1	3月5日頃	所々桜盛
8(7)	1	3月10日	身延山祖師大士天拝鬼子母神、佐屋海道旅行、古渡休玄寺より本町通行列
8(7)	2	3月3日	一ノ宮祭十三日に成、十四日馬の塔ダンジリ
8(7)	2	3月21日	大須霊宝天拝、弘法大師影像宝物開帳、二十五日天満宮神楽
8(7)	2		京町の車出、高欄衣装かわる
8(7)	2		あめ売越後ぶしをうたう
8(7)	2		広井西新道のうら西端に椿の枝に餅の様なる物出来
8(7)	3	5月	中治新田に木の枝にさや大豆なるよし、伊勢に桃の花咲く説あり
8(7)	3	5月4日	延師仲満走り馬出す
8(7)	3	5月5日	熱田馬の塔、東在七カ村合宿にて本馬を出す
8(7)	3		東御坊、新しき亭広く建直る
8(7)	3	5月18日	馬の塔、就中見事なるは延米師仲満
8(7)	4	6月	巾下天王祭、四日に御覽に付延る
8(7)	4		広小路仮茶屋にて鮎の形の砂糖入菓子売る店に水船を出し長良川の体
8(7)	4		小田井祭、くら馬山の車、大幕かわる
8(7)	5		中須賀町、さつはり車かはる
8(7)	5		今年より六月祭絵草紙売り中絶
8(7)	5		いせ町井筒屋薬王丸店開施薬、小児の薬
8(7)	5		此頃広小路にて夜々人をたたく悪者あり
8(7)	5	7月10日	御深井観音参詣
8(7)	5	7月11日	高岳院前辻番より出火、服部氏長屋類焼

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
8(7)	5	7月17日	中小田井下家雷火、三軒焼失
8(7)	5		彼岸中妙善寺入仏供養
8(7)	5		御鉄炮はり横町、異人あり(富蔵、元は天台僧、諸病治する)
8(7)	5		天道町道德上人清安寺にて説法
8(7)	5	8月19日	御隠居御家督
8(7)	5	9月	御鎌祭り
8(7)	6		門前町火の見打候へ共、火は不見
8(7)	6		子供持遊びの土細工、祢宜の形を売る
8(7)	7	2月23日	矢田河原大御番組勢そるへ
8(7)	7	2月25日	大雷、知多郡鍵屋村、雷火にて余程焼失
8(7)	7	2月26日	小雷、通り物、二十八日大雷、二つ通り物、氷ふる
8(7)	7	2月20日	一橋治済公薨去
8(7)	7	2月16日	上様太政大臣、西丸様従一位御転昇(御昇進/御位階、御名代行列図)
8(7)	11	3月18日	宣下に付関東より進献の品の写 他
8(7)	27	早春	江戸堺町ふき屋町芝居焼失
8(7)	27	2月	大阪道頓堀芝居小屋より出火、大火に及、人を助候者へ御褒美の記
8(7)	29	3月7日	木ヶ崎長母寺にて見性寺薬師如来開帳、二十日迄日延あり
8(7)	29	3月10日	新町大光寺にて身延山開帳
8(7)	29	3月上旬	住吉町酒屋子僧、酒室内にて室崩れ死す
8(7)	29	2月中旬	御広敷組高木芝蔵子、すかい橋より落死す
8(7)	29	3月	紅葉矢来普請
8(7)	30	2月26日	公義儒者島田十蔵囚人ニ成
8(7)	30	3月28日	中小路稻生屋敷長屋少々火事
8(7)	30	3月下旬	霧雨甚だし
8(7)	30	3月	西郷弥右衛門二十三才の悴を折檻死さす
8(7)	30	3月	大須五重塔、大体出来
8(7)	30	4月1日	七寺弁天再建棟揚あり
8(7)	30	4月4日	名府所々豆ふる、大阪も三月二十八日豆ふり、四月四日江戸も
8(7)	31	4月1日	本町八、九丁目夜店、井惣駒文、水口屋、本榭屋、本久巨勝子園其他、京都西条通の如し、子供の夜店大流行
8(7)	31		魚の棚筋七間町東、大みたらし出来、一本百五十文の品あり
8(7)	31		みその御門、蛇入て蝙蝠を呑首出し
8(7)	31	4月	東懸所(東掛所)に御門主の末子引移之目論見にて新御殿造営の地築始る
8(7)	32	5月28日	広小路神明正選宮、夜開帳
8(7)	32	6月上	裕にて暮らす日あり、天候不順
8(7)	32	6月上	西蓮寺の僧井戸へ入水、同頃熱田橋喜心中
8(7)	32	6月8日	光り物通る、多度山の方へ
8(7)	32	6月10日	清水式部卿様御逝去
8(7)	33	6月上	本町の花屋町角幽霊出る
8(7)	33	6月18日	熱田大瀬古浦等覚寺開帳
8(7)	33	6月20日	御園御門外に捨子二十四日東懸所(東掛所)首くくり
8(7)	33	6月24日	若宮車の夜、広小路にて人形売侍に斬られる
8(7)	34		飴屋町御黒門組某、仲満にくまれ寝ている所を葬礼の真似される
8(7)	35	6月25日	中うねろうの木にて首くくり有をテンマ仲満にて憎まれ候
8(7)	35	6月23日	水出、枇杷島七合七勺、起川六合二勺、二十四日四合二勺
8(7)	35		巾下虎薬師開帳、揚弓あり
8(7)	35	6月14日	清須津島天王祭、又影祭あり
8(7)	35	7月16日	高木屋彦九郎家騒動
8(7)	36	7月18日	小田井村落雷、二軒焼失
8(7)	36	7月10日	大雨中、熱田八剣宮前松岡上総家并二借家焼失
8(7)	36		銀札つくり、原常九郎流罪
8(7)	37	7月下	江戸聖堂に長崎通辞より申来候、伊藤玄沢より書状写
8(7)	37	当夏より	一向宗の徒町宅に僧を招き法談する事流行
8(7)	38	7月4日	桔梗屋又兵衛葬式に揚張四張 二十一日伊藤次郎左衛門葬式にも揚張四張
8(7)	38	7月18日	百人組玉火箭見分の時、指を打たれ落とし後日相果
8(7)	38	8月11日	御下屋敷字式大権現御遷宮
8(7)	38	6月	敵討の書付、一枚摺売歩行写
8(7)	40		町芸者叱られ候族有
8(7)	40	6月頃	広小路夜店にて人をたたき候者の評判
8(7)	40	8月26日	建中寺女中門にて乞食縊死
8(7)	40	8月21日	鏡(撞力)木町東片山仁兵衛長屋焼失
8(7)	40	8月28日	夜、地震
8(7)	40	8月下	堀川端の桜、聖運寺前咲
8(7)	40	8月24日	小牧の南戸山、大橋新六郎次男自害
8(7)	40	9月頃	日蓮宗説法僧英智院来
8(7)	41	8月下	南寺町清安寺、十七日間徳重という念仏門の僧勸戒
8(7)	41		九月上旬法周寺にて十七日間

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
8(7)	41	7月	八事山に清水の舞台うつし出す
8(7)	41	9月朔	幸吉、石橋にてころひ天窓をわり永坂周二縫候
8(7)	41	7月28日	飛騨の紬売、七間町近江屋井戸に入水
8(7)	41	8月	一の鳥居御修覆
8(7)	41		大宮東の所修覆
8(7)	42		今年御鍬祭り尾州一円流行
8(7)	42		天野氏塩尻にも見ゆ
8(7)	50		小田井の御鍬祭停止之一件
8(7)	53	10月22日	東寺町法輪寺鐘供養
8(7)	54	10月28日	七寺弁財天正遷宮大賑合、鯛鯰を初放生す
8(7)	54	11月1日	補陀山円通寺羽休秋葉上棟の規式あり
8(7)	54	11月1日	大光院柱建の式
8(7)	55	11月17日	十七日間熱田円福寺にて遊行上人神勅御札如先例弘通せらる、御年寄衆 寺社奉行中宅江、上人廻勤之行列
8(7)	55	10月	本願寺御門主江所司代より之制止の書付
8(7)	56	10月28日	東懸所(東掛所)新御殿普請止
8(7)	56	11月6日	福井檢校熱田御神前にて平曲奉納
8(7)	56	11月7日	すみた町にて大工夫婦を斬し者有
8(7)	56		同日三橋兵衛古渡橋より転落死
8(7)	56	11月	御鷹屋久右衛門、召仕の女と宿先で死す
8(7)	56	11月26日	住吉町八軒家前にて竹腰公家中(川口恒吉)酒乱、人斬
8(7)	57	11月23日	小石川水戸様御上屋敷焼失
8(7)	57	12月15日	落雷、十斗、寒中大雷一奇事
8(7)	57	12月20日	みその町あそや権蔵切腹
8(7)	58	12月25日	わたや町子殺し婆磔

巻九(8) 文政11年(1828)～文政12年(1829)

文政十一戊子 同十二己丑

9(8)	1	2月23日	飛保曼陀羅寺開帳三月二十八日～六日間日延
9(8)	1	2月21日	八事山聖観音開帳二月二十一日～四月十日
9(8)	1	2月21日	東寺町善光寺本多善光作一光三尊仏開帳
9(8)	1	2月28日	野間大坊頼朝公寄附池禪尼宗護尊地尊開帳
9(8)	1	2月21日	大森法輪寺子安やくし善光如来開帳
9(8)	1	2月17日	笠寺観音開帳
9(8)	1	1月20日	天道山敬法門院御寄附大日如来開帳
9(8)	1	2月14日	性高院寺中一行院にて上人法話、三月下旬頃播羅上人説法
9(8)	2	2月9日	阿弥陀寺、徳林寺にて勸戒
9(8)	2	2月14日	暴風雨、雷鳴
9(8)	2	2月19日	中根村観音寺本尊観音開帳
9(8)	2	2月21日	広井光明院にて聖徳太子御作薬師如来、信州大勸進御眼開善光寺一光三 尊仏不消燈明其外靈宝開帳弘通
9(8)	2	2月21日	大雪氷ふる
9(8)	2		日蓮上人五百五十回忌法会、音楽あり
9(8)	2	3月13日	今般御代替之御能あり(番組)
9(8)	3	3月15日	東懸所(東掛所)にて浅草御坊靈宝京都行の途中にて弘通
9(8)	3	4月1日	杉村植溜辺にて六十ばかりの女我が家に放火、召捕られる
9(8)	3	4月上	百人組某の倅、不孝にて親首を落とす、六日夜葬礼
9(8)	4	4月	藤なり辺にて僧縊死
9(8)	4	3月28日	豆州田方郡田代村にいにしえより有小堀織部知行所の山本多修理知行所 へ移り候事
9(8)	4	4月17日	雨天にて祭礼順延
9(8)	4		伝馬町車都而仕替、天井高欄甚結構、文字、丹羽嘉六書
9(8)	5		大津町下にて幟を鉄炮にて打候者有
9(8)	5	4月	御勘定所建替
9(8)	5	5月	節句熱田馬の塔余程出る、上御園町御輿洗、広井八幡蘇鉄組
9(8)	6		肥後侯に丈七尺余の大男あり
9(8)	6		熱田大薬師富願濟、野間大坊も願濟
9(8)	6	5月4日	蒲焼町真広寺にて越前吉崎正賢寺祖師聖人木像開帳
9(8)	6		奥向御出頭退役御用達町人植木屋丸勘丸蔵周平料理屋近久三伝画師三光 堂玉僊シクヅル、其評(地口、替せりふ)
9(8)	9		御国乱方新製小性酒宴
9(8)	10		御金借弘所、片広堂(茶会記一もじり)
9(8)	11		役はらひ(替せりふ?)
9(8)	12	6月10日	鈴木丹後守家老の召仕中間縊死
9(8)	12		若宮車仕替
9(8)	12		玉屋町車の梶取、十四日引初にひかれて死候者一人あり、その他怪我人 多し
9(8)	12	6月5日	大雷大風雨、沖大騒動

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
9(8)	13	7月2日	大風雨、枇杷島七合五勺、中須辺キレ、岡崎矢矧橋ねぢれ、道中川々の様子(列挙)
9(8)	13	7月5日	若宮八幡宮外遷宮
9(8)	13	7月10日	大光川高麗番所辺へ男児流れ来たれり
9(8)	13	7月18日	万松寺黄泉和尚長崎へ発足、皓台寺住職に成る、後住大光院祖苗和尚
9(8)	14	7月上	春日井郡小幡村にて十六才に成娘、狸と相対死
9(8)	14	8月3日	東寺町照遠寺にて江州多景嶋三国伝来出山釈迦仏開帳
9(8)	14	8月10日	石仏の池にて八歳死亡
9(8)	14	8月23日	地震再度
9(8)	14	9月8日	本町三丁目吉嶋屋佐兵衛娘(十二才)丁稚(十七才)咽喉をつきて殺し自害
9(8)	14	9月	泰源兵衛弟切腹
9(8)	14	9月	流川下大代官手代岩田市良平娘自害
9(8)	15	9月20日	みその町五丁目木薬屋半兵衛兄縊死
9(8)	15	10月10日	熱田金比羅裏菖蒲池辺三十七軒焼失
9(8)	15		中納言様御隠居新御殿去冬よりかかる
9(8)	16	11月2日	引移りに付十月中頃出来、御祝之御能番組
9(8)	16	10月10日	水野林古という表坊主葬礼
9(8)	16	10月中旬	小折にて夫殺しの者あり
9(8)	16		此頃之町医評判
9(8)	18	10月26日	御儉約御触之写
9(8)	36		此頃之評判(諷刺歌?)
9(8)	37	9月	書付(百姓領分)
9(8)	38	8月	大村上総介殿より松平和守殿へ御達の写(大風雨高潮の破損之覚)
9(8)	40		長崎より来信(長崎表阿蘭陀騒動一件)
9(8)	42		大須大塔造作成就供養延引
9(8)	42	2月9日	菖蒲皮町玄乗寺にて祖師遠忌供養
9(8)	42	2月17日	砂の如き物降
9(8)	42	2月21日	八事山普門堂上棟、此日より開帳
9(8)	42		東御坊新殿建上りて瓦をふく
9(8)	42	3月8日	堀川聖運寺にて始祖六百年遠忌、児音楽法有
9(8)	42		どたくと言物の画図流行
9(8)	43	5月5日	馬の塔
9(8)	43	5月18日	本重町の松竹梅のだし見事、狂歌
9(8)	43	5月19日	礼馬さまさま
9(8)	44		大坂発かん湯という砂糖湯売
9(8)	44	6月6日	大雷雨、落雷
9(8)	44		天王祭、うら町、あやめ町
9(8)	44		本町八丁目新製牛の舌餅という物出す
9(8)	44	6月16日	若宮祭順延
9(8)	44		住吉町祭車浪の下画張月樵画之
9(8)	44		富田町より若宮に小幟を献ず
9(8)	44		小田井西六軒町の王羲之の文字書関羽にかわる
9(8)	45		珍しき飴売両三人、長崎甘露飴
9(8)	45	9月	長雨、凶年、米高直
9(8)	45		知多郡野間大坊富初る
9(8)	45	10月	建中寺輪蔵新しく出来、供養
9(8)	45	11月22日	中将様(芥温公)御婚礼式相済
9(8)	45		町々へ猪の子引あるく
9(8)	46	文政12年	文政十二巳丑年
9(8)	46	1月8日	志水坂下馬喰孫右衛門馬屋より出火
9(8)	46	1月7日	車道御先手組横井猪左衛門組にて火燵へ襦袢をかけ、燃え上がり寝ていた子供大やけど
9(8)	46	1月22日	午後地震
9(8)	46	1月28日	四時前桜之町筋と大津町の間六軒焼失、蕎麦屋より出火
9(8)	46	2月14日	夜両度地震、此夜長嶋町三丁目八尾と申料理屋二階番所火燵より出火
9(8)	46	2月上	萱屋町に住女一人縊死
9(8)	47	当春	最樹院(一橋治済卿)贈正一位大相国
9(8)	47	2月21日	善師野宿三十軒焼失
9(8)	47	2月下	徳林寺にて徳住上人勸誠あり
9(8)	47	2月25日	於性高院同人勸誠あり
9(8)	47		勅諭大紹正宗国師法会執行
9(8)	47	3月上	於性高院寺家一行院、鎌倉願海上人勸誠あり
9(8)	47	3月3日	於愛知郡高田村龍王山海上寺弘法大師作薬師開帳
9(8)	47	3月8日	於熱田亀井山地主白山権現本地十一面観音并霊場開場
9(8)	47	3月5日	於木ヶ崎長母寺観音開帳
9(8)	47	3月3日	同所にて信州善光寺一光三尊仏并常燈明、霊宝等弘通
9(8)	47	3月5日	朝、元材木町山屋喜六店押込より出火
9(8)	47	3月9日	夜八時より御船手屋敷南之筋より四軒目
9(8)	47		相川仁右衛門隣より出火、五～六軒焼失

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
9(8)	48	(3月9日夜)	巾下紙漉町にて上宿御中間男女を殺害出奔
9(8)	48	3月上	枇杷島社頭屋へ盗賊入火縄置行
9(8)	48		同比、間宮外記殿屋敷へ柚子盗入
9(8)	48	3月12日	昼八時、中小田井火事、二十軒程焼失
9(8)	48		此日、於建中寺瑞巖院様御法事済
9(8)	48		同夜五時中地震
9(8)	48	3月中	木ヶ崎河原にて小田井村の去年の御鍬祭連中、踊り遊びけるを銭をなげる
9(8)	48		半鐘あり、東山、嶋田の地蔵大賑合
9(8)	48		三味線、摺かね、太鞆賑はし
9(8)	49	3月24日	松下[]寺にて蓮如上人開帳
9(8)	49	3月21日	昼四半時頃、江戸外神田佐久間町壱丁目河岸作事小屋より出火、明暦以来の大火となる、二十二日巳下刻鎮火
9(8)	62	4月15日	地方組早川新九郎伴密通出奔
9(8)	63	4月21日	南寺町法蔵寺、三州妙心寺におゐて信州善光寺分身如来肉髮尊像阿弥陀如来 源氏白旗名号并宝物弘通
9(8)	63	4月21日	南寺町清安寺にて和州当麻寺奥院円光大師中将姫曼陀羅并宝物開帳
9(8)	63	5月5日	熱田馬の塔本馬
9(8)	63	4月中	古江川の婆まじない
9(8)	63	5月5日	高倉の森にて男一人縊死
9(8)	63	5月8日	東山にて赤土堀の二人士にうたれ死
9(8)	63	5月18日	馬の塔、清湛院様御法事にて十七日計、御儉約・質素
9(8)	64		本町七丁目へ眼鼻細工致者来
9(8)	64	5月18日	終日大雨雷鳴
9(8)	64	5月24日	大風雨にて評定所大樹折れ御右筆尾崎又六、正本孫三郎怪我
9(8)	64		十七日～六月十日頃迄霖雨
9(8)	64	5月下	触文言、父の敵を討留
9(8)	64	6月10日頃	みその町一丁目丸文裏敷に幽霊
9(8)	64		三之丸天王若宮祭、町々半減
9(8)	64	6月2日	紀州前中納言太真様御逝去
9(8)	64		尾州は十一日～十七日物静
9(8)	65	5月28日	中山大三郎門弟矢田河原にて船軍の火術并、合凶火稽古
9(8)	66	6月4日	熱田間屋場前にて谷松屋手代水練自慢にて溺死
9(8)	66	6月上	雷、清須辺強く、六角堂破損
9(8)	66		北市場家二軒倒
9(8)	66	6月	石川太八郎御前津矢場田面にて家中屋敷三千坪拝領
9(8)	66	6月13日	朝五時前、小地震
9(8)	66	6月22日	大雷、伝馬町筋かじや町落
9(8)	66	6月18日	堀川水神祭の夜喧嘩、大騒動
9(8)	67	6月20日	八半時過小地震、二十二日鍛冶屋町、伝馬町木戸へ落雷、破損
9(8)	67		同二十九日小地震
9(8)	67	7月1日	志水の油屋亭主、土蔵にて切腹
9(8)	67	7月2日	志水小八郎殿門前にて百姓行倒れ
9(8)	67	6月	紀州下条伊豆守三千石の知行被召上、蟄居、隠居
9(8)	67		広小路涼賑合格別多し
9(8)	68	7月2日	暮合より中雷
9(8)	68		五日雷雨、広小路牢屋際へ落雷
9(8)	68		前津・熱田落雷、火事
9(8)	68		六日小雷、七日大雷
9(8)	68		八日地震、十日雷雨
9(8)	68		十一日雷雨、十二日雷雨落雷、十三日雷雨落雷
9(8)	68		十六日雷雨、十七日大雨、十八日大風破損多し
9(8)	68		十九日大風雨、二十六日二十七日雷鳴
9(8)	68	七夕頃	伊藤荷担ひ、掛取金、負はぎに逢
9(8)	68	7月10日	壱朱銀通用初る
9(8)	68	7月16日	天赦往亡日六十一年目の悪日、尾州大に慎候由
9(8)	68		此日北の方より南へ火の玉一つ通る
9(8)	69	7月18日	大風一件、被害(列举)
9(8)	70		文政十二年乙丑十月二十五日木曾御材木奉行の下役早川七助 山小屋にて直話
9(8)	71		水戸哀公御逝去
9(8)	72		熱田馬の塔
9(8)	72	8月10日	本丁松前屋前にて金比羅参り行倒れ
9(8)	72	8月26日	熱田善福寺筋町屋火ゴトあり
9(8)	72	8月29日	光音寺河原にて尽集流合凶火
9(8)	73	8月5日	海部定右衛門門弟、種賀嶋流相凶火
9(8)	73		太神宮御遷宮
9(8)	73	9月14日	於性高院寺家一行院、幡隆上人勸誠 鍋屋町養蓮寺にて有之
9(8)	73	9月16日	犬山魚屋町出火、五十二軒寺二本焼失

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
9(8)	74	9月18日	杉の町筋呉服町東へ入北側研師佐兵衛家出火
9(8)	74	9月24日	万屋周平実母水死
9(8)	74	9月下	上畠裏木田屋喜兵衛植溜取払
9(8)	74	10月2日	地震
9(8)	74	10月12日	鰻釣船風にて破船
9(8)	74	10月14日	八幡町小山清兵衛 女房殺人未遂
9(8)	74	10月20日	水戸中納言齊脩卿御逝去 (哀公)
9(8)	74	10月21日	東出来町カヤバ出火
9(8)	75	11月初	まむし池入水
9(8)	75	11月21日	毎日正九ッ時大原問答
9(8)	75		本山寮主辨輪上人説法有之、西山善恵国師忌
9(8)	75	11月6日	於日置敬円寺スワ法融寺法話
9(8)	75	11月3日	枇杷島大ばし主人、忤殺害、自害
9(8)	75	11月24日	西水主町之婆々堀川にて入水
9(8)	75	11月29日	夜四時頃光り物通る
9(8)	75	12月3日	夜強風雨、翌日置大道寺別荘へ馬の耳落る
9(8)	75	12月27日	平田院門前町家出火、五十軒計焼失
9(8)	75	12月晦日	北鷹匠町御書院番小山田某より出火、狂歌
9(8)	76	12月8日	於大坂野口礫の者、切支丹の党頭

巻十(9) 文政13年・天保元年 (1830)

文政十三 天保改元 庚寅

10(9)	1	1月15日	熱田射的初る、前中納言様御覽
10(9)	1	1月14日	夜、前津幸益長屋館屋町天王より北より出火
10(9)	1		熱田大薬師医王院大山し通天法印事
10(9)	1		二代目市川鰻十郎、去年十一月二十四日大坂にて病死
10(9)	1		此節、切支丹余類きびしく僉議、公義舐
10(9)	2		瀬田甚内稽古初、門人鉄炮はじけ指落ち、半死半生
10(9)	2	3月24日	継鹿尾山八葉蓮台寺千手観音開帳
10(9)	2	3月2日	荒古村観音寺本尊観音開帳
10(9)	2	3月24日	豊場村常安寺本尊釈迦仏開帳
10(9)	2	2月13日	龍泉寺聖観音開帳
10(9)	2	3月13日	木ヶ崎長母寺観世音開帳
10(9)	2	2月21日	栄国寺にて嵯峨釈尊写し善光寺一光三尊仏開帳
10(9)	2	3月23日	荒子村蓮位寺にて三河三ヶ寺野寺本証寺宝物弘通
10(9)	2		児玉村観音寺観音開帳、清寿院住吉踊引越興行
10(9)	2	3月	沢妙安寺観音開帳
10(9)	2	3月	萱屋町観音開帳
10(9)	2	3月	白山村円福寺開帳
10(9)	3	3月	東杉村心入寺久国寺開帳
10(9)	3	3月	小幡村長慶寺開帳
10(9)	3	閏月4日	京東本願寺作事小屋焼失
10(9)	3		勢州津大火、本願寺運送材木焼
10(9)	3		江戸柳たる
10(9)	3	閏3月	伊勢おかげ参り流行 (戯作書軽口)
10(9)	9	閏月21日	於土器野出切
10(9)	9	3月21日	於江戸吹上十三間御門相撲上覧、勝負一覽
10(9)	11	4月22日	町方与力中嶋三郎右衛門言上書 (遊女死骸沐浴場にて蘇生)
10(9)	12		今年京都不如法寺御糺書付写 (清僧之身分にて不律不如法不埒)
10(9)	18	3月	御書物奉公天文方高橋作左衛門国禁を冒し測量図等贈渡、死罪被仰付写
10(9)	28	4月	鳴海辺にて三度飛脚宰領殺害
10(9)	29		御祭礼御覽
10(9)	29		長者町車すべて新規仕替
10(9)	29	5月9日	庄内川六合八勺、木曾川・天白川五合、佐屋川六合、熱田竜天上いたす
10(9)	29	5月11日	馬の塔御透見有
10(9)	30		公義御茶壺附の帯刀輕輩同志口論
10(9)	30	5月21日	中小路松平又兵衛屋敷にて奥平勘三郎の支配人諏訪吉衛門忤殺死二十一才
10(9)	30	6月8日	中下虎薬師開帳
10(9)	30	6月1日	萱屋町観音開帳
10(9)	30		間宮外記殿奥様の附人女中自害
10(9)	30	7月17日	枇杷島出水九合二勺、名古屋巾下上宿出水
10(9)	30	7月2日	京都大地震
10(9)	33	7月29日	山田河原合図火、中山門弟
10(9)	33	8月29日	安井河原御松明方揚火
10(9)	33		守鋼寺表門住吉町筋北向から白林寺筋仕替
10(9)	33	9月2日	御ためし者二人有
10(9)	33	同日	大雷
10(9)	33	9月晦日	伝馬町圓角岸部屋風呂場から出火

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
10(9)	33	9月	熱田太神宮へおかげ参り流行
10(9)	33	9月26日	常心流馬術土屋理左衛門稽古場師範 中根清五郎へ被仰付
10(9)	33	10月14日	納屋内海屋忠蔵 三千町除地賜る(帯刀内田忠蔵と名乗る)
10(9)	34	7月2日	京都地震之一件
10(9)	46	8月1日	石塔磨(下総国関宿)尾藩も冬に至て石塔磨風聞甚し
10(9)	47	8月14日	西丸大手、秋元但馬守家来御番中間瀬市右衛門刀傷
10(9)	56		東海道原宿之馬士次郎太夫金子を拾ひ所役人へ申出、その節詩歌述懐
10(9)	57		今年の狂歌、江戸より来る
10(9)	57	春	江戸品川南大森に化物茶屋出来、其料理甚異体
10(9)	58		京都地震、詠歌二首
10(9)	58		戯文(風怪状)江戸より来る(鹿嶋常陸神)

巻十一(10) 天保2年(1831)

天保二辛卯

11(10)	1	1月10日	夜五時中地震、十三日昼九半時小地震
11(10)	1		此節江戸浜御殿にて謡われしうた
11(10)	1		前薩州侯栄翁君、三位被仰付
11(10)	1		本所伊藤主膳別荘において隠鉄炮鶴打所領収て御預
11(10)	1	1月	秋葉山麓にて石塔磨
11(10)	1	2月17日	濃州武儀郡津保谷高沢大日山日龍峯寺本尊千手観音開帳
11(10)	1	2月21日	木ヶ崎長母寺本尊観世音并御同作海西郡東条村遍照院弘法大師弘通、津島天王社僧明星院宝物弘通
11(10)	2	1月	東来簡(寄合伊藤主膳御詮義)
11(10)	3	2月20日	新馬場にて牛死、三月十四日枇杷島橋下にて信州の者死
11(10)	3	2月23日	下飯田村出火、二十七日竹ヶ鼻大火
11(10)	3		志州島羽領浪切嶋、順風待ちの御城米船、米を盗む
11(10)	3	3月25日	海東郡安松村福泉時にて二条殿御祈願所
11(10)	3		信州二十四輩枕石山願法寺役者大祖聖人木像其外宝物弘通
11(10)	3	5月1日	上宿五平蔵與西寺開帳、水からくり、チョンガレ等有繁昌
11(10)	3	6月15日	日置教円寺開帳
11(10)	4	4月23日	濃州笠松辺大荒風
11(10)	8	4月	越中富山大火一件
11(10)	10		深田香実先生天保会記抜萃
11(10)	10		(異国船一艘渡来上陸一松前)
11(10)	18	3月3日	於栄国寺、白山権現本地仏聖観音并靈宝弘通
11(10)	18	4月23日	於笠寺、龍天上、大騒動、岐阜田代円城寺等騒動
11(10)	18	4月	久屋下一色某隠居切腹
11(10)	18	3月	成瀬豊前守殿五百石加増地拝領
11(10)	18	4月26日	長畔にて縊死者有
11(10)	18	5月初	伝馬町筋みその東、山屋清助自殺奇談
11(10)	18	5月14日	小牧町より出火
11(10)	18	6月末	日置柵屋別家立田屋店之者溺死
11(10)	18	6月末	猟師三人殺害
11(10)	18	5月19日	江戸本所一ツ目弁天にて平曲会有
11(10)	19	5月20日	市谷御玄関前落雷
11(10)	19	7月18日	日置柵屋裏中道七軒焼失他
11(10)	19		同頃七間町井戸車につられ込子供死
11(10)	19	7月20日	前津火事、実は鳴海宿
11(10)	19	8月	米野村にて子供を臼の中へ落し春殺す
11(10)	19	8月15日	南寺町清安寺にて知多郡平嶋村長益像、宝国寺什宝弘通
11(10)	19		栄国寺にて当麻中将姫曼陀羅縁起会有
11(10)	19	8月21日	火あぶり一人有
11(10)	20	7月17日	豆州御代官江川太郎左衛門手代柏木林之助乱心刃傷、自殺
11(10)	21	8月23日	於熱田海上中山大三郎門弟合武三嶋流船軍火述試合凶火等有
11(10)	25	同	於光音寺河原、御松明方揚火延引
11(10)	28	9月15日	於甚目寺開山堂、信州元善光寺一体分身如来其外宝物弘通
11(10)	28	10月19日	右(上)開帳巾下虎薬師へ引越開帳
11(10)	28	10月2日	於清須本成寺寂光山勝鬘寺善光寺一体分身如来柳堂涙流弥陀其外宝物弘通
11(10)	28	9月	鷹司関白様御息女有君様西丸へ御入興、木曾路通行調べ他
11(10)	29	11月22日	於栄国寺信州伊那郡座光寺如来権現之地元善光寺并臼之御座開帳
11(10)	29	11月頃	東懸所(東掛所)羽城同行大いにモメ、訴訟
11(10)	29	12月20日	湯本兵右衛門(小十人組)正金三十両札引替請取、正金引たくり、手疵為負逃亡
11(10)	30		酌女芸妓体之儀不相成旨、十三人閉門被申付候
11(10)	30	11月21日	於市谷御能御慰有、御能組
11(10)	31	12月1日	斉温卿被為任中納言
11(10)	32	6月2日	織田信長公二百五十年遠忌に付尾州総見寺にて法会
11(10)	35	10月29日	御城帳之写

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
11(10)	35		松前志摩守名代池田隼人
11(10)	36	11月2日	御用番水野出羽守へ申上候書付
11(10)	37	8月	三州宝飯郡小泉村百姓万平お目見被仰付 (二百三十才) 白髪献上
巻十二(11)			
		天保3年 (1832)	
天保三壬辰年			
12(11)	1	1月2日	夜八半時、法華寺町大法寺三光寺堂より出火
12(11)	1	2月上	石燈磨、東寺町就梅院、堀川聖運寺、円頓寺
12(11)	1	1月16日	三丸手廻り三百人程清須へ喧嘩に出かける
12(11)	1	1月11日	熱田御神事前中納言様御透見
12(11)	1	2月15日	於榮国寺、知多郡木田観福寺十一面観音并横須賀谷虫供養阿蘭陀如来開帳
12(11)	1	2月28日	於大日山日龍峯寺、濃州武儀郡津保谷高沢本尊千手観音開帳
12(11)	1	3月12日	於西光院、永観音禅林寺願本尊阿弥陀併靈宝開帳、二十五日大施餓鬼
12(11)	2	3月3日	於木ヶ崎崎長母寺、守山見性寺本尊惣心僧都作薬師如来開帳
12(11)	2	2月	さし入東三昧地藏堂尼僧方へ吉利支丹の僧来、怪異の事ありし風説、虚説
12(11)	2	2月15日	丸米野村安養寺隠居縊死
12(11)	2		守綱寺表門白林寺筋へ建、其両側新規に仮屋建
12(11)	2	1月27日	役者中村十蔵尾州へ来る筈の処、勢州八峯坂にて落雷死、六月大須に碑建立
12(11)	2		坂東三津五郎秀佳五十七才、旧十二月二十六日病死、瀬川菊之丞路考三十一才 一月六日病死、兩人江戸にて有名
12(11)	2	2月29日	大辻風
12(11)	2		紀州前大納言様 (治宝卿) 被任正二位、清溪院様 (有徳院様父) 贈従一位、水戸西山公贈従二位大納言
12(11)	3	3月21日	塚田多門先生 (明倫堂督学) 病死 (大峯)、大光院に葬る
12(11)	3		東本願寺門徒騒気一件 (懸りの役人着座の図)
12(11)	18	3月晦日	夜法華寺町本住寺弟子圭山二十二才切腹
12(11)	18		大みよ新田林蔵伴仙之助、去年勢州おかげ参りして西国の女と言かわす
12(11)	18	3月23日	公方様市谷御殿へ御立寄
12(11)	36	4月7日	石谷又十郎惣領石谷又三郎、於御厩唯一人数乗、百四十鞍
12(11)	36	4月2日	千代村の者乱心、我女房を切殺
12(11)	36	4月7日	北町屋村一向宗の僧、庄屋を切殺、自殺
12(11)	36	4月6日	於市谷御能御有 (祝被任中納言公方様立寄)
12(11)	37	4月4日	於植田村御林逐狩
12(11)	37	4月10日	高針村寺釣鐘鑄
12(11)	37	4月5日	善光寺開帳、参詣多し
12(11)	37	5月	熱田馬の塔
12(11)	37	5月18日	俄馬、十二月見立大勢
12(11)	37	6月4日	上島裏芝居小屋景色大つくり物有
12(11)	37	5月21日	於九十軒町円明寺、常州宍戸外森山唯心 (信) 寺祖師聖人木像其外靈宝弘通
12(11)	37	6月2日	禅寺町下御先手組原鉄蔵妻鉄蔵を殺
12(11)	38	6月4日	熱田大山浜端、伊勢伝舞台、狂言
12(11)	38		大坂鳴野木村長門守石碑参詣多し
12(11)	38		江戸元浜町曲瀨殿屋敷へ夜盗 (鼠小僧次郎吉の事) (盗取金一覽)
12(11)	40	6月	霖雨、天王祭延引
12(11)	40	5月	津嶋へおかげ参り流行
12(11)	43	6月	十四、五才の小僧、妄法
12(11)	43	6月22日	茶屋新田一番割にて市体之事
12(11)	43		太田支配、付知川上加子母三ヶ村の山に竹の実生
12(11)	43	6月26日	日置はたご町いさばやの妻流死
12(11)	43	7月12日	夜七時、平尾村出火
12(11)	43	7月10日	御勘定所添物書、安井清五郎十七才と菊池喜蔵内方三十六才心中
12(11)	43	7月16日	桑名町かさり屋周助、伯母と口論疵為負大騒動
12(11)	44		野暮台之詩
12(11)	45	6月18日	早魃水不足
12(11)	45	6月21日	於浅井董太郎宅、薬品会有
12(11)	45	7月下	橘町延広寺境内榎朽中にウワバミ
12(11)	45	8月朔比	乞食川流有
12(11)	45		熱田せんべい売、放し鳥売
12(11)	45		いなつまおこし売、おふく飴
12(11)	46	8月4日	夜六寺頃より大雨、大雷、落雷二つ
12(11)	46		陰陽師田辺志津摩 (被召捕遠嶋) 御仕置
12(11)	47	8月6日	古井村新田火事
12(11)	47	8月20日	岡崎大火
12(11)	47	8月10日	建中寺大基上人入院式
12(11)	47	8月10日	夕七時より中雷、大風雨、大松倒れる

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
12(11)	47	8月15日	八幡山(御器所)にて角力
12(11)	47	7月28日	於矢田河原、中山揚火
12(11)	47	8月28日	於光音寺河原、御松明方揚火
12(11)	47	8月27日	於大須本堂北、勢州松坂善福寺什物開帳
12(11)	48	9月29日	於新御殿、前中納言様御初老御祝御難番組
12(11)	49	9月	熱田大宮神楽殿に魚之棚連中料理屋中より滅金大画馬上る
12(11)	49	10月5日	矢田村火事有
12(11)	49	10月7日	伏見町四丁目火事ならず
12(11)	49	10月25日	朝四時、瀧川家老勝野安兵衛、同家足輕天神弥助刃傷
12(11)	49	10月26日	志水八王子南二軒焼失
12(11)	49	10月24日	通用式朱金新規吹立
12(11)	49	8月24日	久屋町一丁目全泉庵、金比羅へ我指を切奉納
12(11)	50	11月4日	琉球王代替、規使来聘、名古屋通行(来聘官職姓名一覧)
12(11)	54	閏11月晦日	本重町東中道より出火
12(11)	54		長崎より来簡(唐通辞平野繁十郎より、清国一揆)
12(11)	55		天保二卯冬御役人評判(狂歌)
12(11)	58		今様流行物語
12(11)	62		越中国新川郡若栗村百姓難病、上州高崎連雀町外科千木良昌暫療治
12(11)	64		上総国山辺郡東金町喜多村甚左衛門倉中蟻堆堂奇談
12(11)	67		西山公贈位官の宣命

巻十三(12) 天保4年(1833)～天保5年(1834)

天保四癸巳年 同五甲午年

13(12)	1	1月	東本願寺門主関東下向、懸所立寄一件
13(12)	6	2月19日	於植田福泉寺、常州宋戸外森山唯信寺祖師御真影開帳
13(12)	6	2月17日	知多郡岡田慈雲寺本尊観音開帳
13(12)	6	2月18日	於阿弥陀寺控、春日井郡西堀江観音山十一面観音開帳(堀江山長谷院)
13(12)	6	2月28日	於洞泉寺(古渡村)、恵心一刀三礼仏本尊千手観音開帳
13(12)	6	2月29日	伝法灌頂執行
13(12)	6	3月1日	於春日井郡守山宝勝寺、栄国寺什宝信州善光寺一光三尊仏并常燈明宝物等開帳
13(12)	6	1月20日	松平周防守殿領分百姓女房三つ子出産
13(12)	6		松平伊豆守殿天文者宮内考、土星奇談
13(12)	7	4月9日	大地震
13(12)	7	4月6日	本願寺門主太田泊り十一日迄逗留
13(12)	7		大須山門外に通札、倫旨弘法大師千年忌
13(12)	8	4月18日頃	若宮門番、夢想談
13(12)	9		筒井伊賀守懸り四谷伝馬町柳蔵似せ銀拵
13(12)	10		伏見町三丁目大工米蔵の子僧の正夢
13(12)	10	5月	光円寺坊主幟切
13(12)	10	5月6日	武平町下にて小笠原慶次郎百姓たたき殺
13(12)	10	5月20日	於大須、碁打身分になり祝言、伊東峰三郎、伊藤松次郎、加藤隆次郎、江戸太田雄蔵、大垣藤田半兵衛出席
13(12)	10	5月20日	浅井董太郎薬品会
13(12)	10	5月18日	馬の塔儉約破り過料
13(12)	11	5月28日	於若宮、太田雄蔵碁会有
13(12)	11	6月	熱田伝馬町錢屋の息子山伏祈祷により大病平癒奇談
13(12)	11		遠州味方ヶ原敵討
13(12)	12	6月11日	小田井祭御覧の筈、延引
13(12)	12	6月15日	片端車祭信楽相濟
13(12)	12	6月16日	雨天、若宮祭延引
13(12)	12		江戸神田手習師匠お柳、内外弟子千人
13(12)	12		水野出羽守殿久々引籠
13(12)	12		毛利徳太郎殿妾寵愛争い
13(12)	13	4月16日	日光山御名代高家由良信濃守奇談
13(12)	13	6月1日	味間村庄助、兩人殺し立退
13(12)	13	6月晦日	幡野如山殿逼塞謀判
13(12)	13	6月22日	御先手物頭高木鉄二郎御役儀御免
13(12)	14	7月12日	昼、伊勢町四丁目火事、十四日中杉普光寺裏四軒焼失
13(12)	14	7月15日	四時過大夕立、茶屋長與玄関前落雷
13(12)	14	7月4日	熱田又兵衛新田に海韃(獺)
13(12)	14	7月21日	於極楽寺、太秦広隆寺聖徳太子并靈宝開帳、十三日迄日のべ
13(12)	14	7月26日	於新御殿、御使番兼松七之丞刀紛失
13(12)	14	8月1日	東国大風
13(12)	14	8月4日	夕七時、御手木町出火
13(12)	15	8月7日	円通寺風呂場火事、火事ではなし
13(12)	15	8月10日	二十三日比まで雨降続
13(12)	15	8月	御領分中こんや入組
13(12)	15	8月28日	於光音寺河原、揚火

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
13(12)	15	9月5日	於清寿院前、瀧川彦次郎殿中小性浅野常治、平野鹿三郎を切殺、自殺
13(12)	15	9月	評定所はり札の説
13(12)	15		米高値、大家施し
13(12)	15	8月中	米相場小売七合五勺より七合
13(12)	15	9月10日	清須之内下日下部村心中
13(12)	16		三井村帝釈天はやり一件
13(12)	16	9月24日	法華寺町下心中
13(12)	16	9月27日	総見寺和尚葬式
13(12)	16	8月5日	摂州兵庫高田屋嘉平關所之次第改
13(12)	17	10月25日	大地震、二十六日小地震
13(12)	17		諸国飢饉新庄の戸沢其外願
13(12)	17	11月	河原町心中
13(12)	17	12月23日	於土器野、はり付
13(12)	17		同日、瀧川彦次郎足輕天神弥助牢にて打首
13(12)	18		沢庵東海寺に住す時、家光公お立寄御休
13(12)	18		三州豊川奇瑞孝子孝女の福幸
13(12)	20		朝鮮王城焼失一件
13(12)	24	天保5年	天保五甲午年
13(12)	24	1月17日	古渡米沢屋横町一軒焼失
13(12)	24	2月1日	西在火事
13(12)	24	2月7日	大風、江戸出火
13(12)	24	2月13日	大風雨、雷鳴
13(12)	24	3月	伝馬橋かけ替
13(12)	24	3月2日	於蜂須賀蓮花寺、弘法大師千年忌
13(12)	24	3月3日	於木ヶ崎長母寺、本尊觀世音地藏開帳
13(12)	24	3月2日	馬嶋明眼院薬師開帳
13(12)	24	2月28日	於長の万徳寺、弘法大師千年忌曼陀羅供
13(12)	24	3月3日	於七寺、弘法大師千年忌
13(12)	24	3月15日	大須大乘法華会宝物弘通
13(12)	24	3月17日	夷町裏七面横丁火事
13(12)	24	2月	甚目寺西金岩殺人
13(12)	25	3月20日	日置観福寺、大師千年忌音楽法会
13(12)	25	3月26日	紀州御女中自殺未遂
13(12)	25	3月17日	三沢喜右衛門僕酒乱縊死
13(12)	25		岐阜、熊胆盗
13(12)	25	4月17日	於御園御門、猩々車揖取唐人押死
13(12)	25	24日	楽田火事
13(12)	25	3月	熱田廿五町橋へ大灯明上る
13(12)	25	旧冬	於大石河、杉山作左衛門を切りし者永牟
13(12)	26	6月1日	浅井董太郎薬品会
13(12)	26	6月3日	中地震、同日茶屋町美の辰はゞ自害
13(12)	26	6月7日	かちや町下尾崎茂右衛門惣領、妾の首を落す
13(12)	26	5月18日	渡辺半蔵殿、天狗見へると云
13(12)	26	6月23日	塩町はりま屋状さし火うつる
13(12)	26	6月24日	東御城代組某の蔵へ八人盗賊入
13(12)	26	6月29日	吉田宗三郎乳母上がりの女とへぎ作り色事顛末
13(12)	27	6月28日	広瀬七左衛門殿、六月十日より新御殿御用不及相勤、新御殿江被仰出
	27	7月中	栄国寺まじない婆厄あり
13(12)	27	7月21日	御ためし物有
13(12)	27	7月11日	大坂大火一件
13(12)	28	7月27日	大和屋小兵衛、料理人一枚にて井へ落る
13(12)	28	8月6日	熱田馬の事
13(12)	28	8月14日	於古井光専寺、親鸞聖人石枕木像其外靈宝等開帳
13(12)	28	9月2日	桂村広濟寺和尚殺害
13(12)	28	9月8日	日比津村定徳寺隠居上人見延山住職
13(12)	28	9月24日	七間町火事
13(12)	28	10月24日	石切町十王堂前より出火
13(12)	28	11月9日	杉の丁筋伊勢町呉服町間火事
13(12)	29		江戸より書簡写(水戸様御国色々天災火災、朝鮮国王城失火、一月二十四日付)
13(12)	31	2月7日	江戸大火
13(12)	32	春	薩摩家中十四歳童、大鷲につかみさられ出羽最上に
13(12)	33		江戸大火をよめる狂歌
13(12)	33		江戸より出翰写(三月十四日付、種々珍話、狂歌)
13(12)	36		江戸市ヶ谷より或人へ書簡写(四月四日付、松平筑前守殿、松平右近将監殿打合、騒動)
13(12)	38		狂歌一紙(江戸より書状の中)
13(12)	39	3月17日	七面の裏(橋町妙善寺)小家、火事、匿名人五両施し
13(12)	40	5月18日	御手当請取被成方々

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
13(12)	41		江戸より書簡の写、夏
13(12)	41		肥州天草郡百姓、永代勸献上、武州下奈良村百姓千両づつ五年間献上
13(12)	42		豊後国非人辞世
13(12)	42	4月25日	大久保加賀守殿に水野出羽守殿より届書、駿州富士郡天間村大風雨
13(12)	43	5月	松平周防殿に御代官柴田善之丞より届出、甲州都留郡大風雨
13(12)	45		江戸御府内寺院日蓮宗改天台
13(12)	45	6月23日	大塔宮護良親王五百年忌辰詩歌勸進(天保会記に収録)
13(12)	51	2月	酒井雅楽頭より公辺への届書、姫路藩士江戸にて復讐(敵討)
13(12)	58		浜御庭拝見并釣魚御覧、林祭酒詩
13(12)	60		江戸より書状写(九月二十四日付、法花宗感応寺、高田に建立)
13(12)	61	11月	齊朝公従二位大納言
13(12)	62		結城竿金堀出し
13(12)	62		付録(裏表紙に綴じ込み、半横判帳)
13(12)	62	3月27日	発足関東御帰路(東本願寺御門主へ疑念同行写)

巻十四(13) 天保6年(1835)

天保六乙未

14(13)	1	1月1日	晴天
14(13)	1	2月初	矢場、密夫
14(13)	1	2月11日	俄風にて三人水死
14(13)	1	2月23日	堅代官町月ヶ瀬善左衛門屋敷より出火
14(13)	1	2月16日	尾崎又六の草履取侍殺害、殺者不明
14(13)	1		御儉約ユルミ、此節の狂歌
14(13)	1	2月	桜之町、女の切腹
14(13)	2	3月18日	於一行院、水谷助六追善古物会
14(13)	2	2月17日	於七寺、小松寺菅丞相御作観音開帳
14(13)	2	3月6日	御厄明御触
14(13)	2	3月11日	東都坂町粕屋常齋より出火
14(13)	2	3月13日	東海道掛川駅七分通焼失
14(13)	2	3月24日	紀州様御上屋敷不残御自火焼失
14(13)	2	4月5日	巾下隅田町にて花角力興行
14(13)	2	4月18日	桶屋町一ム寺教授寺火事
14(13)	2	4月19日	橘町子供芝居にて刃傷大騒動
14(13)	3	4月23日	於玉屋町理相寺、宝物弘通
14(13)	3	4月13日	笠松一揆
14(13)	3	4月27日	東枇杷島たばこ屋より出火
14(13)	3	5月6日	玄海火事
14(13)	3	6月6日	大雨水入六合五勺
14(13)	3	6月26日	大地震
14(13)	3	7月	江戸大雪
14(13)	4	7月	江戸市谷、虚無僧の形にて空を行きたるを見申し候風説
14(13)	4	1月26日	新吉原角町より出火附吉原祝融年譜
14(13)	5	1月28日	桜の木の下にて通用金子三十両堀当
14(13)	6		堀田撰津守正敦朝臣致仕祝歌
14(13)	9	3月	公義御金蔵盗賊御堀に落死
14(13)	10	1月27日	奇型児出産
14(13)	10	4月	高須入水、笠松一揆委細
14(13)	18	4月20日	信楽一揆
14(13)	18		水戸様御領分沖 異国船
14(13)	18	7月9日	大野木村竜天上
14(13)	20	7月	京都大風雨
14(13)	21		大陰盲人長悦見せ物
14(13)	22	7月	猩々の一件
14(13)	22		奥州洪水
14(13)	25	8月9日	於七ツ寺、伊東子元五段入碁会有
14(13)	25	8月18日	太田益衛御堀にて水死
14(13)	25	8月7日	豪潮律師葬式
14(13)	25	8月28日	於七ツ寺、七才児犬に噛れて死
14(13)	25	10月2日	小川町出火
14(13)	25	10月3日	小倉より大坂へ廻船難波
14(13)	25	8月上	仙台大地震
14(13)	26		公辺御能拝見、町人の珍説
14(13)	28		下総国、閻魔の塩漬
14(13)	30		感応寺大伽藍建立
14(13)	32	10月1日	尾州稻荷境内蛭子宮、広井八幡へ鎮座
14(13)	32	11月8日	大雷
14(13)	33		仙台家騒動、減禄、戯言
14(13)	46		大村丹後守届、長崎不法の唐人召捕

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
巻十五(14)		天保7年 (1836)	
天保七丙申			
15(14)	1	1月11日	御連歌
15(14)	2	1月19日	枇杷島橋詰にて四才児車に曳れ死
15(14)	2	1月10日	江戸より抜書、鈴木知清、自滅
15(14)	2	2月5日	初雷
15(14)	2		笠松御代官、於品川切腹
15(14)	2	2月	江戸大火
15(14)	2	2月6日	大薬師灌頂
15(14)	2	2月28日	大須五重塔上棟
15(14)	2	3月11日	大須塔供養曼陀羅供執行
15(14)	2	4月16日	安芸侯下向、名古屋通行
15(14)	3	3月晦	水戸地にて南部の物復讐 (敵討)
15(14)	7		向御屋敷風神群詣
15(14)	12		鍋島関札、川崎にて一橋御徒乱妨
15(14)	18		薩州献上金十万両時服御鞍鐙拝領
15(14)	19	5月6日	朝倉平八揚り屋へ入る
15(14)	19	5月15日	祢宜町新やしき火事
15(14)	19	6月24日	堀川川浚
15(14)	19	6月28日	前津小坂井近辺火事
15(14)	19	7月3日	大風雨
15(14)	19	7月2日	堀川浚に付木挽町だし、十日夷の趣向
15(14)	19	7月3日	八百町、唐人の趣向
15(14)	19	7月4日	押切、七夕のだし
15(14)	19	7月6日	江川町、七夕の趣向
15(14)	20	7月7日	日置辺毛降
15(14)	20	7月7日	夜、居酒屋に乙女の意趣、切含
15(14)	20	7月19日	熱田橋本屋喜市を祢宜町鏡屋某切る
15(14)	21	7月19日	永井飛騨守殿小指之者、熱田鈴木屋懸り人をころす
15(14)	21		春日社木一万五千本余枯れる
15(14)	21		京都大地僧徒御糾品
15(14)	21	8月1日	延場より川さらへ
15(14)	21	8月5日	長者町延場よりだし
15(14)	21	当春	御普請方役所前船番書出来
15(14)	21	8月13日	風雨烈し、被害大
15(14)	21	7月18日	江戸大風雨、市谷御屋敷被害
15(14)	22		西美濃天災之事
15(14)	23		加賀より之書状之写
15(14)	23	7月17日	江戸下谷御成道敵討
15(14)	24	7月	阿蘭陀人書上風説等
15(14)	26		五両判雛形
15(14)	26		津山中将、松平三河守内願書
15(14)	29	10月頃	四谷旗本屋敷にて珍事
15(14)	31		飢饉江戸御救小屋、狂詩、いろは歌
15(14)	36	8月23日	福君様御下向に付、成瀬主殿頭殿江戸表発、京都へ
15(14)	36	9月23日	大雨
15(14)	37	10月6日	福君様京都発向、十一日尾州御着、二十八日江戸市谷御着輿
15(14)	37	11月1日	於桜の町天神施し
15(14)	37	11月18日	地震
15(14)	37	12月27日	島田村、香取村、火事
15(14)	37		忠臣蔵九段め文句
15(14)	39	秋	長崎皓台寺黄泉和尚より来簡
15(14)	44		松平周防守殿并父隠居共御糺
15(14)	44	附	福君様御下向御道中御行列
15(14)	44		十月六日京都初、十月二十八日江戸着
巻十六(15)		天保8年 (1837)	
天保八丁酉			
16(15)	1	1月5日	町役所施之下米銭
16(15)	1	1月14日	古渡橋、材惣小家焼失
16(15)	1	1月19日	旧臘二十七日角田町ばば殺し召捕
16(15)	1	2月19日	大坂大火騒動別紙
16(15)	1	2月10日	上より三社 (熱田・津島・一宮) 江壺石奉納
16(15)	1	3月2日	松平主殿頭殿御届書 (嶋原地震)
16(15)	2	3月13日	甚目寺豊年祭り
16(15)	2	3月29日	御園町下長坂伝六郎屋しき附火
16(15)	2	3月18日	於万松寺、無縁仏施我鬼
16(15)	2	3月15日	清水町にて川口屋又兵衛妻密夫、亭主自殺
16(15)	2	4月朔	駿河町油屋の家を崩す

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
16(15)	2	当春	米兩二三斗余替
16(15)	2	5月8日	東懸所(東掛所)北御救小屋出来
16(15)	3	6月	雨すくなし、暑気甚強し
16(15)	3	6月24日	雷雨
16(15)	3	6月21日	嶋内定八粹岩次郎押切町八百屋娘と心中
16(15)	3	6月24日	落雷多し
16(15)	3	7月20日頃	岡替町土佐屋の蔵うなる
16(15)	3	当盆前	極上麦三斗一升五合より四升位になる
16(15)	4	6月	岩村少々騒動
16(15)	4	7月	能勢山に猪籠る
16(15)	4	8月5日	風雨強し、枇杷島川七合、矢田河原の御小屋流失
16(15)	4	8月14日	大風
16(15)	4	8月	白鳥山法持寺墓所雨風にて抜
16(15)	4	9月3日	宮駅にて芸州侯家中、熱田方御中間に手疵為負
16(15)	4	9月7日	祢宜丁出火
16(15)	4	9月6日	本町大手御番所盜賊入
16(15)	4	10月9日	大地震
16(15)	4		材惣江戸寺社奉行へ御呼出
16(15)	4	10月8日	石川伊織引かへ寺社屋敷拝領
16(15)	4	10月19日	江戸吉原焼失
16(15)	5	8月14日	尾州稀なる大風
16(15)	21		江戸朝倉三四郎貧乏神の奇談
16(15)	25	9月11日	近衛忠熙公御下向、市谷御立寄

巻十七(16) 天保9年(1838)

天保九戌戌之上 西丸炎上一件

17(16)	1		戊年春江戸評判記
17(16)	6	3月10日	西丸炎上、普請上納金委細、御普請出来、拝領物等

巻十八(17) 天保9年(1838)

天保九戌之下

18(17)	1	4月4日	麴町御屋敷御長屋出火烧失
18(17)	4	4月17日	日本橋辺大火
18(17)	6		西丸普請御用(尾張)木曾御献材
18(17)	8	4月16日	～四月十八日、大雨、木曾川通、付知川、出水、山小屋出火
18(17)	11	3月16日	西丸出火に付取調、御仕置等申渡
18(17)	14		尾州御城下人毎調達
18(17)	19	10月	水戸中納言齊昭卿市谷御招、御歌
18(17)	20	3月26日	西本願寺賑合
18(17)	20		寺社役所、石川伊織屋敷と取替
18(17)	20	某月	公儀御代替に付、順見御使番見へ候
18(17)	20	閏月	木材御用に付、公儀御勘定吟味役改御勘定等見へる
18(17)	20		狂歌等市中戯作言
18(17)	23		戊戌夢物語
18(17)	34		西丸御普請に付紀州六材御望
18(17)	34		江戸市谷奥御番、角田市左衛門説話
18(17)	36		春日井郡小牧原新田乞児亀吉実儀
18(17)	36		正金不融通、諸色直上、融通方御仕法
18(17)	38		戯作言
18(17)	40		天満屋某妻仙石左京娘の奇事
18(17)	43	10月	朝鮮人来聘之儀
18(17)	44	秋	長崎皓台寺黄泉和尚東武下向
18(17)	46		清商肥長御帆

巻十九(18) 天保10年(1839)

天保十己亥上

19(18)	1		水野、林御加増
19(18)	2	2月26日	荒川市之進、不覚ニ梶原道次郎殺害
19(18)	3	2月24日	江戸御小納戸頭取内藤安房守宅へ不容赦状(西国大名五名并大塩平八郎)
19(18)	6	3月	僖公御逝去
19(18)	7	5月8日	(源僖様御送葬御行列)
19(18)	11	4月	(懿公御引移)
19(18)	13		(事蹟略)
19(18)	29		御相続之儀(中納言様御家督御相続)

巻二十(19) 天保10年(1839)

天保十己亥下

20(19)	2		御大麥に付諷刺戯作言、狂歌、川柳、落し噺等
--------	---	--	-----------------------

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
20(19)	41		東武よりの書簡 (朝倉播磨守屋敷足軽の事、薩摩侯足軽の事)
20(19)	43	9月25日	市谷御能組
20(19)	45		浜野夫人審棺之事
20(19)	45	2月26日	小笠原佐渡守届出、肥前松浦郡、百姓一揆
20(19)	46		京都町中踊流行
20(19)	47	5月2日	樋口三位検死
20(19)	49		炎暑甚し
20(19)	50		寺西藤左衛門屋敷、小洞事
20(19)	50		無人島一件、封廻状、渡辺登、高野長英
20(19)	51		中御門殿不行跡御咎
20(19)	52		六、七月旱天
20(19)	54		織田近江守御糺、父隠居妾の事に係て
20(19)	57		俊恭院様御登
20(19)	58	9月17日	東照宮御神事、御祭礼執行
20(19)	61		格古要論、太極図説、碑帖のこと

巻二十一(20) 天保11年 (1840)

天保十一庚子

21(20)	1	元旦	正韶の歌、古詩歌、御製他
21(20)	3		庚子試筆 (便々居琵琶彦、二亭垂穂)
21(20)	5	2月4日	大納言齊荘卿 (江戸御筈駕) 着城、御詠
21(20)	6	1月11日	大納言齊荘卿御茶の湯御道具
21(20)	6		市谷歎楽庵御茶事
21(20)	10		深田正韶、芸能の事、元旦試筆
21(20)	12		齊荘公御着城、御在国中勤向等
21(20)	15	3月2日	御能御番組
21(20)	18	3月19日	西丸御座所向大奥向御普請御用相勤候付拝領物
21(20)	21	4月1日	江戸番町において福田新田百姓直訴状
21(20)	21		奉観上国繁花恭賦短韻
21(20)	22	4月21日	立坊御祝儀参内之列
21(20)	24	6月21日	於水戸敵討
21(20)	26		孝行者に御褒美
21(20)	28		府下日蓮宗法華寺現住日経、岡崎不蔵庵にて半切一行語
21(20)	29		千種有功卿作刀、歌
21(20)	30		於大日本国、豊年大角刀組合
21(20)	30		鈴木丹後守殿江被仰出書写
21(20)	31		八国替
21(20)	32		俊恭院様御逝去并御行状
21(20)	39		江州八幡御領成濃州にて御替地
21(20)	43		大坂堂嶋裏医師一斎、長寿目出度事
21(20)	44	9月28日	齊荘公千宗室を市谷へ召寄
21(20)	44		於何栄亭口切、千宗室献茶之湯、水戸の者江戸麻布にて敵討
21(20)	46		水戸様より昨夕水野越前守宅において公用人を以て御出被遊候御達書之写
21(20)	49		随園詩集中の一首抄載
21(20)	49		通志堂刊行の経解二部聖堂にて翻刻、官板
21(20)	50	10月29日	御城公義御沙汰書、加増、所替仰付
21(20)	50		入津唐船風説
21(20)	52		十句表 (尾州出来)
21(20)	53		江戸よりの書状写 (裏流茶事流行)
21(20)	54		齊荘公、千宗室帰京の際に贈歌
21(20)	55		俊恭院様御逝去に付大納言様御詠歌

巻二十二(21) 天保12年 (1841)

天保十二辛丑上

22(21)	1		光格天皇詔書
22(21)	2		文恭公御他界
22(21)	9		光格天皇御諡號上表
22(21)	14	4月16日	林水野美濃郡被貶減中理赤翁御影
22(21)	19		長崎奉行田口加賀守及吉田成等院御糺
22(21)	22		上意の趣并老中申渡之趣
22(21)	38	6月3日	太田備後守殿仍願御役御免真田信州御老中
22(21)	39	6月20日	六月廿日、柳亭種彦大野杉御預惣領改易
22(21)	39	7月3日	七月三日、川越庄内長岡三所替相止、庄内百姓騒立駕訴ニ及ぶ
22(21)	41		越前守殿種々御政事触及御主意の戯言
22(21)	55		感応寺御庵額中山法齊経寺智紀院を召捕
22(21)	58		天利法眼強謡之怪談
22(21)	60		江戸風説程々件々

巻二十三(22) 天保12年 (1841)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
天保十二辛丑下			
23(22)	4	10月8日	堺町葺屋丁芝居焼失
23(22)	4	10月10日	雑司谷感応寺破却の体
23(22)	6	10月	女犯僧御仕置
23(22)	10	10月5日	中山法華経寺御祈祷御朱印御引上
23(22)	11	10月5日	感応寺御朱印御引上
23(22)	15		十軒間屋運上御免諸色セリ売
23(22)	15		芝居聖天町へ引る
23(22)	16		吉原品川板橋千住新宿の外深川初遊所停止、根津ハ被居置
23(22)	21		浅草初楊弓茶店等女店停止
23(22)	27		江戸一新政種々
23(22)	27		尾州も節儉銭高騰札下落
23(22)	34		尾州芸妓独惣嫁独
23(22)	36		日置御やきの発起
23(22)	37		久米儀兵衛葬式一の鳥居中通行一件
23(22)	39	9月11日	御手木之者一之鳥居仮鳥居疵付之一件
23(22)	40		伊藤源八吉田藤兵衛海繰縄一件御糾
23(22)	41	9月13日	幡野弥五兵衛御糾隠居
23(22)	41	9月14日	平岩十郎左衛門減少
23(22)	42		本住寺一の鳥居一件御糾
巻二十四(23) 天保13年 (1842)			
天保十三壬寅上			
24(23)	1		落書 (大塩平八郎等)
24(23)	2		先巫相、五十路の祝、寄せられた歌
24(23)	14		乗蓮院様御逝去に付手向歌
24(23)	16		呉服屋他五十人心得申付
24(23)	18	3月19日	御触 (水商売之儀)
24(23)	19	4月9日	公辺申渡 (野菜等高値売買禁止)
24(23)	20	4月10日	申渡 (諸色直段之儀)
24(23)	20		来簡の写 (享保寛政度御触流し趣意益々嚴重)
24(23)	(3)	3月22日	悪事第一、戯作
24(23)	(3)	3月朔日	大目付松平豊前守より水野越前守申渡諸間江相触
24(23)	(4)	3月16日	於越前守宅同人申渡之大目付松平豊前守相候由 (賈金仕置)
24(23)	(6)		京都町触之写
24(23)	(22)		江戸町方江触書并申渡
巻二十五(24) 天保13年 (1842)			
天保十三壬寅中			
25(24)	1		菊池出羽守上書 (御儉約御触書)
25(24)	3	3月21日	御仕置、申渡之覚、筒井紀伊守御糾
25(24)	5	3月14日	江戸状写 (火事)
25(24)	7	3月22日	江戸状写 (火事)
25(24)	10	3月	七日、火事
25(24)	10		九日、市谷、火の玉出る
25(24)	11	3月13日	利姫様御宮参り、御登城、御行列
25(24)	13	3月22日	鎌倉往返刻限付
25(24)	14	3月22日	鎌倉遠足
25(24)	15	4月	江戸状写 (転役をよみたる歌)
25(24)	23		加州賊民御仕置次第
25(24)	26	4月8日	天保十三年春、御高目録、信楽御代官所より八幡懸大代官被仰渡
25(24)	28		むたい講
25(24)	28		落書
25(24)	28	2月5日	名古屋諸色下直諸株相止
25(24)	30		去年御駕訴いたし候福田新田の事、田地出入之事御裁許相済候
25(24)	30		町触
25(24)	31		諸職人手間賃銀之儀
25(24)	32		質屋之儀、湯風呂屋薬湯屋之儀、書林之儀、鋳師職他
25(24)	33	4月	諸色引下ヶ世話人
25(24)	34	5月	正金融通方銭相場、立入世話人
25(24)	36	5月	町触当時通用米切手
25(24)	37		大須観世音開帳
25(24)	37		八事山開帳
25(24)	37		みの谷汲開帳
25(24)	37	3月13日	前津番太切殺される、乞食の盜賊召捕
25(24)	37	3月7日	赤城明神出火
25(24)	38	3月6日	大納言様、深川加賀丁鈴木丹州抱屋敷に御成
25(24)	38	3月23日	利姫様御参宮相済而御登城
25(24)	39	6月22日	犬山火災

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
25(24)	40		市川蝦蔵へ御仕置の写
25(24)	41		東都髪結銭廿文、湯銭八文
25(24)	41	3月5日	橘町栄国寺、京都大仏殿の本尊大仏見せる
25(24)	42	8月21日	上皇町橋詰に懸茶屋出来、慶栄寺長徳寺開帳、見せ物種々
25(24)	42	7月25日	三人切
25(24)	42	4月2日	夜、出火(凶)
25(24)	43		書籍板行の事
25(24)	43		儉約触の事
25(24)	43		尾州町々涼床台の事
巻二十六(25) 天保13年(1842)			
天保十三壬寅下			
26(25)	1	5月	福嶋新八郎の事
26(25)	1	5月末	御旗本、弓(日置流)の師安富軍八、護持院原にて打首落挑灯持に深手 負わせ逃去
26(25)	1		御家人廿人程、堀之内へ押入金子奪取
26(25)	1		馬の値段
26(25)	2		四ッ谷御屋敷前植木屋金太郎茶道具売込、入牢
26(25)	2		鴻池初大坂富家、江戸へ引越の風聞
26(25)	2		田安御門外、九段植木屋跡、天文方也
26(25)	2	7月12日	宮町杉山屋、井戸へ飛入死
26(25)	2		玳瑁籠甲不相成
26(25)	2	9月上	正金六十五匁に銭六貫五百文と定り札改有
26(25)	2	8月	らんぐい渡りと申軽業、於清寿院
26(25)	3	12月4日出	江戸状之書技(風俗取締りの事)
26(25)	7	(7月24日)	勸修寺宮、幾佐宮御密行
26(25)	8	8月	尾州御代官触
26(25)	12	8月23日	(徳本の弟子)徳住上人遷化
26(25)	12		狂言
26(25)	13	8月	御救の御趣意
26(25)	14		江戸深川鈴木丹州別荘、大納言様御成あり
26(25)	14		建中寺にて大博奕の噂
26(25)	14		市谷奥向乱舞流行の由
26(25)	14	7月28日	両国際にて公方様、水馬御覧
26(25)	14		和州法隆寺開帳、江戸大群集
26(25)	14		摂州に尾州産物会所出来、西国と交易の目論見
26(25)	14		三ノ丸御霊屋、文恭公御拝殿御成に付建替
26(25)	14	9月	上皇橋懸替
26(25)	15	9月22日	熱田正遷宮
26(25)	15		壱万銀式朱金の外ハ停止
26(25)	15		洛東小松谷の僧、唄念仏
26(25)	15	9月	尾州、米七斗二升〇也
26(25)	15	4月20日	南都大仏殿にて大矢数
26(25)	15		伊藤治郎左衛門、関戸二郎、内田忠蔵、江戸へ御召下
26(25)	16	7月	芝方丈遷化
26(25)	16	9月25日	猿若丁芝居初
26(25)	16		上野方三ノ丸御霊屋御修復、尾州也
26(25)	16		江州三上村一揆
26(25)	18		御勘定奉行岡本近江守の詩
26(25)	18		伊勢新材御献木
26(25)	18		戸山追留の松植替
26(25)	18	10月	大師河原御遠馬、泉岳寺迄
26(25)	19		江州八幡より奉書(一揆の事)
26(25)	26	11月	四座申楽殿酷御談
26(25)	28	10月29日	届書三通(異国船渡来の節、警衛準備の事)
26(25)	35		長崎着船来、蘭人、唐国イギリス騒動風説言上書
26(25)	38	11月8日	琉球人着府
26(25)	38	11月11日	田安御門外にて犬追物
26(25)	38		浅草御蔵相場九斗六七升、尾州札相場七斗四五升
26(25)	38		清英戦の一件
26(25)	38	10月19日	琉球国御代替に付浦添王子登城(琉球人来聘)(饗応次第、献上物、詠 歌等)
26(25)	51	12月18日	堺町吹屋町芝居追立(風俗改)
26(25)	52	12月下	信州諏訪より書状、暖冬
26(25)	52		早落しの咄(…トかけて…ト解、心ハ…)
26(25)	54	8月	京都よりの書簡(京都不景気)
26(25)	55		江州大代官よりの書付(一揆の件)
26(25)	55	10月	改曆宣下
26(25)	57		長崎遊女紅毛より故郷へ

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
巻二十七(26) 天保14年 (1843)			
天保十四癸卯上			
27(26)	1		小石川、水戸様前、水茶屋出来
27(26)	1		長崎へ御目付、御勘定吟味役出立、異国御備に付
27(26)	1		公義触 (借地住居は不相成)
27(26)	2	1月	景樹門人、琉球浦添王子に贈る教書
27(26)	5	2月18日	天変之儀、奏聞の勘文 (陰陽寮)
27(26)	8		御勘定等来状 (高嶋四郎の事)
27(26)	8		長崎六人衆筆頭高嶋四郎召捕入牢
27(26)	8		丸山遊女手形不所持にて入牢
27(26)	8		高嶋四郎大夫之上書写
27(26)	16	3月9日	公方様戸山御屋敷に御成之節御供之衆和歌
27(26)	18		江戸童謡ニホカンと云事流行
27(26)	18		豆州下田海岸御備場所にて三百人水練
27(26)	18		尾州東本願寺懸所客殿勝手向一万両程の普請
27(26)	18	3月13日	尾州尊寿院隠居、元興寺入院式
27(26)	18		長州銅唐銅 (大筒鑄立) 払底、高直
27(26)	18	4月22日	正木三郎右衛門、明倫堂督学に
27(26)	18		上臈裏御小戸屋敷之内高木八郎左衛門殿家来の宅出来
27(26)	19		山村甚兵衛殿御家来御吟味之訳種々
27(26)	19		当年御祭礼
27(26)	19	3月15日	水戸様御国許御発駕御参府
27(26)	20		川越松平大和守、忍松平駿河守、相州房州海岸御備御用被仰付
27(26)	20		公義御系譜補訂清撰被仰付 (林、成島他)
27(26)	20		信州付知村山神新規御造園、吉見父子相越
27(26)	21	2月	尾州触 (穢多・非人の事)
27(26)	22	3月8日	神奈川へ御遠馬
27(26)	22	3月5日	堀田備中守屋敷家作被下
27(26)	23	3月18日	日光御行列調
27(26)	24		日光御参詣 (行列、次第、歌、能組、装束・・・)
27(26)	39		御触新規銭切手之図
27(26)	39	4月17日	水戸様御登城御対顔
27(26)	41	4月29日	水野越前守殿御渡書付写 (質素の家作のこと)
27(26)	43		孝子一右衛門伝、十三歳白井亀
27(26)	44		天門方渋谷川助左衛門よりの上書書付の写 (彗星の儀)
27(26)	45		(深田) 正韶先生の説
27(26)	46		御馬廻組梶原道次郎酒狂言狼藉之儀に付家名改絶
27(26)	48		天保十年四月西丸御焼失に付、木曾山木伐採の下命、山霊の崇あり
27(26)	48		天保十一年九月吉見相模守幸茂、石の鳥居を建て山霊祭る
27(26)	48		天保十四年四月吉見相模守父子地祭り、山霊の感応著し
27(26)	52		附地加子母三上の三村は甚幽僻寒村の地、孝子あり
27(26)	55		於市谷御殿奇特の御沙汰
27(26)	56	6月7日	上知一件御触
27(26)	57		水野越前守殿申渡覚 (直談の節、差図次第)
27(26)	58		越前家勝手向困窮
27(26)	59		紀州様御勝手御融通、藤堂家領分へ触流し、虚実不明
27(26)	60		藤堂侯先年唐津へ通行時、紀州領民との事次第
27(26)	60		高須義建君名古屋へ御出府、御登城
27(26)	62		大坂北江戸城、浄光寺境内、銀杏大樹、異形
巻二十八(27) 天保14年 (1843)			
天保十四癸卯中			
28(27)	1		(諸雑記)
28(27)	2	5月26日	御暇乞、御饗応
28(27)	2		尾州御領分川渡正金事
28(27)	2		摂津守様高須へ御暇
28(27)	3	5月28日	四ッ谷君御出立日程
28(27)	3		水戸殿妾腹出生
28(27)	4		諸大名御旗本困窮
28(27)	4	6月	大曾根酢屋裏の大松夜々うなる
28(27)	4		風呂屋女房密通
28(27)	5		下総国印場沼堀割 (附録あり)
28(27)	6	7月24日	於市谷釧姫様誕生
28(27)	6	7月27日	渡辺半蔵殿、山澄淡路守殿慎被仰出
28(27)	6	7月26日	茶屋町料理屋にて御納見習会田仙蔵と町方定廻り丹羽弥源太騒動
28(27)	8		落書、江戸はやり歌
28(27)	9	7月	大坂町人上金、幕政一新、節儉
28(27)	17	9月2日	岐阜御成御道筋、詠歌

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
28(27)	18	9月21日	東本願寺准門跡東行帰路、大法会
28(27)	21		岐阜御成節奥向の者詠歌
28(27)	22		肥後国御領分光物出る、怪異の凶
28(27)	23	9月7日	江戸大坂飛地領知之触
28(27)	24	9月	水野越前・堀田備中加判御免、阿部伊勢執事問部下総御免
28(27)	26	閏9月13日	御城泊并世間風説(越前守やしき石打)
28(27)	28	9月29日	水野越前守と問部下総守大論
28(27)	29		藩首、ハヤリウタ、川柳
28(27)	33	9月1日	岐阜御城(御道筋)細記
28(27)	47	10月1日	知多御成(御道筋)細記
28(27)	55	11月21日	犬山御成

巻二十九(28) 天保14年(1843)

天保十四癸卯下

29(28)	1	9月17日	廻文、町々惣入用懸高調(懸り物御世話触)
29(28)	15	10月1日	知多巡覽御発駕
29(28)	16	9月14日	成瀬隼人正出府
29(28)	16	閏9月13日	前津、御放鷹
29(28)	16	閏9月23日	大寄合より御目付迄乗馬御覽
29(28)	16		諸色直段高騰、正金錢を隠す
29(28)	16		伊藤次郎左衛門、水口屋、大丸屋、松前屋、十一屋
29(28)	19	11月3日	所司代牧野備前守老中被仰付他
29(28)	20	閏9月晦	江戸詰中高木八郎左衛門殿、加判御免列たるべき旨被仰出
29(28)	20	10月28日	於御屋形脇、騎射三十人
29(28)	20		真正翁、当世評(落書)
29(28)	22	9月25日	於吹上御庭上覽角力勝負附
29(28)	26	11月5日	於宥松軒、御茶湯(道具附)
29(28)	27	11月2日	御成奥御能
29(28)	29	11月21日	犬山御成
29(28)	30		和州紫苑山、御代官、羽倉外記祭文
29(28)	33	9月22日	於向御屋敷射術御覽
29(28)	35	閏9月23日	大寄合以下御目付以上乗馬御覽乗順毛附
29(28)	38	12月	金銀器類差出御触
29(28)	38	冬	本丸蔵より古金
29(28)	38	9月21日	土井大炊頭、朝鮮人来聘御用被仰付
29(28)	40	12月21日	奥入り御能
29(28)	41	12月28日	火事、大火類焼(地域)
29(28)	42	12月5日	於宝善亭、永井五郎左衛門献茶(道具附)
29(28)	42	12月5日	於宝善亭、成瀬内記献茶(道具附)
29(28)	43	12月13日	於宥松軒、鈴木頼母献茶(道具附)
29(28)	43	12月23日	於宝善亭、高橋河内守殿献茶(道具附)
29(28)	45		精宮様、公方様御養女になる、当年御下向
29(28)	45	11月4日	上毛高崎大火
29(28)	46	12月	堀大和守老中格、水野越前守差控御免
29(28)	47		東本願寺門主当春御紋付皆具拝領につき、近衛様より申込
29(28)	47	冬	御深井丸より古金
29(28)	47		仙台侯先年家中へ儉約申渡
29(28)	49		昨年未儉約之儀不相守

巻三十(29) 天保15年・弘化元年(1844)

天保十五 弘化改元 甲辰

30(29)	1		白林寺領奇特者賞(弥三八)
30(29)	3		万松寺領奇特者賞(太蔵)
30(29)	3		白燐寺領奇特者賞(長兵衛)
30(29)	4		演説書之趣
30(29)	6	1月21日	於宝善亭、成瀬隼人正拵献茶(道具附)
30(29)	6	1月23日	於宝善亭、千宗室献茶
30(29)	9	2月1日	関戸鉄太郎方出御、御道具附
30(29)	12		詠歌
30(29)	13		千鳥丸、御新艘
30(29)	13		御深井の大名、市谷へ
30(29)	14	1月22日	御納戸役懸り外沼文蔵縊死
30(29)	14		品川駅売女千八百七十人召捕
30(29)	14	1月20日	お久米之方御難産
30(29)	14	2月9日	津嶋御遠馬
30(29)	14		生駒成内記長屋建替
30(29)	14	2月25日	御発賀延
30(29)	15		大納言齊莊公、津嶋参詣の詠歌
30(29)	16		津嶋当神主の父長翁の奉れる目録、歌

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
30(29)	17	2月20日	広小路、消切手、古切手、漉直し
30(29)	17	3月7日	於宮浜、七里船に賊
30(29)	17	3月10日	美濃長良辺、善化僧勝負の事
30(29)	17	3月23日	広小路牢屋敷前さらし者之凶
30(29)	17		心中の取扱
30(29)	20		苗売
30(29)	21	4月9日	知多船大風にて宮沖にて破船
30(29)	21		竹に病つき悉く枯れる
30(29)	21		尾張名所凶会粹行
30(29)	21		七寺富突
30(29)	21	5月9日	東宮御元服、京都へ御使
30(29)	22	4月22日	水戸殿暫在国
30(29)	22	5月5日	大納言様西の丸へ御登城
30(29)	22		水戸様去ル二日御国許御発駕
30(29)	22	5月6日	大納言様被仰遣儀
30(29)	24		水戸中納言殿(斉昭卿)御慎、御隠居種々風説あり
30(29)	28	4月	於八幡、三輪良次郎下女の為に死す
30(29)	30	5月10日	江戸来状、御本丸炎上(川柳、因果経)
30(29)	47		井上周領上書
30(29)	50	5月27日	猿廻しの猿、侍に喰付く
30(29)	51	去11月4日	上州高崎出火
30(29)	52	6月初	三浦御崎大波
30(29)	52		市谷御屋敷にて金子貳百五両紛失
30(29)	52		辰六日堀大和守殿…
30(29)	52		御普請懸りは阿部伊勢守殿…
30(29)	52		三好好之木曾山檜材伐出之方御用に仰付
30(29)	53		芸州宮島大鳥居焼失の由
30(29)	53		大井川出水溺死者
30(29)	53	6月7日	江戸東南の方に虹の形なるもの顛れる、太白に似た星
30(29)	54		尾州御献上
30(29)	54		御本丸御絵大概
30(29)	56		紅葉山御文庫内貴重之品物
30(29)	56		市谷御日記所七月止
30(29)	57		日置橋詰みよし(神葎)大賑合
30(29)	60		田安より御養子、松平越前守(慶永)殿家政直書之写
30(29)	63		江戸よりある人へ書触之写、天保十五年四月二十五日付(新宿豊田屋殺人)
30(29)	65		京都より書簡之写
30(29)	66		三州吉田領高年者(無病長生)
30(29)	68	10月29日	紀州・勢州領分、雨風早損虫附、損失之覚
30(29)	69		水戸様謹慎御解
30(29)	70		江戸流行風俗
30(29)	70		市谷御広敷き中に利姫様御住居出来
30(29)	71		山村甚兵衛殿御仕置
30(29)	73		中西甚五兵衛殿叙爵
30(29)	75		詔
30(29)	77		江戸よりの奉書写(阿蘭陀船渡来)
30(29)	79		唐船渡来(風聞)

巻三十一(30) 弘化2年(1845)

弘化二乙巳

31(30)	1	1月24日	江戸権太原大火
31(30)	1		東都大火之記
31(30)	1	2月5日	野呂瀬庄左衛門出火
31(30)	11	2月28日	大樹公御本丸に御移徙
31(30)	11	2月晦日	下材木町、桜の町出火
31(30)	12		琵琶嶋橋、提桜植樹
31(30)	12		上島裏御屋敷建
31(30)	13	2月	水野越前守御役儀御免、鳥居甲斐守相良家御預
31(30)	13	3月	跡部能登守御小姓組番頭、遠山左門尉町奉行同役、松平和泉守老中仰付
31(30)	13		琉球へ異国軍船渡来
31(30)	14	3月13日	三月十三日
31(30)	14	3月21日	墨水御逍遙、御船は天地丸・麒麟丸
31(30)	挟込	3月27日	弘化二年三月二十七日、神田新橋辺より出火延焼
31(30)	15		戸山御庭
31(30)	15	3月27日	豊嶋丁より出火延焼
31(30)	16		銚丸様御養君被仰出(田安一位様末男)
31(30)	16		利姫様ハ清水様御養女に
31(30)	16	4月9日	御祝御能

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
31(30)	17		鳥居甲州之詩
31(30)	18	5月4日	御本丸御普請懸り拝領物
31(30)	23		尾州増印札
31(30)	24		佐枝將監殿合羽坂御役屋敷立派ニ長屋立替板囲落書、口合(地口)
31(30)	25	5月21日	枅方荷之一件
31(30)	26		公辺御内ニ被仰出候由、虚実不知
31(30)	26		斎荘公(僖公)御逝去、御辞世、御簾中様御歌、川柳
31(30)	34	7月11日	成瀬隼人正殿より竹腰兵部少輔殿御呼出
31(30)	35		当君江御兄越前慶永朝臣御書簡
31(30)	37	7月27日	江戸大風雨
31(30)	37	8月	浅草鳥越二万石之佐竹に群盗三~四十人忍込
31(30)	38		神田大明神御祭札番附
31(30)	41		御救小屋五カ所御建
31(30)	42	8月21日	水戸殿御領地門徒寺出家
31(30)	44		浜松・山形・館林三所替
31(30)	44		封廻状
31(30)	45	10月4日	阿部勢州侯内扉にはり札
31(30)	45		中嶋郡宮重村出生之女、網乗物にして上京の噂
31(30)	45	10月29日	戸山上田升五郎妹の忍男を斬殺
31(30)	45		江戸采女が原へ松平周防浪人の妻、老母看病の為夜鷹に
31(30)	46		紀州様白馬拝領
31(30)	46		山之辺兵庫頭隠居
31(30)	46	11月	公辺御鑄物師椎名日向二十両御下賜
31(30)	46	11月8日	公辺御日付、小出織部、朝鮮人来聘御用被御付
31(30)	46		慶藏卿御任官の次第
31(30)	47	11月	公義より申樂へ出精相勤候付御褒美
31(30)	49		鳥居甲斐守永御預、連座六人、後藤三右衛門死罪
31(30)	58		落し斬、伊勢おんど
31(30)	附録		銀札、公所印一件、呉茶乱談席、一名、市買物根元記

巻三十二(31) 弘化3年(1846)

弘化三丙午

32(31)	1	1月23日	昼、津島焼失家数八十軒程
32(31)	1	1月25日	昼、旗屋雲心寺出火、延焼
32(31)	1		紀州様御花馬拝領
32(31)	1	1月20日	定例禁庭舞御覧
32(31)	1	1月23日	定例御歌合、不豫に付延行
32(31)	1	1月24日	崩御、世上五日間普請鳴物停止
32(31)	1	2月13日	東宝御踐祚
32(31)	2		公所御印札(但、月迫の緘違)、諷刺、落首、見立番附、米札騒道中記
32(31)	19		水戸、山辺兵庫頭隠居
32(31)	19		睦宮御下向、田安江御縁組
32(31)	19		御天守鯨金着せ替
32(31)	19	1月15日	小石川大火(挟込あり)
32(31)	23		名君福井の土産
32(31)	24	3月11日	於橘町栄国寺、仏説曆法立世阿毘曇論日月行品開演(落首)
32(31)	25		当開帳之場所
32(31)	26		備後の国の海辺に毎夜…
32(31)	32		大行天皇之御事、御葬送乃尊号難諫(詳細)
32(31)	64		青楼之言葉
32(31)	64	6月	フランス船三艘、長崎表へ着船
32(31)	65	6月29日	御普請奉行野呂瀬考左衛門病死、葬善福院
32(31)	65		津田大隅守、平信任法号
32(31)	65		芭蕉堂蒼虹の句

巻三十三上(32) 弘化4年(1847)

弘化四丁未上

33上(32)	1		平岩瀬兵衛娘心中死兼自害
33上(32)	1		御用人格寺社奉行千村藤衛門美妾欠落、池鯉鮒にて捕ル
33上(32)	1		御城代某、子多く身上立たずして男茎を切るも不死
33上(32)	1		於東武太田備後入道束髪して登城
33上(32)	1		川流
33上(32)	2		薩州公正月御暇
33上(32)	2		彦根侯・会津侯・川越侯海手守仰付
33上(32)	2	4月10日	大風雨、大変
33上(32)	3	3月24日	地震三度、信州善光寺開帳に付参詣夥し、震災被害甚し
33上(32)	4		世上奢侈に随い銀を用いる事夥し、嚴禁公制、潰し銀にて分銅鑄造
33上(32)	5		御鉄砲張一統、熨斗目着用
33上(32)	5		御宮拝礼

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
33上(32)	5		年頭御礼并御規式
33上(32)	6		通矢矢数(江戸・京都)
33上(32)	7	2月29日	餅菓子渡世清兵衛・くめ夫婦病死別始末
33上(32)	8	4月25日	丹後国倭野村外三ヶ村変地先御届
33上(32)	10	4月	石清水臨時祭宣命の写
33上(32)	11		武家伝奏より所司代酒井若狭守に御達(海辺警固事)
33上(32)	12	5月4日	公方様筑山において炮術上覧、戸山御屋敷御通
33上(32)	12		井伊掃部頭武相海岸守人数調
33上(32)	16		彦根侯海手守二番手三番手人数大略
33上(32)	18		東武より出来狂詩
33上(32)	18		新吉原人別
33上(32)	19		薩州侯より御書簡写(二月九日、異国船六艘渡来、備方の事)
33上(32)	23	3月	町々御触、金銭融通方へ、会所附銭屋
33上(32)	24	3月7日	学習院御開筵(図)、勅、学則
33上(32)	26		弘化四年四月、石清水臨時祭宣命之写
33上(32)	27		四月二十一日卯之上刻より出火図(建中寺、車道)
33上(32)	27		四谷自証院ニ懿公御木像御安置御諡号
33上(32)	27		齋藏公御腹ハ閑院宮御家司木村主計頭女
33上(32)	28		中西九一郎(大坂御用三役)の事
33上(32)	29		江戸麹町七丁目、御石場改役格吉田恒十郎、山事御仕法
33上(32)	29	4月13日	竹腰兵部少輔殿・鈴木源正殿、急ニ上尾あり
33上(32)	29	4月26日	成瀬半太夫殿・渡辺監物殿御城代格被仰付、三奉行とも入替
33上(32)	29	5月12日	今尾侯、鈴木霜台、大坂丸御船見分
33上(32)	30	5月	於矢田河原、大筒役御備打、極秘、今尾侯見分
33上(32)	30	5月22日	今尾、霜台、関東帰り
33上(32)	30	6月4日	大坂丸乗試、此日大山祭試楽
33上(32)	30		熱田渡海船会所新規出来(図)
33上(32)	31		巾下宿柳町小普請林半助宅、雪隠脇の穴に三頭蛇遊ぶ
33上(32)	32		上有知支配下前野村、非公事の裁許(図)
33上(32)	33		維学心院様薨去、御葬送行列(細記)
33上(32)	45		相模国御備場固め之儀
33上(32)	49		御代替に付朝鮮信使来聘之儀
33上(32)	49		田安一位斉匡公御剃髮、三玄翁と号し奉る
33上(32)	50	9月7日	今出川北東、御即位に付紫宸殿御かざり高御座拝見(図)
33上(32)	52	10月4日	十月四日夜六時過築地御屋敷御門へ丹羽左京大夫家来大目付…無法者
33上(32)	53	11月16日	相模御備場新規出来栄見分并引渡御用罷越候に付被下
33上(32)	53		諸家屋敷貝太鼓音入稽古不苦
33上(32)	54		医業出精に付御目見被仰付、伊沢采女
33上(32)	55		地中江竿金埋候事
33上(32)	55	11月11日	御鹿狩之節御取調御用向取扱
33上(32)	57		阿部福山侯御直書之趣(家中暮方難渋貧困)
33上(32)	57		御扶助之御趣意
33上(32)	60		御即位之御式を摘要したる文
33上(32)	61		御即位之長歌
33上(32)	63		堂上并法師御詠
33上(32)	65		真筆写
33上(32)	66		江戸より来状
33上(32)	66		尾張志意宴、詩歌

巻三十三下(33) 弘化4年(1847)

弘化四丁未中 信州大地震

33下(33)	1		信州大名附
33下(33)	1		信州大地震(図)

巻三十四(34) 弘化4年(1847)

弘化四丁未下

34(34)	1		浜松高札之写
34(34)	2		紀州熊野異国船相見、海防手当
34(34)	4		遠州掛川辺へ異国船漂流
34(34)	7		浦賀へ異国船漂流
34(34)			(下田)
34(34)	21		(図)浦賀入津図、出帆之図
34(34)	21		亜米利加ハテトン船之図、亜墨利加船滞船之図、五大洲略図
34(34)	34		琉球国にイギリス国船、仏朗西国船渡来
34(34)	39		異国船再漂之風説諸書付
34(34)	39		三州渥美郡赤羽村沖に異国船相見
34(34)	46		紀州和歌山城天守落雷焼失
34(34)	48		弘化三年八月六日護持院原敵討
34(34)	48		板倉伊予守家来、江場牧右衛門

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
34(34)	48		松平隠岐守の家来、熊谷伝十郎
卷三十五(35) 弘化5年・嘉永元年 (1848)			
弘化五戊申 則嘉永元年			
35(35)	1		尾州御勝手不如意、増上米の初年
35(35)	3	2月22日	御老中青山下野守殿より出火、近隣焼失
35(35)	3	2月23日	大名小路、松平備前守より出火
35(35)	3	3月19日	紀伊大納言様帰国に付江戸表御発駕
35(35)	3		宝生大夫勸進能
35(35)	4	2月26日	阿部伊勢守居屋敷類焼
35(35)	5	3月15日	水戸領分百姓彦兵衛男子十五人持居養育、御褒美
35(35)	6	3月6日	広忠公三百回忌、於大樹御法事
35(35)	6		宝生大夫勸進能興行繁昌
35(35)	6		古渡黄金像 (奥村徳義)
35(35)	7		尾張志六十五巻清撰、深田正韶御褒美
35(35)	7		山田貞石妾、三ツ子出産
35(35)	8		改元に付落書、宋書引用
35(35)	8		小笠原与三郎家事大変
35(35)	10		義士百五十回泉岳寺開帳、四十七像新寄附供養 (図)
35(35)	12	4月18日	遠州味方原にて敵討
35(35)	13	4月3日	三厩遠沖へ異国船五艘
35(35)	16		蓮如三百五十国、於西本願寺法会大繁盛
35(35)	18		乍浦感事詩
35(35)	22		佐竹領山抜銀山
35(35)	24		藤堂国政御堂御鞍鎧
35(35)	24		山内土佐守病死
35(35)	24		西城松平右京大夫父刑部大輔病死
35(35)	25		羽州庄内日輪に輪二つも三つも懸り候
35(35)	25		当春紀公初而入部
35(35)	25		関戸鉄太郎日蓮宗帰依、池上本門寺に骨堂建立
35(35)	25		巾下忠孝堂開筵
35(35)	27	6月8日	田安一位斉匡卿御逝去
35(35)	27	6月11日	西条家祥公御簾中御逝去
35(35)	27	6月6日	老中別座松平伊勢守申渡
35(35)	28		大坂城御修復御普請御用被仰付
35(35)	28	7月10日	市谷火事
35(35)	29	7月21日	於戸山御屋敷首実検之式有之
35(35)	29		柳橋猿若町芸者十五人つつ濟、四谷新宿遊女繁昌
35(35)	29		市谷女中遥道所、大久保精林庵、西光庵、観音庵
35(35)	30		尾州相銀下落
35(35)	30		回向院にて嗟峨釈尊開帳、見世物
35(35)	31	1月17日	久屋町、市はじまる
35(35)	31	4月19日	若宮にて大川橋蔵、猫の所作事大評判
35(35)	31	5月18日	御天守震動
35(35)	31	3月末	俳諧并前句の点者、千里亭芝石頓死
35(35)	31	8月22日	快台病死八十七才、葬西蓮寺
35(35)	31	8月12日	熱田新堀真黒取候由
35(35)	33		大坂久宝町奇特小女
35(35)	34		市谷八幡前、四谷通、茶屋出来大賑合
35(35)	35	8月	蟹江の医師娘密通、殺害、入水
35(35)	35		御勝手方御勘定所評定所、長屋へ所替
35(35)	36	5月17日	本丸夜番、謎の音を聞く
35(35)	38		尾州船人漂海、異国船に被助
35(35)	38		桶狭間にて子供軍事遊び
35(35)	38		銀相場高騰
35(35)	39		仏具に金銀を仕ふ事増長箔に打つ (書簡、水野正信→奥村徳義、眠蚕→松涛)
35(35)	41		御堀一面白蓮生ず
35(35)	42		本町壺丁目御菓子司麿屋の息子 (放蕩遊興) 悪事
35(35)	42		仏具に金銀仕子事夥しく、世の奢侈一変、尾蔵年々米減少
35(35)	42		豪民へ借財、上ゲ米仰付→御勝手不如意
35(35)	42		書簡 (松涛 (采村) →睡蚕賢 (水野正信))
35(35)	44		(書簡 松→蚕)
35(35)	45		(書簡)
35(35)	47	8月12日	宗対馬守領地海岸守衛之儀格別手当被成下
35(35)	48	10月	安永～文化、諸侯家督有之 (嘉永元年十月改)
35(35)	50		今上皇帝 (履歴)
35(35)	51	10月18日	役替
35(35)	52		松前弘前侯の印章

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
35(35)	52	11月10日	尾侯は戦国生立の御家風
35(35)	52	11月8日	鈴木弾正、犬山今尾両侯勢州へ御呼出、御国政相乱人民相苦、十万兩拝借
35(35)	53	11月10日	老女大奥へ登城
35(35)	53		尾州へ罷越に付御暇拝領物
35(35)	54		小金原に付御府内馬の高料、前代未聞の嘶
35(35)	54		一橋刑部卿様へ一条家より御縁組被仰出
35(35)	54		加州松平筑前守弟喬松丸杉平因幡守賀養子被仰出
35(35)	54	11月25日	御先手松下図書頭惣領伝七郎酷酌、雪隠に落死失
35(35)	55		寄風述懐(落首か)
35(35)	56		本郷旗本の娘よめ入りの節、賞方不承知の成行
35(35)	56		御奉行遠山左衛門の末家の悪事露頭
35(35)	56		奥向衆の一人、將軍家へ諫書
35(35)	57		彦根藩に長野伊豆娘、掃部頭弟新野某有之由如何
35(35)	57		星野の出奔者道中、追分宿にてさわがしき由
35(35)	57		犬山家政不行届にや
35(35)	57		市谷御勘定所至而不評の趣
35(35)	57		成瀬半大夫米礼笠松へ質入
35(35)	58	7月21日	長崎奉行稲葉出羽守、武器并人数道中の備、七月二十一日～九月十四日、江戸発、長崎着
35(35)	58		出羽守京都所司代にて口宣頂戴
35(35)	58		長崎より江戸まで三百八十里、日数四十五日
35(35)	59		金詰り世上不景気、風聞
35(35)	63		新改勢後町宝年代記(瓦版、落首…)

巻三十六(36) 嘉永2年(1849)

嘉永二己酉上

36(36)	1		旧臘薩州時節早御暇願(内密書)(対異国難題)
36(36)	3		御老中御司代其外穿説
36(36)	3		新年恒例行事
36(36)	4		老中松平伊賀守殿西丸下屋敷へ引移後毎夜変事あり
36(36)	4		右大将様御再縁組の事
36(36)	5	1月15日	内藤紀伊守御暇
36(36)	6		尾張殿家老佐枝将監側用人鈴木弾正竹腰帰府、公辺拝預物
36(36)	7	2月4日	芸術出精に付部屋住より五十人御番入
36(36)	10	2月11日	紀州様御参府延引
36(36)	11		(雑篇)
36(36)	13	3月13日	水戸家御隠居御慎之儀、宰相殿家督之儀、御家政向之儀等
36(36)	14		飯田潤輔(百八才)高年強剛
36(36)	14		(熱田問屋書付)相州三崎に唐船懸る由
36(36)	15	3月25日	吉田左之丞改易
36(36)	16		十八士上書、今尾侯直書濂洛(困窮借財、米切手札難渋)
36(36)	25	3月18日	小金原御狩仰出
36(36)	25		紀伊御相続の件
36(36)	25		新宮、水野土佐守、丹鶴叢書出来(群書類従の続集とも可申)
36(36)	26	3月18日	小金原御狩
36(36)	27		黄門様御痲瘡
36(36)	29		三月十八日小金原御狩(図)
36(36)	43		雑兵物語をみる
36(36)	43		紀州菊千代君御相続の風聞
36(36)	43		貞丈雑記板行
36(36)	43		(36冊13丁目の記事に同じ)
36(36)	44	3月15日	(近来)蘭学医師増、信用多
36(36)	45		結城孫左衛門埋金七千五百億兩余
36(36)	46		中納言様(慶藏公)御痲瘡御逝去、相続諸説紛々
36(36)	46		落書、落首、諷刺、川柳、ジグチ
36(36)	50		京都於姉小路乱心角力興行
36(36)	50		義怒、ヨシヒロ
36(36)	51		隠岐島沖に異国船
36(36)	52		武州奇特少女
36(36)	53		尾州御相続落書
36(36)	54		浦賀へ英吉利船渡来(図)
36(36)	見返し		嘉永二年御用掛小金ヶ原御役人附(瓦版)

巻三十七(37) 嘉永2年(1849)

嘉永二己酉下

37(37)	1		異国船折々渡来に付御処立勘弁伊勢守御尋書、竹村翁の論
37(37)	8		岡崎にて鯛飯松蔵初斬害に遭候一件
37(37)	26		慶藏公御葬送、御相続并市谷向風説、落書

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
37(37)	53		五島・松前両侯城築
37(37)	55		前垂相様有卦に入るに付宰相様より御賀詩
37(37)	55		長崎より来候大通詞神代徳次郎行方不知
37(37)	55		田口春平(俊平・西洋砲術)三年在尾、此秋去る
37(37)	56		(江戸状に)男の首つり
37(37)	57	8月27日	鎌倉街道辺の小院の什物親鸞像東懸所へ
37(37)	58		大通詞 神代(熊代)徳次郎 遁去
37(37)	58		上州安中城主板倉伊予守、甘雨亭叢書出来
37(37)	58	8月16日	松平摂津守五男鎮三郎の事
37(37)	60	7月26日	烏丸禿鞘之鎗、神君より御譲御道具
37(37)	60		大目付池田筑後守より和泉守申渡候覚書(御城附心得)
37(37)	61	8月	御勝手方御勘定所ハ評定所長屋へ引移、御小納戸役所御勘定所長屋へ移る、御細工所も同断
37(37)	62		二百回忌御法事済に付御能組
37(37)	64		寺山虎助(市谷御側物頭)切腹
37(37)	64		出町調練場凶
37(37)	66		異国船への武備御触

巻三十八(38) 嘉永3年(1850)

嘉永三庚戌上

38(38)	1		八代目団十郎舞台にて急死
38(38)	2		麹町五丁目より出火、芝迄延焼
38(38)	3	2月13日	月を星貫く、風帯
38(38)	3	2月	和蘭人、宮通行東下
38(38)	3	3月	房州沖合異船一艘
38(38)	3	3月28日	伊勢守、備前守御鞍覆拝領
38(38)	3		安積良齋御儒者被召出
38(38)	5		御老女沢野の衣服盗難、岡崎にて売買
38(38)	6		岡崎、鯛飯松蔵一件
38(38)	6		長栄寺和尚密夫一件
38(38)	7		市川白猿江戸帰り
38(38)	8		岡崎家中、戌三月江戸表江罷下候者
38(38)	11		於岡崎尾州住吉町松蔵殺害一件公義御裁許落首
38(38)	18	2月28日	公辺御役人近海見分浦賀御備向御調
38(38)	19	3月15日	登城紅毛人名前、紅毛甲比丹参府之時申上旨趣
38(38)	19	4月8日	軍艦出帆の由
38(38)	20		米沢侯政事又御賞
38(38)	21	6月	山王祭礼附場所
38(38)	22		浦賀・下田の様子、英露事情
38(38)	24		諸侯御備持場
38(38)	30	3月	長州辺異国船上陸
38(38)	31		奉聞(前垂相公順公御逝去)
38(38)	35		源順様御葬送御行列大略
38(38)	35		大番組平野助右衛門、芸妓体之浪人娘に懸り合い
38(38)	36		後藤彦左衛門屋敷替事
38(38)	36		成瀬大内蔵殿、岡崎にて高家と取合
38(38)	36	3月29日	新御殿奥向御締
38(38)	38	5月	知多郡台場御取建見分
38(38)	38	5月6日	新御殿前浅野庄蔵後長屋より出火
38(38)	38		御葬送早行之工夫可有之旨普作奉行申
38(38)	39		郭内邸椽下塩硝堀出し
38(38)	39		三十年前、中条多膳殿種々勘考事
38(38)	39		彦根候近海見分
38(38)	39		彦根候上屋敷焼失、尾州橋町板屋与三郎請負にて切組舟積
38(38)	40	11月	彦根候在国中卒去
38(38)	46		御嶽山新別当四谷自証院開山
38(38)	46	8月18日	水府公、綿宮様御縁組
38(38)	47	8月13日	松平越後守勝手向難波一万両拝借
38(38)	47		(瓦版、女十六歌仙古今女姿に見立)

巻三十九(39) 嘉永3年(1850)

嘉永三庚戌下

39(39)	1		西洋学新奇競ひ取押翻譯等之触
39(39)	2		朝鮮信使来聘に付御用懸仰付
39(39)	2		松平和泉守、尾州等立寄
39(39)	2		井伊上屋敷焼失、橋町板小普請之処運船破船して延引
39(39)	3	8月21日	尾州大風(詳述)
39(39)	3	9月7日	尾州大洪水
39(39)	3		疫痢流行

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
39(39)	43		調練の落書(首)
39(39)	45		越後国百姓三ツ子誕生
39(39)	46		日光御門跡より松平源七郎家御取立仰入
39(39)	47		当戊年諸国作割
39(39)	48		御御殿寂寥
39(39)	49	10月11日	桑原金十郎牢死
39(39)	49	9月14日	御祭礼引初、片端東の試楽
39(39)	50		小笠原与三郎家事御糺、落着半知
39(39)	52	6月25日	琉球人来聘(行列図)
39(39)	55	10月19日	琉球人名古屋通行
39(39)	57	11月	新田大光院殿贈従二位之儀
39(39)	59	12月	大水高汐にて九十八ヵ村切所・損所
39(39)	60		茶屋新田海中遠見場は瑞竜院様思召にて出来
39(39)	60	11月29日	巾下方松寺領多賀大明神社家より出火
39(39)	60		雑司谷辺にて麦三千俵、仙台米数多御買上、尾州の御救の為にや
39(39)	61		彦根話
39(39)	63		源順様御遺物被下方の儀
39(39)	64		清商錢小虎、清国風説より
39(39)	65		紀伊熊野浦海岸御備
39(39)	65		三州田原海岸御備
39(39)	66		千賀与八郎海岸防禦之儀

巻四十(40) 嘉永4年(1851)

嘉永四辛亥上

40(40)	1		当春の御歌(御製、近衛忠熙公、知恩院宮、西御門跡)
40(40)	2	1月11日	御褒美被下候書付
40(40)	3	2月	御本丸張付繕、当年は大御書院他(左甚五郎の彫物)
40(40)	4		天王坊願書之由、夢に得ん
40(40)	7	3月上	尾州八穂新田御普請入用金調達の件
40(40)	8		市谷御館内外惣普請になり候
40(40)	8		当春、加藤太郎死、天道山音聞山在住、清美風雅の人
40(40)	8		御中藤御玉の方
40(40)	8		今度道中七里之者再興、人別四十人程撰
40(40)	9	2月8日	東海道より御女中御広敷へ、二度の御城入
40(40)	9		初めて御入国
40(40)	9		江戸より来る御女中人数
40(40)	10		入国道中日程
40(40)	10		三月四日江戸御発駕~三月十三日(道中)
40(40)	27	3月15日	増上米御容赦筋の趣
40(40)	27	3月13日	市谷表御舞台御囃子あり
40(40)	28	3月19日	天静なるに東輪寺本堂煉瓦落(図)
40(40)	28		日置橋下生駒因州殿別荘泉水汐入、堀川・江川も汐入
40(40)	28	4月16日	御宮舞楽、神輿渡御
40(40)	29	4月21日	初めて熱田御社参
40(40)	30	4月3日	西谷くらやみ坂屋敷より出火、他風聞
40(40)	30		西洋舶来野戦砲の筒玉、他風聞
40(40)	31		貞慎院様御簾中様歌、他風聞
40(40)	32	3月14日	公方様御黒書院にて御管絃聴聞(目録)
40(40)	33	4月24日	松平和泉守、三河儀差出達書(去年七月大風洪水の難儀)
40(40)	34	5月10日	牛込早稲田大筒隣立見分
40(40)	34	2月26日	阿蘭陀人献上物
40(40)	36	4月25日	上使大久保因幡守御迎送事
40(40)	36	4月晦日	有章公御霊屋へ御参詣
40(40)	36		御賄方切詰の事
40(40)	38		御着城後武芸御覧繁に有之
40(40)	39		御祝能は五月朔日
40(40)	39		敬公御霊屋御参詣
40(40)	40		城内列座模様他(図)
40(40)	41		御能番組
40(40)	44	5月16日	建中寺参詣
40(40)	44	5月17日	御宮参詣
40(40)	44	5月23日	御天守、御深井丸、西丸御巡覧
40(40)	45	5月	勘定所の人より貰候写(百姓さよ孝養御褒美)
40(40)	47	5月23日	尾城御本丸御天守に黄門公初めて御巡覧
40(40)	47	5月25日	海防知多郡巡検、六月二日帰府
40(40)	48		牛込早稲田大筒鉄炮鑄立他
40(40)	50		犬山侯知多海岸嶋々村々巡覧
40(40)	51		江戸御府内強盜横行
40(40)	51		尾州小盗流行

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
40(40)	51		植田御林にて茸隠取御糺
40(40)	51		或やしきにて竹の子盗
40(40)	51		赤塚神明の藪にて竹の子盗他
40(40)	52		日光正遷宮御用懸阿部伊勢守拝領御刀他
40(40)	53	5月21日	御作事方山内金三郎役所休日、野服にて殺生、死罪
40(40)	54		大盗南部御陵堀名劔売捌、釜煎他殺害風聞
40(40)	57		京師来状写 (大盗の詳細)
40(40)	60		太政官符
40(40)	62	6月5日	建中寺御参詣
40(40)	62		義建君の御姫君御逝去
40(40)	62	6月15日	片端試楽
40(40)	63	6月17日	神幸相濟御屋形にて御透見
40(40)	63	6月20日	大雷、落馬所々、白壁、清水、住吉町、露橋村
40(40)	63		江戸四谷自証院御嶽講根元、懿公尊像安置の寺
40(40)	63	6月9日	安藤長門守、寺社奉行仰付
40(40)	63		犬山侯弟鎗次郎、渋谷采女へ養子
40(40)	64	6月23日	笠松下の重吉火罪 (図)
40(40)	64		山の内金三郎、広小路おいて死罪
40(40)	65		大田勝五郎、主の具足入盗取町方へ渡す
40(40)	65		御屋敷御用人頭中根清右衛門上奏
40(40)	65		源順公御慰の車楽二輛あり
40(40)	66		物騒嘶
40(40)	68		当秋大水高汐にて川々堤切所普請被仰付、御沙汰の趣
40(40)	73		御月見鈴木鐘六郎儀御尋有之 (口論、負手疵)

巻四十一(41) 嘉永4年 (1851)

嘉永四辛亥下

41(41)	1		山田伊助百十二才、御奉公御免御褒美被下
41(41)	1		遠州袋井敵討
41(41)	2	10月4日	尾州御船行船軍御覧 (詳述、図)
41(41)	18		肥後横井某遊歴諸国風義考 (見聞抄、風義考)
41(41)	27		角筥調練装束他
41(41)	28		江戸中微細地理御吟味に付寺社共図面坪数書上
41(41)	29		犬山侯知多巡見
41(41)	29		御林の茸盗売内職の輩御糺
41(41)	29		加藤清三郎切腹表向病死
41(41)	29		大田新五郎倅縊死
41(41)	29	5月29日	大雨、洛中入水、三条橋落、三上山山抜
41(41)	30		御礼座順
41(41)	30		役替、安藤長門守寺社奉行見習他
41(41)	30	6月29日	大雨大雷、落雷巾下辺
41(41)	30	7月16日	小川町船人の子流死
41(41)	31		規姫様御卒去
41(41)	31		公辺炮術四季打に相成
41(41)	31		藤浪万徳、外科医は活物也
41(41)	32		伊豆七島之図一枚摺刊行
41(41)	32	7月21日	岐阜奉行安井弥三郎改役
41(41)	33		奥御舞台、御囃子組
41(41)	35	8月	御月見、御囃子組
41(41)	36		塚、西洋流炮器のこと打試次第他
41(41)	44		大高侯の勘定奉行近藤常九郎切腹
41(41)	44	8月25日	尾州大雨大雷
41(41)	45	9月7日	御忌中故定光寺御参詣無之
41(41)	45	9月18日	忌明後御参詣
41(41)	45	9月7日	水野三郎、野崎某取次の品高利質流一件
41(41)	45	9月15日	西懸所表門上棟大群集
41(41)	45	9月15日	建中寺惣御参詣
41(41)	46		武芸の御覧、賞銀下賜等々
41(41)	47		於矢田河原西洋流打形御透見
41(41)	51		深川弥勒寺の僧珍事
41(41)	52	7月	武州荏原郡上目黒村駒場原、地裂泥水押出
41(41)	53		殿中刀脇差、公義御差図
41(41)	56	9月4日	日光正遷宮濟候付御能あり
41(41)	56		伝通院様御贈位御供養、二百五十回忌御法事
41(41)	57		来丑年菅公九百五十回忌
41(41)	58		江戸出火
41(41)	58	11月23日	鈴木助之丞養子取繕願に付御糺、半知
41(41)	59		江川辺商店乞食事
41(41)	61	2月	町奉行所にて申渡離縁事

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
41(41)	62		江戸文学書画当時之番付
41(41)	68		成瀬竹腰安藤水野中山端午重陽歳暮時服差上御内書
巻四十二(42) 嘉永5年 (1852)			
嘉永五壬子上			
42(42)	1		渡辺半蔵御数寄屋頭箕田宗範に分知
42(42)	1		茜部三十郎、伊藤に改姓
42(42)	1	1月16日	市谷西御門外中之町武家三軒焼失
42(42)	1		会津侯卒去
42(42)	2	1月	江戸町々火之元之掟
42(42)	5		改政御町法、火之元年代記(国)
42(42)	6		京町金沢屋遊女大安売(瓦版)
42(42)	7	2月7日	水戸様より大日本史百七十三冊差上
42(42)	7	2月10日	松平隠岐守家来十河国次馬術格別熟達
42(42)	7	2月12日	松平若狭守、肥後守卒去に付御香奠被下
42(42)	8	2月	御勝手向御改革御書之写
42(42)	10		定詰解詩、江戸出来
42(42)	14		菅公九百五十回神忌
42(42)	14		自証院現住は山師
42(42)	15		紀州新宮侯丹鶴叢書出版
42(42)	15	4月25日	早乗御覽巡視乗船
42(42)	17		瓦版(都名所、鯨身之丈十三間)(於若宮御社内)
42(42)	18		八事山開帳群集す
42(42)	20	3月2日	犬山侯登城遅刻
42(42)	20		大樹公御世話好き
42(42)	20	3月29日	佐枝将監殿二ツ縞三反拝領
42(42)	20		市谷にて喧嘩
42(42)	20		尾城金鯱修復
42(42)	21	3月5日	紀州沖に異国船
42(42)	21	3月10日	高田馬場諸流御筒、十二日より相始通達
42(42)	23	3月19日	酒井雅楽頭家来、於深川三十三間堂大矢数
42(42)	28		今尾侯厩は信長公伝来の由
42(42)	30		北篠侯隠居の事
42(42)	30	4月2日	桂崖、岐阜生まれの画の師
42(42)	31	4月13日	皆川遠江守不行跡不宣不慎に付御小姓御免知行召上
42(42)	31	4月22日	浦賀沖に異船一艘見ゆ
42(42)	32		橘町板屋与三治にぬっへらぼんの子生まる
42(42)	32		七間町車はやしの時弁慶長刀折れる
42(42)	32		麴町屋敷において四季鉄炮稽古
42(42)	32		鈴木庄左衛門夫妻西国順礼途中病死、養子相続成就
42(42)	34	4月	非常之儀に付昨冬より巖敷仰出
42(42)	34		そば渡世卯之助の店、化狸あらわる
42(42)	35		先日浦賀沖異国船漕去
42(42)	35		浅草奥山造庭
42(42)	35		八百善の事
42(42)	35		皆川遠江守の事はじめ(雑事あれこれ)
42(42)	37	5月2日	浦賀警衛持場四侯奉行夫々割替
42(42)	39		武州荏原郡大森村地先より鈴木新田地先迄之附州江大筒丁場新規御取建
42(42)	40	5月12日	猫の奇事
42(42)	41		大御番頭加納遠江守、角管調練場美談の事
42(42)	42	5月22日	西丸炎上(凶)
42(42)	47		川原清太郎大津町にて女を斬
巻四十三(43) 嘉永5年 (1852)			
嘉永五壬子下			
43(43)	1	6月25日	女一宮薨御之事
43(43)	1		役替
43(43)	1	6月1日	大森村地先大筒打場御取建
43(43)	2	7月29日	城内部屋へ食物酒等持込禁止の達
43(43)	2	7月27日	権十郎殿戸山御庭にて鉄炮足並(次)一覽
43(43)	2	8月4日	栄姫様御祝
43(43)	3		御普請奉行服部表八郎配下へ弊風改申渡写
43(43)	4		築地沖にて水戦研究の人々水練見物
43(43)	4		磨砂にて精米流行
43(43)	5		上宿坊主米本三晴、御中間頭古川と遺恨
43(43)	6		豆州下田湊に異国船渡来
43(43)	7	7月12日	綱紀達書写
43(43)	8	7月22日	尾州大風雨
43(43)	8		栄姫様御誕生

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
43(43)	8		霞町へ神霞着、興行大賑合
43(43)	9		役替 (中西筑前守、佐枝将監、横井伊折介他)
43(43)	9		業書覚、大筒玉数
43(43)	9	8月10日	東海道筋暴風雨
43(43)	9		大筒打稽古御達
43(43)	10		右大将御任槐辞退 (昇進辞退)
43(43)	10		肥田公入手の榮螺鉢はよほどの古物
43(43)	11	8月3日	御本丸長吉郎様誕生
43(43)	11	7月28日	右大将様御転任御任槐等之儀
43(43)	13	8月23日	線姫様御引移
43(43)	13	9月10日	役替
43(43)	14	8月7日	西丸炎上に付吟味
43(43)	15	8月15日	猷木、木曾川流水により流失
43(43)	16		東懸所辺菊を作り賑わう
43(43)	16		鶉多須代官千村三四郎娘密通欠落
43(43)	16	3月	御中間頭浅野治郎左衛門惣領三右衛門逐電
43(43)	16		御側組同心借金多にて御堀へ入水
43(43)	17	9月15日	寄合組西郷弥右衛門妻、夫殺害、自滅 (始終)
43(43)	29		西郷弥右衛門事件諷刺
43(43)	30		当秋勢侯藤堂泉州戸山御庭拝見
43(43)	30		浦賀表御備場御用多端出精に付御手当役替被仰付 (戸田伊豆守)
43(43)	31	9月26日	綿姫君御引移に付献上品
43(43)	33	10月7日	内田棟嶺永蟄居
43(43)	34		松平尤香齋、柳生但馬守隠居
43(43)	34	9月22日	皇子降誕、禁裏賄料
43(43)	35	10月11日	戸山御庭拝見之輩
43(43)	35	10月19日	御代替に付朝鮮使来聘
43(43)	35	10月23日	唐物抜荷、長崎模寄島々にて密売
43(43)	35	10月25日	館林、本所、増上寺他住職替
43(43)	36		文蒸院様十三回忌
43(43)	36	10月	紀州勢州旱損之覚
43(43)	37	11月17日	於黒書院碁将棋上覧
43(43)	38		紀州様より献材
43(43)	38	11月9日	加納宿七十軒余焼失
43(43)	38		線姫様御引移日限
43(43)	38	11月18日	市谷より御献上
43(43)	38	11月27日	坂下御門内御宝蔵焼失
43(43)	38	11月29日	松平能登守屋敷焼失
43(43)	39	12月3日	役替、被下物
43(43)	40	11月16日	紀の田辺侯安藤帯刀御暇、不臣流行
43(43)	40		借財 (右衛門督信頼、内大臣宗盛、三鱗先生)
43(43)	42		高番先生、米切手騒動
43(43)	42		老列十二人
43(43)	43		大高侯家督相続
43(43)	44		年来の弊風一変せず
43(43)	44		当時の執事は隼人正正住、兵部少輔正富
43(43)	44		増上米事
43(43)	44		大道寺大次郎老衰に付御役御免
43(43)	44	12月8日	水野日向守賀養子
43(43)	44		線姫様御引移に付御達免
43(43)	46		松平和泉守江御伺書之写 (献上物事)
43(43)	48	12月	紅葉山御数寄屋二番宝蔵焼失
43(43)	48		御広敷御用人間瀬権右衛門へ節儉直書
43(43)	48		西丸炎上、川柳
43(43)	50		火事心得之御沙汰
43(43)	53	9月20日	浦賀表御備場警衛御用多端に付役替被下金
43(43)	53		文晁画、楽翁讚の異船懸物 (東武より来簡)
43(43)	54		諸国の神社仏閣参詣の夢

巻四十四上(44) 嘉永6年 (1853)

嘉永六 癸丑一ノ上

44上(44)	1		新曆
44上(44)	1	1月3日	火の玉飛行
44上(44)	1	1月12日	法花寺町照遠寺出火、法花寺類焼
44上(44)	2		医師栗崎道庵逐電、断絶す
44上(44)	2		水戸景山公太田淳殿折々登城
44上(44)	2		紀一位治宝卿逝去
44上(44)	2		大御番頭格、去冬林典膳退役他
44上(44)	2		西丸回録後新當御絵は狩野一類、住吉家御褒美被下

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
44上(44)	2		金銀泥画具は莫大
44上(44)	3	1月25日	評定所に町在御用達、百姓町人呼出御勝手筋借金向
44上(44)	4		前代未曾有之御借財(御勝手向御行詰に付)
44上(44)	5	2月2日	小田原箱根地震
44上(44)	5		瓦版(相摸、地震)
44上(44)	5	2月2日	地震に付損所等之儀申聞候趣書取
44上(44)	11		野夫体之詩
44上(44)	12	3月2日	東海道御道中(熱田鳴海御通行)宿泊、里程時刻日割
44上(44)	15		(細川侯一条姫君)
44上(44)	16	3月6日	市谷田町出火、尾張殿屋形別条無、御褒美九百貫被下
44上(44)	16	4月13日	戸山御屋敷惣御庭御側組同心御広敷同心鉄炮調練
44上(44)	16		犬山侯・肥田侯御一覽
44上(44)	16	3月	黒田官兵衛任官祝能興行
44上(44)	16		西城炎上に付諸家幕士へ上助金年内納入に不及
44上(44)	16	5月12日	於高田馬場流鏑馬
44上(44)	17	3月28日	竹腰兵部少輔殿示談の儀、渡辺半蔵、大道寺玄蕃
44上(44)	17		寄合組出張調引請取扱被仰出
44上(44)	19	4月17日	東照宮拝礼の事
44上(44)	19		鷹の栖護国寺本堂裏手に作る
44上(44)	20	4月25日	木曾方手代流川住平手恒助妻と子四人殺し井に入死
44上(44)	20	4月25日	御城代津田縫殿殿定詰解
44上(44)	20		東武護国寺奥山に鷹の巢造る
44上(44)	20		藤沢遊行上人尾府へ来る、先師の如く順行
44上(44)	21	4月10日	於向御屋敷矢場御殿、杉立定吉門弟射的御覽被遊候事
44上(44)	21	4月14日	御同所にて柳生忠太郎門弟兵法
44上(44)	21	4月19日	御同所にて田辺四郎右衛門門弟鎗術
44上(44)	21	4月27日	御同所にて岩本信太郎門弟組打
44上(44)	21	5月6日	御同所にて長屋弥五郎門弟射的
44上(44)	21	5月24日	御同所にて岩本信太郎門弟組打
44上(44)	21	9月25日	御同所にて榎谷忠太郎門弟銃術
44上(44)	21	10月13日	於御車寄福沢豊吉鎗術御軍用大寄せ御覽
44上(44)	21	10月17日	於向屋敷矢場御殿寺尾右馬助御番組之輩武芸
44上(44)	21	10月26日	武芸
44上(44)	21	11月13日	於同所馬場御殿渥美与一馬術
44上(44)	22	11月5日	於向屋敷矢場御殿近藤九兵衛門弟鎗術
44上(44)	22	11月7日	於向屋敷矢場御殿上下郡駒御覽
44上(44)	22	11月17日	於向屋敷矢場御殿星野勘左衛門門弟射的
44上(44)	22	11月23日	於御屋形脇御馬場近松彦之進門弟被早礼勝并騎射且軍学備立共御覽被遊
44上(44)	22	11月26日	於向御屋敷矢場御殿梶原弥市右衛門門弟御覽
44上(44)	22	11月晦日	於向御屋敷矢場御殿佐分吉兵衛門弟鎗術
44上(44)	22	12月4日	於向御屋敷矢場御殿水野喜平太門弟組討
44上(44)	22	12月8日	於向御屋敷矢場御殿三枝又吉門弟兵法
44上(44)	23		上納金預(東西本願寺、高野山、身延山、東叡山、増上寺、知恩院)
44上(44)	23		水戸様御家来大船製造被仰付
44上(44)	23		浦賀奉行二千石高に被成
44上(44)	24		享和七年二月中旬、黒船一艘渡来注進
44上(44)	26		加州錢屋五兵衛黒船と交易悪事露顯御仕置(詳述)
44上(44)	31	7月6日	午刻仙洞御所炎上
44上(44)	32		火之番、御門番、番士之輩等質素儉約の触
44上(44)	32		留守居番奢侈押触
44上(44)	34		養子縁組持参金不相成触
44上(44)	36		錢屋五兵衛欠所品之糺
44上(44)	38		謹言、熱田大宮勅願
44上(44)	38		熊本藩士浦賀防禦被仰付、母錢別の歌(肥後侯直書字)
44上(44)	39		魯西亜に被下物
44上(44)	39		訥升、男女歳病死、辞世句
44上(44)	41	7月	彗星図
44上(44)	41	6月4日	三之丸御宮、額落ち割れる
44上(44)	42	6月3日	アメリカ船、浦賀沖、神奈川沖へ乗入、江戸騒動
44上(44)	43	6月6日	南部百姓役人へ願申立
44上(44)	45		世評落書
44上(44)	46		異国船渡来各地風聞
44上(44)	47		京都五月二十日以降雨なし炎暑
44上(44)	47		西国九州北越同様米価上る
44上(44)	47		彦根城下へ用金多分申付、在町共騒居
44上(44)	47		黒船渡来後京中大不景氣、西陣初諸商人隙
44上(44)	47		角力も十月は不取損、四条涼人少し、見せ物も無閑寂
44上(44)	48		新規御製造の大船、尾張殿築地海手に差置
44上(44)	48		嘉永八年曆

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
44上(44)	48	9月2日	柴井町甚助店安五郎妻佐登三ツ子出生、手当被下候
44上(44)	49		嘉永七年諸国作割
44上(44)	50		東武浅草新堀白昼大鯉生捕、食侯者共即死、鯉の靈祭る
44上(44)	51		嘉永六丑年四月改、人数調(人口統計)
44上(44)	53	4月27日	大久保加賀守領分地震山崩等被損に付拝借願の趣
44上(44)	53	4月28日	長崎浦賀奉行役替
44上(44)	53	5月15日	於奥御能、老中年寄見物、御能組
44上(44)	55	5月3日	一条殿娘延君、一橋刑部卿様へ御縁組
44上(44)	55	5月15日	於高田馬場流鏑馬
44上(44)	55		犬俣近辺窪田助太郎、山鹿流の先生
44上(44)	56		御鉄炮打辻弥平并倅仲東武下向西洋伝下曾根金三郎へ入門被仰付
44上(44)	56	5月	駿河町東大松蘭医石黒隆助不行跡の事
44上(44)	58	5月3日	於下御庭瀬戸御茶屋献金者江被下置候御料理献立
44上(44)	61	5月9日	下御庭拝見被仰付候節御料理献立
44上(44)	62	5月9日	拝領物
44上(44)	65	5月15日	於高田馬場流鏑馬、穴八幡御奉納

巻四十四下(45) 嘉永6年(1853)

癸丑之一ノ下 米利堅渡来之記一

44下(45)	1	6月4日	昨三月豆州大島沖江異国船渡来之諸向注進、三嶋宿七里之者
44下(45)	2	2月8日	相州浦賀湊江異国船四艘入船注進、熱田問屋
44下(45)	2	6月7日	異国船渡来に付海岸附屋敷固人数罷出
44下(45)	6		渡来異国船はアメリカ合衆国政府出の軍艦
44下(45)	6		軍艦内装備の様子 構造等御届(戸田伊豆守)
44下(45)	7	6月4日	異国船届(酒井安芸守、松平誠丸)
44下(45)	8	6月3日	浦賀表へ異国船六艘、八丈島拝借致度申立(江戸表より或人の書簡)
44下(45)	9	6月6日	牧野備前守殿より御城附被渡書付(芝・品川最寄屋敷相固候心得)
44下(45)	10		異国船渡来に付越中守人数出張被仰付
44下(45)	11		日光御門跡江御使御祈祷
44下(45)	12		異国船渡来に付大目付触
44下(45)	12		異国船渡来に付世上安全之御祈祷
44下(45)	13		異国船渡来に付番所固メ御達
44下(45)	14		異国船渡来に付御手当金
44下(45)	15	6月9日	御目付堀織部、為見分可被遣候旨
44下(45)	15		異国船万一内海へ乗入非常時警衛方
44下(45)	20		相州鬼ヶ崎井伊番所等、異国船渡来事
44下(45)	22		異国船万一内海へ乗入江戸町触
44下(45)	22		異国船万一内海へ乗入火消組守方
44下(45)	28		築地御屋敷御手当の様子
44下(45)	28	6月15日	御用人成瀬大内蔵御目付中根帯刀、市辺勘兵衛六月十五日曉発足木曾路罷下候処、退帆に付途中より呼戻に相成
44下(45)	30		江戸来簡(異国船渡来に付)
44下(45)	30		紀州様御国許神社におゐて世上静謐の御祈祷
44下(45)	30		尾州様熱田津嶋一宮おゐて御祈祷
44下(45)	30		水戸様鹿嶋おゐて御祈祷
44下(45)	30		築地辺御屋敷御固之体、海上より見渡し候風説
44下(45)	32		市谷衆より来簡略写
44下(45)	34		辻弥平より西洋館上田帯刀に來簡写
44下(45)	40	6月15日	知多船異船親見之届三通(師崎村吉三郎、半田村泰助船、大野村林吉船)
44下(45)	47		異国船(図)
44下(45)	57		大垣藩士書簡二通
44下(45)	60		(栗浜)上陸書簡請取略図
44下(45)	62		内秘探索書、御触書諸説

巻四十五(46) 嘉永6年(1853)

嘉永癸丑之二 米船渡来ノ部 平穩録之抄上

※高橋(笠亭)仙果編「平穩録」(西尾市岩瀬文庫蔵)からの抄写。

45(46)	2	6月4日	異国船応接之儀に付浦賀奉行伺書
45(46)	3		御代官領主等より諸届、諸文通
45(46)	7		御触書、御書付等
45(46)	9		浦賀同心後藤信八筆記
45(46)	14		浦賀町家より江戸表親類へ來簡
45(46)	20		長谷部謙三來船江乘候話
45(46)	22		普勝伊十郎御届書
45(46)	25		米国王書簡請取之節戸田伊豆守殿行列(米船略図)
45(46)	28		紀州田辺沖にて拾ひ候器之図
45(46)	29		弘化二年以來渡来米船間尺之記(図)
45(46)	30	8月20日	上ヶ金之儀に付御代官江御達書付

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
45(46)	31	6月20日	道連に相成候者より承候書付
45(46)	33		アメリカ船より印封之箱請取之後異人江奉行より申渡之趣意
45(46)	33		蒸気船軍之名、異国船江被下候品、異船より献上物
45(46)	35	6月3日	浦賀表異国船渡来覚書(四隻乗入滞船、所々にて測量)(御備場嚴重御固)(国王の書簡持参、日本国王へ差出)(久里浜にて書簡受取)
45(46)	44	6月9日	於久里浜村海岸亜墨利加使節将官応対
45(46)	47		藤波祭主より下知状之写(藤波正三位神祇大副伊勢権守大中臣教忠卿)
45(46)	47	6月15日	異国船来着、七社七寺御祈仰詞、奉行職事消息写
45(46)	48	6月20日	異国船退帆、寺社江消息写
45(46)	49		勅願之三十三社
45(46)	50		異国船渡来に付内海護衛人数被差出候、御骨折上意有之
45(46)	52		浦賀与力加藤与四郎江問目并与四郎答

巻四十六(47) 嘉永6年(1853)

癸丑之三 米船渡来之三

46(47)	1	6月14日	市谷来簡長文
46(47)	1		伊豆代官江川太郎左衛門のこと
46(47)	1		筒井紀井守、上様江言上のこと
46(47)	2		紀州、海岸警渡御手筈宜御触有之
46(47)	2		細川越中守警衛勇敷事と評判
46(47)	3		江戸中町々具足陣笠、火事羽織売切
46(47)	3		五苓散暑氣払、車曳夥敷
46(47)	4		蜂須賀は佃嶋一円警衛被仰付出張
46(47)	5		薩州家は上屋敷より浜屋敷迄被仰付
46(47)	6		松平阿波守警衛之場所鉄炮洲
46(47)	7		本多越中守殿、九鬼式部少輔、御勘定奉行、御目付其他役人(初近)海岸見分廻村
46(47)	10		異国船内海へ乗入に付直書
46(47)	11		会津候より筒筈御菟裘江御手筒
46(47)	12		細川侯異国船渡来に付防禦家中へ自筆申渡
46(47)	13		竹亭来簡長文
46(47)	17		水戸様より鉄炮国許より取寄御達
46(47)	17		御国許より將軍家へ御機嫌御伺
46(47)	18	6月22日	辻弥平より見廻状之端書の内抜書(異国船退帆之趣)
46(47)	20		東武来簡(西丸御造に付諸侯上ヶ金他)
46(47)	23		御目付江問合候趣
46(47)	24	6月16日	水戸様より阿部伊勢守江御達書写
46(47)	25		紀州様より御同朋頭へ御伺書(異国船渡来)
46(47)	25		尾州様より備前常阿弥へ差出候達書写(異国船渡来)
46(47)	26	6月12日	備前守江丹阿弥を以差出候達書之写(成瀬隼人正出馬之儀)
46(47)	26	6月10日	肥後守より来簡(異国船渡来)
46(47)	29	6月17日	医師某来簡
46(47)	30	6月3日	異国船渡来候に付日記留
46(47)	33		彦根御固場所久里浜江唐人上る図
46(47)	34		嘉永六年六月海防御用掛り御国御役人(一覽)
46(47)	36		唐人久里浜へ上陸之図
46(47)	37		景山君御表文
46(47)	39	6月9日	榊原式部大輔献上御簡一覽
46(47)	40		(御徒目付御小人目付)内聞書(風聞)
46(47)	45	6月3日	合衆国軍艦四艘大概書
46(47)	49		忍家藩書簡写(六月三日浦賀湊へ米船四艘渡来之件詳述)
46(47)	53		猛省録、一名浦賀港物語
46(47)	55		仙台藩金忠助事状(ロシア、イギリス、アメリカに渡る)
46(47)	58		大槻盤溪詩并和歌
46(47)	59		松前侯異国船相見候届書

巻四十七(48) 嘉永6年(1853)

癸丑之四 米船渡来四 五人返報

47(48)	1		五人返報、合原総蔵より聞書
47(48)	11		飯塚久米三より聞書
47(48)	16		樋口多二郎より聞書
47(48)	23		香山栄右衛門より聞書
47(48)	28		近藤良治より聞書

巻四十八(49) 嘉永6年(1853)

癸丑之五 米船渡来之五 探辺日録、賀港来舶記、浦賀見聞録

48(49)	1	6月6日	探辺日録
48(49)	20		賀港来舶記
48(49)	31		浦賀見聞録

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
卷四十九(50) 嘉永6年(1853)			
癸丑之六 米船渡来之六 国書及彼理書			
49(50)	1		異国より贈候笥の中の書簡四通
49(50)	1		合衆国書簡の目録
49(50)	2		和解活用懸り名前
49(50)	3		国書漢文一通
49(50)	8		右和解一通
49(50)	13		国書副翰漢文一通
49(50)	14		右和解一通
49(50)	15	6月2日	六月二日彼理書漢文一通
49(50)	19		右和解一通
49(50)	22	6月7日	六月七日彼理書漢文一通
49(50)	23		右和解一通
49(50)	24	6月8日	六月八日彼理書漢文一通
49(50)	25		右和解一通
49(50)	26		伯理蛮天德書和解二通
49(50)	30	6月2日	六月二日彼理書和解一通
49(50)	32	7月12日	同十二、十三日、彼理口上書和解二通
49(50)	32		以下甲寅(安政元年)之事
49(50)	34	1月23日	寅正月廿三日、彼理書漢文一通
49(50)	35		御返簡大意
49(50)	36		御返簡案
49(50)	43		御書加二条
卷五十(51) 嘉永6年(1853)			
癸丑之七 米船渡来之七			
50(51)			甲寅 安政元年(一八五四)
50(51)	1		御返翰漢文
50(51)	4	2月10日	甲寅二月十日応接席へ出す彼理書簡和解
50(51)	9	3月10日	同三月十日筒井川路緊要の進達書
50(51)	11	3月	同月御条約漢文
50(51)	13	3月	同月、林、井戸、伊藤(沢) 鵜殿進達書
50(51)	18	3月	同月条約之内御尋に付右四人御請書
50(51)	25	5月	同五月条約附録和解
50(51)	28	8月	同八月通辞官ホルトメン内密差出書和解
50(51)	34	12月	同十二月条約和解
50(51)	37		同条約附録和解
50(51)	37		乙卯 安政二年(一八五五)
50(51)	40	4月	乙卯四月米国船将箱館において呈書和解
50(51)	41		同露西亜と英吉利仏蘭西戦争の様子、米国人物語和解
50(51)	42		同八月米国人測量之儀に付大和守殿御書付并合衆国測量船より差出候横文字和解
卷五十一(52) 嘉永6年(1853)			
癸丑之八 魯西亜船長崎入港			
51(52)	1		熱田宿、池鯉鮒宿より注進(魯西亜船長崎江渡来に付)
51(52)	2	8月18日	篠原宿より注進
51(52)	2		西国諸侯御届書(島原侯、佐賀侯)
51(52)	4		天草御用状申越書
51(52)	7		北村善右衛門書簡(異国船渡来の風聞)
51(52)	9	7月	長崎奉行手附三人より来簡(露西亜船の儀)(大井三郎助・馬場五郎右衛門・白石藤三郎)
51(52)	12	8月15日	長崎より尾州に八月十五日着之者之説
51(52)	13		筒井・川路・荒尾・古賀、応接御用として長崎江打越候様被仰出
51(52)	14	7月20日	伊藤圭介門人長崎在留之者より書
51(52)	16		自保居士来簡
51(52)	18	7月22日	長崎奉行手附馬場五郎左衛門より聞書
51(52)	27		長崎奉行大沢豊後守より十四ヶ所へ手次之書(風説書)
51(52)	30		書簡受取口上露西亜に申渡書札
51(52)	32		黒田家長崎出張人数書
51(52)	35		服部元珉書簡
51(52)	40		川村庄吉長崎表より書簡
51(52)	46		富岡陣屋詰の者より御代官に申越書面写
51(52)	48		中嶋郡奥村彦左衛門長崎より帰尾異船見聞書并図
51(52)	50	9月4日	帰船二艘之内一艘再渡に付熱田間屋注進
51(52)	51	8月19日	露西亜人長崎上陸行列
51(52)	52	10月26日	御城附聞合書
51(52)	53		長崎来簡(献上物等)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
51(52)	56		筒井、川路初御暇拝領物
51(52)	56		服部元珉再来簡
51(52)	57		筒井旗之紋
51(52)	58		肥前筑前初諸注進
51(52)	60		露西亞人御料理被下献立、西役所図、筒井川路魯西亞人へ饋物
51(52)	67		長崎出役来簡三通 (人物図)

巻五十二(53) 嘉永6年 (1853)

癸丑之九 魯西亞国書及布恬廷書、御返翰、応接瓊浦筆記

52(53)	1		露西亞国宰相子也利羅徳御老中に書簡
52(53)	3		布恬廷 (プチャーチン) 書簡
52(53)	4		右二通和解
52(53)	8		御老中連署御返翰
52(53)	9		露西亞国書簡和解
52(53)	20	12月18日	布恬廷 (プチャーチン) 請条約書
52(53)	23	1月2日	甲寅正月二日、布恬廷 (プチャーチン) 書牘、右和解
52(53)	24		同請二冊、副書一通、右副書和解
52(53)	25	3月29日	甲寅三月二十九日書牘一通
52(53)	25		瓊浦筆記、応接
52(53)	31	12月20日	対話 (応接御用筒井・川路 露西亞使節)
52(53)	40	12月22日	対話 (川路 露西亞使節)
52(53)	48	12月24日	対話 (筒井・川路 露西亞使節)
52(53)	54	12月26日	対話 (筒井・川路 露西亞使節)
52(53)	62	12月28日	対話 (筒井・川路 露西亞使節)
52(53)	65	12月晦日	中村為弥露西亞船に相越候節対話
52(53)	72	1月4日	甲寅船中対話 (川路 露西亞使節)
52(53)	73	1月6日	甲寅中村為弥対話
52(53)	75		露西亞使節に應接仕候儀申上候書付
52(53)	82		伊勢守殿御達
52(53)		12月21日	甲寅条約漢字
52(53)	86	12月21日	甲寅条約和解写

巻五十三(54) 嘉永6年 (1853)

癸丑之十 諸説、品川御台場図及委記

53(54)	1		長崎風説書
53(54)	1	10月15日	尾州御側御用人通辞、百姓軍役
53(54)	2	10月28日	大目付同心出来
53(54)	2	10月晦日	上田帶刀西洋砲術研究に付御普請役御免
53(54)	2		大津助之丞西洋伝砲術格別に付御褒
53(54)	3		景山公一橋慶喜卿鐘被進候御歌
53(54)	3	10月晦日	鮎川甚十郎御褒
53(54)	3	11月1日	大船大砲蘭語用間敷触
53(54)	4		諸侯江戸警衛人数手厚大砲武器国許より取寄勝手次第触
53(54)	5		水戸様へ大船製造之仰出書
53(54)	5		勢州津大砲鑄立之評
53(54)	6		江州八幡西川屋善六吉助より差越書状写 (北蝦夷地へ異船)
53(54)	7		公辺諸番頭訓練へ仰渡
53(54)	8		九鬼式部少輔組中へ申談書
53(54)	10		魯西亞書簡受取之一件
53(54)	11		江戸来簡雑説
53(54)	11		落し嘶
53(54)	12		御贈官位に付勅使参向
53(54)	12		御新葬御霊牌文昭院様御拜殿
53(54)	12		犬山侯御帰尾は九月初
53(54)	13	8月12日	八月十二日出誰人にや書簡写
53(54)	15		長崎四郎大夫御預御免砲術取立被仰付武具師大繁昌
53(54)	15		異国船渡来に付警衛向之儀
53(54)	18		江戸江鉄砲遠慮に不及建白催促書付
53(54)	19		紀州漂民四人紀州様へ御引渡
53(54)	19	8月20日	景山公御登城
53(54)	20		浦賀奉行初御賞拝領物
53(54)	20		知多郡河和村商人加州之話
53(54)	21		江戸大砲鑄立に付町触
53(54)	21		棄捐疑念に不及融通可致町触
53(54)	22	9月20日	大船製造之触
53(54)	23	9月28日	海岸屋敷向心一配砲台等可取立触
53(54)	24		万石以下へ拝借金被仰出并士風の触
53(54)	28		水府御内輪秘説、江戸秘説
53(54)	33	9月16日	江戸供連取縮りの触并雑説

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
53(54)	36		五島領悔異船破船
53(54)	38	10月18日	水戸様御家来結城寅寿御咎
53(54)	40	10月8日	御役人除目、讃岐侯京都御使御内意
53(54)	41		水戸老公大砲献上
53(54)	42		江戸人数書上
53(54)	44		江戸雑説
53(54)	46		筒井、川路初長崎行御城書
53(54)	48		品川新造御台場図并右一件書類
53(54)	58		蒸気船初和蘭へ御注文品書
53(54)	59		相房警衛持場替

卷五十四(55) 嘉永6年 (1853)

癸丑之十一 諸説、將軍宣下

54(55)	1	11月1日	亜墨利加へ御聞届有無には不申聞彼より兵端発候はば憤発御国体不汚様御触并新説
54(55)	2		堀田備中守殿御建言略
54(55)	3		紀州御屋形之様子并御家中御手当方
54(55)	7		大船製造方へ御談
54(55)	9	11月23日	將軍宣下之次第書
54(55)	21		慎徳公(徳川家慶)正一位大相国宣命
54(55)	22		將軍宣下御当日下馬辺正信親見之趣故郷へ申遣稿
54(55)	27		異国船度々渡来に付、神社仏閣法楽月次和歌御会御休等京触
54(55)	28		立花侯一万両拝借
54(55)	28		市谷御比丘尼尾尾精林庵初三庵廃絶
54(55)	29		異国船渡来度々に付熱田大宮勅願御祈祷
54(55)	32		勅願に付植松庄左衛門建白
54(55)	34		長谷川富五郎浦賀両岸埋立建言、御台場棟梁申付
54(55)	35		熱田市宮(一宮)津島三社御祈祷、祝詞
54(55)	39		勅願につき熱田社家初詠歌
54(55)	42		弘安御教書
54(55)	43		江戸来簡(大船製造并御台場一件)
54(55)	44		江戸来簡(武器素人製之様子)
54(55)	46		浪越見聞行
54(55)	46		尾州御船手御水主昇禄、船軍調練有之一件
54(55)	47		斎藤弥一郎書簡

卷五十五(56) 安政元年 (1854)

甲寅之一 諸説、米船渡来之一

	1		異船之詩二首
55(56)	2		異国船度々渡来に付尾州寺社触
55(56)	3	1月9日	異船三艘渡来尾州に注進書
55(56)	5		小田原一番手人数
55(56)	9		雑説并来簡
55(56)	10		尾州より大番頭一隊下り(横井三太夫一番組)
55(56)	10		渡辺半蔵殿下り
55(56)	11	1月14日	正月十四、十五日諸届
55(56)	19		市谷御触書
55(56)	20		市谷院法令
55(56)	22		諸達(届)数通
55(56)	23		大広間、溜間初夫々へ達書
55(56)	24		諸番頭物頭御談書
55(56)	24		加賀越後へ警衛御達
55(56)	25		御門御門を初台場一件
55(56)	26		御目付御使番羽根田大森見廻り
55(56)	26		御目付堀織部蝦夷地巡見御内意
55(56)	26		板橋千住内藤新宿岩淵寄合海岸防禦被仰付旨
55(56)	27		五番六番御台場取懸り
55(56)	28		亜墨利加船三艘の位置
55(56)	29	1月	正月町触種々
55(56)	32		諸向より届初雑説
55(56)	34	1月16日	六艘内海へ乗入
55(56)	37		盤木打方等の覚
55(56)	38		江川太郎左衛門、浦賀奉行より仰渡
55(56)	38		小具足之伺書
55(56)	39		屋形浦応接之実記
55(56)	41	1月27日	諸届
55(56)	44		大久保留守居、小具足の伺
55(56)	45	1月20日	尾州へ申来候雑説
55(56)	46	1月23日	渡辺半蔵殿尾州発足

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
55(56)	46		此節尾州より発足之輩
55(56)	48		アメリカ船七艘武州金沢に碇下し候
55(56)	49		市ヶ谷御目付触
55(56)	49		異国船に係る触数通
55(56)	54		一月下旬夫々届書
55(56)	56		異船諸説
55(56)	58		浜御殿御固め一件
55(56)	66		林善蔵(市谷御広敷配下之者) 異船見聞書付
55(56)	69		京都来簡

巻五十六(57) 安政元年(1854)

甲寅之二 米船渡来之二

56(57)	1	2月1日	阿部伊勢守御達、米人神奈川・横濱にて応接
56(57)	2	2月4日	二月四～七日迄注進
56(57)	4		内命、江川太郎左衛門神奈川帰り登城
56(57)	4		御備向虚飾之噂
56(57)	6		浦賀触、異船祝砲
56(57)	7	1月24日	正月廿四日より除目等、御城書
56(57)	9	2月16日	異人大師河原行一件
56(57)	10		異人へ御料理百川楼并献立
56(57)	15	1月22日	玉子、野菜被下略記
56(57)	16	2月10日	横浜応接之聞書抄略
56(57)	18		横浜実話 松代藩説其余横浜諸説
56(57)	24		米人献上物大凡
56(57)	26		米人江下物
56(57)	28		御老中方へ進物大凡
56(57)	28		贈物大凡并諸説
56(57)	31	2月10日	内秘探索書并諸説
56(57)	34		内密書
56(57)	35		極内物
56(57)	37	2月21日	二月二十一、二十二日、諸注進
56(57)	37		浦賀警衛之四大侯、立花侯へ大船製造之義御談書并新説
56(57)	39		尾州海防懸り御側御用人塩硝製通辞
56(57)	40	2月22日	二月二十二、二十三日之説、異船豆州へ九艘(図)
56(57)	46	2月24日	二月二十四日薩州侯よりアメリカ船八艘琉球へ渡来の届
56(57)	47		南部老侯不行作御札
56(57)	48		肥前侯五ヶ年参府御容赦
56(57)	49	3月	三月薩州より再琉球之アメリカ船御届
56(57)	52	2月28日	築地御屋敷御固御人数二月二十八日申刻引払、行列上套之記
56(57)	54	3月15日	三月十五日前後アメリカ船七艘再渡注進并来簡御城書
56(57)	56		二十日より二十二日迄米船退帆諸注進御触除目等
56(57)	60		細川家伺書
56(57)	62	3月	三月中旬江戸より参り候人二尾州にて咄(正信此時在江戸)
56(57)	63		浦賀新話評并諸説
56(57)	67		東海即事二首
56(57)	67		京都来簡
56(57)	67		信州下河内某来簡
56(57)	71		絵草紙屋御札
56(57)	72		異人江戸参府旧例
56(57)	73		異国日記

巻五十七(58) 安政元年(1854)

甲寅之三 平穩録ノ抄中

※高橋(笠亭)仙果編「平穩録」(西尾市岩瀬文庫蔵)からの抄写。

57(58)	2		伊沢美作守即御暇
57(58)	2		林大学頭用意御達書
57(58)	2	1月12日	正月十二日～十九日迄追々御注進書
57(58)	3	1月19日	廻船問屋より十九日注進杉田沖に建有之測量印之図
57(58)	5	1月20日	林・戸田連状注進
57(58)	5		二十一日より二月九日迄の日記
57(58)	12	2月10日	二月十日於横浜応接大略
57(58)	14		横浜応接目撃実話
57(58)	17		横浜応接所之図(六枚半)
57(58)	22	2月10日	二月十日上陸米人名簿人数
57(58)	25		御返翰之大意
57(58)	26		上陸の時建候印之図
57(58)	27		某人日記
57(58)	31		荒川欣三郎御届
57(58)	32		異船中死人の記并葬具図七品墓碑横文字

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
57(58)	36	2月21日	応接懸り見習合原緒三郎達書
57(58)	36		異人葬式之図
57(58)	38	2月12日	二月十二日より十六日迄之記
57(58)	41		東子安村にて異人金子取替始末書
57(58)	43		同道筋之図
57(58)	44		御代官齋藤嘉兵衛達書 (異国人之儀に付)
57(58)	45	2月16日	二月十六日十七日之記
57(58)	45		角力一件
57(58)	46	2月19日	二月十九日之記并図
57(58)	47	2月20日	二月二十日より二十三日迄之記
57(58)	49	2月23日	同二十三日日本牧八王子岸表へ異人書付一件并図
57(58)	50		神奈川沖異船碇泊次第并図
57(58)	55		金川湾米利堅軍艦之位置

巻五十八(59) 安政元年 (1854)

甲寅之四 平穩録之抄下

※巻五十七と同じく高橋仙果「平穩録」(岩瀬文庫蔵)からの抄写。

58(59)	2		日記雑説
58(59)	8		米夷ミヲ印の図并横文字
58(59)	9	2月6日	六郷川尻羽根田水神の森白カナキンの旗之図
58(59)	9	2月18日	濡標印へ彫付横文字の図
58(59)	10		異人張、金張たる図
58(59)	11		米大統領より献品目録、御役人江進物目録
58(59)	18		米人に被下物目録御役人向より遺物目録
58(59)	21		鶏卵野菜等被下之委記
58(59)	23		蒸気鉄筒之図
58(59)	24		奥州良民奇特之願書
58(59)	25		潜齋筆記
58(59)	27	2月21日	二月二十一日或人よりの文通 (通商の儀)
58(59)	27		二十日、二十一日、二十六日新説相撲土俵入及取組
58(59)	29	2月27日	二月二十七日、浜御庭御固解
58(59)	30	2月27日	或人より文通
58(59)	31		某氏来簡
58(59)	32		或人より聞書
58(59)	33		蒸気船中饗応席略図
58(59)	34	3月5日	三月五日米利堅献上の品々御黒書院へ御飾付之一件
58(59)	34		或人文通
58(59)	34	3月13日	三月十三日惣退帆之記
58(59)	35		応接規定之趣風聞書 (極秘)
58(59)	38		彼理 (ペリー) 初肖像写真数品
58(59)	42		蒸気車委図
58(59)	44		福山侯へ進上ハッテイラ之図
58(59)	46		米船旗幟委図
58(59)	46		亜墨利加献物農具之図
58(59)	53		アメリカ言語
58(59)	54	2月	二月亜墨利加船中清人筆談 (日本人羅森と問答)

巻五十九(60) 安政元年 (1854)

甲寅之五 米船渡来之五 諸図

59(60)	1		本牧鼻に切付たる横文字一件等之図
59(60)	3		軍艦略図二艘、蒸気船
59(60)	6		横浜応接所之図
59(60)	8		米人略像并器械図種々
59(60)	8		進献物図種々
59(60)	14		米利堅人名之名刺
59(60)	16		米人墓碑図
59(60)	17		米人進退調練之図
59(60)	26	2月26日	角力勝負附
59(60)	26		八王子権現社下の先に彫付候横文字
59(60)	27		異人素人相撲を見候一件并船略図
59(60)	29		被下俵運送一付
59(60)	30		日本負たるなき故かつと尽し并有功卿御歌
59(60)	33		御固附板行
59(60)	34		ペルリ肖像
59(60)	35		雑説
59(60)	36	2月2日	二月二日出、正信故郷へ送りし紀行の稿
59(60)	43	2月5日	二月五日御城附聞繕之趣
59(60)	44		雑説雑評

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
59(60)	47	2月14日	正信乗舟にて諸家の警衛を見て大森より上陸して帰宅せし海陸紀行、故郷へ送り申稿
59(60)	52		葛城老叟へ来簡
59(60)	53	2月	二月下旬よりの雑説 和歌 (有功卿 景山公 慎徳院様)
59(60)	58	2月29日	御城書御聞届
59(60)	64		勅願御祈禱之事
巻六十(61) 安政元年 (1854)			
甲寅之六 米船渡来之六 和歌狂詠狂詩川柳戯文			
60(61)	1		景山公 (徳川齊昭) 御歌初諸賢和歌、狂歌、川柳点
60(61)	4		あつさ物語を初戯言数十百首
巻六十一(62) 安政元年 (1854)			
甲寅之七 諸説、禁裏御所炎上、米船紀事之拾遺			
61(62)	1		長崎在留清商上稟和漢二文
61(62)	5	2月29日	二月二十九日長崎発、三月二十八日尾州着、伊藤圭介江来簡写
61(62)	6	4月6日	禁裏御所炎上 (詳述)
61(62)	23	4月25日	御目付永井岩之丞長崎御用発足
61(62)	23		筒井初忠接方之評并狂歌六首
61(62)	23		魯船出航、島原侯届
61(62)	24		下田取締井戸鶴殿初取扱
61(62)	25		本多越中守船井調練懸り遠藤但馬守御番方調練懸り
61(62)	26		井伊京都守護、大森羽田警衛御免
61(62)	26		阿波侯羽田大森警衛其余御城書
61(62)	26	4月9日	四月九、十一日異船見懸候旨浦賀表より夫々届
61(62)	28	4月12日	江戸来簡 (島木松五郎、吉田虎次郎 (松陰) 異船へ乗移、於下田被召捕、佐久間修理 (象山) 揚り屋入)
61(62)	30	4月18日	江川太郎左衛門、御鉄砲方兼帯被仰付
61(62)	31		都築金三郎下田奉行被仰付其余御城書
61(62)	32		筒井修理牛込屋敷にて焰硝合薬手過発火即死
61(62)	33		火薬之触
61(62)	33		相撲取へ銀被下
61(62)	34		北米利堅言語
61(62)	34		火消盤木常々之通りに復す
61(62)	35		細川越中守様御備場御入用合薬製方手過発火
61(62)	36		武備触
61(62)	37	5月11日	半蔵殿御暇帰尾 (木曾路)
61(62)	38	5月12日	来船二艘渡来注進
61(62)	40		於浦賀御打建鳳凰丸御軍船乗組人数并役割
61(62)	44	4月2日	八事山興正寺大日座下を堀、御軍用金棒黄金を得たという説
61(62)	48		京よりの来簡の写 (時評懐旧諸説)
61(62)	65	5月4日	筒井川路初御賞銀
61(62)	66	5月20日	紀州藩世禄 (減禄)
61(62)	67		赤坂御屋形御役向之通辞書写
61(62)	70	5月28日	鍋島黒田魯船渡来に付時服三十つゝ
61(62)	71	6月4日	浦賀奉行戸田外転其跡出役 (西丸御留守居被仰付)
61(62)	71	6月6日	米船三艘退帆届并触
61(62)	72	6月9日	浜御庭御警衛一同御賞
61(62)	74	6月15日	浦賀奉行松平伊予守座席
巻六十二(63) 安政元年 (1854)			
甲寅之八 諸説、米船紀事拾遺、火薬水車過失、海防二付江戸大坂商献金、英国船崎港渡来			
62(63)	1		伊王崎台場築立に付浜島侯御刀拝領
62(63)	1	6月17日	六月十七日黒船相見候旨浦賀奉行初夫々届
62(63)	4		合衆国ニウヨルク船渡来越後漂民勇之助護送
62(63)	10	6月13日	伊勢、伊賀、山城、大和大地震に付藤堂家より市谷同朋迄書簡、此時四日市格別大震
62(63)	11	7月3日	豆州馬場七右衛門来簡此度護送アメリカ商船一件
62(63)	11		応接方取引、了仙寺にて御馳走被下、異人より献上品被遣品等
62(63)	13	5月12日	松前より帰来アメリカ船下田へ来候時の評
62(63)	15		江戸町人上ヶ金、六月朔御呼出
62(63)	32		四谷の先柏木鳴子町火薬火通大変、火薬手過損所凶
62(63)	45	7月5日	水府公・公方様御対願、御軍制御改革一件
62(63)	46		日本史編集惣裁、青山量太郎 (延光)
62(63)	47		長崎医師より来簡
62(63)	48	7月11日	大船船印之触 (白地に日之丸幟)
62(63)	48	7月24日	御軍制改正之触兼懸り御役人
62(63)	49		(水府御城内彰考館と言、弘道館は三之丸にあり) 御城書雑説
62(63)	51	6月12日	箱館出火之届

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
62(63)	51		御台場拝見之説并図
62(63)	52		阿部勢州之臣退隱之詩
62(63)	54		水府公、御深考軍船
62(63)	55		水府公、御深考軍船、新艘之図
62(63)	59	7月17日	長崎来簡
62(63)	60	7月15日	尾州名古屋浦町乙吉二十二年前難船、英国船に助けられ唐国英国領へ漂着、通弁役の為渡来
62(63)	60		海外異話(漂流記例)、伊予国、肥後国…
62(63)	64		箕作便儒訳「ネーデルラントマガゼイン」本邦の難民記事
62(63)	65		亜墨竹枝、阿波井上春洋撰(尾州、久吉乙吉漂流記)
62(63)	66		訳官吉雄作之丞の話
62(63)	67	10月3日	町触(船乗等行方不明者に付)
62(63)	68		四谷御家節儉御庵中へ御直書写
62(63)	69	閏7月	長崎説
62(63)	72		江戸来簡下田へアメリカ船一艘、死人を載来候
62(63)	72		ペルリ懸引銀錢之事等
62(63)	74		細川家の美談(アメリカ船渡来に付軍用金等献上)
62(63)	75	7月27日	東武葛坡先生より来簡
62(63)	75		英船渡来国書持参、米船入津異人死骸載来
62(63)	75		風説書入手(唐国帝位、北京城圍攻)
62(63)	75		オロシヤ・トルコの合戦風説、香港新奉行のこと等
62(63)	76	8月24日	元勝田三雪家来当時長崎奉行水野筑後守家老よりの手紙
62(63)	78	8月29日	御目付堀織部函館奉行
62(63)	78		渡辺半蔵初万石以上并御列等へ被仰出夫々御備守千石以上寄合以下御守
62(63)	82	9月13日	房総沖へ異船一艘
62(63)	84	9月	尾州町触、村々へ触
62(63)	85	8月20日	黒田・鍋島之重臣御賞
62(63)	86		諸説(露船、英船長崎渡来)
62(63)	88		吉田虎次郎(松陰)送亜船書之写
62(63)	90		同人之徒御札

巻六十三(64) 安政元年(1854)

甲寅之九 諸説、魯船難波へ渡来、江戸講武所起敷、梵鐘御引上ノ口太政官符

63(64)	1		八月函館入津魯西亜船より函館奉行へ呈書和解
63(64)	2	10月14日	伊勢守殿御渡外国書簡受取之一件奉行開封方
63(64)	3	9月18日19日	三度飛脚会所より注進、大坂三度飛脚添状
63(64)	3	9月18日	京都飛脚所より申達候書付
63(64)	4	9月15日	紀州来簡(紀州沖に異国船渡来)
63(64)	5	9月19日	風説書
63(64)	7		大坂商家来簡(地震納り米穀下落、異国船ヲロシヤ船渡来等)
63(64)	9	9月18日	川口八六郎出書簡(異国船紀州沖に堂島米相場高値等)
63(64)	10	9月16日	大坂町触数通
63(64)	11	9月20日	大坂より京都へ来簡(ヲロシヤ船渡来、町方、御城代混雑)
63(64)	12	9月20日	京都茶屋手代来簡
63(64)	14	9月20日	京都町触四通
63(64)	15	9月20日	久我殿家来よりの書簡(鬼頭忠二郎への書状)
63(64)	15		大坂よりの出板の画図「おろしや国 大短冊」
63(64)	16	9月25日	井野口屋半左衛門差出候書付(異国船天保山辺迄)
63(64)	17	9月21日	大坂来簡
63(64)	18	9月22日	長浜屋書簡(異国船天保山入津、金相場他)
63(64)	19	9月23日	大坂来簡
63(64)	20	9月21日23日	紀州御達
63(64)	21	9月23日	大久保左近将監大坂へ登
63(64)	21	9月24日	紀州御達
63(64)	21		大坂表江差出候人数
63(64)	23		領主御届
63(64)	24		京都茶屋手代来簡
63(64)	24		彦根初人数
63(64)	26		おろしや船見聞記
63(64)	30		大坂詰某来簡并幸町御蔵屋敷答書
63(64)	32	10月1日	人別役達書
63(64)	33		演説書取
63(64)	34		大坂沖図
63(64)	35	10月5日	大坂詰支配勘定手紙并与力往復(成瀬九郎左衛門様、片岡喜平次様、川口八六郎様)
63(64)	38	10月11日	紀州御達
63(64)	39		諸侯諸届
63(64)	39		京都来簡
63(64)	41		御城書類

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
63(64)	43	10月12日	駿河沖異船渡来諸注進并略図
63(64)	43		駿河領主届
63(64)	61	12月3日	大垣藩士書簡
63(64)	62		田安一橋両卿に御内意
63(64)	62	12月20日	フランス船下田へ渡来三州田原漂流人有次郎、作蔵兩人召連護送直に帰帆
63(64)	63	12月12日	アメリカ条約取極、林、井戸、鶴殿下田行
63(64)	64		小田原より文通 (蒸気船二船下田湊へ)
63(64)	65		江戸来簡二通
63(64)	66		落首
63(64)	66	12月1日	長崎奉行下田奉行へ魯西亜船之儀御書付
63(64)	66	12月23日	蝦夷疆異之儀に付所司代衆に奉書、達書
63(64)	69	11月6日	内裏炎上之節御役人御賞
63(64)	69	10月晦日	地震に付勢州諸侯拝借、鶴殿御賞
63(64)	70		因州雲州庄内松代御台場警衛
63(64)	71	11月18日	若州之酒井郡山淀膳所笹山高槻京都警衛
63(64)	73	11月14日	伊勢殿初御台場へ付御賞賜
63(64)	74		勢州江州諸侯震災に付拝借
63(64)	74		講武所初発御談
63(64)	75	12月19日	米沢侯初御賞種々
63(64)	76		安政改元詔書宣命等
63(64)	79		巡見使之触
63(64)	80	12月15日	駿州諸侯志州鳥羽等震災拝借
63(64)	81	12月23日	学問触
63(64)	82		御城書種々
63(64)	83		紀州御達異船見請
63(64)	83		太政官符
63(64)	85		横浜米人横文字
63(64)	86	12月28日	神田多町より出火焼延来簡
63(64)	87		細川藩来状

巻六十四(65) 安政元年 (1854)

甲寅之十 大地震海嘯之上

64(65)	1		尾州大地震津波
64(65)	1		御城向之儀大破は無之
64(65)	1		本町みその御門を初壁大われ所々
64(65)	1		三之丸屋敷大破ハ無之、高橋河内守殿表長屋三分の一倒れ
64(65)	1		稻富四郎表構高堀損し中条熊吉殿表構米蔵瓦落
64(65)	1		佐野屋味噌蔵崩れ下男即死
64(65)	1		古渡川口屋大梁落
64(65)	1		御船蔵悉く損れ、御船故障なし
64(65)	2		広井御蔵破損棟大分あり
64(65)	2		建中寺石碑ころび御廟石燈籠ころぶ
64(65)	2		三之丸御宮御霊屋大燈籠ころぶ
64(65)	2		諸向石燈籠大かたころぶ
64(65)	2		新田向関戸の控所破損
64(65)	2		天白川切れ鳴海辺大騒動
64(65)	2		熱田伝馬町大破損
64(65)	3		浜御殿大損
64(65)	3		御本社故障なし
64(65)	3		八剣宮の手水鉢屋根倒れる
64(65)	3		上知竈社本御門拝殿の方へ倒れる
64(65)	4		西本願寺懸所本堂前白脚門損、鼓楼転落
64(65)	4		東本願寺対面所傾く
64(65)	4		木曾川端石垣土蔵流れしと
64(65)	4		七間町聖徳寺の門顛倒
64(65)	5		下御庭内損所 (一覽)
64(65)	6		御城下寺院損所 (一覽)
64(65)	8		御城下町之損所 (一覽)
64(65)	9		御船蔵損所 (一覽)
64(65)	9		熱田損所
64(65)	11	11月5日	鳴海道中奉行へ届
64(65)	11		御伝馬所風聞書
64(65)	12		御領分川々堤通并往還道橋御普請方取扱之損亡
64(65)	12		諸国諸説
64(65)	13		貝屋権左衛門より写
64(65)	15		東海道筋等被害
64(65)	19		大地震尾州数日之記
64(65)	32		三州大濱村より打越候人之口上

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
64(65)	33		茶屋手代書付
64(65)	33		名古屋町触
64(65)	34		江戸より来候書付
64(65)	36		大坂商家来状
64(65)	39		大坂詰支配勘定川口八六郎より申越候文通之写
64(65)	42		大垣藩士某書状之中略
64(65)	43		志摩国大地洪浪混雑記
64(65)	44		宿々より注進
64(65)	53		諸国諸侯状況 (広島、小倉、阿波、土佐)
64(65)	55		東武より或人に来る書簡之写
64(65)	56		摂津、河内、和泉、大和、紀州 大地震・大津波
64(65)	59		十一月十二日出東武よりの書簡抜萃
64(65)	62		或人之咄
64(65)	62		信州大地震并図

巻六十五(66) 安政元年 (1854)

甲寅之十一 大地震海嘯之下、魯船駿海沈没

65(66)	1		諸国地震津波
65(66)	2		魯西亜船駿河沈没
65(66)	15		大地震歴 (寛政～嘉永)
65(66)	16		阿州徳島巨儒来簡写
65(66)	24		交代寄合榊原越中守より申達候書付之写
65(66)	25		水野出羽守より申達候書付写
65(66)	26		諸国諸侯状況 (伊豆・駿河・遠江他)
65(66)	39		大和国
65(66)	40		伊勢国
65(66)	43		志摩国
65(66)	43		三河国
65(66)	46		遠江国
65(66)	50		駿河国
65(66)	54		近江国
65(66)	54		美濃国
65(66)	56		信濃国
65(66)	57		越前国
65(66)	57		播磨国
65(66)	58		備中国
65(66)	59		紀伊国
65(66)	61		讃岐国
65(66)	61		伊予国
65(66)	63		豊後国
65(66)	66		伊予西条
65(66)	66		勢州神戸
65(66)	68		紀州様御領分、紀州勢州浦村損失覚
65(66)	69		河内国土岐美濃守領分
65(66)	69		讃州播州京極佐渡守領分
65(66)	71		大目付筒井肥前守より備中守殿被仰聞候由諸向江
65(66)	73	11月27日	嘉永七甲寅年十一月廿七日安政と改元
65(66)	73	11月	十一月十二月之記
65(66)	75		大地震に付居城町在等破損に付拝借員数
65(66)	77		南北アメリカ図
65(66)	77		ヨーロッパ・アジア・アフリカ図
65(66)	78		地震火脈
65(66)	78		万国図説
65(66)	79		地震落書
65(66)	80		落書 (大地震厄払)
65(66)	81		大津絵うた
65(66)	83		大地しん大津絵ぶし
65(66)	84		いたごぶし

巻六十六(67) 安政2年 (1855)

乙卯之一 諸説

66(67)	1	1月2日	志州鳥羽沖、清商船難民一件
66(67)	12	1月9日	下田へ米国船一艘退帆
66(67)	13	1月26日	岡崎大樹寺本坊より出火
66(67)	14		御城書品々
66(67)	15		紀州御伺書勢州田曾浦清国商船
66(67)	17		講武場惣裁頭取初御役人初發
66(67)	18	1月27日	下田入津米国船婦人
66(67)	19		魯英仏都四国戦争之説

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
66(67)	20	1月28日	筒井水野川路岩瀬魯米初異船応接
66(67)	21	2月晦日	大久保家困人数用意届
66(67)	23	2月25日	尾州京町火事
66(67)	23		孝子孝女賞
66(67)	24	2月14日	三度米国船箱館沖相見候一件、松前家届
66(67)	25	2月21日	日向沖清国商船、秋月家届
66(67)	26	2月晦日	豆州戸田浦着船相見候由
66(67)	27	3月1日	米国船戸田滞留之魯人百五十人程為乗組二十五日出帆之旨
66(67)	28		寺院梵鐘差上公義触
66(67)	29		江戸大火
66(67)	30		江戸来簡雑説
66(67)	32		水戸老公禁庭江琵琶御献上等之来簡
66(67)	34		江戸御警衛尾州御人数一隊相増、大御番頭格より勤番にて隊長大御番之詰は相止、与頭二人江戸にて出来る
66(67)	35		箱館より越前敦賀へ来簡
66(67)	37		水戸老公琵琶御献上副表
66(67)	38	3月16日	異船相見候旨夫々届有
66(67)	39		秋月家より清国商船漂着届
66(67)	41		江戸来簡(米国婦人一件)
66(67)	41	2月3日	師崎村吉十郎船口上之覚
66(67)	42		御朱印(三月十五日、熱田泊)
66(67)	42		勝麟太郎話
66(67)	43	3月18日	大久保達、他国船渡来、直に帆去
66(67)	44		江戸来簡(水公父子御間之一件)
66(67)	46		宗対州へ朝鮮渡来付二千両拝借
66(67)	46	4月2日	沼津達(魯人製船に乗組帰帆)
66(67)	47	4月3日	大久保達(米国船二艘碇泊)
66(67)	47	4月4日	松平周防守石炭献上
66(67)	47	3月19日	大村家より異船届
66(67)	48	4月6日	元吉原七里之者達(豆州戸田浦異船)
66(67)	48		秋月家達(清国商船修復出来帰帆)
66(67)	49		松浦家達(英船入津去秋渡来之船之届)
66(67)	49		紀州、清国商船帰帆之達
66(67)	49		江戸、御遠馬之様子来簡
66(67)	51	4月7日	水戸城内笠原において追鳥狩甲冑調練
66(67)	57	3月21日	水戸前中納言齊昭卿御歌
66(67)	58		景山公御詠

巻六十七(68) 安政2年(1855)

乙卯之二 諸説、尾州水災、蒸気船伝聞

67(68)	1	4月12日	水野出羽守より沼津侯米国船二艘帰帆達
67(68)	1	4月14日	松平美濃守より御目付遠山金四郎へ届(於長崎異国船渡来)
67(68)	2	4月20日	水戸殿領分異船渡来上陸之節之御取計向
67(68)	4	4月27日	江戸来簡(薩州新艘之説)
67(68)	5	4月	大村侯異国船達数通松浦侯黒田侯日数通英仏船也
67(68)	8		講武場之事御書付
67(68)	9		松浦侯より仏国船帰帆達
67(68)	9	5月13日	沼津侯(水野出羽守)より滞留之魯人出帆
67(68)	9	4月28日	尾城御初幟
67(68)	10	3月21日	薩州侯達米国人琉球にて手強之懸引之旨
67(68)	12		牛込変成男子之一件
67(68)	17		西洋医書リス抄書、鬼胎篇、第三
67(68)	19	5月	焚鐘の事日光御門主より勢州殿へ被仰入趣
67(68)	21	5月13日	箱館之説
67(68)	22		江戸来簡異説
67(68)	22		幕府寄合高木勘七郎知行所遠州沖へ流着品図
67(68)	23		御台場并大砲鑄立に付伊勢守殿初拝領物
67(68)	26	5月18日	於長崎仏国船帰帆黒田侯追々達
67(68)	26		日光御門主より景山公へ蝦夷産数珠進呈の折の歌
67(68)	28	5月26日	下田湊へ異国船(米船)一艘碇泊届
67(68)	28		御勝手より下田表江為御用罷越候被下物
67(68)	29	5月晦日	石川内蔵允江戸定詰隊長に成る
67(68)	29	6月3日	米国船戸田村へ入津同日魯人不残乗組せ出帆之旨沼津より達
67(68)	29		五月晦日、下田之説
67(68)	31	6月7日	江戸来簡(西洋学長崎にて蘭人伝習之様子)
67(68)	32	6月14日	紀州御達、清商船長崎へ送り渡
67(68)	32	6月20日	伊藤修理殿、清商へ薪水遣候達
67(68)	33	6月26日	震災之諸侯拝借全
67(68)	36		相州豊田村馬島天心場書状(異船渡来)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
67(68)	37	7月1日	御老若浜御庭砲術水練見分
67(68)	37	7月2日	西洋館銃陣調練之触
67(68)	37		或人来簡(蘭人ケール筒六千挺献上、蒸気船之事等二通)
67(68)	40	6月3日	琉球国英仏米三国条約日本に附候様御書付
67(68)	41		馬揃ふし
67(68)	42	7月13日	白鳥御材木木挽小屋出火、御材木焼失
67(68)	43	6月10日	松浦家達(蘭蒸気船御詔之品入津)
67(68)	44		石州浜田野鼠并仙台も同断
67(68)	49		一話一言、南畝先生随筆
67(68)	49		天保四年、尾州領加子母村鼠ノ件
67(68)	53	6月28日	松前出船人風聞書取
67(68)	54	7月29日	北船風聞書簡
67(68)	54		福井より足輕使にて通達
67(68)	55	7月26日	尾州大雨洪水被害
67(68)	57		大代官地方下吏巡視之説(出水被害)(附図あり)
67(68)	60		勝麟太郎蒸気船伝習
巻六十八(69) 安政2年(1855)			
乙卯之三 諸説			
68(69)	1	8月4日	和泉殿伊賀殿御役御免帝鑑之間
68(69)	1	8月9日	跡部甲斐守、土岐丹波守海岸懸り講武総裁之儀
68(69)	2	8月13日	松平薩摩守、大船昇平丸一艘献上
68(69)	2	8月8日	会沢恒蔵、斎藤徳蔵、箕作阮甫、市川一学、黒河内十大夫御目見
68(69)	3	8月7日	伊勢守殿より御城附江被相渡候書付(御政務之儀)
68(69)	4	8月6日	勝麟太郎小十人組被仰付
68(69)	4		勝麟太郎、榊原鏡次郎、江川太郎左衛門、御骨折に付被下物
68(69)	4	7月24日	黒田侯・松浦侯達(長崎へ異国船一艘渡来)
68(69)	4	8月18日	黒田侯・松浦侯達(長崎へ異国船一艘渡来)
68(69)	5		水老公、隔日登城、年々五千俵つつ被進、但御辞退
68(69)	6	8月27日	公方様吹上にて馬場上覽并図
68(69)	11		京師高田勘兵衛来簡(禁裏造営、御遷幸、加茂川大浚、山陵御取調之儀)
68(69)	13		蒸気船伝習之儀、惣裁御目付永井岩之丞江御書付
68(69)	14		昇平丸船中より勝麟太郎書簡
68(69)	17	8月14日	高須江着原田豊彦より之書状、井上左太夫葬礼虚説
68(69)	20	8月20日	大風の手簡(尾州)被害状況詳述
68(69)	25	8月24日	内裏御上棟之記(詳述)
68(69)	29	9月6日	御城帳(異国船渡来)
68(69)	29	9月7日	御城帳(異国船渡来)
68(69)	30	8月晦日	古賀謹一郎、二之丸御留守居、洋学所頭取被仰付
68(69)	30		川路左衛門尉京都御普請御用罷越被下物
68(69)	39		江戸来簡抜書(下田アメリカ交易盛ん)
68(69)	31		尾州知多郡平田村水主栄太郎、庄吉、下田港にて難船、魯西亜船に被助
68(69)	32	9月26日	御城帳(長崎沖滞之英船去る)
68(69)	32		九月十八日、二十六日、吹上上覽所に被成、中奥御小性、同御番、寄合之面々馬揃上覽
68(69)	32		九月二十九日、横浜大船御製造見分、御老若御側衆他
68(69)	33	8月24日	長崎沖江異国船二艘渡来
68(69)	33	9月29日	七里之者届(二十八日暮六ツ頃大地震)
68(69)	34	9月12日	稲富砲術御覧
68(69)	34	9月28日	西洋砲御覧
68(69)	34	9月28日	船軍御覧、比日地震あり
68(69)	34	10月7日	山田河原にて大砲組入御備調、隊長渡辺新左衛門殿、大御番阿部石見殿、横井三太夫殿、御覧
68(69)	34		或人の咄(御器所焼場三昧へ葬送に行し人、新川橋辺より詠候へは地より金色の気一筋立つ)
68(69)	34		甲冑馬揃追々上覽、八月二十七日御目付遠山金四郎上覽
68(69)	35		京師和田金三郎来簡(御所御屏風之画)
68(69)	35		大丸本店烏丸太町下ル所也
68(69)	35		川路左衛門尉の歌
68(69)	35		紀州長沢伴雄(加茂川集撰者)国学者御咎中
68(69)	36		薩州より献上の昇平丸遠州灘にて破損
68(69)	37		紅毛別段風説書之内
68(69)	38	9月27日	市谷御記(立花寛次郎改易)
68(69)	38		明倫堂典籍、吉田東吉郎祖父隠居
68(69)	39	10月9日	玄猪御祝の時
68(69)	40	10月10日	上田帯刀病氣に付御台場砲術研究方御免被遊候、格別の骨折に付銀被下
68(69)	40	10月24日	堯之助様御卒去
68(69)	41	9月27日	阿部伊勢守殿御渡書付(梵鐘、大砲小銃に可鑄換旨立儀)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
68(69)	42	5月晦日	大目付柳生播磨守より伊勢守殿被申渡、諸向への触(武備之儀)
68(69)	43	10月15日	蝦夷地在住之触
68(69)	44		来簡箱館之説
68(69)	46		尾州虎之間脇御廊下上書箱之図
68(69)	47		野馬台詩
68(69)	48		伊豆、馬場伝三郎、市谷へ来簡(米商船入港)
68(69)	49		大内(裏)御造営人数等之記及紫宸殿の図、迂舞御行列日次第

巻六十九(70) 安政2年(1855)

乙卯之四 江戸大地震ノ上 附東海道武州他

69(70)	1		江戸大地震之諸説上、附武州地東海道駅々
69(70)	1	9月28日	中納言様熱田沖において船軍術等御覧、夕六時以前強地震
69(70)	2	10月2日	十月三日出一文字、五日夕着之略(二日、江戸大地震)
69(70)	6	10月3日	当御屋形并廻町屋敷損所見分之趣申上候書付(川田久保并築地屋敷・戸山屋敷損所)
69(70)	11	10月3日	一文字之来簡(下町辺出火倒壊、御城内大破損)
69(70)	12		倒壊長屋・高塀、出火屋敷一覽
69(70)	14	10月8日	小嶋権兵衛届書二通
69(70)	16	10月3日	江戸表御中間頭より通用之写(尾藩屋敷・御本丸被害)
69(70)	17		火元屋敷一覽
69(70)	18		町人状之写他(江戸城下被害)
69(70)	34	10月7日	又一説簡条書(各所死者数)
69(70)	35	10月12日	十月十二日出、書簡数通
69(70)	39	10月17日	十月十七日来簡
69(70)	42	10月11日	十月十一日 大地震にて町々潰家相成其上焼失場所左之通
69(70)	52		地震に付市中町々変死人惣人数
69(70)	54		地震にてくずれたる土蔵数
69(70)	55	10月27日	東叡山浄名院徳充師来簡写
69(70)	56	10月2日	地震類焼場所明細書之写并街道筋近郷聞書
69(70)	63		地震、屋敷被害等
69(70)	70		箱根宿七里之者より届、右懸文之写
69(70)	71		橋本良次郎といふ人江来簡之写
69(70)	72		程ヶ谷七里之者より届二通
69(70)	附		附図、十月二日大地震

巻七十(71) 安政2年(1855)

乙卯之五 江戸大地震之下

70(71)	1		江戸大地震下
70(71)	1		御城書御触一切
70(71)	1		諸家破損之記

巻七十一(72) 安政2年(1855)

乙卯六 諸雑記、地震戯言

71(72)	1		尾州節儉
71(72)	1	12月17日	紀州医伊藤貫斎、下田に御用呼
71(72)	1	12月15日	刑部卿様紀州様、宰相、加賀殿、中納言被任上ヶ金并御城内昇格
71(72)	4	11月2日	亜墨利加船下田港退帆
71(72)	4	11月11日	亜墨利加商船一艘下田港入港
71(72)	4		薩州侯大船献上に付御刀脇差拝領
71(72)	5		尾州にて千村十郎右衛門折々登場
71(72)	5		尾州供連初衣服等節儉
71(72)	6		御目付演説通辞
71(72)	8		江戸大地震(落書、落嘶、落首、見立)戯言
71(72)	26		中興漢学名家録(番付表)(古今学者番附)
71(72)	26		浪華風流月旦評名橋長短録
71(72)	36		天保三十六家絶句人名
71(72)	38		嘉永二十五家絶句人名
71(72)	39		大筒関町御定
71(72)	41		享和の頃御立合の御筒
71(72)	42		当今新鑄之御筒
71(72)	附		相州小田原台場之図

巻七十二(73) 安政2年(1855)

乙卯之七 尾州御役々復古御改革

72(73)			尾州御役人之寛政に復、或は時勢に依り御改革(役替)
	1	2月16日	物頭以上之輩、一役一人ツツ
	4	2月16日	替目 御改革役割・御免
	22	2月26日	替目 御改革役割・御免
	26	3月8日	替目 御改革役割・御免

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
72(73)	38		落書
巻七十三(74) 安政3年 (1856)			
安政三丙辰之一			
73(74)	1		葛坡先生年頭初便
73(74)	2	1月5日	大目付堀伊豆守より触 (異国船渡来に付武備、地震、禁裏普請等莫大入用に付五百石以上面々に献納に不及旨)
73(74)	3	1月3日	阿部伊勢守殿拝領
73(74)		1月4日	寛之助様御卒去
73(74)			江戸来簡
73(74)			尾京悪口、本町津国屋三右門父、唐本屋尾京
73(74)	4	1月23日	寺社御礼、同日夕奥にて御詣初
73(74)		1月晦日	先般之震災に付当秋迄御参府猶予
73(74)		2月11日	桑原金十郎罪科
73(74)	5		尾州小役人の狂歌
73(74)		2月17日	江戸来簡 (玉川上水河岸へ夥敷桜植樹)
73(74)		2月15日	下谷出火
73(74)	7	1月11日	高年者御祝
73(74)	8		異船并関東地震に付熱田大宮にて御祈祷
73(74)			浦賀火災之届
73(74)	9	2月9日	御老若三奉行大目付御目付……御船見分
73(74)		2月12日	伊藤圭介、長崎雑説 (図并詳述)
73(74)	17		蟬居大人より上田仲敏へ来簡 (長崎話)
73(74)	22		野馬台詩数首
73(74)	26		講武所御用向主役役替
73(74)		2月15日	御目付岡部駿河守御目見被下物
73(74)			江戸来簡 (鼠山訓練の事、薩州家の事、おもかひ鑑にて乗切の事)
73(74)		2月3日	長崎沖へ北米船渡来
73(74)	27	2月17日	豆州下田港に米船一艘入津碇泊
73(74)		2月27日	大船製造に付紀州様より楠材献上
73(74)			江戸来簡 (粕谷弥右衛門の事)
73(74)	28	2月7日	勝麟太郎長崎より来簡
73(74)	30	3月4日	御老中方若年寄衆、スクウネル御船見分
73(74)		3月12日	御老中方若年寄衆他、駒場野にて下曾根金三郎銃隊訓練見分
73(74)	32		江戸来簡 (三月十六日小金井筋へ遠馬の事、北米船下田へ入津の事、馬上印の事)
73(74)	33		江戸来簡 (三月二十五日立花出雲守殿石炭献上の事、三月二十六日御老若登城、馬場訓練見分等)
73(74)	34		葉栗郡御用医師長谷川健斎、長崎より上書
73(74)	36		京都国学者の和文
73(74)			当今御製
73(74)	37		講武所規則覚書及御役人師範役等
73(74)	43		垂墨利加言語
73(74)	44		京町宗論之狂詠
73(74)			角力取組番附 (三月二十二日江戸来簡)
73(74)	47		野女体詩
73(74)	48		内裏炎上、信州大地震物笑番附
73(74)	49		東武野馬台詩順読
73(74)	50		吉原竹枝詞
73(74)	56	5月10日	唐国風聞書 (長崎柴田某より伊藤圭介に來名、五月十日出、六月十日着)
73(74)	58	2月27日	江戸来簡摘要 (シーボルトの事、グウェールの儀、稻富流の事、綿服等の事等)
73(74)	60	12月	佐久間岡太郎、蝦夷地 (探索) 在住之儀、川柳
73(74)	62		江戸来簡 (西洋伝足、訓練の事等)
73(74)	63		来簡 (騎射訓練の事、長崎沖へ異船の事)
73(74)	64		浅草の様子
73(74)			粕谷弥右衛門、西洋炮修業
73(74)	65		東蝦夷地仙台家に御預けの御内意
73(74)			西蝦夷地佐竹右京大夫に御預けの御内意
73(74)	66		弁慶橋住居医師嶋立甫セーミアに委し
73(74)	67		網代端反笠、馬上之印之儀
73(74)	68		穢多之金子之儀 (尾州にて)
73(74)			下曾根訓練之節の物語
73(74)	69		亜人日影鏡を以黒川嘉兵衛父子を写
73(74)	70	4月7日	江戸来簡 (景山様逆上にて言行不揃)
73(74)		3月26日	江戸来簡 (芝出火)
73(74)			成田不動深川八幡にて開扉、繁詣
73(74)	71		銃陣隊

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
73(74)	73		香山栄左衛門組合、御見置調練姓名帳
73(74)	75	4月18日	御老中方初鎌倉遠馬
73(74)	76		水老公のこと、水戸騒動のこと等

巻七十四(75) 安政3年 (1856)

安政三丙辰之二

74(75)	1		江戸来簡 (73巻69丁と重複)
74(75)	3		水野惣右衛門五ヶ年知多郡河和住
74(75)		4月5日	御目付触 (尾州倭約ヶ条委細風儀一変)
74(75)	6	2月28日	公方様御年若之儀、御縁組可被遊旨、尾州江御内意
74(75)	7	2月28日	三ヶ年鉄炮歩附帳差出後不行届有之
74(75)	8		四月七日出江戸来簡 (73巻70丁に同じ)
74(75)	9		化石の法
74(75)	10		九段下蕃書調所御取立古賀謹一郎惣裁組頭役勤番咄役教授役等被仰付
74(75)	14	4月22日	成瀬小吉殿御用向見習
74(75)			津嶋天王新田金左衛門の島の麦の穂に穂の咲きけるためし
74(75)			尾医番附
74(75)	15		尾士在勤老年人之番附
74(75)	16		去卯年の捨遺 (内裡造営の木の道の工)
74(75)	17		水藩結城寅寿并与党太田丹波守初夫々御仕置
74(75)	26		新宮水野替地之儀
74(75)	27		於深川八幡成田不動開帳之節団粉売大女三姉妹
74(75)	28		尾州橘町の板屋与兵衛の召仕、忠勤者御賞
74(75)	31		傾城が窪調練の図
74(75)	33		諸家西洋伝銃隊昌盛之記、香山栄左衛門組合、御見置調練姓名帳
74(75)	40	4月25日	講武所発会
74(75)	41		講武所御創建之御用勤被下物
74(75)	45		江戸来簡 (講武所の噂)
74(75)			君沢形御船の唱并試乗之一件
74(75)	46		異国船并関東地震に付禁裏より熱田大宮において五月十一日~十七日之間祈禱
74(75)			琉球国へ仏蘭西船渡来
74(75)	47	6月7日	箱館奉行竹内下野守被下物
74(75)	48		江戸来簡 (勝麟太郎修行中)
74(75)			蕃書調所御聞之触書
74(75)	49		江戸来簡 (熱田大宮へ水府大日本史御奉納祭文)
74(75)	50	6月27日	江戸来簡 (下野下総不時候凶作)
74(75)			新金式分判通用触
74(75)			京都来簡 (関白職御交替御模様)
74(75)	51		擬論天下緇徒文、羽倉用九
74(75)	52		江戸来簡 (蝦夷地の体)
74(75)			仙台藩士、尾州明倫堂聖堂参詣の詩

巻七十五(76) 安政3年 (1856)

安政三丙辰之三 諸雑説

75(76)	1		相州照ヶ崎台場車仕掛大砲之図
75(76)	3		鎌倉片瀬台場
75(76)	5		海岸台場砲数覚
75(76)	7		浦賀御備御軍艦鳳凰丸
75(76)	9	7月9日	江戸来状 (信州暴風、蝦夷地動静、米国人上陸、長崎仏国人渡来等)
75(76)	10		東武鱸子来簡七夕附之抄 (小石川辺空中奇談雲中行列)
75(76)	11	3月	加賀守家来内密申聞候書付 (加賀中納言官名御取扱の儀、見延山天蓋の件)
75(76)	14		江戸来簡二通之略 (水練稽古之輩の件、勝麟太郎の件)
75(76)	15	7月5日	京都来簡 (加茂川浚)
75(76)	16		加茂川浚之御触
75(76)	24		蕃書調所御取定 (所蔵蕃書原書書目差出候様)
75(76)			六月二十八日より式分判通用初
75(76)			六月二十七日出江戸来簡 (異常天候、凶作、米相場、西洋銃陣流行他)
75(76)	25	6月27日	水戸様方公辺より斬罪被仰付
75(76)		6月25日	御留守居初役人篤姫御方御婚姻取扱御用方被仰付
75(76)		7月2日	蕃書取調所御取建に付触
75(76)		7月7日	篤姫御広敷江御入之儀
75(76)		7月10日	土屋采女正、震災に付拝借金被仰付
75(76)	26	7月10日	上有知御代官支配所雷雨被害状況
75(76)	27		尾州洪水被害
75(76)	28		江戸錦綿 (九州肥後熊本産三兄弟大女)
75(76)	29		京都事 (四月十四日篤姫御方・六月二十九日鷹司様御儀・九条左府様御儀)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
75(76)	30	7月25日	於御夜居之間、御書院番近松彦之進兵書講釈
75(76)	31	6月27日	琉球アシフト海岸江近々異船入津届
75(76)	32	8月7日	江戸書簡(勝麟太郎修行の件、朝鮮釜山浦へ異船乗入)
75(76)	33		枇杷大橋、新川橋車留の件
75(76)	34	7月14日	水戸殿製造大船御船号旭日丸
75(76)		7月22日	豆州下田湊江アメリカ蒸気船到来
75(76)	35	7月27日	江戸来簡三通(下田湊へ入津測量の儀、亜国蒸気軍艦、蝦夷地御開之儀)
75(76)	37	7月28日	備前守達(御代替に付朝鮮通信使来聘の儀)
75(76)		7月29日	脇坂淡路守震災大破之趣、拝借金被仰付
75(76)	38	8月2日	長崎沖へ異船渡来の届
75(76)			水戸廿一様卒去
75(76)			或人よりの手簡
75(76)	40		蒸気船運用伝習御骨折に付被下物
75(76)		8月12日	南部美濃守震災御届
75(76)	41	8月13日	阿蘭陀船長崎入津達
75(76)	42		阿蘭陀国王蒸気船献貢に付御挨拶品目
75(76)	44		朝鮮通信使来聘御用懸
75(76)	46	9月1日	御厩御覧所出格子へ金毘羅御札と金の御幣はさみ込み
75(76)	48	8月12日	豆州下田湊江異国船渡来、御固出張人数引取
75(76)	50		御軍制御改正之儀に付達
75(76)	51		亜米利加官吏上陸止宿之儀
75(76)	52		京都来簡(長坂翁へ高島勘兵衛より二便) (異国船物語、加茂川浚、九条関白、長崎和蘭船等)
75(76)	55	9月23日	尾州浅井新次郎のこと
75(76)	56		尾州御城御張出し(落書、図)

巻七十六(77) 安政3年(1856)

丙辰之四 江戸及海道大風災

76(77)	1	8月26日	江戸大風委細
76(77)	37	9月12日	東武来簡(八月、於浦賀水主格別に相働候)
76(77)	43	7月23日	奥州八戸地震津波度々、破損所并損亡高
76(77)	46		東海道筋被害届

巻七十七(78) 安政3年(1856)

丙辰之五 諸雑説

77(78)	1		巴麻油焼石炭功験書
77(78)	3		茶師松尾多三郎話(英船狡猾之挙動)
77(78)	4	10月7日	江戸来簡(米船下田入津)
77(78)	5		伊勢守より海防懸り御役人江御内談(蒸気船運用其外伝習のこと)
77(78)		10月	尾州玄猪御祝之儀御省略
77(78)	6	10月3日	水野土佐守より丹鶴叢書献上
77(78)		10月11日	質素儉約筋之儀被仰出
77(78)	7	10月12日	東簡(蘭船下田へ入津、蝦夷地御預り地の件、川柳)
77(78)	8	10月18日	堀田備中守殿外国御用向海防御用向被仰付
77(78)			十一日より十六・七日、下田へ異船渡来の由
77(78)	10	10月6日	江戸来簡(下田之応接書、温古堂持参)
77(78)	11		勝麟太郎の書簡(異船見聞事情委細)
77(78)	16		尾州熱田新屋頭町白木屋治助召仕すゑ忠勤御賞
77(78)	18	10月27日	江戸書簡
77(78)	19	10月25日	江戸鼠山において西洋銃陣調練、老中若年寄等見聞(図)
77(78)	21		下田沖合魯西亜船二艘、三嶋詰七里之者届
77(78)		11月7日	蘭船帰帆、松浦届
77(78)	22	11月5日	公方様、講武所劔術・鎗術・騎戦等上覧被下物
77(78)	23		砲術師家江申渡書付
77(78)	24		三嶋書簡抄(異人下田湊渡来、下田之図)
77(78)	26	11月11日	篤君御方御本丸御入興 (跡部甲斐池田播磨) 諸色潤沢御用取扱且貿易御用被仰付
77(78)	27	11月19日	線姫様御逝去御諡号
77(78)		11月23日	箱館奉行河津三郎太郎被下物
77(78)	28	11月28日	震災に付立花飛驒守拝借被仰付
77(78)	29		夫々官位昇進叙任
77(78)	31		御老中御刀拝領
77(78)		12月25日	水戸前中納言様より破雅集一部差上
77(78)	32		礼服之儀地震之以前へ復し平常専儉約達
77(78)	33		蕃書調所規則覚書
77(78)	35		利姫様御入興之記
77(78)	44	12月29日	御役替
77(78)	45		尾土芸子遊之数人御札

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
77(78)	46		上納物未納御糺
77(78)	47		鳴海宿山田屋新七下女まつ奇特之事、鳥目被下
77(78)			南部(八戸)侯地震破損達

巻七十八(79) 安政3年(1856)

丙辰之六 尾州御勝手御切替御仕法定 緘訛丙辰戯言著謨久礼附			
78(79)	1		御勝手御仕法立(貼紙、安政三年七月尾州藩財政整理)
78(79)			御拝領石高用途別配分
78(79)	14		惣御借財大法積書
78(79)		8月6日	二女子村本願寺宗祐正寺男子連れ去り、狐狸の仕業にや
78(79)			大雷落所
78(79)	20		御借財割当高歩合
78(79)			諸役仰付、俸禄加増
78(79)	22		御改革所において町代共へ申渡
78(79)	24		ちよぼくれ

巻七十九(80) 安政4年(1857)

安政四丁巳之一			
79(80)	1	1月9日	正月九日御発駕、御風邪、十一日に延
79(80)			去辰御参府地震にて延引
79(80)	2	2月2日	尾州御糺(収納米不正)
79(80)	3	2月1日	御山之内焼失凶
79(80)	5	2月4日	尾州御糺(不所業、改易・流罪)
79(80)	7		下田湊江異国船一艘渡来、七里之者届
79(80)			松平薩摩守大廊下下之部屋入
79(80)	8		小牧往還筋にて人切りありとの風説
79(80)	9		水府刀鍛冶師鈴木宗右衛門正光書付
79(80)	13	2月18日	下田湊へ異国船二艘渡来、御固人数出張の風聞
79(80)	14		京都来簡
79(80)	15		和歌、岡御料人江、平寿拝
79(80)	16		和蘭領事官、英国人唐人闘争評判記申上
79(80)	17		公義おみて婚礼、落首
79(80)	18		落書(風邪流行)
79(80)	21	3月14日	枇杷島村太助娘ざん奇特之至御賞
79(80)	22		名古屋村より枇杷島村悪党徘徊につき触
79(80)	23	1月29日	勝隣太郎長崎より書簡
79(80)	25		黄花園(上田仲敏)江喜多山佐吉長崎より書簡
79(80)	28		儉約筋之儀
79(80)	30		異国船渡来之節、城内勤の者へ雑用銀被下
79(80)			異国船渡来之節警衛方へ
79(80)	32		付知村護山神社祭文
79(80)	34		蝦夷米禁裏伊勢日光御献進
79(80)			江戸来簡
79(80)	35		四条橋渡り初
79(80)	36		本所松倉町名主又兵衛ら酒宴にて酔狂不埒、お咎め
79(80)	37		濃州芝原北方、狐夢告
79(80)			江戸来状(浅草戯場にて細川の家中役者を切る)
79(80)	39	4月12日	御城帳
79(80)	40	5月11日	紀伊殿手船君沢形船印(達)
79(80)	42		宸筆拝写
79(80)	43		江戸来簡(天候の事、諸所開扉回向院繁昌、真田侯鉄砲反射炉にて鑄造、大久保青山辺押込盗賊、於大森出張打方試等)
79(80)	45		落書
79(80)	47	5月22日	江戸来簡(誓月院の賤卑盗出し隠、小菅庄次郎不勝手、凶会日連続、ほうろく入調練見物、亜墨利加使節江戸登城之儀、米価騰貴、シーボルト落胤の少女奇談)
79(80)	49		江戸来簡
79(80)		5月24日	風来六部集(著者平賀源内)引用
79(80)	51	5月7日	江戸簡(四谷長唄芸者妹殺害の事、結城虎寿一件後日譚、桑田玄斎近頃種痘にて大繁昌、長崎より帰侯太鼓上手)
79(80)	53		端午、尾府総見寺において画工麻谷の八十初度の賀会書画展観
79(80)	54	閏5月7日	箱館通宝鑄立
79(80)		5月9日	築地講武所構内において御軍艦教授所御開(書付写)
79(80)	55		安政二年八月十日御詠進、新内裏清凉殿障子和歌

巻八十(81) 安政4年(1857)

安政四丁巳之二			
80(81)	1		熱田へ大日本史御奉納大宮月祭文
80(81)	2		江大城御金蔵盗賊御仕置

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
80(81)	7		大新板、時務策ちよぼくれぶし
80(81)	11		尾州入水
80(81)	14	閏5月24日	通辞志筑辰一郎下田より帰崎熱田にて咄
80(81)	17	閏5月29日	忠勤奇特者鳥目被下
80(81)	20		禁裏御造営に付大坂町人共御用金上納之記
80(81)	21		江戸大食写
80(81)	23		阿部様、福山侍従引籠、重病
80(81)			米価騰貴
80(81)			老中内藤紀伊守殿急病
80(81)	24		下田港に逗留のアメリカ人同所の妓に感溺
80(81)			地震
80(81)			松本良順他旗本御家人之内十六人伝習のため長崎へ発足
80(81)			爪哇留学の事、評決ならず
80(81)	25		駿相信洪水、山抜等
80(81)	30	閏5月	銀札御引替触
80(81)			落首
80(81)		6月15日	大御番頭九鬼式部少輔病気の為御役御免
80(81)	31	6月25日	京都来簡抄(落雷、景樹社中追詠)
80(81)	33		落書
80(81)			見立(献金見立相撲)
80(81)	36	閏5月11日	大坂商家よりの来簡(大坂下地御霊社内遷宮のこと)
80(81)	37		見立(御遷宮、猿田彦、正遷宮踊見立)
80(81)	38		加賀国白山に両頭の鳥
80(81)	39	6月26日	出羽洪水、戸沢公達
80(81)			築地講武所内軍艦操練教授所御開、稽古、触
80(81)		7月14日	知多郡水入(委細)
80(81)	46	7月	西郷家一件に付御馬廻組大田甚大夫御糺
80(81)	53		虫鳥獸之考(連歌)

巻八十一(82) 安政4年(1857)

安政四丁巳三

81(82)	2		万葉集略解
81(82)	10		夜祭、謡曲
81(82)	12		世上風評物ハ附
81(82)	14	5月	越中富山の風説、富田刑部の事
81(82)	15	8月上	江戸来簡(長崎へ和蘭船八艘渡来内一艘着岸、六月二十七日~七月二日播州赤穂大風雨被容甚大、井上信濃守於下田応接之儀、亜墨利加官使江戸参府之儀等)
81(82)			水老公海防御用并御軍制御改正御用御免、御脇差御手自御拝領
81(82)	16		御城書類
81(82)	17		米国官吏江戸参上拜礼御調御談
81(82)	19		播州竜野脇坂領大風雨出水届
81(82)			經学心懸之者上聴触
81(82)	20		来簡米国官吏之評
81(82)	22		尾州住居鍵屋八郎兵衛水俣へ御抱
81(82)	23		窪田清音随筆 ほうろく調練之記
81(82)	27		米国官吏国書持参江戸参上、御目見、触、凶
81(82)	30		水戸老公五千俵御辞退
81(82)	31	8月27日	朝鮮通信使来聘に付宗対州二万兩被下
81(82)		8月22日	江戸来簡数通(米国官吏参上の件)
81(82)	35	9月2日	里尼学校の訳本
81(82)		8月29日	牛込原町出火
81(82)	36	9月8日	熱田問屋より鍋島飛脚話申達
81(82)	37		紀州蘭医伊藤貫斎御目見
81(82)			禁裏御所向御造営に付紀州様より献木
81(82)		8月28日	御側衆本郷丹後守御加増、若年寄被仰付
81(82)	38	9月1日	(蝦夷地赴任)上原友三郎、戸田鉄五郎御目見
81(82)			紀州蘭医伊藤貫斎扇子一箱献上御目見
81(82)		9月3日	御目付岡部駿河守御軍艦御用取扱
81(82)			大坂御台場之凶
81(82)	40		米国人之鉄丸(凶)
81(82)	42		公辺御役人役者見立
81(82)	44		尾州農商奇特者賞賜三条
81(82)	49		ほうろく調練番附
81(82)	51		江戸来簡之内(大坂、伏見、大津、草津、大風雨)
81(82)	52		藤子来簡
81(82)	53		亜墨利加人望の品
81(82)	54		市谷触(師弟非常出殿)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
81(82)	55		御城書数々(魯船蘭船渡来達、横浜製造之御船の事、牧野備前守他加判御免溜詰之格)
81(82)	58	9月12日	来簡(魯船長崎表へ「ストームマシネ」の原書、杉田玄瑞訳「フヨルクス・ゲーネス・エン・ヘールキユンデ」二冊刊行、桂川ゾーツハルマ四編迄落成、米人登城)
81(82)	60		公義御金蔵盗人当春御仕置之書付
81(82)	61	9月26日	江戸来簡(佐久間、福富蝦夷在住願書惣写)
81(82)	70	10月9日	渡辺兵庫入道殿逼塞

巻八十二(83) 安政4年(1857)

丁巳四 米国官吏 ハルリス渡来一件

82(83)	1	7月19日	合衆国コンシュル差出書簡和解四通
82(83)	5	7月21日	応接
82(83)	7	7月22日	応接
82(83)	12	7月24日	御目付岩瀬修理米国御用懸被仰渡書
82(83)	13	7月24日	応接之記
82(83)	29		備中守殿御書付
82(83)			御老中連署米国官吏に御返翰
82(83)	30		同時下田奉行に御書付
82(83)	31		閏五月米国官吏に及引合井上信濃守帰府申上書付
82(83)	34	7月7日	備中守殿御書付
82(83)	35	6月下	下田奉行と米国官吏条約書
82(83)	37	7月2日	長崎箱館両奉行に御書付、係米国条約
82(83)	38	6月29日	下田奉行に御口達二通
82(83)	39	7月2日	下田奉行に御書付及左衛門尉に御渡物
82(83)	41	7月11日	下田奉行に進達書
82(83)	42	7月8日	応接
82(83)	51	7月9日	応接
82(83)	57	7月12日	下田奉行進達書
82(83)	58	7月15日	下田奉行進達書
82(83)	59	7月12日	応接書
82(83)	65	7月13日	応接書
82(83)	71		米国官吏所呈和解
82(83)		7月19日	備中守殿御申直渡御書付
82(83)	73		溜詰一同建議
82(83)	74	7月29日	備中守殿御直渡書二通同日又二通
82(83)	76		道中奉行勘定奉行に御書付三通
82(83)	78		米官吏出府に付御用方心得書

巻八十三(84) 安政4年(1857)

丁巳五 米国使節ハルリス登城拜謁

83(84)	1		三人肖像(米国使節ハルリス、井上信濃守、通弁官蘭人ヒュースケン)
83(84)	3		使節官名姓名年齢旅館道筋登城役之書付町触
83(84)	7		墨夷出府取扱之向に御達書付
83(84)	8		道中奉行御勘定奉行に御書付
83(84)	9		小普請奉行に御書付
83(84)	10		使節腰懸寝床飯台等之図
83(84)	11		使節通弁官登城供連
83(84)	12	9月7日	九月七日下午下田表に相越候森山多吉郎心得書
83(84)	15		御城内御門御番所及役所附鉄炮以来西洋形に相成候触
83(84)			使節休泊之書付
83(84)	16		使節登城候次第書
83(84)	20		御献立書及台三方等之図
83(84)	25	10月12日	十月十二日以後御達書数通
83(84)			使節道中行列
83(84)	27	10月22日	十月二十二日より追々に江戸書簡
83(84)	29	11月3日	十一月三日触書并米国書簡和解献上物等
83(84)	32		同日和蘭通商御仕法替之触
83(84)	33		米国使節遊歩道筋
83(84)	34		ハルリス肖像
83(84)	35		巷説御役人悪評
83(84)	37	10月17日	十月十七日出江戸書簡
83(84)	39		佐久間象山近詠臨写

巻八十四(85) 安政4年(1857)

丁巳六 米国使節ハルリス応接重大事件

84(85)			係米国使節応接重大事件
84(85)	1	10月26日	一、十月二十六日備中守殿宅において米国使節申立之次第
84(85)	21	11月6日	二、十一月六日蕃書調所において御役人五名米国使節対話書

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
84(85)	39	12月2日	三、十二月二日備中守殿宅において同応接書
84(85)	46	12月2日	四、同日使節差出候条約草稿乃商法五則
巻八十五(86) 安政4年 (1857)			
丁巳七 米国使節 ハルリス応接重大事件			
85(86)	1	12月11日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	15	12月12日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	31	12月14日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	45	12月25日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	70	12月26日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	82	1月6日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	88	1月10日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
85(86)	101	1月12日	亜米利加使節対話書 (井上信濃守、岩瀬肥後守)
巻八十六(87) 安政4年 (1857)			
丁巳八			
86(87)			諸雑記
86(87)	2	9月	三州吉田出水破損届
86(87)	3	10月	堂上方不行跡御糺
86(87)	9	11月	水野筑後守岩瀬肥後守長崎より帰府
86(87)	10	11月6日	来簡下田にて米人魯英仏三国人来会之話説
86(87)	11		關邪小言之評今尾侯調練之書簡
86(87)	13	11月12日	雑説
86(87)	14	11月	伊予国今治地震松平駿河守達
86(87)	15		紀州様風雨早損御達
86(87)		12月	御城書教種林津田上京御用
86(87)	17		倉侍従家臣江達書
86(87)	18		大坂御城代土屋采女正大坂開港不可然旨達越
86(87)	19		御城書加賀黄門殿中規模薩州三位昇進
86(87)			旭丸製造に付水府老公御役人水戸御家中夫々賞賜
86(87)	21		仙台侯騎銃劔鎗仕込候馬献上
86(87)	21		紀州様君沢形異国船造近々江戸江乗込候御達
86(87)	22		江戸二三子より来簡 (係米国人)
86(87)	24		巳年仙台侯建白
86(87)	27		佐賀侯同断
86(87)	29		水戸御家中へ達書
86(87)	29		十八大名連署建白
86(87)	31	12月3日	御城書
86(87)	31		紀州新造君沢形平常運送方御達船印御達
86(87)	32	12月16日	官位昇進叙爵其他御城書
86(87)	34	12月23日	御城書
86(87)	36	12月24日	異国船形新造浦触相止
86(87)			当世三幅対
86(87)	37	1月2	惣登城之節之事来簡
86(87)	39	12月27晦	御触書
86(87)	41		ほうろく調練番附
86(87)	42		四条橋新建之記
86(87)	43		四条河原新橋之図
86(87)	44		住吉四条河原大橋之図
86(87)	45		惣図彩色 橋の西詰朱塗、四条橋新造之記
86(87)	49		四条橋
86(87)	51		五条橋
86(87)	54		安政五年二月二十四日林大学頭、津田半三郎へ渡書付 (異国事情)
巻八十七(88) 安政4年 (1857)			
丁巳九			
87(88)	1	9月13日	福富氏蝦夷在住願一件に付御尋之書付
87(88)	2	10月2日	尾州広小路破牢三十人始末風説、落首、籠鳥歌等
87(88)	23		御勝手筋御仕法立、町人献金等
87(88)	26		長崎より来候人之話
87(88)	31		世の中三ぶく対
87(88)	32		江戸にない物、江戸商人有声無声
87(88)	36		品川御台場相州浦賀海辺之図
87(88)	40		東本願寺梵鐘御引上之御処置に付建白書等
87(88)	45		万歳鶴亀詞草 (式部少丞記親成)
87(88)	56		夷情切迫之儀に付存寄申上候次第
87(88)	62	12月	安政四年十二月所司代本多美濃守殿書取之写
87(88)			外国御所置之義、亜墨利加国よりの書簡、使命応接
87(88)	70		尾張国枇杷島村の孝子御褒美頂戴

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
巻八十八(89) 安政5年 (1858)			
安政5年 戊午一			
88(89)	1		初春来簡 (蟬居先生年頭状)
88(89)	2	1月4日	今尾侯尾州御晦
88(89)		1月5日	京都所司代本多美濃守役宅より出火
88(89)	3		大槻盤溪詩歴
88(89)		1月9日	猿若町より出火
88(89)		1月13日	戸山邸御門前出火
88(89)	4	1月2日	江戸来簡 (旧臘以来惣登城委細)
88(89)	8		備中守殿御渡、御変革御大業之御書付并御役人へ御書付
88(89)	9		京都来簡摘要二通 (水戸老公建白、本多所司代出火、米人一件等)
88(89)	12		水戸浪人方外者三人の歌
88(89)			刑部卿様御家老へ御直書 (巫墨利加使節の件)
88(89)	13		堀田備中守上洛に付被進物
88(89)	14		備中守殿初川路岩瀬其外上京之仰付書
88(89)			堀田備中守より御渡書付 (深川紙嶋調練場御開門)
88(89)		1月11日	御城書
88(89)	17	1月12日	出延場への来簡 (アメリカ使節在留、備中守初拝領物、お月見)
88(89)	19	1月21日	米国使節下田へ帰
88(89)	20	1月3日	備前侯市谷参上
88(89)			川路・岩瀬、小石川へ参上
88(89)	23	1月28日	米国使節病氣御尋被下物
88(89)	25	2月20日	蠟漆紙茶生育蝕
88(89)			伊藤貫斎、米国官吏療治
88(89)	26	(2月27日)	日本橋長浜丁より出火、大火
88(89)	29		和蘭甲比丹参府
88(89)			紀州御達、御家中道中
88(89)	30	3月6日	御城帳 (米国使節出府)
88(89)		3月2日	越前丸岡、越中大聖寺等地震 (二月二十六日)
88(89)	31	3月7日	立花侯石炭十万斤献上
88(89)		3月27日	広幡鋭君江戸着
88(89)		3月3日	奥州棚倉大雷
88(89)	32		米国江御返答許拒朝廷御旨趣
88(89)	32		京、捨文落書雑説
88(89)	35		仮条約之趣 (伝奏家より御老中への応答)
88(89)	36		備中守返奏
88(89)	39		関東御老中より備中殿へ返翰
88(89)	40		京来簡
88(89)	41		京都歌人竹内法眼長歌
88(89)	42	3月19日	公方様深川越中嶋歌練場江御成
88(89)	43	3月27日	米人蘭人遊歩
88(89)			岩瀬、京都より帰府
88(89)			備中守殿初川路其外御暇
88(89)	44		諸国蛙鳴声
88(89)	45		阿波侯上書
88(89)	47		廓言葉
88(89)		3月22日	三月廿二日、廿三日御城書
88(89)			信州松代地震山抜、真田達
88(89)	48		三月廿九日、御城書
88(89)		4月1日	四月一日、和蘭領事官登城
88(89)		4月2日	四月二日、五日御城書
88(89)	49		熱田御祈禱御下知状
88(89)		4月6日	四月六日、御城書
88(89)	50	4月7日	四月七日出、江戸来簡
88(89)	51		大高侯清水半三郎殿継目参府
88(89)	52		大変行、狂詩、狂詠及狂女御取締
88(89)	54		再出蛙鳴声
88(89)	55		長州侯建白疑書
88(89)	56		浅草並木町木戸張紙

巻八十九(90) 安政5年 (1858)

戊午二 係京江戸米国事件

89(90)	1	1月	公卿建議 (巫米利加国使節申立、開港等)、近衛殿鷹司殿初三十五名
89(90)	23	3月3日	久我殿議奏辞退書
89(90)	24		墨夷条約一条に付中山殿初七人連名再議書
89(90)	26		有栖川宮建議
89(90)	28	3月13日	三月十三より二十五日迄頭書
89(90)	29		正親町三条殿野宮殿再議書

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
89(90)	32		大内嚙聞書、亜米利加一条に付関東より役人上京の由嚙
89(90)	43	3月20日	勅諭之趣関東へ被仰出
89(90)	45		八十六人の公卿殿上人(一覽)名簿
89(90)	47		京来簡数種
89(90)	48		坊城不忠不義露頭御役辞退閉門
89(90)	49	3月5日	林大学頭、津田半三郎三月五日京都出立
89(90)	50	3月22日	伝奏光成卿議奏正房卿泰光卿行向の節備中守より被差出候書状
89(90)	51	3月25日	御議定之御書付之趣
89(90)		2月晦	鷹司准后内覧准三宮隨身兵杖等御辞退
89(90)		3月17日	東坊城前大納言殿伝奏御免被仰出
89(90)	52	3月26日	京地より早幸便、二十八日着簡摘要
89(90)	53	4月2日	備中守御暇之節被仰渡書之写
89(90)	54		可疑書面写
89(90)	55	4月20日	堀田備中守、川路左衛門尉原弥十郎帰府
89(90)		4月23日	井伊掃部頭御大老職被仰付
89(90)		4月24日	備中守被申渡候由にて池田播磨守相達候書付(愚昧簡)
89(90)	56		江戸より書簡の写(人心九分ヶ様なものと歎息の為に写置也)
89(90)	60	4月16日	午四月十六日加茂祭宣命
89(90)	61	4月25日	亜米利加国条約の趣、勅答之趣
89(90)	62		米国使節備中守御宅にて応対之趣、及惣登城之面々江夫々其論御談
89(90)	63		上意書取
89(90)	65	2月26日	二月二十六日越中富山大地震、大破損
89(90)	66	5月6日	御城書
89(90)		5月8日	備中殿御書付(米国使節下田江帰り)
89(90)		4月29日	御目付通辞米国人和蘭人通行之道筋前日にて不役通辞不及立番旨
89(90)	70		妻木左大夫上書
89(90)	72		京師来簡摘要御祈奏案
89(90)	74	1月4日	今尾侯御用登之時之御書付(亜墨利加使節申立之趣)
89(90)	75		墨夷条約之儀に付朝廷へ建白
89(90)	76		御返簡之写、米国宛
89(90)	78		よしつくし
89(90)	81	5月22日	朝陽子(柳河春三)来簡
89(90)			東坊城殿辞職の儀、京都大火、触書案、京都新判官の世ちよぼくれ

巻九十(91) 安政5年(1858)

戊午三

90(91)	3		佐賀侯林祭酒、岩瀬肥州詩
90(91)	4		遠西医方名物考巻八、葛私多兒(カストプレ)「ペーフル」
90(91)	11		中院殿三度目上書
90(91)	12		公卿方廻状三通
90(91)	15	6月9日	大坂御城代土屋采女正殿進達、御奉行久須美佐渡守建議
90(91)	21		大宮司建白
90(91)	24		東儀近江守奏樂熱田御願文
90(91)	26		五月二十四日以降六月中旬迄御城書
90(91)	29		見附宿以東駿州地洪水
90(91)	31		保土谷宿間屋より異国船乗入達、異国船に若菜三男三郎初乗組止宿
90(91)			駿遠洪水定日飛脚幸領達書
90(91)	34	6月12日	江戸来簡(越中嶋において紀藩火薬怪我)
90(91)	35	6月13日	六月十三日より六月二十一日、御城書
90(91)	36	6月21日	京大坂江戸近海、兵庫・堺御警衛交転
90(91)	39		魯西亜船江戸海渡来
90(91)			太田老侯・間部侯・西尾侯執政再職
90(91)			佐倉侯・上田侯執政御免、帝鑑之間
90(91)	40	6月19日	米国船魯国船江戸入津紀州加多浦より大坂海へ乗入候
90(91)			薩捶山崩、三度飛脚達
90(91)	41	6月10日	京簡大疑書
90(91)			伊勢加茂石清水宣命
90(91)	46	6月22日	六月亜米利加条約調印に付京都へ御訳奉書并御書付
90(91)	48		禁廷逆鱗三家或は大老上洛候様之書取
90(91)	49	6月24日	御養君一件御次第書、六月二十四・二十五日御城書、御附人
90(91)	56	6月26日	六月二十六日以後御城書
90(91)	58		神奈川宿異国船入達
90(91)			魯西亜使節出府登城拜礼の節御書付
90(91)	59	7月	七月上旬御城書
90(91)	64	7月5日	尾水両君及越前侯御慎御隠居
90(91)	65		御城書数種
90(91)			風説書
90(91)	68		本郷丹後・石河土佐御糺
90(91)			外国奉行初めて被仰付

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
90(91)	69	7月10日	尾州触及十三日御家中へ御書付
90(91)	72	7月10日	七月十日御城書
90(91)	73		肥前飛脚申趣、熱田問屋達
90(91)			御養君御用懸り読売一枚
90(91)	74		濃州切通、天文者考
90(91)	75	7月14日	魯英仏条約御取締可有之触
90(91)	76	7月15日付	江戸来簡
90(91)	79	6月17日	六月中旬より日表
90(91)	81		近日雑報、京師御固場等
90(91)	86		関東御返簡
90(91)	87		公卿連署訴菅大納言罪書
90(91)	89		大原三位殿、破禁宥免附来簡
90(91)	91		越前侯家臣に直書
90(91)	92	7月17日	江戸来簡二通
90(91)	95	8月7日出	東簡
90(91)	96		都築駿州容体書

巻九十一(92) 安政5年(1858)

戊午四

91(92)	2	8月6日	八月六、七日御城書
91(92)			公方様薨御
91(92)	4		彦根大老書再出
91(92)	11		京来簡(水戸者を召捕)
91(92)	12		不信大偽書
91(92)	13	8月20日	京来簡八月二十日着大偽書
91(92)	14		水老公へ違勅者御糺可有之勅命其余可疑書類
91(92)	16		影弁慶一名、不合点、慶
91(92)	18		仏蘭西条約可被取締触
91(92)		8月18日	御出棺
91(92)			御法事御日割
91(92)	20	8月22日	江戸来簡
91(92)	21		コレラ病江戸流行蔓延諸国に及ぶ書類
91(92)	32		長崎来簡摘要
91(92)	34		戯言数種
91(92)	37		徳川家御扶助之叡慮と有之書、水戸家京留守居へ賜る趣
91(92)	39	8月26日	八月下旬、九月上旬御城書
91(92)	41	9月2日	朝陽子(柳河春三)来簡(コレラ)
91(92)	43		九月中旬城書
91(92)			御船頭申聞候趣
91(92)	44		狂簡(京都加藤内蔵允より申越候書取写)
91(92)	47		水藩土自殺之書付
91(92)	48		御贈官
91(92)	49	9月19日	京都来簡
91(92)	52	9月23日	出東簡(水藩土を小金原にて抑留す)
91(92)	53		同日別人東簡
91(92)	54		吹原屋九郎三郎御賞賜
91(92)	59		道化狂画

巻九十二(93) 安政5年(1858)

戊午五

92(93)	2	8月15日	仏蘭西船渡来之触、御院号
92(93)	3		江戸来簡仏郎察人之記事并図
92(93)	8	8月24日	八月二十四日より九月二日、御城書
92(93)	11	9月2日	東簡
92(93)	12	9月17日	東簡
92(93)	14	9月27日	江戸来状
92(93)	17	4月23日	水老公御請と有之疑書
92(93)	19	9月20日	京簡数通
92(93)	21		蘭人申上(彗星の考)
92(93)	22		仏蘭西書簡、片カナ
92(93)	24		京簡三通
92(93)	29		京都揚り屋入之輩書付
92(93)	31		小石川一条来簡
92(93)	33		井伊家老岡本半助之書取
92(93)		9月26日	京簡
92(93)	36	9月13日	九月十三、十四日、御城書
92(93)	39		徳川摂津守殿家老衆に御沙汰書
92(93)	40	10月23日	江戸来簡、囚人一件
92(93)	42		同日別人来簡

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
92(93)	44		柳河春三起身吹聴書
92(93)	45		將軍宣下に付參向公儀衆及京地之事實
92(93)	47	10月26日	十月二十六日より十一月二日、御城書
92(93)	49		江戸神田火元大火
92(93)	51	11月21日	十一月二十三日より十二月二十三日、御城書
92(93)	55		京都より御呼下囚人十一人宮泊之起
92(93)	57		京都囚人記
92(93)	58		江戸囚人封廻状
92(93)	59		柳河春三來簡
92(93)	62	12月5日	十二月五日京都発足囚人之記
92(93)		12月19日	十二月十九日京囚人江戸到着御預一件
92(93)	67		京都時事揚屋入等
92(93)	68	12月22日	長崎來簡当年入津船数
92(93)	71		大曾根村徳右衛門父子御賞
92(93)	73		月廻御城書
92(93)	75		江戸來簡(天主実義一件)
92(93)	76		尾州八百屋騒動(落書)

巻九十三(94) 安政5年(1858)

戊午六

93(94)	1		幽囚録附録
93(94)	11		石亀五ヶ条
93(94)	25	6月21日	六月二十一日、於神奈川調印有之亜米利加条約和文下案
93(94)	34		水戸家老武田兵部持參之御達書
93(94)	35		亜米利加使節出府道中之体品川宿、年寄忠次郎達書
93(94)	37		暗政四年、陰營之会狂歌狂詩
93(94)	40		伊豆大島在留役よりフランス船へ薪水遣候届
93(94)	41		箱館來状
93(94)	43		チョボクレ
93(94)	46		京都所司代本多侯、近畿に通辞書
93(94)	47	4月13日	四月十三日和蘭領事館伊賀守宅において申立之趣
93(94)	52		米国と条約調印之期日証書
93(94)	53		肥後侯建白
93(94)	54		大老彦根侯建白
93(94)	57		長崎奉行荒尾石見守より英仏船渡來之様子急達并越前人考説
93(94)	61		影弁慶(落書)
93(94)	63	8月8日	八月八日、武家伝奏より水戸家、京留守居鶴飼へ御書付
93(94)	66		唐國戦争之儀船商申立書
93(94)	68		堀織部正北海見分之通辞書
93(94)	69	7月28日	讃岐守大学頭播磨守竹腰水野へ御書付を初大目付御目付へ御書付町奉行何書等
93(94)	72	12月	十二月京師囚人一件之役に書付
93(94)	73		囚人吟味懸り江戸御役人名前

巻九十四(95) 安政6年(1859)

安政六年 己未之一

94(95)	1	1月2日	正月二日より二月下旬迄御城書
94(95)	7	2月	二月京師高貴御慎
94(95)	8	2月25日	二月廿五日京師差立、人名簿同下者封廻状
94(95)	9		濃州上有知辺大歟祭騒動
94(95)	10	3月	三月差入御伽書
94(95)	12		講武所へ御沙汰書
94(95)	13	2月21日	二月廿一日青山より出火延焼、戸山類焼板行來簡等
94(95)	22	3月4日	三月四日より同十九日迄御城書
94(95)	32		英国船將風説書
94(95)	40	2月2日	二月二日出江戸來簡勝氏帰着後初見之話
94(95)	52	4月17日	四月十七日出健堂先生東武下着後初通候來簡
94(95)	57	3月	三月下旬より五月中旬迄御城書
94(95)	61		越前侯來簡
94(95)	63		柏崎新潟米船來候書付
94(95)	65		神奈川交易場及青樓之図売板並写数種

巻九十五(96) 安政6年(1859)

己未ノ二

95(96)	2		一、水府士野口立之助自殺一件
95(96)	3	4月7日	二、四月七日下午田奉行江御書付
95(96)		4月26日	三、同廿六日封廻状
95(96)	4		四、江戸風説
95(96)	5	5月16日	五、五月十六日加藤老岐守米国行之命

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
95(96)			六、仙台家より外国人道路行逢伺書
95(96)	6	5月22日	七、五月廿二日水戸より多人数出候事に付御書付二通
95(96)	7		八、江戸水戸及外国人近事風説及回数丁
95(96)	19		九、神奈川風説
95(96)	22	5月	十、東武風説五月より七月ニ至
95(96)	33	6月12日	十一、六月十二日出江戸来簡
95(96)	36		十二、英国人凶五丁
95(96)	41	6月3日	十三、六月三日心宿月を犯す考
95(96)	42	5月	十四、五月下旬より六月八日迄御城書
95(96)	47	6月18日	十五、六月十八日尾州蘭学医被召出地方御改正懸り御役人被仰付
95(96)	48	7月5日	十六、七月五日八日十九日御城書
95(96)	49	7月22日	十七、七月廿二日出江戸来簡
95(96)	50	7月	十八、七月下旬出江戸来簡
95(96)	53	8月	十九、八月初江戸来簡
95(96)	56	8月	廿、八月差出京都来簡
95(96)	59		廿一、神奈川横浜正真図
95(96)	61		廿二、阿蘇惟治詩歌
95(96)	62		廿三、封廻状
95(96)	65	7月6日	廿四、七月六日出越前人来簡及御所御賞賜
95(96)	68		廿五、東武近事
95(96)	69	7月	廿六、七月下旬御城書及時事

巻九十六(97) 安政6年 (1859)

己未之三

96(97)	2		一、御役人附略版
96(97)	3	8月9日	二、横浜新聞紙八月九日神奈川図類
96(97)	8		三、水府老公御慎御宥解之儀日光御門主被仰上趣
96(97)	10		四、尾州青物方之事に付町奉行御勘定奉行初四名御札
96(97)	12		五、疑説下総凶吉田村結城家竿金掘出一件
96(97)	13		六、出羽新考戸沢家領大雨大水損毛達
96(97)	14	7月	七、七月下旬八月上旬御城書此中魯西亜人を殺害外国人に礫を打候触
96(97)	17	8月	八、八月仙台領違作来簡
96(97)	18	8月	九、八月京都時事来簡二通 (流行病一件共)
96(97)	20	8月20日	十、八月廿日出京師服部有享書面 (九条殿御加増初金賜)
96(97)	22	8月12日	十一、八月十二日より廿二日御城書
96(97)	23	8月27日	十二、八月廿七日より水府老公当君一件騒動来簡
96(97)	25	9月5日	十三、九月五日到着、水戸老公当君江被仰出御書付 (中山備前差控、安嶋茅根初仕置、太田道醇殿幽閉、岩瀬永井川路同上、安藤対州水戸家締世話、一橋殿御隠居御慎)
96(97)	28		十四、虚説 (土岐丹波・大久保伊予・浅野備前退役)
96(97)	29	8月28日	十五、八月廿八日江戸御役人除目、廿九日同上
96(97)	30	9月1日	十六、九月朔日尾州当君被為任中納言水戸老公御国へ御発
96(97)	32		十七、重複半枚虚説半枚
96(97)	33	8月	十八、八月下旬東国大名九人寄合六人御使番等へ水戸付警衛御内沙汰
96(97)	36		十九、京来簡之抄 (流行病、洪水、病気、禁中妖怪)
96(97)			廿、堀田備中守殿病氣隠居
96(97)	37		廿一、松平源七郎三百俵小普請入、芝地其俣被下
96(97)	38	9月10日	廿二、九月十日より十三日迄御城書、此中松平伊賀守殿病氣隠居
96(97)	41		廿三、尾州田宮弥太郎・阿部清兵衛・尾崎八右衛門・間嶋万次郎・植松庄左衛門・聆減隠居幽閉
96(97)	43	9月18日	廿四、九月十八日より廿二日に至御城書
96(97)	44		廿五、水藩安島茅根鮎沢鶴飼父子罪状書、池内竹林及村岡女罪状
96(97)	54		廿六、関東より京都高貴江御罪状御差向之御書付
96(97)	56		廿七、間部下総守殿上書太閤御初御幽閉
96(97)	58		雑記 (頼三樹三郎獄中作、介錯人出役姓名、遣米使節仰付)

巻九十七(98) 安政6年 (1859)

己未之四

97(98)	2		一、奥羽六侯江蝦夷地割被下、酒井小笠原内海御台場御預
97(98)	5		二、知多郡山辺雀闘
97(98)	6		三、越前敦賀来簡 (流行病一件并正信答書案)
97(98)	11		四、尾州当君初而御入国御休泊割及御供帳并御礼事御日割
97(98)	21	10月	五、十月上旬御城書
97(98)	23	10月7日	六、十月七日封廻状 (三十余名囚人死罪遠嶋追放押込等)
97(98)	25	10月11日	七、同十一日封廻状 (土佐老侯容堂幽閉)
97(98)	26		八、兵部少輔殿御内賞一件
97(98)	27	10月22日	九、十月廿二日出来簡 (御本丸炎上)
97(98)	29	10月	十、十月下旬御城書
97(98)	31	10月27日	十一、十月廿七日封廻状 (吉田寅次郎死罪其他十八人御仕置)

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
97(98)	33	11月4日	十二、十一月四日御城書
97(98)	34		十三、封廻状(御本丸火元札)
97(98)	35	11月15日	十四、十一月十五日十六日御城書
97(98)	36		十五、横浜竹詞
97(98)	37	11月9日	十六、十一月九日より月迫迄御城書
97(98)	50		十七、清英戦鬪之時事漢文并図
97(98)	55		十八、東武来簡(支那時事)
97(98)	56	12月	十九、十二月雜報

卷九十八(99) 万延元年(1860)

庚申之一

98(99)	3	1月16日	一、正月十六日同廿日御城書、講武所規則掟御書付
98(99)	10		二、御参府御宿割御供帳
98(99)	14	2月	三、二月对馬守殿御宅へ六侯家来御呼出、水戸表之事御達并飛道具伺御付札等
98(99)	18	3月3日	四、三月三日掃部頭殿怪我達并家来即死手負等書付
98(99)	19		五、桜田辺諸家辻番所届書数通
98(99)	22		六、内藤金一郎様へ彦根様より為御知
98(99)	23		七、水戸様より御達書
98(99)	24		八、紀伊守殿より町奉行御目付へ御達并井伊家達、青木家来口書
98(99)	26		九、京都江御飛脚御達書并京都御固
98(99)	27		十、掃部頭重臣共へと有之御書付并重臣歎達御付札
98(99)	28		十一、細川家取次役大嶋五郎八書付
98(99)	29		十二、大関和七郎初四名細川家にて小性頭へ演達之趣
98(99)			十三、御老中方屋敷にて若乱妨人有之節飛道具一件
98(99)	30		十四、細川家より水戸家へ乱妨人身柄問合并答
98(99)			十五、封廻状式通(大関初尋)
98(99)	31		十六、薩州家より有村雄助立退達
98(99)	32	3月4日	十七、三月四日松平肥後守へ長岡駈徒党人之儀御書付
98(99)	33		十八、市谷一手方警衛方手筈御達書
98(99)			十九、細川家より市谷へ御預人為知奉簡及芸州家へ奉簡
98(99)	34		廿、御城附へ御達水戸家居屋敷下屋敷門之出入改之一件
98(99)	35		廿一、御曲輪内屋敷にて人数非常備御書付
98(99)		3月6日	廿二、三月六日井伊殿御尋上使人参被下
98(99)	36	3月6日	廿三、同日両山 御名代挑灯引出門御書付
98(99)		3月7日	廿四、同七日御船手へ大川等番船御書付
98(99)		3月8日	廿五、同八日上使を以掃部頭殿御尋鮮鯛氷砂糖被下
98(99)	37	3月7日	廿六、同七日大関和七郎初夫々御預替書付
98(99)		3月9日	廿七、同九日酒井右京丞殿縮緬拝領
98(99)	38	3月9日	廿八、同日竹橋清水田安半蔵四御門以後御役人之外出入不相成
98(99)		3月9日	廿九、同日御持頭式人御先手式人江戸仕昼夜見廻り御書付
98(99)	39	3月10日	三十、三月十日松平肥後守同席御人少に付早々参府御書付
98(99)		3月10日	三一、同日同侯去ル三日早速人数揃置差図伺之段御賞
98(99)		3月10日	三二、同日松平大隅守片桐石見守戸田七之助守方等閑御札
98(99)	40	3月11日	三三、同十一日尾紀両君御三卿等不時御登城、外国奉行松平石見守羽折被下
98(99)	41		三四、講武所稽古之輩非常之節同所へ集り候様御書付
98(99)		3月13日	三五、三月十三日封廻状森山杉山蓮田宮田四名尋
98(99)	42	3月	三六、三月上旬御城書及小石川へ御国侍到着一件
98(99)	50	3月15日	三七、同十五日御札後別段御目見加賀侯初へ上意之趣
98(99)	51		三八、酒井若狭守殿より胡乱之者召捕候様御書付并水戸徒党名前
98(99)	53	3月26日	三九、三月廿六日御築地内取締方一件
98(99)	55	3月	四十、三月下旬御城書掃部頭殿御役御免、改元一件
98(99)	65	閏3月	四一、閏三月上旬御城書中旬下旬共并水戸者一件、膳所侯届
98(99)	69	閏3月18日	四二、同十八日封廻状
98(99)	70	4月	四三、四月上旬御城書、講武所稽古人御船固
98(99)	72	4月	四四、四月下旬より七月上旬迄御城書

卷九十九(100) 万延元年(1860)

庚申之二 外桜田違変拾遺委悉

99(100)	2	3月7日	一、三月七日頃外桜田騒動早便飛脚等之噂
99(100)	4	3月13日	二、同十三日定日飛脚宰領登り候者へ町奉行所にて尋之趣
99(100)	5		三、彦根家中下り人数先触有之分書抜
99(100)	8	3月7日	四、三月七日出来簡類数通并人別御中間桜田内外聞合書付
99(100)	13	3月7日	五、柳川春三郎(柳河春三)来簡(三月七日出 西村氏来簡)
99(100)	15		六、諸来簡異国摘要数通
99(100)	17		七、杵築藩士隠居目撃之説三種
99(100)	24		八、霞ヶ関御附属之人来簡及数通摘要
99(100)	32		九、乱妨人申合人別等諸説

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
99(100)	37		十、猶来簡数通
99(100)	39		十一、彦根国許形勢
99(100)	40		十二、公辺其筋国役人に承候趣
99(100)			十三、熱田奉行飛脚之噂
99(100)	41		十四、江戸井伊屋敷形勢諸説
99(100)	42		十五、同家供頭初怪我人療治針数
99(100)	43	3月11日	十六、三月十一日夜、熱田宿に泊り候怪敷者四日市にて召捕一件
99(100)		3月12日	十七、三月十二日出来簡二通并首請取人
99(100)	46	3月12日	十八、同日出御勘定所通用并巻説
99(100)	48	3月12日	十九、同日出来簡宮田瀬平名乗出候一件
99(100)	49		廿、諸区風説
99(100)	52	3月12日	廿一、乱妨人辞世及又十二日出来簡并風説
99(100)	58	3月17日	廿二、三月十七日出来簡奥向より井伊家へ被遣候御諭書
99(100)	61		廿三、彦根怪我人松井貞之進へ為見廻相越人對話書
99(100)	65		廿四、水戸長岡駅徒党取鎮方不行届一件
99(100)	66		廿五、水老公御筆弘道館において拝見一件及御簾中様御口入旨趣
99(100)	70		廿六、太田撰津守殿家来乱妨人に道連に相成候一件届置書付
99(100)	73		廿七、水戸御国許一件并隠密方書類

巻百(101) 万延元年 (1860)

庚申之三

100(101)	2		一、木俣土佐先年隠幽一件并今度出府処置
100(101)	4		二、乱妨人細川家にて申立候委細写
100(101)	5	2月20日	三、二月廿日頃水戸より来候書簡長岡一件
100(101)	7	3月25日	四、三月廿五日出伏見御屋敷詰より来簡
100(101)	8		五、伏見奉行林肥後守より尾州伏見請呼出与力を以相渡書付
100(101)		閏3月8日	六、閏三月八日夕熱田泊囚人警護一件
100(101)	12		七、大坂天王寺にて自殺高橋多一郎父子一件
100(101)	14		(八)、叔子来簡井伊家怪我人療治一件并乱妨人懷中之受取書付等
100(101)	18		(九)、講武所盜賊并泊り番之噂
100(101)	19		(十)、京都町触
100(101)	20		(十一)、尾州町触
100(101)	21		十二、尾州繁昌方触
100(101)	22		十三、細川藩士直話
100(101)	27	3月5日	十四、三月五日評定所御吟味書取
100(101)	28		十五、鬼退治存意書
100(101)	36		十六、脇坂殿へ差出候前書認替
100(101)	37	4月11日	十七、四月十一日風説 (米人大男と響灘角力一件)
100(101)	38		十八、脇坂殿へ横浜町人夷情駕訴
100(101)	41		十九、書簡類丁数七枚 越前より恵受 重複多し
100(101)	48	閏3月12日	廿、閏三月十二日附大津人書簡并或人書簡
100(101)	52		廿一、道外たとへつくし
100(101)	56		廿二、茶の湯膾灸附初戯言数十種并虚々説物

巻百一(102) 万延元年 (1860)

庚申之四

101(102)	2		一、大橋善次郎大狂八逆罪
101(102)	6		二、日光御門主水戸彦根御寛宥御願四通
101(102)	9		三、彦根一老木俣清左衛門脇坂侯へ呈書、偽書
101(102)	10		四、秋葉山焼失来簡
101(102)	11		五、島男也初筆上方にて召捕囚人七名通行
101(102)	14		六、箱館形勢越前人より来簡
101(102)	15	5月11日	七、五月十一日強風雨、尾州御領損所
101(102)	17		八、桑名四日市損亡来簡
101(102)	22	5月12日	九、五月十二日出江戸来簡 (銃陣少老御見置)
101(102)	23	4月27日	十、四月廿七日出江戸来簡 (外国人動静、大老氣質等時事)
101(102)	35		十一、米国使節船サントーイスより来簡合三通、吉岡関太郎・村垣淡州得十郎
101(102)	29		十二、同上、北条源蔵来簡
101(102)	(69)		十三、刑部鉄次郎来簡并古今之凶、此補訂増加して巻末附す
101(102)	30		十四、同上、村上伯元来簡
101(102)	32		十五、同上、塚原重五郎来簡
101(102)	34		十六、同上、無名氏より母及家族へ来簡 (無名氏ハ成瀬善四郎なり)、吉田佐五左衛門来簡二通
101(102)	37		十七、横浜よりの来簡及サンフランシスコより木村撰州よりの宅状
101(102)	40		十八、サンフランシスコより吉田佐五右衛門及五郎ナなる者来簡
101(102)	42	5月17日	十九、五月十七日出江戸来簡 (米国より帰着船木村勝之形勢聞合之趣)
101(102)	47		廿、六合叢談十二之巻抜粋 (日本近事)
101(102)	48		廿一、支那人持渡香港上梓新聞紙長短二通

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
101(102)	50		廿二、英国新聞紙訳
101(102)	52		廿三、記妓死於節之事
101(102)	53		廿四、支那之乱を避て長崎在留商之家族来る一件二種并林文公の事問答
101(102)	57		廿五、紀州熊野大木の達
101(102)	58		廿六、七夕出東武来簡(係勝氏水上州米人ミニストル登城)
101(102)	61		廿七、塩谷甲蔵建白
101(102)	68		廿八、近衛公老女村岡の事の文章

卷百二(103) 万延元年(1860)

庚申之五

102(103)	2		一、御軍船操練所御広ヶ業前実地研究万石以上以下倍臣も不苦触
102(103)		7月	二、七月中御城書(壘国ミニストル登城)
102(103)	7	8月	三、八月中御城書(水戸老公逝末期慎御免、横浜領触)
102(103)	12		四、京都御沙汰書(儲君立親王)
102(103)	15	9月	五、九月上旬御城書(尾州様一橋様越前老卿松平容堂慎御免)
102(103)	17		六、水戸老公逝
102(103)	18		七、英人富士登山
102(103)	22		八、薩州侯芝邸へ浪士三十七人推参御届之上御預ヶ
102(103)	28	9月8日	九、九月八日京都来簡(儲君内輪不穩九州辺米価善政等之沙汰)
102(103)	30	9月	十、九月上旬中旬御城書(太田道醇慎御免)
102(103)	32		十一、丹州福知山騷擾
102(103)	36		十二、米国行使節帰朝聞書
102(103)	38	9月17日	十三、九月十七日出江戸来簡
102(103)	39	9月	十四、九月十月御城書(松山侯溜詰家格御本丸御移徒元千代様御養君和宮様許嫁)
102(103)	44	11月	十五、十一月中旬御城書(和宮様御下向調)
102(103)	55		十六、米国江御書簡及御物
102(103)	59	11月18日	十七、十一月十八日より江戸京都時事
102(103)	62		十八、堀織部正自殺一条之委
102(103)	63		十九、水府浪人横浜乱妨一件
102(103)	66	11月	廿、十一月下旬十二月上旬御城書(米国行御賞御本丸御普請懸り御賞)
102(103)	72		廿一、米国通弁官ヒウスケン被切殺
102(103)	73	12月	廿二、十二月中旬下旬御城書(久世侯一万石御加増、内藤侯一万石村替、若州侯御役知二百石増)
102(103)	92		廿三、市谷赤坂御能
102(103)	95		廿四、尾州御山ノ内御側組等類焼

卷百二附録(104) 安政5年(1858)～同7年・万延元年(1860)

安政五戊午一章 同六己未二章 同七庚申廿九章

102附(104)	3	10月	一、安政五年戊午十月長谷川速水建白一則
102附(104)	6	7月24日	二、同六年己未七月廿四日關老懸川侯存意書一則
102附(104)	8	8月27日	三、同年八月廿七日矢田侯小石川邸江急上使留記一則、以下安政七年庚申之記總計
102附(104)	16		四、仙台侯菩提所品川高輪東禅寺英人在留差支申立
102附(104)	17		五、風説(係水戸家)
102附(104)	23		六、奇説(同上勅詔返上是非を論する長篇)
102附(104)	35		七、水戸老公再応之御直命及書類
102附(104)	38	3月	八、小石川形勢三月
102附(104)	40	3月4日	九、細川家御預り人水士一通り尋聞書、三月四日
102附(104)	42	3月15日	十、水戸老公御直下御諭書、三月十五日写と云
102附(104)		3月15日	十一、御沙汰書脱漏(三月十五日係水戸家)
102附(104)	43		十二、水戸殿家来御預人五人之者申立
102附(104)		3月5日	十三、三月五日右五人御吟味之書付
102附(104)	49		十四、同上
102附(104)	51	3月11日	十五、三月十一日探索人相書
102附(104)		3月14日	十六、同十四日宮津侯家来伺書二通
102附(104)	52		十七、所司代衆より伝奏衆江被申上二通
102附(104)	53	3月20日	十八、三月廿日着所司代より飛書水浪一件
102附(104)	54	3月18日	十九、同十八日關老及敦賀侯より彦根藩江御達二通
102附(104)		3月23日	廿、同廿三日呉服橋内銭瓶橋下水門一件
102附(104)	55	3月25日	廿一、同廿五日以後届書御達書等三通
102附(104)		3月	廿二、京都形勢、三月益子氏
102附(104)	58	閏3月1日	廿三、閏三月朔日芝金杉橋に懸候木札写
102附(104)	59	閏3月6日	廿四、同六日関宿侯届御札等二通
102附(104)		閏3月15日	廿五、同十五日越前侯届彦根侯江領知御判
102附(104)	60	5月26日	廿六、五月廿六日封廻状
102附(104)	61	6月1日	廿七、六月朔日井伊愛齋家督御礼後御渡御書付
102附(104)		8月	廿八、八月下旬江戸短書(係水戸老公逝)
102附(104)		9月9日	廿九、九月九日京便(係皇嫁)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
102附(104)	64	9月4日	三十、九月四日四君御慎寛容
102附(104)	65	9月	三一、九月中水戸表形勢風説
102附(104)	66	10月	三二、横浜風説、十月
102附(104)	67	12月	三三、十二月外国公使等江戸引払

巻百三(105) 文久元年 (1861)

辛酉之一

103(105)	2		一、元千代様新御殿御越年
103(105)	3	11月	二、十一月上旬より二月九日迄御城書 (水戸浪人横行)
103(105)	7	2月7日	三、二月七日出江戸来簡
103(105)	8	2月	四、二月中旬御城書
103(105)	11		五、禁廷より山城窮民賜金
103(105)	12		六、江戸来簡数通及御固附
103(105)	21		七、改元
103(105)	28		八、江戸来簡并水戸浪人之儀に付御代官達書
103(105)	31	2月	九、二月下旬より三月末迄御城書
103(105)	35	3月27日	十、三月廿七日江戸来簡
103(105)	37	5月	十一、五月上旬御城書
103(105)			十二、大坂来簡 (魯西亜船入津大坂遊歩)
103(105)	40		十三、尾州御城西鉄御門張札 (交易を不好)
103(105)	41		十四、虚説 (対州魯西亜乱妨書類)
103(105)	49		十五、水戸浪人細谷六右衛門自殺一件
103(105)	51	5月29日	十六、五月廿九日附江戸来簡 (高輪東禅寺外国人寓居へ浪士乱入数通)
103(105)	68	6月	十七、六月書簡類 (右乱妨委悉松平和泉守届大目付触御老中書簡、青山善光寺崩禿)
103(105)	81		十八、蝦夷地来簡抄
103(105)	83		十九、水戸浪人横行に付尾州両番江戸行用意
103(105)	84		廿、東武来簡蕃書調所護持院原に移り広大盛昌
103(105)	85		廿一、水戸浪人落合鏞之助被捕
103(105)	86		廿二、神奈川より長崎箱館への海路測量触
103(105)		7月	廿三、七月時事御書付及朝陽子 (柳河春三) 来簡
103(105)	90		廿四、東禅寺一件に付ミニストル書簡往復
103(105)	93		廿五、大関和七郎初七名死罪
103(105)	96		廿六、東禅寺一件衛士惣賞
103(105)	102		廿七、こともものハつくし

巻百四(106) 文久元年 (1861)

辛酉之二

104(106)	2		一、元千代様御垣外○天王御参詣追て記へし
104(106)	3		二、熱田御社参、御殿俄ニ御一泊御乗船等、是は八月廿五日に延しなり
104(106)	4	3月29日	三、三月廿九日御広敷
104(106)	5	4月1日	四、四月朔日同断
104(106)	6	4月4日	五、四月四日同断
104(106)	7		六、若宮は八幡式正御宮参竹腰家御立寄を初春中御発駕御延引、九月御発駕江戸御着座迄着増
104(106)	25		七、尾州おりて御初幟之記及図面
104(106)	29	10月9日	八、御城書 (十月九日より大晦日迄)
104(106)	39		九、尾州平田所銅銭引替方張札
104(106)	40		十、伊藤錦窠翁横浜行シーボルト面会之記来簡
104(106)	46	12月	十一、十二、十二月上旬御城書補茂徳公従二位大納言英ミニストル登城
104(106)	48		仏英其外へ御使節伊豆番小笠原嶋一件
104(106)	49		十三、和宮様御入城之記
104(106)	50	12月17日	十四、十二月十七日出江戸所々大火薩州三邸焼失
104(106)	52		十五、江戸来簡 (欧羅巴江御使節伊豆嶋々小笠原嶋形勢)
104(106)	54		十六、江戸来簡 (和宮様御入城委細)
104(106)	55		十七、奥村徳義昇格、金城温古録著述一件
104(106)	56		十八、錦窠翁 (伊藤圭介) 来簡 (欧羅巴行一件伊豆嶋之一件)
104(106)	58		十九、箱館叔子来簡 (サントウイスニコライスケ田丸相越一件)
104(106)	62		廿、同来簡 (箱館辺水災山抜)
104(106)	63		廿一、雑記 (成瀬内記殿列詰伊殿京都へ御昇日御使、今尾侯和宮様御用木曾迎見尾着御用濟、江戸暴儒詩等)
104(106)	67		廿二、品川外国館繩張之図

巻百五(107) 文久元年 (1861)

辛酉之三 係和宮様御下向

105(107)	1		一、和宮様御縁組関東より御願被進御答及御例書
105(107)	2		二、供奉公卿女官
105(107)	3		三、高家御礼使御進献物及御用懸り
105(107)	4		四、御結納被進御使

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
105(107)	5		五、武家御供
105(107)	7		六、供奉委細
105(107)	11		七、御休泊割
105(107)	36		八、守山宿大道栄蔵人馬為知書
105(107)	37		九、尾州御領分備人馬調書
105(107)	42		十、尾州御役人向心得書
105(107)	60		十一、宿村へ触書
105(107)	66		十二、大御番頭衆より一組へ通辞及心得書
105(107)	72	9月28日	十三、九月廿八日一組へ通辞調書数通
105(107)	82		十四、諸調御書類
105(107)	85		十五、大道寺駿河守見分出張書付
105(107)	87		十六、対青軒日記略
105(107)	89		十七、形勢風説
105(107)	93		十八、帰路附言藪原三ツ子一件

巻百六(108) 文久元年 (1861)

辛酉之四 係和宮様御下向

106(108)			係和宮様御下向
106(108)	2		一、大津駅人書人簡
106(108)	7		二、今尾藩士来簡
106(108)	9		三、万場宿へ橋本殿云々及或人より申来写
106(108)	10		四、江戸来簡類
106(108)	14		五、市谷御方々様より御進献物
106(108)	15		六、巖儀御行粧牒
106(108)	27		七、小出定吉万場駅長一件及或人詩歌
106(108)	32		八、古屋氏紀行
106(108)	49		九、石原氏紀行
106(108)	67		十、本願寺御門主の歌及御よめいり糸車大費武士

巻百七(109) 文久2年 (1862)

壬戌之一 閣老安藤侯遭災

107(109)	2		一、年賀状端書(無人島行、蕃書調所・御軍艦操練所盛昌)
107(109)	2		二、安藤対馬守殿災厄一件数通二十枚(正月十七日出来簡)
107(109)	22		三、大橋訥庵陰謀露頭御吟味
107(109)	25		四、斬奸趣意書及細説数種十枚
107(109)	35	2月22日	五、二月廿二日出来簡類
107(109)	38	2月27日	六、同廿七日出欧羅通行香港よりの便書
107(109)	39	3月16日	七、三月十六日御城書(本多ミノ加判御免水泉板倉加判稲兵若老)
107(109)	40	3月17日	八、三月十七日出錦窠先生(伊藤圭介)簡(無人島行及新聞紙之抄)
107(109)	42	3月22日	九、同廿二日出無人嶋より便有之栗田万次郎書簡
107(109)	44		十、西印度セイロン島よりの書簡
107(109)	46		十一、シーボルト書簡
107(109)	48	2月	十二、二月中旬より四月上旬迄の御城書
107(109)	54		十三、南部春日神鏡落破
107(109)	56	4月7日	十四、四月七日出、合衆国新ミニストル渡来無人嶋一件蝦夷金抗御開試米人御雇
107(109)	59		十五、箱館叔子来簡(測量御雇北蝦夷航海)
107(109)	62		十六、聞書(大橋訥庵陰謀一件)
107(109)			十七、京都来簡(浪人入込一件)
107(109)	63		十八、横浜火災
107(109)		4月12日	十九、四月十二日出京来簡(島津泉入京浪人入込)
107(109)	64	4月12日	二十、同日出東武簡勝氏と談話
107(109)	69	4月18日	廿一、四月十八日京簡和泉一件其余同書類
107(109)	73	4月24日	廿二、同廿四日廿五日京簡(伏見舟宿において薩州士八人を切殺)
107(109)	75		廿三、奈良奉行より相達和宮一件
107(109)	76		廿四、治華来会の浪士名前
107(109)	78		廿五、伏見詰の人來簡(大垣風聞人別御中間聞書、佐竹家大坂屋敷来簡)
107(109)	82		廿六、一橋慶喜卿御直書
107(109)	83		廿七、春日神鏡御落損奏状類

巻百八(110) 文久2年 (1862)

壬戌之二

108(110)	1		一、禁廷被仰出候攘夷一和之一件
108(110)	2		二、大赦一件所司代より伝奏方へ言上
108(110)	3		三、薩州留守居より伏見において薩士八人打果候届
108(110)			四、大原重徳卿二賜る勅書
108(110)	4		五、島津和泉一件京都来簡
108(110)	5		六、茶屋手代達書類其他聞書来簡等拾二丁

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
108(110)	18		七、同月下旬江戸来簡風説書等
108(110)	22	5月10日	八、五月十日京地より帰り候者之話
108(110)			九、茶屋手代達書式通
108(110)	24		十、堂上方廻文所司代奏状
108(110)	27		十一、松平長門殿京地滞在一件
108(110)	30	5月12日	十二、五月十二日出江戸来簡
108(110)	31		十三、茶屋手代達書二通
108(110)	33	5月	十四、五月中旬京師密書
108(110)	35		十五、於江戸薩州留守届書
108(110)		5月23日	十六、五月廿三日難波来簡
108(110)	36		十七、島津三郎大原殿熱田泊之記
108(110)	40	5月22日	十八、五月廿二日出江戸来簡同廿七日出同断
108(110)	47	4月23日	十九、四月廿三日御城書
108(110)			廿、前中納言様一橋様越前老公土佐老公皆悉御宥許、御登城御対顔会津侯春嶽殿折々登城御用向申合之様
108(110)	50		廿一、田安殿御後見御免正二位、年々金千両つつ被進候筈、久世侯上京ノ命
108(110)	52	5月15日	廿二、久世侯京都江御暇五月十五日より廿一日迄御城書
108(110)	53	5月22日	廿三、御政事御一新御変革之基本初而被仰出追々品々可被仰出より
108(110)			五月廿二日より廿四日迄城書 (脇坂老侯揖水君再勤、中務大輔二改)
108(110)	55	5月27日	廿四、五月廿七日出武江来簡 (久世侯病氣上京延引)
108(110)	57		廿五、大橋善次郎死罪
108(110)		5月27日	廿六、五月廿七日出江戸来簡 (小銃大炮調練)
108(110)	60	5月	廿七、五月末御城書 (久世諸懸り上京御用御免、内藤紀州加判之列御免、溜詰格)
108(110)	62		廿八、鷹司御父子近衛公御還俗、近衛公関白宣旨
108(110)	63		廿九、御上洛被仰出弊風御一洗
108(110)	65	6月2日	三十、六月二日三日御城書 (久世侯御役御免鷹之間)
108(110)			三一、高輪東禅寺外国館江忍入乱妨一件
108(110)	66	6月5日	三二、六月五日六日御城書 (宇治御茶台手数端し、春嶽殿折々登城御用向取扱一俵被下)
108(110)	69	4月	三三、京師四月より六月迄略手記
108(110)	74	6月7日	三四、六月七日出江戸来簡 (高輪東禅寺一件委悉時事等数通)
108(110)	81		三五、航海日記道台府応接

巻百九(111) 文久2年 (1862)

壬戌之三

109(111)	1	6月17日	一、六月十七日出江戸来簡 (種々時事)
109(111)	3	6月7日	二、六月七日御城書 (洋書調所御触)、廿七日出来簡
109(111)	4	6月8日	三、六月八日より七月十一日迄御城書
109(111)			(大原殿登城 御上洛御用懸り松平伯州所司代松平豆州大坂村松御側御用取次一橋殿御後見春嶽殿御政事総裁職)
109(111)	21	7月12日	四、七月十二日江戸来簡
109(111)	23	7月	五、七月中旬下旬御城書及道中筋見分触
109(111)	27		六、刑部卿慶喜卿御直書
109(111)	29		七、麻疹流行尾州触
109(111)	32		八、山城国豪富八郎兵衛伊勢屋藤兵衛遭厄
109(111)	34	7月6日	九、七月六日御譜代大名取締五員になる、酒井若州京御役宅引払
109(111)			十、春嶽殿国元家老不機嫌一件
109(111)	35	7月	十一、七月中御城書 (今尾藩士麻疹書簡)
109(111)	42		十二、大関和七郎初御仕置
109(111)	44		十三、京師来簡類 (島田左兵衛権大尉遭害悪病予防)
109(111)	48	8月4日	十四、八月四日京師来簡 (堂上方女官黜陟)
109(111)	49		十五、江戸時事薩州尋事
109(111)		8月9日	十六、八月九日より廿一日迄之御城書
109(111)	53	8月29日	十七、少将義建君八月廿九日御卒去
109(111)	54	8月22日	十八、八月廿二日出江戸来簡
109(111)	56	6月7日	十九、江戸風説 (六月七日より閏八月初迄)
109(111)	59	閏8月7日	廿、閏八月七日江戸来簡
109(111)	60	8月	廿一、八月中御城書 (久世安藤減禄隠居慎、大原殿御暇、新所司代松平伯州溜詰格、寺社奉行牧野備州所司代)
109(111)	64		廿二、定日宰領咄の趣
109(111)	69		廿三、外国人江御書簡数通
109(111)	73		廿四、尾州地小事、戯言数種

巻百十(112) 文久2年 (1862)

壬戌之四 係御一新

110(112)	1	閏8月2日	一、閏八月二日出同廿二日出江戸来簡
110(112)	2	8月4日	二、八月四日緒方淇庵石川桜所奥医被召出

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
110(112)	3		三、島津三郎一件薩州留守居達書
110(112)			四、麻疹暴瀉病六七八三ヶ月江戸死人達
110(112)	4		五、熱田問屋島津三郎荷物書付
110(112)	5		六、島津三郎禁裏真御太刀拝領大原殿直衣被許
110(112)	6		七、叡慮を以源烈公贈従二位大納言
110(112)	7		八、藤堂侯御上洛御供例書願書
110(112)	8	閏8月	九、閏八月中御城書 イ 松平容堂折々登城、国家之為心付侯儀 無遠慮可申聞旨 ロ 八十歳以上之民被恤 ハ 魯西垂コンシユル登城 ニ 松平阿波守折々登城心附侯儀可申上 ホ 松平肥後守京都守護職 御役知五万石 拝借三万両 ヘ 鉄炮持越嗜次第 ト 酒井若狭守一万石減少隠居 チ 海軍御施設在国在邑富国強兵 リ 藤堂家伺書 ヌ 御三家江参勤割御内意 ル 松山侯届書 ヲ 井伊京都守護御免 ワ 御老中供連申合 カ 御役人番頭旧弊改革取扱 ヨ 弓犬追者廢 タ 両山御名代下馬 レ 御奏者被廢 ソ 参勤在府御改革 ツ 妻子国元へ引取勝手次第 ネ 年始八朔参勤家督其外御礼事之外諸献上被差止 ナ 衣服大変革 熨斗目長上下被廢止平服野羽織小袴襦高き袴之内 ラ 月次御礼平服并日数減 ム 御詔初玄猪嘉定御規定被差止 ウ 万石以上乗切登城勝手次第 エ 足袋平服之節紺足袋不苦 ノ 夏足袋願ニ不及 オ 月切駕籠不相成病人等は切棒 ク 参勤割 ヤ 二条御番止定番二成 マ 年始御流は被下時服は不被下
110(112)	15		
110(112)	16		
110(112)	18		
110(112)	20		
110(112)	22		
110(112)	28		
110(112)	29		
110(112)	40		
110(112)	43		十、若年寄衆申合御側衆申合供連
110(112)	48	閏8月17日	十一、閏八月十七日江戸来簡生麦一件委細
110(112)	49		十二、八十歳以上民江賜物名主請書
110(112)	50		十三、品川御殿山掘出し物
110(112)	53		十四、東海道平塚より品川迄道替
110(112)	54	閏8月	十五、閏八月下旬京来簡 (本間精一郎宇郷玄蕃臬首)
110(112)	56		十六、大納言様御湯治、御入国願御願濟無之内に御改革になる
110(112)			十七、京風説及井伊重丸下向
110(112)	57		十八、江戸人来簡彦根騒動
110(112)	58		十九、薩州家より三郎禁裏より 拝領物為知 帝都守護御前より直ニ被仰渡安 藤文沢来簡
110(112)	59		二十、東武風説
110(112)	(18)		廿一、藤堂家伺書并御付記 (18丁 リ)
110(112)			廿二、御三家江参勤割御内意 (18丁 ヌ)
110(112)	(19)		廿三、松山侯届書 (19丁 ル)
110(112)	61	閏8月25日	廿四、閏八月廿五日より九月朔日迄御城書
110(112)	62		廿五、京来簡目明し文吉婦人男子等臬首
110(112)	63		廿六、東武来簡
110(112)	64	9月	廿七、九月中旬京来簡種々委細、彦根内輪
110(112)	67		廿八、彦根藩中裁許
110(112)	68		廿九、薩州家届三郎一件
110(112)	69		三十、外御門々之勤番不及武器類取片付足軽兩人ツ、詰、武家奉公之輕輩生活を失ひ侯者御恤触
110(112)	70	9月26日	三一、九月廿六日京来簡 (町与力同心三人石部にて遭害)
110(112)	72		三二、土州侯父子京江戸入替りの御沙汰
110(112)	73		三三、尾州事数条、戯言

卷百十一(113) 文久2年 (1862)

壬戌之五 係御一新、山陵御普請

111(113)	1		一、山陵御普請一件
111(113)	7		二、薩州達書二通 琉球国へ蘭仏両国船横浜より出帆に付而の達 琉球人持渡り唐物類勝手に交易いたし度之旨
111(113)	8		三、英国ミニストルへ御書簡二通并別紙一通 生麦一件、琉球我属国たる由緒
111(113)	10		四、熱田御祈祷之儀に付伝奏衆家司より書簡
111(113)	11	9月7日	五、来九月七日被仰出二月御上洛可被遊旨被仰出御往還東海道駿府御城之外は本陣寺院等御泊之旨、九月七日被仰出
111(113)	13	9月	六、九月中御城書及他品交 大名御役人御供御留守小笠原凶書頭老中格 生駒徳太郎万石以上之御役場勤度内願書 八千両也 溶姫君様加賀行伺 屬之間在府方尤之願 南山大名火消止 筑前侯参府之届 溶姫君様加賀にて入一件日光御遷宮
111(113)	29		七、尾州事数条、公辺ニ被准旧弊被改触御書写

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
111(113)			衣服触 乗馬勤供達定式立候供連於江戸供連
111(113)			大納言様十月廿五日御着城町触酌女芸子体女髪結
111(113)			御上洛に付諸色直段上間敷
111(113)	43	10月	八、十月の中御城書(御行列御道具新調不及、御供連格別様、宿駅御厭、御供之従者、一橋殿御先へ上京御進献物、道中諸色草履草鞋、直段御供衣服武具馬具、井上河内守殿加判之列万石以上嫡子五年目参府、松平阿波守弥繁々登城吹上御庭拝見仙台侯勅書、松平長門守儀勅使江戸旅館へ可罷出家来詰合可申上旨、島原侯葵御紋願)
111(113)	60		九、攘夷一決可相成公卿御用懸り数名因州筑前京都事届
111(113)	62		十、勅使御設伝奏屋敷荒増之次第
111(113)	67		十一、薩州侯参勤方御猶予内達
111(113)			十二、筑前侯勅書御届
111(113)	69		十三、江戸風説、京都高麗橋建札
111(113)	70		十四、尾州雑草
111(113)	71	10月27日	十五、十月廿七日出東武来簡数通之抄
111(113)	73	10月11日	十六、十月十一日鴨川二条上ル所に二人縛り附さらして置建札あり
111(113)	74		十七、尾州触(衣服定、乗物、端反笠、挾箱止両懸、大紋下白小袖白帷子、布衣素袍下ふくさ染かたひら、金鼓節制、静姫様生、山田河原三隊調練、乗切心得)
111(113)	80	10月15日	十八、京風説十月十五日村山かすえ女さらし十六日多田帯刀梟首
111(113)	82		十九、箱館叔子来簡(北蝦夷航海)
111(113)	89		廿、欧羅巴行御使節属人動より便和蘭より便
111(113)	95		廿一、洋書調所江の便、新聞紙の訳

巻百十二(114) 文久2年(1862)

壬戌之六

112(114)	1		一、佐嘉老侯松平閑叟養生参府願濟
112(114)			二、彦根藩士九人立退達中川侯伏見逗留養生達
112(114)	2		三、万石以上家内并家来妻子国邑へ遣候女手形御関所改ユルヤカ
112(114)	3		四、彦根藩士閣老井上中玄関にて願書差出自殺仕損又九人出願
112(114)		11月	五、十一月の中江戸来簡数通之抄(吉原焼失、米高、横浜乱妨虚か、勅使種々引附、尾州ヘスクーネル御買上、米国ミニストル交代)
112(114)	7		六、七、八、後醍醐天皇吉野御陵鳴動浪華警衛陣屋割村山かすへさらし
112(114)	9		九、尾州藩士世禄五十俵以下五十俵二成一代限之者相続方御仕法
112(114)	11	11月	十、十一月下旬、井伊十一万石減、内藤間部一万石旧地に戻、酒若蟄居先頃一万石減、堀田老侯蟄居、久世侯一万石上り、安藤二万石上り、小笠原薬師寺紀薩州先代贈三位中納言、讃岐老公蟄居、松伯耆雁間差控
112(114)			松和泉村替一万石旧地戻居、脇坂老侯慎水出羽差控、其他御役人十五人御糺、就中久貝五千五百石ノ内二千石上り、薬師寺千石ノ内七百石上り
112(114)	21	11月25日	十一、十一月廿五日京三条大橋立札羽田内蔵之進牢舎を可免との事
112(114)	22		十二、十三、尾州農商献金御免御書、前大納言様御上京一件
112(114)	28		十四、東国或大名武装仕法美事
112(114)	29	11月27日	十五、十一月廿七日勅使三条姉小路登城勅書御請取
112(114)	30	12月2日	十六、十二月二日次飛脚奉書(大坂非常之節一件)
112(114)		12月4日	十七、同日勅使両卿自分登城御饗忘五日登城、御返答
112(114)	32		一八、一九、松平閑叟出府懸滞京、御軍役兵賦歩兵
112(114)	36		廿、廿一、御医師蓄髮望次第土佐侯同老侯へ勅使より御達
112(114)	38		廿二、酒井雅楽頭御上洛御留守被仰付奉書
112(114)		12月8日	廿三、十二月八日会津侯京住居に付屋敷取建方達
112(114)	39		廿四、御改事品々不宣事ありしに仍而御官位御一等御辞退上意
112(114)		12月9日	廿五、松平主税介十二月九日浪土取扱被仰付
112(114)	40		又廿五、欧羅巴へ御使竹内下野守松平出雲守御目付京極能登守初帰朝
112(114)			廿六、水戸浪人桜田乱妨人初都て墓所取建御免
112(114)			廿七、一橋殿御上京に付水戸武田耕雲齋并有志之者五六人被召連
112(114)	41		廿八、松岡十三郎小十人格に召出山岡金子之両儒御席御目見
112(114)			廿九、前大納言様御上京之儀在京御用達役へセリ込御沙汰
112(114)			三十、阿波侯帰国
112(114)			三一、塩谷安井芳野三儒被召出齋藤桃井団野三劍士被召出
112(114)	42		三二、田安大納言殿御後見中御政事不宣官位一等御辞退御隠居願
112(114)		12月	三三、十二月江戸通用書
112(114)	43		三四、小笠原図書頭殿海路大坂行
112(114)			三五、時千代君生 前大納言様十八日江戸御登駕廿八日御着
112(114)	44	2月7日	三六、御上洛二月七日御登駕と被仰出
112(114)		12月15日	三七、十二月十五日惣登城之節先年水戸老公江之勅書
112(114)	46		三八、藤堂侯勅諭届
112(114)	47		三九、中川侯同断
112(114)	48		四十、細川侯同断
112(114)			四一、南部侯同断

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
112(114)	49		四二、禁裏御所蛤御内張紙
112(114)	50		四三、根来甲賀二組二条御番附伊賀共五勝二組講武等組
112(114)			四四、御上洛は御軍艦になど被仰出
112(114)			四五、松平春嶽同容堂京都へ御暇軍艦にて登
112(114)	51	12月13日	四六、御殿山英人館十分落成、十二月十三日水浪士三十人にて焼
卷百十三(115) 文久3年 (1863)			
癸亥之一			
113(115)	1	1月3日	一、正月三日献上記
113(115)	22	1月5日	二、正月五日御覧調
113(115)	26	1月15日	三、同十五日献上記
113(115)	53	1月15日	四、同日於御城御覧相成候分
113(115)	54	1月20日	五、同廿日献上記
113(115)	83	2月	六、二月百匁御旅簡献上記
卷百十四(116) 文久3年 (1863)			
癸亥之二 御上洛			
114(116)	2		一、前大納言様御上京一件
114(116)	4		二、御軍艦にて御上洛之旨尾州触
114(116)	5	1月5日	三、四、正月五日出京都時事、尾州高年者御祝被下
114(116)	7		五、藤堂侯京事御届
114(116)	8	1月12日	六、京来簡 (正月十二日宇野八郎遭害)
114(116)	9	1月15日	七、正月十五日附京来簡 (折々火事、宇和嶋侯門へ悪言張札)
114(116)	10		八、衣服触大納言様御上京中御年寄衆日々登城
114(116)	11	1月15日	九、正月十五日より廿二日迄御城書 (届出、非常寄場持場、因州京事届、庄内侯清川八郎事届、阿波侯繁々登城)
114(116)	15		十、尾州触数通 (軍中には譜代恩顧之者百姓計召連夫馬定)
114(116)	17	1月22日	十一、正月廿二日出江戸来簡 (叔子亀田丸にて品川入津簡)
114(116)	27	1月	十二、正月下旬御城書及京時事 (御注令、大坂伏見町触、諸大名京都進献上)
114(116)	32		十三、京来簡 (千種殿内香川肇宅へ押入切殺)
114(116)	33		十四、大納言様御上京御参府一件
114(116)	38		十五、御軍艦にて御上洛は御差支に付東海道相成、尾州触拝見不相成
114(116)	39	2月10日	十六、二月十日出京来簡 (兵庫辺異国船は薪水乞迄にて出帆)
114(116)	40		十七、河原御殿時事
114(116)	43	2月7日	十八、二月七日朝高瀬橋に首一捨有之、千種殿の首といふ
114(116)			十九、大納言様御参内御行列
114(116)	45	2月15日	二十、二月十五日出江戸来簡
114(116)		2月11日	廿一、同十一日出江戸来簡
114(116)			廿二、御上洛、廿七日熱田御泊、廿八日佐屋御渡船、御行列
114(116)	52		廿三、浪士一件并浪士共書面
114(116)	57	2月17日	廿四、二月十七日堂上方往復
114(116)	58	2月18日	廿五、二月十八日諸大名参内
114(116)	59		廿六、松浦多気志楼 (松浦武四郎) 大人再翰
114(116)	62	2月17日	廿七、二月十七日出江戸来簡
114(116)	63		廿八、茶屋手代達書
114(116)	64		廿九、等持院足利三代将軍肖像之首を切鼻木に掛る
114(116)	67		三十、文武御修業御世話松平閔叟江被仰付田安殿御隠居
114(116)	68		三一、京時事 (青蓮院宮御還俗号中川宮大原殿等御咎)
114(116)	69		三二、京都町触等持院狼籍者召捕
114(116)	70		三三、京師来簡 (会津人数召捕方之一件)
114(116)	72		三四、京触 (英軍艦渡来申立之一件大名へも通辞)
114(116)	73		三五、英国軍艦より差出候書簡大意
114(116)	74		三六、前大納言様御参内之時伝奏者より御請取書付
114(116)	75	2月22日	三七、二月廿二日出江戸来簡
114(116)	76	2月27日	三八、二月廿七日出京簡 (会津召捕胴勢帰陣親見)
114(116)	78		三九、京都町触其余時事多数
114(116)	81		四十、因州侯へ大坂海軍当分惣督且一先帰国云々
114(116)	82	2月29日	四一、水戸公二月廿九日熱田御泊り御行列
114(116)	84		四二、熱田問屋聞繕虚説
114(116)	85		四三、伊勢臨時勅使熱田御祈
114(116)	86	3月10日	四四、三月十日熱田問屋聞繕
114(116)	87	3月4日	四五、三月四日出同六日出早使動揺説
114(116)	88	3月4日	四六、三月四日より七日迄二条御城書
114(116)	90		四七、尾州触五通又二通公義触御家添触
114(116)	95		四八、紀州様御上京御行列
卷百十五(117) 文久3年 (1863)			
癸亥之三			

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
115(117)	1	3月	一、三月中旬京師来簡(賀茂行幸一件、官武行列)
115(117)	13		二、大名方当節在京旅館附
115(117)	15	3月17日	三、三月十七日十八十九日二条御城書
115(117)	16	3月	四、三月中旬京都時事
115(117)	17	3月	五、三月中旬江戸時事
115(117)	18	3月22日	六、三月廿二日出江戸来簡
115(117)	19	3月20日	七、三月廿日出京来簡
115(117)	20		八、神奈川探索書、御触
115(117)	21		九、尾州触三通(御方々様御上尾一件)
115(117)	27	3月19日	十、三月十九日より廿九日迄二条御沙汰書(大モメ御滞京、水戸様御東下)
115(117)	30		十一、江戸京伊勢尾州勢出張記、広井庄屋永田久兵衛願書、伊勢宿陣割
115(117)	34		十二、会津侯建白応接一条
115(117)	35		十三、東高瀬目論見願書
115(117)	36		十四、京都米穀炭薪直積直払触
115(117)	37		十五、何方より出候哉不分願書、はやりうた
115(117)	38		十六、横浜風説(御本丸御広敷説)
115(117)	40		十七、浦賀港人数配
115(117)	41		十八、横浜風聞書
115(117)	44	3月	十九、三月下旬京都召捕者之書付錦窠先生(伊藤圭介)来簡
115(117)	45		廿、多気志楼大人(松浦武四郎)来簡
115(117)			廿一、江戸町触
115(117)	46	3月29日	廿二、水戸公三月廿九日佐屋御渡船熱田御泊御行列
115(117)	48		廿三、江戸風説
115(117)			廿四、春嶽殿国許へ逃行総裁職御免逼塞
115(117)	49		廿五、江戸御触諸家一分の備人数無之と申は不都合之旨
115(117)		3月22日	廿六、三月廿二日出江戸来簡(両番御庭拝見種々新説日記等)
115(117)	58	3月29日	廿七、三月廿九日江戸通一町目高札場張札
115(117)			廿八、日光例弊使勅使同様に付下乗下馬
115(117)	59	4月2日	廿九、四月二日出江戸来簡
115(117)			三十、市谷御触、公義御触、大番頭通辞
115(117)	60	4月10日	三一、四月十日出、京来簡
115(117)	61		三二、石清水行事、尾張人出役供奉行列
115(117)	68		三三、薩州侯より三者儀一戦之上相渡度伺書
115(117)		4月	三四、四月上旬御本丸御城書(浪士一件等)
115(117)	70	4月7日	三五、四月七日出東武来簡及叔子難波沖より江戸へ来簡
115(117)	71	4月12日	三六、四月十二日出東武来簡
115(117)	73	4月12日	三七、同日出酒問屋来簡(浪士一件)
115(117)	77	4月12日	三八、同日出両国橋鼻首(同)
115(117)	78	4月12日	三九、同日出東武来簡(同)
115(117)	82	4月	四十、四月上旬より二条御城書
115(117)	90	4月17日	四一、四月十七日三条大橋へ不埒至極之張紙
115(117)	91	4月	四二、四月中旬より御所二条御沙汰書
115(117)	94	4月27日	四三、四月廿七日出江戸来簡(重き御方御役人共上京之風説、浪士一件)
115(117)	98		四四、尾州触数通(寿操院様御逗留、堂上と礼節触、釧姫様井伊御離縁、公方様御帰京中前大納言様御輔翼)
115(117)	105		四五、大納言様御上京中山道御休泊割
115(117)	108	4月	四六、四月下旬江戸来簡(戯言数種)
115(117)	111		四七、水戸様堀割御達

巻百十六(118) 文久3年(1863)

癸亥之四

116(118)	1	1月16日	正月十六日之記、御軍艦にて御上洛御乗船二月廿六日之旨
116(118)	2	1月18日	同十八日之記、田安大納言殿御願之通御位階一等御辞退御隠居
116(118)		1月20日	同廿日之記、松平春嶽殿御軍艦にて正月廿二日上京
116(118)	3	1月20日	同日、有馬遠州若年寄被仰付
116(118)	10	1月29日	同廿九日之記、御上洛御乗船御日限御引上二月廿一日之旨
116(118)	19	2月12日	二月十二日之記、明春陸路御発駕来月三日頃二条御着城之旨
116(118)	24	3月9日	三月九日之記、公方様去ル四日京都御着座之旨
116(118)	26	3月14日	三月十四日之記、万石以下も近書之分追て土着可被仰付旨
116(118)	30	3月29日	三月廿九日之記、禁裏御警衛十万石以上一万石に付家来一人つゝ身体強壯行義宜勇弁之者云々
116(118)	31	4月2日	四月二日之記、尾張大納言殿隔日程御登城可被成旨
116(118)		4月4日	四月四日之記、水戸殿京都より只今御下着之旨
116(118)	35	4月21日	同廿一日、太田道醇加判之列上座備中守と改三万俵被下酒井飛弾守若年寄松前伊豆守社奉行
116(118)	37	4月24日	同廿四日、松平余四郎厩滞京撰海覚武田耕雲斎東下周旋
116(118)	39	5月9日	五月九日之記、撰州神戸海軍所御取建勝麟太郎惣裁

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
116(118)	42	5月16日	同十六日之記、薩州伺書英国難題申立候付
116(118)	47	5月27日	同廿七日之記、去る十八日公方様御参内之旨
116(118)	51	6月16日	六月十六日還御
116(118)	52		陸軍惣裁陸軍奉行歩兵奉行騎兵奉行講武所奉行
116(118)			御軍艦奉行文学共全備

卷百十七(119) 文久3年 (1863)

癸亥之五

117(119)	1		一、雄徳山行幸
117(119)	4		二、新徴組出来、封廻状、浪士四人
117(119)	5	4月22日	三、四月廿二日江戸風説(水戸公小笠原図書頭殿攘夷取扱)
117(119)	6		四、公方様御下坂撰海御巡覽
117(119)	7		五、神力丸穂田沖初而入津
117(119)	9		六、端午出京便(不埒者朝倉孝之助)
117(119)	10	5月7日	七、五月七日江戸来簡(静成節句英夷切迫触)同十二日来簡
117(119)	13		八、横浜急便、英人江五十万ドル御償事濟十二日十七日来簡
117(119)	15	5月11日	九、五月十一日、公方様大坂より御帰京
117(119)	16		十、横浜巷説
117(119)	19		十一、一橋公御退職御願書
117(119)	20		十二、大納言様難波主将中山道御登御所勞俄に御帰城
117(119)	24	5月20日	十三、五月廿日京鼻首建札并京風説其他風説
117(119)	25		十四、外国江被仰出并江戸来簡二通
117(119)	27		十五、長州にて外国商船へ発砲狂暴
117(119)	28		十六、姉小路少将殿遭害其他風説来簡
117(119)	34		十七、志水甲斐殿在所住居水野伊豆成瀬竹之助同断
117(119)	35		十八、小笠原図書頭殿武田耕雲齋外国人談判
117(119)	36	6月1日	十九、長暴叡感長州京召勅書姉小路殿香花料被下六月朔日切害
117(119)	37		二十、大納言様大坂防禦主将御所勞に付先之御断
117(119)	38		二十一、公方様還御一卷
117(119)	40		二十二、鳥山九郎狂書及誹答
117(119)	47	6月2日	二十三、西丸炎上及六月二日江戸来状同条数通
117(119)	50		二十四、尾州時事尾州触
117(119)	52	6月12日	二十五、閣老通用状六月十二日出東便
117(119)	54		二十六、上杉侯御暇其他京時事数条
117(119)	58		二十七、閣老板倉侯辞職内願書
117(119)	60		二十八、一橋公再御辞職御願書
117(119)	62		二十九、姉小路殿斬人召捕小笠原図書頭殿御役御免
117(119)	63		三十、公義御用金盗人佐屋宿へ亀山宿より探索懸合
117(119)	65		三十一、叡慮断然之御沙汰京時事風説御仕置
117(119)	67		三十二、長州侯建白二通御親征御巡狩奉迫促
117(119)	68	6月25日	三十三、越前家内議之定論并六月廿五日五条河原二人切害
117(119)	72	6月22日	三十四、六月廿二日廿七日東便姫路侯老中上座加州初十一侯江戸召
117(119)	74		三十五、松浦弘大人来簡
117(119)	75		三十六、紀州において土佐人敵討
117(119)	76		三十七、御上洛通御之節被下候古渡村高年三人銀二枚つゝ渡ル
117(119)	77		三十八、堂上方数人御糺
117(119)	78		三十九、犬山侯御手当年に二千俵田宮御加増二百石其他京において結構
117(119)	79		四十、叔子池田澁三郎撰海より来簡并江戸より数通
117(119)	94		四十一、尾州御境守方大寄合寄合

卷百十八(120) 文久3年 (1863)

癸亥之六

御城書

118(120)	4	5月15日	一、五月十五日太田備中守老年耳遠段々仍願御役御免
118(120)	6	5月17日	二、同十七日之記、去月廿一日大坂表へ為成海岸向御巡覽相濟去る十一日二条御城江還御之旨
118(120)	10	5月28日	三、五月廿八日之記、松平大膳大夫より当月十日米利堅船へ砲発いたし候旨
118(120)	10	5月晦日	四、五月晦日之記、姉小路少将を及切害候者探索触
118(120)	11	6月2日	五、六月二日之記、十万石以上割合京師御警衛相勤万石以上は家督御礼上京夫より十年目一度つゝ朝覲
118(120)	12	6月3日	六、六月三日西丸炎上
118(120)	15	6月13日	七、六月十三日之記、去る三日御暇御参内同九日大坂へ可為入夫より東海道云々
118(120)	17	6月16日	八、同十六日之記、公方様御軍艦にて只今浜御殿御着今日還御之旨小笠原図書頭思召有之於大坂御役御免、牧野備前守仍内願御役御免稲葉長門守所司代
118(120)	18	6月18日	九、六月十八日酒井雅楽頭加判之列上座
118(120)	24	6月27日	十、同廿七日松平左兵衛督(上州矢田一万石)年来厚存込年々一万俵つゝ被下

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
118(120)	53	8月26日	十一、八月廿六日松平兵部少輔若年寄被仰付、縫殿頭と改
118(120)	55	8月28日	十二、八月廿八日中山侍従大和乱妨に付触、上方筋不容易事變に付触
118(120)	59	9月5日	十三、九月五日閣老松平豊前守病氣に付段々願之通御役御免
118(120)	61	9月10日	十四、九月十日松平大和守以来折々登城立花出雲守若年寄
118(120)	64	9月12日	十五、九月十二日牧野備前守加判之列
118(120)	67	9月14日	十六、九月十四日強精忠勇撰士貢献止

卷百十九(121) 文久3年 (1863)

癸亥之七 長州・薩州外国と戦争

119(121)	1		一、長州下之関仏国船通行五月廿三日朝長州より発砲、長崎奉行申達書付并和蘭軍艦長崎発船に付奉行尋書付
119(121)			二、亜国ワイロミン船水先案内庄蔵御札口書
119(121)	3		三、横浜より外国奉行通用并横浜詰之人手簡
119(121)	6		四、遠州浜松光勝院長州江相越居親見之話横浜詰人來簡
119(121)	7		五、尾州触、前大納言様京都御暇五月廿四日御帰城
119(121)	8	6月6日	六、六月六日於京都長州侯外国戦争一条届書
119(121)	10		七、本国新聞横浜新聞 (係長州)
119(121)	13		八、神奈川奉行支配定役今津康次郎來簡
119(121)	14	6月12日	九、六月十二日出江戸來簡 (係長州)
119(121)			十、京商人近江屋利兵衛長州へ相越居親見之來簡、大坂商來簡
119(121)	16		十一、水夫口書採要
119(121)		7月15日	十二、同事大坂七月十五日出の状
119(121)	18		十三、長府侯御届
119(121)			十四、神奈川にて水先案内之者被殺
119(121)	19		十五、小倉侯御届数通并仏人檄文
119(121)	25		十六、英国船新聞紙
119(121)	26	7月4日	十七、七月四日小倉侯届書長州不法之處置
119(121)	28	7月8日	十八、七月八日江戸風説 (小倉両使登城長州不法一条)
119(121)	29	7月9日	十九、七月九日黒田奥平応援小倉江も被仰出長州之不法人引弘方御達
119(121)	30		二十、長府侯御母堂附之老女より土浦侯老女江之齋
119(121)	39		二十一、横浜聞書叢、長州薩州外国戦争一件
119(121)	46	7月5日	二十二、七月五日薩州侯御届
119(121)	48		二十三、薩州藩士高崎佐太郎話
119(121)	51		二十四、薩英戦争一条滞京藩士之話
119(121)	55		二十五、横浜通辞之書取 (係薩州戦争)
119(121)	62	8月27日	二十六、八月廿七日出東便、同日出叔子池田澁三郎來簡、係同事
119(121)	66		二十七、御使番中根一之丞徒士長州より帰府注進
119(121)	67	9月22日	二十八、九月廿二日出東便薩州一件
119(121)	69	9月28日	二十九、薩英応援、九月廿八日、十月四日
119(121)			此余長薩横浜新聞事長きものは別卷癸亥十の卷に有之

卷百二十(122) 文久3年 (1863)

癸亥之八 係京師騒動大和一揆

120(122)	1	7月5日	一、七月五日一橋公御辞職御差留厳烈被仰出
120(122)			二、紀州阿州播州等江監察使被遣
120(122)	3		三、筑前侯より外国戦争心得伺書并差図
120(122)	5		四、彦根目論見京より美濃船着迄堀割
120(122)			五、徳大寺滋賀右馬允遭災 (妻即死当人無別条)、大藤幽斐遭害梟首
120(122)			奸商五人可討取建札先一人討之七月廿一日梟首建札高台寺焼払建札
120(122)	7	7月22日	六、七月廿二日出叔子出府中来簡
120(122)	9	7月25日	七、七月廿五日四条大竜寺門前張札
120(122)	10	7月晦日	八、七月晦日出京來簡 (春來殺害人別而夥多奸商張紙)
120(122)	11		九、京都江以來別段十五万俵つゝ被進諸臣一同可頒給御書付
120(122)	12	7月27日	十、七月廿七日奸商命乞歎願張札
120(122)	13		十一、大坂西御堂門前張札奸商より命乞歎願数通
120(122)	17	8月3日	十二、八月三日朝三条大橋張札梟首斬害不可然意あり
120(122)	18	8月3日	十三、八月三日朝但州生野銀山御代官手代安福大次郎首梟首
120(122)	19	8月13日	十四、公役衆測量八月十三日熱田白鳥山泊
120(122)	20	7月28日	十五、七月廿八日江戸へ定日幸領之話八月二日十二日出書類
120(122)	23		十六、尾州時事四五条
120(122)	25		十七、福山侯より関白殿下江御請二通
120(122)	28	8月13日	十八、八月十三日因備阿米四侯在京中被仰出
120(122)			十九、江戸日本橋張紙小梅住和学者鈴木重胤遭害
120(122)	29	8月11日	二十、八月十一日一役一人近々鎖港之儀に取懸候付熟慮可致上意
120(122)			二十一、大和行幸御親征被仰出
120(122)	30		二十二、尾州時事
120(122)	31	8月12日	二十三、八月十二日出東武來簡 (鎖港談判)
120(122)		8月15日	二十四、八月十五日出京來簡 (奸商の土蔵焼)、同十七日廿一日別紙 (因州会津二侯を請る)

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
120(122)	33	8月21日	二十五、八月廿一日御所より被仰出御親征御延引来機会無之全エイ慮に無之由等
120(122)			二十六、長州反逆之次第、京師騒擾堂上廿人も慎
120(122)	38		二十七、京師騒動来簡三通、茶屋手代聞合書連日数通
120(122)	45		二十八、和州来簡(五条御代官陣屋焼払乱妨)
120(122)	46	8月19日	二十九、八月十九日関東江御達之趣同日諸藩江被仰出二通
120(122)	47		三十、脱走堂上名簿
120(122)			三十一、紀州家大和一件勅命真偽伺并御答且雜掌通辞
120(122)	48		三十二、所司代衆より近国諸侯留守居江大和一件通辞
120(122)	49	8月22日	三十三、八月廿二日堂上方御糺数人
120(122)	50		三十四、京都御触二通
120(122)	51		三十五、和州五条騒動一件
120(122)	53		三十六、尾州北方辺より来簡
120(122)	54	8月	三十七、八月下旬京都来簡
120(122)	56	8月15日	三十八、八月十五日岐阜来簡
120(122)	57	8月19日	三十九、八月十九日出京都早状
120(122)	58		四十、前大納言様御上京一件
120(122)	63	9月	四十一、九月長州侯臣下へ布告之書及御届二通
120(122)	69	8月22日	四十二、叔子出府中八月廿二日出来簡
120(122)	70		四十三、戯言数種

巻百二十一(123) 文久3年(1863)

癸亥之九 京説 大和一揆

121(123)	1		一、上方風説 京、大和
121(123)	3		二、高取藩士手簡
121(123)	4	8月22日	三、八月廿二日夜三条橋辺乱妨仏光寺張紙西本願寺用人松井中務遭害
121(123)	5		四、笠松陣屋より御加勢願(和州五条より信楽用心通用に付而也)
121(123)	6		五、長州侯父子江被仰出(和州討手、在京侯名、御門々之御警衛、時事)
121(123)	8		六、和州一揆一件、八月廿九日諸説
121(123)	10		七、筑前侯伺書并御差函
121(123)		9月	八、和州一条聞書 九月上旬
121(123)	11		九、京都来簡抄 九月上旬中旬
121(123)	14		十、和州一揆触高野山へ相越侯者之話
121(123)	17		十一、奥勅和州江御触
121(123)			十二、江間氏(江馬活堂か)筆記彦根藩話
121(123)	22	9月10日	十三、九月十日出京師来簡
121(123)	24	9月7日	十四、九月七日出江戸来簡
121(123)	25		十五、高取侯届書
121(123)	27		十六、細川家にて一家中へ申渡
121(123)			十七、紀州新宮侯へ浪士吉田寅太郎よりの書簡
121(123)	29		十八、祇園張紙長州及三条殿以下之罪を論する尤の論
121(123)	33		十九、和州高取侯江御感之奉書
121(123)			二十、郡山侯御届二通
121(123)	35	9月10日	二十一、九月十日京都書類
121(123)	37		二十二、藤堂侯彦根侯届数通
121(123)	42		二十三、紀州様御達式通
121(123)	43		二十四、山田奉行より相達候書付
121(123)	44		二十五、御目付方江為知
121(123)	46		二十六、藤堂侯伺書生捕使者渋谷伊与作一条及同侯建白
121(123)	49		二十七、浅利貞国暴言張紙
121(123)	52	9月12日	二十八、九月十二日出江戸来簡(中根一之丞家来再説)、同日出叔子出府中来簡
121(123)	54	9月15日	二十九、九月十五日出京都来簡(大和一件)
121(123)	55		三十、長州藩桂小五郎伝奏衆へ差出候書付并長藩より田宮へ差出候書付
121(123)	59		三十一、関東へ御察度会津侯へ御内勅祇園社張紙永井雅楽辞世
121(123)	63	9月16日	三十二、九月十六日本町一丁目張札三井大丸の罪を責る、同廿三日箱崎屋梟首
121(123)	64		三十三、三大手張紙焼捨御番人心得御達
121(123)	65		三十四、駿河町呉服店越後屋付火にて焼失類焼之者一件
121(123)	66		三十五、御目付代中根一之丞長州にて被害候又々一説
121(123)	67		三十六、大和一件九月上旬中旬之戦争并彦根藩士物語
121(123)	72	9月21日	三十七、九月廿一日藤堂家届書同廿三日同断
121(123)	74	9月17日	三十八、九月十七日出江戸来簡(鎖港応接一件)
121(123)	75	9月27日	三十九、九月廿七日出江戸来簡(叔子澁三郎出帆箱館帰横浜時事応接等)
121(123)	81		四十、大和浪士討取書付、東川村庄屋治兵衛書面
121(123)	84	10月1日	四十一、十月朔日夜東本願寺門跡大門扉に張紙中川宮の罪をかそふ
121(123)	86	10月	四十二、十月初京都来簡、十月六日附同断

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
121(123)	89		四十三、高取侯御預処五条御代官所一万千石和州芝村侯届会津彦根届数通
121(123)	94	10月6日	四十四、十月六日東便鎖港不被行
121(123)	95		四十五、高取侯届書郡山侯家来江御達
121(123)	96	10月12日	四十六、十月十二日出東武来簡 (半信半疑之御書付)
121(123)	98	10月17日	四十七、十月十七日出東便薩英応接千住敵討
121(123)	100		四十八、会津侯御役知格五万石手当被下十月四日一橋公登京猶引続御上洛被仰出
121(123)	101	10月1日	四十九、十月朔日京都来簡 (大和一揆過半落着紀州家御届)
121(123)	102		五十、茶屋手代聞合書
121(123)	105	10月22日	五十一、十月廿二日出東便 (薩英事済千住敵討)、同日来簡、廿七日出來簡
121(123)	110		五十二、忠女行実近隣申立書
121(123)	112		五十三、金鉄上書

巻百二十二(124) 文久3年 (1863)

癸亥十 風説大和錦巻之壹

「風説大和錦」(天誅組の乱の実録。作者不明。)を書写。巻百二十三も同じ。

巻百二十三(125) 文久3年 (1863)

癸亥十一 風説大和錦二編巻之一

巻百二十四(126) 文久3年 (1863)

癸亥十二 但州夢物語巻之一

巻百二十五(127) 文久3年 (1863)

癸亥十三 風説萩の枝折

巻百二十六(128) 文久3年 (1863)

癸亥十四 拾遺萩の枝折巻之壹

巻百二十七(129) 文久3年 (1863)

横浜新聞紙

127(129)	2	7月13日	別段 我七月十三日刊行 薩州戦争
127(129)	23	7月19日	十七号 我七月十九日 " 薩英書簡往復
127(129)	31	7月27日	十八号 我七月廿七日 "
127(129)	40	8月4日	十九号 我八月四日 "
127(129)	45	9月9日	廿四号 我九月九日 "
127(129)	51	9月14日	毎日新聞紙第一号 我九月十四日 "
127(129)	54	9月15日	別段 我九月十五日 附録同日 "
127(129)	60	9月20日	別段 我九月廿日 "
127(129)	65	9月22日	廿六号 我九月廿二日 "
127(129)	67	10月1日	廿七号 我十月朔日刊行
127(129)	77	10月8日	廿八号 同八日 "
127(129)	84	10月15日	廿九号 同十五日 "
127(129)	90	10月23日	三十号 我十一月廿一日 (十月二十三日) "
127(129)	97	10月29日	三十二号 同廿九日 "
127(129)	99	12月12日	三十七号 十二月十二日 "

巻百二十八(130) 文久3年 (1863)

癸亥之十六 但州生野乱妨 大和一揆落着

128(130)	1		一、会津侯より丹後宮津侯江人数出御達
128(130)			二、出石侯届書二通明石侯届書守護職会津侯より出石侯へ書札
128(130)	5	10月	三、十月中上京之人取込候書付、十一月再上京同人同断
128(130)	11		四、藤堂家江大和浪士討取生捕書付及浪士共申立候書付
128(130)	14	10月15日	五、十月十五日千住宿復讐委説
128(130)	17		六、芝田町豊嶋町訴書品川宿屋役人訴書
128(130)	20		七、八諸侯江軍艦御用立候様被仰出
128(130)	21		八、但州生野御代官川上猪太郎手代手附達書及或人来簡
128(130)	23	11月2日	九、十一月二日出東便数通之採要鎖港談判不被行一橋御用人中根被斬 江戸中切害夥多、叔子澆三郎綱代湊にて千賀君拝謁出帆、 英へ御書簡
128(130)	26	11月17日	十、十一月十七日東便 (御本丸二之丸炎上御沙汰書も添)
128(130)	31		十一、紀州様御達書類、大和一揆落書
128(130)	36		十二、京都において列藩江被仰出書付
128(130)	37		十三、尾州明倫堂御改革
128(130)	39		十四、但州生野御代官川上猪太郎再御届
128(130)	42	11月	十五、十一月下旬東便、炎上張紙
128(130)	43		十六、大坂大火、江戸大火

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
128(130)	44		十七、京師諸侯方新規邸宅繩張
128(130)	45	12月22日	十八、十二月廿二日出同廿七日出東便炎上御仮住居、新徴組被廢止、仏人申立
128(130)	47		十九、紀州様御届二通人数引揚、召捕嶋村省吾一件
128(130)	48	12月	二十、十二月上旬吉原乱妨人
128(130)	49		二十一、土井大隅守屋敷脇坂福原等召捕一件
128(130)	50	12月7日	二十二、十二月七日東便(御本丸女中職、フロイセン使節入津、東国浪士不穩)
128(130)	51		二十三、尾州明倫堂学生心得方御達
128(130)		12月13日	二十四、十二月十三日出東便(近国富有御府内浮浪乱妨)、横浜来簡
128(130)	54	12月17日	二十五、十二月十七日出東便(封廻状乱妨人召捕)
128(130)	56	12月22日	二十六、同廿二日出東便(パンの事)、箱館叔子南部鉄ヶ崎より来簡 船中略日記、乱妨人浪士ハ存外少く藩中或ハ御旗本御家人
128(130)	64		二十七、出石侯御届二通(但州一件)
128(130)	65		二十八、庄内侯棚倉侯御届御府内浪士一件、女中御暇或ハ御留
128(130)	66		二十九、牧野侯彦根侯御届乱妨人御府内近郷
128(130)	68		三十、戸田秋元土岐三侯へ上州赤城山辺浪士屯集之趣に付御達書
128(130)			三十一、苅屋土井侯御届及浪士等書類数通
128(130)	74		三十二、阿部播磨侯家来届岩松満次郎出府逗留達亭漏生公使へ御書簡
128(130)	75		三十三、岩松満次郎届書浪徒より岩松を大将に強望
128(130)	81		三十四、御上洛御軍艦御供乗組覚昇立丸セーラ船朝陽丸順道丸
128(130)	82		三十五、島津三郎建白
128(130)	83		三十六、長州侯歎書二通并使者井原主計歎願
128(130)	85		三十七、九州列藩申合大意
128(130)	86		三十八、議奏參議国事御改変
128(130)	87		三十九、水口侯届書二通
128(130)	88		四十、肥前侯届書
128(130)			四十一、水口侯伺書
128(130)	90		四十二、李漏生人へ御返簡
128(130)	91		四十三、芸嫡上京九侯建白、京風説、柳川侯届書
128(130)	94	12月	四十四、十二月中旬江戸来簡(浪人静り)
128(130)	95	12月	四十五、十二月下旬京便(二条閣白内意)
128(130)		12月27日	四十六、十二月廿七日東便(御上洛御乗船)
128(130)	96		四十七、但州生野一件豊岡人筆記

巻百二十九(131) 文久3年(1863)

癸亥十七 御城書之部

129(131)	1	10月6日	一、十月六日紀公大坂御守衛御入城
129(131)	4	10月11日	二、同十一日川越侯御政事惣裁職
129(131)	13	10月25日	三、同廿五日一橋公御軍艦にて御上京
129(131)	20	11月7日	四、十一月七日川越侯上州前橋江築城被仰出
129(131)	23	11月	五、同十一月衣服近年之御変革復古
129(131)	27	11月15日	六、同十五日御本丸二之丸炎上
129(131)	35	11月25日	七、同廿五日蒔田権佐一万石に高直り
129(131)	40	12月1日	八、十二月朔日外国奉行池田河津御目付河田英仏行台命
129(131)	44	12月5日	九、同五日御上洛中御府内取締厳重
129(131)	79	12月27日	十、同廿七日御軍艦御乗船御上洛

巻百三十(132) 元治元年(1864)

甲子一 二度目御上洛

130(132)	1	1月12日	一、正月十二日出東便、十七日出同断、馬年御祝
130(132)	3	1月15日	二、正月十五日附京便
130(132)	4		三、長州擊薩船、馬鹿届、二薩州届、小倉届
130(132)	6		四、東西時事諸届等(三浦楠浮浪乱妨、京江戸届伊豆御碇泊御上陸、新徴組西国浮浪、上総浮浪)
130(132)	13		又四、京都薩州新邸繩張凶
130(132)	14		五、江戸時事諸届大目付通辞
130(132)	16		六、江戸町触
130(132)	18		七、東浮浪諸届、仙台参府
130(132)	21		八、京師正月書類(島津三郎賞、従一位宣下、宇佐香椎奉弊、戸田山陵賞、御板輿、宇和島藤堂賞)
130(132)	25	1月	九、正月下旬江戸来簡
130(132)	26		十、京師内密簡
130(132)			十一、英公使へ御書簡大意
130(132)	27	1月21日	十二、正月廿一日出京便御初参内、御進献島津三郎従四位少将御礼
130(132)	30		十三、御上洛御用船名
130(132)	31	1月22日	十四、正月廿二日出東便
130(132)		1月26日	十五、正月廿六日京便
130(132)	33	1月27日	十六、正月廿七日東便、松浦氏来簡

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
130(132)	35	2月1日	十七、二月朔日京便 (御初参内御行粧供奉)
130(132)	37		十八、熱田問屋御供泊届
130(132)	45		十九、正月下旬時事京説
130(132)	47		二十、東国浪士叢説、敵討付
130(132)	60		二十一、鹿嶋神宮寺乱妨
130(132)	61		二十二、大垣人筆記中東国浪士一件
130(132)	64	2月11日	二十三、二月十一日出京便
130(132)	68		二十四、六卿歎願
130(132)	75	2月12日	二十五、二月十二日出東便
130(132)	72		二十六、島津三郎を誹謗張紙大つよ武士たんし物戯言
130(132)	81		二十七、長州桂小五郎詩、御旅館本陣附御船名御役人附等

巻百三十一(133) 元治元年 (1864)

甲子二 二条御城書、御留守方御城書

131(133)	1	1月25日	一、正月十五日公方様二条御城御着座同廿一日御参内御武家諸大名供奉
131(133)			臨時御参内正月廿七日、二月十四日、三月九日舞楽、三月廿四日、四月廿九日
131(133)	7	2月26日	二、二月廿六日夕前大納言様京着但御所勞御不参三月六日御登城
131(133)	12	3月7日	三、三月七日公方様推任叙之御礼御参内御武家諸大名供奉
131(133)	19	3月16日	四、三月十六日前大納言様御参内但御所御差支十九日になる
131(133)	24	3月15日	五、三月十五日一橋公御守衛総督撰海指揮被仰出後見職へ仍御願御免
131(133)	25	3月26日	六、同廿六日公方様二条関白殿被下為成前大納言様ニも被為入、四月九日近衛殿中川宮へ公方様に付成
131(133)	29	4月7日	七、四月七日松平肥後守京都守護職被仰付軍事惣裁は御免
131(133)	32	3月5日	八、前大納言様三月五日同廿一日同廿五日四月三日同六日同十四日御登城、其後御所勞御不参、四月廿一日御用召御登城、正二位日被叙、四月廿八日御登城、廿九日御参内
131(133)		5月1日	五月朔日京都御発駕、同日御着城、水口龜山桑名
131(133)		4月11日	九、四月十一日所司代稻葉加判之列、松平越中守所司代四月三日、於江戸有馬遠江守御役御免
131(133)	39		十、諸大名位階昇進数十人数度大和戦功拝領物
131(133)	57	5月2日	十一、五月二日公方様御暇御参内御武家諸大名供奉
131(133)	65	5月7日	十二、五月七日公方様二条御城御発駕伏見より御乗船大坂御入城
131(133)			江戸御留守方御城書
131(133)	76	2月19日	一、二月十九日、神武天皇御陵御成功に付戸田越前守従四位下
131(133)	79	3月4日	二、三月四日町奉行三千石阿部越前守本家十万石相続
131(133)	82	3月26日	三、同廿六日御軍艦操練所増地盛大

巻百三十二(134) 元治元年 (1864)

甲子三 再御上洛中

132(134)	1	2月14日	一、勅書及二月十四日御参内之上御請
132(134)	5		二、柳川侯帰国伝奏衆ニ届書
132(134)			三、尾州時事
132(134)	6	2月16日	四、二月十六日大和浪士十九人死刑
132(134)	7		五、二月中旬島津三郎を誹謗張紙
132(134)	8		六、大垣人筆記
132(134)	10	2月16日	七、二月十六日出京便、同十七日一文字 (会津侯軍事惣裁職被仰付、京都守護職御免、春嶽君京都守護職被仰出)
132(134)	12	2月21日	八、二月廿一日出京便
132(134)	13	2月22日	九、同廿二日出京便
132(134)	14	2月26日	十、二月廿六日出京便
132(134)	15		十一、横浜鎮港一条勅問御請改元并御城書五六条
132(134)			薩州侯御刀御脇差隅州三郎事御刀拝領京芝殿江申渡
132(134)	19		十二、明石藩士之話
132(134)	23	2月29日	十三、二月廿九日出大坂来状 (鼻首張札自殺人等)
132(134)	28	2月23日	十四、二月廿三日京都三条大橋張紙
132(134)	31		十五、長州侯奉勅始末書及願書
132(134)	40	2月27日	十六、二月廿七日出東便、三月朔日出京便、同六日出京便
132(134)			前様朝儀御参与無程御辞退
132(134)	44	3月8日	十七、三月八日熱田大宮祭文殿直文及三月九日張紙誹阿州光源寺
132(134)		3月11日	三月十一日誹会津侯張紙
132(134)	47		十八、長州藩士及分家在京人数書
132(134)	49	3月8日	十九、三月八日三条大橋制礼場浪士之御触板再三取捨、此度は裏に誌し候書面有之則写し、并同十二日寺町はり紙
132(134)	51	3月11日	二十、三月十一日出京便 (晴御参内行列舞楽御覧図、四条河原切腹人)
132(134)	55	3月12日	二十一、三月十二日出東便封廻状、三月十六日京便
132(134)		3月21日	江戸築地門跡講武所焼失、三月廿一日京便、同廿二日東便
132(134)		3月26日	同廿六日京便、三月十八日大坂鼻首、一橋公御守衛惣督
132(134)	60		二十二、撰海砲台城壁ヶ所合図太鼓台等
132(134)	62		二十三、薩州吹聴奉切紙三郎従四位少将大輔大隈守天賜天盃

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
132(134)	63		二十四、筑前世子一橋公へ書付御暇給り長州立寄説得望
132(134)	65	3月27日	二十五、三月廿七日東便、四月朔日京便、一橋公御直書
132(134)	68		二十六、長州侯拒御請伺書等二通
132(134)	71		二十七、前大納言様東本願寺枳殿江御招請之記
132(134)	76	4月2日	二十八、四月二日出東便、大垣人来簡、大坂梟首、四月十二日出東便 常野浪士水烈公神主を奉し日光行
132(134)	82	4月16日	二十九、水戸公御建白、四月十六日京便、廿日出一文字、正二位御晦 粟田諸大夫武内相模守災厄、四月廿一日出に委し
132(134)	85	4月17日	三十、四月十七日出東便(水浪士日光道中石橋宿間屋注進状、横浜見せ物)
132(134)	88		三十一、藤堂家吹聴奉切紙
132(134)	89		三十二、知多郡三氏魯西亜漂流英船護送長崎より戻る
132(134)	91		三十三、三条実美卿詠はんし物落首数首

巻百三十三(135) 元治元年(1864)

甲子四 京師騒擾前之記

133(135)	1		一、或人筆記叢説
133(135)	7	4月26日	二、四月廿六日出京便、春画詞
133(135)	9	4月	三、四月下旬東便、長州の説、常磐形勢、英ミニストル申状、横浜来簡、五月七日東便
133(135)	13		四、高須人来簡及別紙(長州地形勢)
133(135)	18	5月3日	五、五月三日二条惣出仕勅書二通御請十八ヶ条御伺書一通一同拝見
133(135)	23		六、横浜風説
133(135)	24		七、太平山浪士屯集之説
133(135)	25		八、水戸公川越侯鎖港取扱勅勵御沙汰加州侯御守衛御沙汰
133(135)	26		九、筑前国老黒田山城話
133(135)	28	5月	十、五月中旬室津において長士暴行嘉徳丸を焼外四艘長領引行
133(135)	29	5月11日	十一、五月十一日大坂来状(摂海御台場、梟首二条、東本願寺御猶子取扱、浪花にて岡田式部梟首、京都四条張紙)
133(135)	31	5月20日	十二、五月廿日出江戸不時便、廿日公方様御着城、浪士形勢御府内廻り御旗本六ヶ所屯所
133(135)	32	5月	十三、五月下旬大坂来状(町与力内山彦四郎梟首、豊前宇佐へ奉弊使、内山張紙)、五月廿二日江戸来簡(太平山強盛)
133(135)	34		十四、外国行調役田中房十郎土耳其領シユエスより二月八日の書面、五月十二日江戸へ着
133(135)	36	5月	十五、五月京都より長州江御沙汰留守居拒御請
133(135)	37	5月27日	十六、五月廿七日大坂梟首高橋建之丞
133(135)	40	5月	十七、五月風説種々ヶ条、五月関所番所へ浮浪取締之触
133(135)	43	5月27日	十八、大神宮神職中より水戸藩十四人も滞留伺書
133(135)	44	6月6日	十九、五月廿七日東便、太平山盛
133(135)	52	6月16日	二十、六月六日出京便、五日夜三条大橋辺止宿之浪人十余人召捕其他切捨逃候もあり、六月上旬風説種々、又六日出二通、十一日出近国人来簡
133(135)	56	6月17日	二十一、長州京留守居差出候書付二通、六月十七日出十六日出京便数通
133(135)	58	6月26日	二十二、六月十七日出同廿二日出東便、麻布善福寺張紙太平山益盛
133(135)	59	6月17日	二十三、六月廿六日夜京師より早追尾崎八右エ門到着、長士五百人伏見滞留京動揺
133(135)	61	6月25日	二十四、六月十七日出東便(閣老方不出多)
133(135)	65	6月26日	二十五、同廿五日出京便(長州人形勢数条)、六月廿六日在京方物書及下役伏見形勢見聞之趣并京地風説
133(135)	67	6月27日	二十六、六月廿六日出京并大坂来簡、同廿四日大坂詰来簡
133(135)	68	6月	二十七、六月廿七日出東便(増上寺末寺小金原某寺江浪士千人泊り候旨)
133(135)	70	6月26日	二十八、六月下旬京便(土佐藩士を間違にて会津藩突留見事の応接にて事済、一橋御用人平岡延四郎被斬)、六月廿六日出東便種々不穩
133(135)	72		二十九、八幡参籠之儀長藩より差出候書付、廿六日出京便、近国藩来簡、長藩伏見逗留名前
133(135)	73	6月	三十、山田奉行神戸藩士来簡抄
133(135)	78		三十一、六月長藩八幡参籠之者より所司代衆江差出候由にて諸藩士も写持参
133(135)	79	6月	三十二、石州浜田侯届書
133(135)	85	6月	三十三、六月下旬京説数十条
133(135)	88	6月	三十四、六月下旬難波書類及小倉藩御達矢田侯届三州にて遭害人
133(135)	92	6月26日	三十五、大垣藩中六月下旬伏見書類
133(135)	95	7月16日	三十六、六月廿六日出京便(長防触書、京師張紙)
133(135)	98	7月	三十七、近国藩書簡、七月十六日出京便
133(135)	102	7月7日	三十八、七月長州侯幕府江建白
133(135)	104	7月1日	三十九、七月七日浜田津和野に侯留守居江御尋之趣
			四十、七月朔日出在京方物書探索之趣

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
卷百三十四(136) 元治元年 (1864)			
甲子五 京師騷擾上			
134(136)	1	7月2日	一、七月二日出東便
134(136)	2	7月	二、七月上旬京師長藩形勢
134(136)	4	7月2日	三、七月二日出近国藩京説、彦根藩京説、佐久間修理遭害
134(136)	7		四、長州藩御届浜入口慨歎書諸家廻達切迫暴書、益田福原国司切迫書諸藩留守居見込書等
134(136)	26		五、薩州土州久留米奮激歎訴
134(136)	27		六、京師大變熱田問屋書類、熱田地非常半鐘打方
134(136)	30		七、会津早打話、御国早追説、廿日出不時便
134(136)	33		八、青木齋宮話説
134(136)	36		九、所司代書付、伏見討手配追討勅命
134(136)	37		十、京都御沙汰書五通
134(136)	39		十一、御勘定所京詰より通用
134(136)			十二、洛中大火夢物語
134(136)	43		十三、宣旨二通
134(136)	45		十四、会津藩討死姓名、彦根桑名淀等同断
134(136)	47		十五、会津留守居古沢氏話
134(136)	48		十六、在京尾州人話
134(136)	50		十七、洛中兵火焼失
134(136)	51		十八、大垣江京通用
134(136)	52		十九、京師叢説并大變一枚摺活字板写
134(136)	55	7月22日	二十、七月廿二日頭衆通達御用人衆通辞
134(136)	56	7月26日	二十一、七月廿六日出京便
134(136)	60	7月28日	二十二、同廿八日出京便
134(136)	61	7月	二十三、七月下旬大垣藩へ京便
134(136)	62		二十四、膳所吉安氏来簡
134(136)	63		二十五、伏見御触数通
134(136)	65		二十六、大垣藩書類
134(136)	69		二十七、天竜寺討手手配廿四日御廻文旅行御建札
134(136)	71	7月24日	二十八、七月廿四日出不時便、九条様附御警衛の尾人来簡
卷百三十五(137) 元治元年 (1864)			
甲子六 京師騷擾下 函一枚袋中二入不可紛失			
135(137)	1		一、大垣侯江戸京御届、一橋公より感状
135(137)	4		二、彦根藩功名并討死、山崎おいて大垣小田原両手江分捕品々
135(137)	6		三、伏見医師上田耕蔵より差出候長賊療治人姓名
135(137)	7		四、高松侯手江生捕廿二人姓名
135(137)	8		五、高瀬舟にて引退重手にて相果、或は自害十一人姓名
135(137)	9		六、福井侯御届
135(137)	10		七、津山侯手江生捕十三人姓名
135(137)			八、兵庫表風聞書二通及上方書類
135(137)	16		九、彦根侯御届
135(137)			十、笹山侯御届
135(137)	17		十一、桑名侯江戸留守居御届
135(137)	20		十二、膳所本多家より末家神戸本多江秘書通
135(137)	23		十三、会津侯初察知予防
135(137)	24	7月19日	十四、七月十九日大坂詰之人来簡
135(137)	25		十五、熱田住人秋平上京探索再兵庫迄相越聞繕書簡
135(137)	31	7月	十六、七月下旬大垣藩書類
135(137)	36		十七、長州并分家共江戸居屋敷初被召上
135(137)	38		十八、屋敷請取書類
135(137)	43		十九、大垣藩書類
135(137)	49		二十、大垣藩周旋方市川久之助其父江来簡
135(137)	56		二十一、大垣藩伏見戦闘略記
135(137)	61		二十二、高須町人来簡
135(137)	66		二十三、大垣藩書類
135(137)	69		二十四、長州侯父子国司信濃に賜る軍令状、京師黜陟軍令条々添有之書付
135(137)	72		二十五、所々戦争委細之記 函附属表紙末二有之
135(137)	79		二十六、一橋公砲手二士届書
135(137)	85		二十七、会津侯御届別紙 手負討死 一説討死手負姓名
卷百三十六(138) 元治元年 (1864)			
甲子七 京師騷擾後 七月八月之記			
136(138)	1		一、百人組萩野氏筆記
136(138)	24		二、尾州四隅諸道及市中木戸増、伏見大津草津立合急状
136(138)	25		三、会津桑名二藩江分捕之覚
136(138)	26		四、薩州侯戦争届書

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
136(138)	27		五、伊予松山侯届書
136(138)	27		六、勢州津侯届書
136(138)	27		七、備中浅尾侯届書
136(138)	28		八、若州侯届書
136(138)	29		九、丹後宮津侯届書
136(138)	30		十、京都町奉行届書
136(138)	31		十一、越前侯届書
136(138)	33		十二、淀領橋本御固場より宮津侯注進書
136(138)	35		十三、備中松山侯届書
136(138)	35		十四、摂州尼ヶ崎侯届書
136(138)	39		十五、吉川監物届書
136(138)	40		十六、大垣藩書類
136(138)	42		十七、筑前侯伺書 長州江外夷襲来之節心得方
136(138)	43		十八、明石侯御届 関所一件
136(138)	43		十九、信州松代侯届書 佐久間修理遭害一件
136(138)	43		二十、藤堂侯御届 摂州西宮御国人数差出
136(138)	44		二十一、長府侯歎願書
136(138)	46	8月	二十二、八月上旬江戸来簡数通之抄
136(138)	49	8月1日	二十三、八月朔日出京便御書付数通
136(138)	51	8月	二十四、八月上旬東便
136(138)	52		二十五、京大坂風説
136(138)	53	8月	二十六、八月上旬京便
136(138)	54	8月	二十七、八月上旬東便
136(138)	56	8月6日	二十八、八月六日高須人より大垣人江来簡
136(138)	57		二十九、彦根侯戦争届書之委細
136(138)	63	8月16日	三十、八月十六日出京便
136(138)	64		三十一、山門書簡
136(138)	66		三十二、長州生捕村岡伊助申立書取

巻百三十七(139) 元治元年 (1864)

甲子八 仏英亜蘭六門攻撃 長防御征伐 函五枚末二附不可紛失

137(139)	1	8月8日	一、八月八日西国来状難波商より中旬到着
137(139)	2	8月	二、八月中旬京師来簡、八月十一日京師被仰出
137(139)	3		三、難波商来簡
137(139)		8月19日	四、八月十九日大坂芸州留守居届書に添候要文
137(139)	6		五、知多郡船頭新次郎話
137(139)	7		六、豊前中津侯へ届書
137(139)			七、小倉侯大坂留守居届書
137(139)	8		八、芸州侯大坂留守居に承合書
137(139)	9	8月18日	九、八月十八日小倉侯大坂留守居届書
137(139)	11		十、松浦大人来簡 係長州
137(139)	13		十一、長州府中侯歎願、御進發人馬手当宿駅江御達之趣
137(139)	14		十二、伝奏衆より総督御請御催御進發御促御沙汰書
137(139)	15	9月5日	十三、九月五日叡賞
137(139)	17		十四、長崎奉行伝国船將応接書
137(139)	19		十五、長州家より宇和嶋侯江差出候書類進達及御差戻
137(139)	21		十六、肥前侯願書 (長征に付長崎請持当一順他江被仰付度)
137(139)	22		十七、姫路侯届書 (長州人来)
137(139)			十八、阿波侯江御達書 両海門守衛申立御取上難相成旨趣
137(139)	23		十九、嶋原侯内願 (攻口繰替望)
137(139)			二十、淀侯届書 出張勢揃在否
137(139)	24		二十一、肥後侯届書、小倉江援兵
137(139)			二十二、毛利淡路左京讃岐屋敷一件
137(139)	26		二十三、肥後侯伺書 遠隔御指揮
137(139)	27		二十四、京三条河原張紙中川宮会津薩州彦根を誹謗す
137(139)	28		二十五、彦根侯願書 御宿城之節弟并家老中老用人御目見
137(139)	30	10月1日	二十六、十月朔日出京便
137(139)	31		二十七、加州国終日申渡仕置
137(139)	35		二十八、封廻状水戸加藤八郎大夫揚屋入
137(139)			二十九、御上洛相濟候付市中江被下候儀
137(139)	36		三十、大垣藩書類 津侯届
137(139)	39		三十一、尾州町触数条
137(139)	41		三十二、本多主膳正辻番人手柄主人賞
137(139)	42	10月	三十三、十月御達五事 江戸
137(139)	43		三十四、鎌倉八幡前夷人を殺害一件
137(139)	44		三十五、長州支家江被仰出、官位被召放、吉川家来先其俣差置
137(139)	47		三十六、肥前老侯京着届、参内竜顔天盃御暇届
137(139)			三十七、犬山侯京都出立発向届
137(139)			三十八、越前侯大坂江着届

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
137(139)			三十九、加州家老奥村慎申付届
137(139)	48		四十、作州勝山侯病氣嫡出馬届
137(139)			四十一、筑前侯先手出張届
137(139)			四十二、福山侯出張届
137(139)			四十三、越前侯海路九州江勝安房守同道致度旨願書
137(139)	49		四十四、筑前侯家来長州より薩州江使者船差通恐入以後申付置届
137(139)			四十五、高須侯江戸人数長征に付引揚届
137(139)	50		四十六、木下侯毛利讃岐家来引渡届
137(139)	51		四十七、福山侯於領海漁舟夷艦に被乗懸夷人撫育差返届
137(139)	52		四十八、犬山侯大坂出帆広嶋着届
137(139)			四十九、加州侯長大隅守征長一件
137(139)			五十、作州津山侯島民夷人砲殺に付申立願書
137(139)	53		五十一、福山侯仍御返書参府之事総督之御指揮に付延引届
137(139)	54		五十二、阿波侯家来より両海門守衛申立猶又伺書并御付札
137(139)	55		五十三、越前侯大坂出帆届
137(139)			五十四、備中松山侯出馬届
137(139)			五十五、因州侯先手出張届出馬之儀総督公江伺置見合届
137(139)			五十六、伊予松山侯出馬届
137(139)	56		五十七、太田道醇侯登城方届
137(139)	57		五十八、箱館叔子より来簡
137(139)	63		五十九、熱田落書其他戲言

巻百三十八(140) 元治元年 (1864)

甲子九 御城書 自五月至九月

138(140)	2	5月13日	五月十三日去る二日二条御城御発駕、淀川通御乗船、同日大坂御城御着座且又御軍艦にて還御、尤大坂御発途并還御日限は追而可相達旨
138(140)	4	5月20日	五月廿日品川沖御着船、浜御庭江御上陸、夫より還御午刻
138(140)	12		海軍術盛大摂州神戸村操練所御取建、京家口境伏見住居御旗本御家人四国九州中国辺諸家家来に至迄罷出修行可致
138(140)	16	6月18日	六月十八日酒井雅楽頭・板倉周防守・松平撰津守・諏訪因幡守・松平縫殿頭御役御免
138(140)	17	6月22日	六月廿二日松平大和守総裁職御免、阿部越前守 御奏者寺社奉行被仰付
138(140)	18	6月24日	六月廿四日阿部越前守加判之列、諏訪關老格松縫殿若年寄被仰付
138(140)	25	7月1日	七月朔日田安仮御殿より西丸江御移徙
138(140)	29	7月6日	七月六日本多能登守若年寄土岐山城守同格 学問所奉行
138(140)	31	7月7日	七月七日松前伊豆守老中格陸軍兩奉行
138(140)	34	7月13日	七月十三日中根一之丞長州御用非命之死士道相立家督無相違被下
138(140)	35	7月19日	七月十九日酒井飛驒守若年寄
138(140)	36	7月24日	七月廿四日池田筑後守外国使節不取計に付隠居、六百石職分河津駿河守同断に付御役御免小普請入、御目付河田相模守同断
138(140)	37	7月25日	七月廿五日京都去る十九日大變騒擾に付種々触
138(140)	41	7月晦日	七月晦日野州出張戦死小林岩松弟英三郎家督無相違御目見以上以下
138(140)	42	8月1日	八月朔日長征被仰出阿波黒田津山因州細川有馬備前雲州松山立花芸州薩州浜田宇和嶋鍋嶋津和野板倉小倉中津福山脇坂討手被仰付、同七日総督紀伊中納言殿副将松平越前守江被仰付
138(140)	47	8月8日	八月八日惣督之儀思召有之、尾張前大納言殿江被仰付
138(140)	49	8月14日	八月十四日御征伐攻口小割被仰出、同十六日御進發御供御留守等被仰付
138(140)	61	8月23日	八月廿三日松平大膳大夫、同長門守官位并御一字御称号被召放
138(140)	66	9月1日	九月朔日参勤交代如前々妻子江戸江呼寄候様被仰出

巻百三十九(141) 元治元年 (1864)

甲子十 日本貿易新聞 係長防

139(141)	2	3月22日	一、五十一号 我元治元甲子三月廿二日
139(141)	6	7月12日	二、別本 我七月十二也 附録
139(141)	11	8月7日	三、七十号 八月七日
139(141)	21	8月14日	四、七十一号 八月十四日
139(141)	33	8月18日	五、別段 八月十八日 中国戦争始末 附録
139(141)	48	8月21日	六、中国戦争新聞 八月廿一日
139(141)	56	8月23日	七、別段新聞 八月廿三日 和議盟約
139(141)	58	8月21日	八、七十二号 八月廿一日
139(141)	60	8月28日	九、七十三号 八月廿八日
139(141)	65	9月5日	十、七十四号 九月五日
139(141)	67	9月12日	十一、七十五号 九月十二日
139(141)	71	9月5日	十二、七十六号 九月五日 附録
139(141)	82	9月24日	十三、七十七号 九月廿四日
139(141)	84	10月3日	十四、七十八号 十月三日
139(141)	86	10月10日	十五、七十九号 十月十日
139(141)	90	10月17日	十六、八十号 十月十七日
139(141)	92	10月24日	十七、八十一号 十月廿四日

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
139(141)	94	11月2日	十八、八十二号 十一月二日
139(141)	98	11月9日	十九、八十三号 十一月九日
139(141)	100	11月16日	二十、八十四号 十一月十六日
139(141)	102	11月23日	二十一、八十五号 十一月廿三日
139(141)	104	11月30日	二十二、八十六号 十一月三十日
139(141)	105	12月7日	二十三、八十七号 十二月七日
139(141)	109	12月14日	二十四、八十八号 十二月十四日
139(141)	115	12月21日	二十五、八十九号 同廿一日
139(141)	117	12月28日	二十六、九十号 同廿八日
139(141)	119		二十七、英国人姫嶋へ差出候書簡

卷百四十(142) 元治元年 (1864)

甲子十一 御城書 自九月至十二月

140(142)	11	9月21日	九月廿一日、老中若年寄御役屋敷に成る
140(142)		9月21日	同日、小笠原図書先達の御咎之廉都而御免諸大夫同席嫡子並
140(142)	12	9月24日	同廿四日、御上洛御用懸り一同拝領物
140(142)	14	9月27日	同廿七日、若年寄稲葉兵部少輔御役御免 十二月廿日隠居
140(142)		9月28日	同廿八日、若年寄平岡丹波守二万石之高に御加増土岐山城守若年寄
140(142)	15	10月2日	十月二日、松平主税頭官位被召放戸沢中務大輔江御預、大炊又隠居
140(142)	16	10月8日	十月八日、長州分家居屋敷初被召上吉川同断 但前巻にも委し
140(142)	20	10月13日	同十三日、本多美濃守加判之列上座遠山信濃守若年寄
140(142)	21	10月16日	同十六日、酒井若狭守養父隠居右京大夫御咎御免
140(142)	25	10月17日	同廿七日、松平大炊頭官位被召切腹被仰付
140(142)	29	11月1日	十一月朔日、牧野越中守大坂御城代被仰付
140(142)	33	11月10日	同十日松前伊豆守加判之列四品被仰付、同日勤仕並寄合小笠原摂津守兵庫奉行初而被仰付同組頭大久保原太郎成
140(142)	41	12月11日	十二月十一日、本多能登守御役御免
140(142)	44	12月16日	同十六日、酒井左衛門尉十七万石之格
140(142)	47	12月21日	同廿一日、京都異変之節之御賞会津彦根越前桑名薩摩大垣蒔田御刀拝領
140(142)	49	12月24日	同廿四日、講武所奉行堀石見守御役御免領地之内二千石被召上

卷百四十一(143) 元治元年 (1864)

甲子十二 常野浮浪 上

141(143)	1	3月13日	一、高崎侯伺書
141(143)	3	4月8日	二、御代官福田所左衛門添書進達書類
141(143)	7		三、小石川書類
141(143)	12		四、諸家届書并諸家江御達等数通
141(143)	21	4月17日	五、四月十七日出東武来簡
141(143)	22	4月16日	六、歩兵頭より御目付届書
141(143)		4月18日	七、佐久間修理御雇 但此条ハ浪士と不係
141(143)	23	4月27日	八、四月廿七日出東武より来候書類
141(143)	24		九、筑波山義徒盟書 義当作兇
141(143)	26		十、太平山連祥院届書等数通
141(143)	38		十一、備前侯京都建白執水浪書
141(143)	42	5月28日	十二、横浜定番役より之来簡
141(143)	43		十三、石川家鳥居家届書三通
141(143)	45		十四、水府内索、中川直三郎・永田新次郎
141(143)	48	6月10日	十五、六月十日御触二通河内守殿御渡書類、笠間侯為知
141(143)	51	6月	十六、六月東武来簡数通
141(143)	57	7月23日	十七、七月廿三日熱田問屋届
141(143)	58	7月17日	十八、七月十七日出江戸来簡、封廻状、田沼侯初出立
141(143)	60		十九、土浦下妻二家届書
141(143)	62	7月24日	二十、七月廿四日江戸宮本元道来簡
141(143)	63	7月	二十一、七月下旬近国藩筆記之内控
141(143)	64		二十二、水戸藩一件東国御届
141(143)	67		二十三、野州出張面々御目見拝領物御暇御手当日当
141(143)	68	7月17日	二十四、七月十七日江戸出立之定日飛脚率領之者聞書
141(143)	69		二十五、筑波山浪士探索書
141(143)	73	8月12日	二十六、土浦表より江戸上屋敷江来簡
141(143)	74	7月28日	二十七、土浦侯届書并翌日等閑之旨御沙汰、差控伺に成不及其儀旨
141(143)	77	8月22日	二十八、八月廿二日出江戸来簡
141(143)	78	8月9日	二十九、筑波追討之諸家江御廻文
141(143)			三十、関本村惣代等注進状二通
141(143)	82	8月	三十一、八月下旬江戸来簡
141(143)	83		三十二、筑波一条注進状 無名氏

卷百四十二(144) 元治元年 (1864)

甲子十三 常野浮浪 中

142(144)	1		一、太平御固附
----------	---	--	---------

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
142(144)	2	8月22日	二、八月廿二日申来候書付并浪人名前附及書類
142(144)	6		三、常州一条
142(144)	7		四、常州浪人追討聞書
142(144)	12	9月	五、東国諸家届書并御達 九月分
142(144)			・常州府中候届二通 ・奥州棚倉侯届 ・常州麻生侯届
142(144)			・奥州棚倉侯江御達 ・下野鷹山侯届 ・常州笠間侯届
142(144)			・井上久世二侯江御達 ・久世加納侯江御達 ・奥州棚倉侯届二通
142(144)			・奥州守山侯届 ・越後新発田侯江御達式通
142(144)			・下野壬生侯江御達 ・常州土浦侯届二通 ・上総久留里侯届
142(144)			・上総一宮侯江御達 ・下総佐倉侯届 ・下野壬生侯届
142(144)			・奥州白川侯届 ・下野宇津宮侯届 ・奥州盤木平侯届
142(144)			・下総佐倉侯届 ・奥州棚倉侯届 ・某侯江御達
142(144)	30	10月1日	六、十月朔日松平大炊屋敷不残上り養父主税儀戸沢中務大輔江御預、大炊妻儀小出伊勢守江引取大炊男子二人女子三人は松平讃岐守へ御預、家来共も讃岐守江御預屋敷々々は松平大学頭松平播磨守江御預
142(144)	31		七、讃州高松侯御預り人并大炊家来請取届書
142(144)	32	10月	八、十月中東国諸家届書并御達
142(144)			・下野宇都宮侯届 ・越後高岡侯届 ・下野黒羽侯届
142(144)			・常州下館侯届 ・下総関宿侯届 ・武州忍侯届 ・常州土浦侯届
142(144)			・水戸公御差控届 ・奥州福島侯届 ・召捕者書付達主欠
142(144)			・羽州庄内侯届 ・越後新発田侯届 ・奥州中村侯届
142(144)			・下野壬生侯届 ・奥州棚倉侯届 ・羽州庄内侯へ御達
142(144)			・羽州庄内侯届 ・下野宇都宮侯届 ・奥州二本松侯届
142(144)			・上州高崎侯届 ・勢州津侯届浪徒に係らざるゆへ百三十二巻甲子の八へ入る
142(144)			・上州高崎侯届 ・武州忍侯届 ・下野黒羽侯届 ・下野宇都宮侯届
142(144)	51	11月	九、十一月中同断
142(144)			・上州館林侯届 ・下野黒羽侯届 ・武州岡部侯届
142(144)			・武州忍侯届 ・上州高崎侯願書并御付札
142(144)			・上州高崎侯届 ・上州矢田侯届 ・上州七日市侯届
142(144)			・信州松代侯届 ・上州矢田侯恐入届書并差控伺候様御差図
142(144)			・上総久留里侯江降人御預御達
142(144)	62		十、牧野内膳正手にて生捕候本田駒五郎申次
142(144)	63		十一、松平丹波守人数和田合戦之節討死手負書付
142(144)			十二、御代官佐々井半十郎直話
142(144)	65		十三、上信兩州注進状三通
142(144)	69	11月	十四、十一月東国浪土風説二通
142(144)	72		十五、東海道風説
142(144)	73		十六、洗馬宿医師某より来候由之書付

巻百四十三(145) 元治元年 (1864)

甲子十四 常野浮浪下

143(145)	1	11月20日	一、福嶋飛札
143(145)	2		二、内津御固江善師野出張方より通用大井宿問屋書面
143(145)	3	11月25日	三、浪徒福島御関所江断状
143(145)	4		四、尾州御触書六通
143(145)	6		五、御人数出張配
143(145)	8		六、御法令
143(145)	9	11月4日	七、三州御固
143(145)			八、御城内外御固
143(145)	11		九、形勢風説
143(145)	12	11月29日	十、太田川を越陣屋にて封書を出す
143(145)	16	12月3日	十一、十二月三日来簡
143(145)		12月4日	十二、北方御代官来簡
143(145)	17		十三、風説
143(145)	19	12月3日	十四、十二月三日豊前守殿牙當江達書
143(145)	20		十五、親視説
143(145)	26	12月5日	十六、斥候聞書
143(145)		12月6日	十七、岐阜役人書中
143(145)	27	12月6日	十八、御年寄衆より豊前守殿江書状
143(145)	28	12月9日	十九、太田陣屋江通用
143(145)			廿、叢説八九条
143(145)	33		廿一、召捕者一件及味方討
143(145)			廿二、叢説五条
143(145)	37		廿三、召捕者味方討再説
143(145)	40	12月3日	廿四、大垣人来簡
143(145)	41		廿五、広島滞陣中故郷朋友より来簡三枚
143(145)	46		廿六、大垣藩書類
143(145)	60	11月27日	廿七、馬籠宿問屋書付伊藤平右衛門初注進書

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
143(145)	61	11月28日	廿八、十一月廿八日浪士御嶽泊翌朝伏見通行之次第目撃
143(145)	62	11月晦日	廿九、鷗沼宿問屋役人關合書
143(145)	64	11月晦日	三十、福田徳右衛門關合書
143(145)		11月晦日	三一、南宿 中根氏百姓 之者手簡
143(145)	65	12月4日	三二、十二月四日八日注進
143(145)	68		三三、江馬元齡越前屯營中筆記之抄
143(145)	71		三四、大垣藩書類
143(145)	73		三五、太田宿医師高井氏筆記
143(145)	80	12月23日	三六、加州隊長永原甚七郎海津江参着一橋公御旅館へ参上之模様并加州家届書
143(145)	81	12月朔日	三七、笠松御郡代岩田鍬三郎届書
143(145)	83	12月朔日	三八、揖斐止宿之者見聞話大垣人筆記
143(145)	94		三九、常野浪士戦争風説紀略
143(145)	102	10月5日	四十、十月五日野州戦争之記二則
143(145)	106		四一、凶類等

卷百四十四(146) 元治元年(1864)

甲子之十五 広洲越年日記乾

144(146)	1		一、日記之上
144(146)	21		二、大坂において触通辞
144(146)	26		三、御泊割
144(146)	29		四、街道諸図
144(146)	57		五、広嶋において触通辞
144(146)	67		六、広嶋宿陣附
144(146)	68		七、御宿陣之図
144(146)	69		八、広嶋以東鈔十七種

卷百四十五(147) 元治元年(1864)

甲子之十六 広洲越年日記坤

145(147)	2		一、御上り御泊割
145(147)	5		二、日記之下卷
145(147)	15		三、西村氏日記略
145(147)	17		四、古屋氏広島紀行
145(147)	59		五、始末御触書
145(147)	63		六、長門重臣名簿

卷百四十六(148) 元治元年(1864)

甲子之十七 乙丑二も係ル 広洲越年日記附録上

146(148)	1		一、触通辞数通
146(148)	9	10月7日	二、十月七日京都より通用状
146(148)	10		三、農商江通辞
146(148)	11	10月6日	四、十月六日京説并触書
146(148)	13		五、京師において触
146(148)	13	10月18日	六、十月十八日出同廿六日出大坂来状并御宿陣図
146(148)	16	10月27日	七、加州侯江被仰出
146(148)	16		八、触通辞数通
146(148)	23	11月27日	九、総督公江肥後侯御請書
146(148)	24		十、長防事情吉川監物赤心吐露密談
146(148)	29		十一、吉川上書封事、御旅中到着、長州重臣名簿并長州より嗣将越前侯江歎願
146(148)	34	11月14日	十二、芸州菩提所国泰寺において首請取之記并図
146(148)	36		十三、御本陣において首御実檢之記并図、二士之説
146(148)	38	11月19日	十四、芸州人より尾州詰同役江来簡
146(148)	41	11月18日	十五、御所江被仰立之写
146(148)	42		十六、芸州侯届書二通并別紙写
146(148)	43		十七、防長形勢内密探索書
146(148)	47		十八、芸州侯より進上物御供犬山侯初江贈物
146(148)	48		十九、永井主水正之歌
146(148)	48	11月28日	廿、十一月廿八日出芸州詰尾人来簡
146(148)	50		廿一、松平上総介歌并戯言
146(148)	56		廿二、尾州において触書数通
146(148)	59		廿三、乙丑尾州おゐて長征御供之諸将を初土庶御慰勞之恩賚及賜宴
146(148)	挟込		附属之図類五枚(山口城、厳嶋、広嶋市中、宿陣、首実檢)

卷百四十七(149) 元治元年(1864)

甲子之十八 広洲越年日記附録之中

147(149)	1		御旅中京阪芸京御客来日記并或人筆記抄
147(150)	103		或人筆記抄

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
卷百四十八(150) 元治元年 (1864)			
甲子之十九 広州越年日記附録下			
148(150)	1	11月3日	十一月三日夜明石宿於御旅館夫々討手之諸侯出立
148(150)	5		船中の夢
148(150)	7		兵庫往還雑記
148(150)	53		長門国城主松平大膳大夫殿菩提所曹洞大寧寺竜峯儀
148(150)	83		小島氏手帳の写
卷百四十九(151) 元治2年・慶応元年 (1865)			
乙丑之一 浪士拾遺 落着			
149(151)	1		一、越前敦賀医師筆記
149(151)	8		二、賊徒内藤昇一郎筆記抄
149(151)	16	1月8日	三、正月八日彦根侯御届
149(151)	22		四、越前大野侯届書大垣侯江御沙汰書加賀侯届書
149(151)	24	2月4日	五、二月四日越前敦賀おいて浪士罪状被仰出書
149(151)	28	2月10日	六、二月十日所聞
149(151)	33		七、井伊家届書
149(151)	34		八、大垣藩書類
149(151)	35	2月	九、二月下旬所聞
149(151)	36	2月6日	十、二月六日彦根来簡
149(151)	38		十一、大垣藩書類
149(151)	41		十二、越前侯届書
149(151)			十三、大野侯届書 宮尾為之助・柴田貞義申次
149(151)	44		十四、高崎侯届書
149(151)	45		十五、浪士数人の歌及書類
149(151)	47		十六、追放人信州飯田人話
149(151)	48		十七、太田御代官達 平七・兼吉申次
149(151)	60		十八、水戸おいて首級御仕置及江橋伍右衛門死罪、片岡鉄藏臣殺
149(151)	63		十九、大目付御目付より彦根若州家来江申渡書遠嶋
149(151)			廿、侯伯届書御達書数通
149(151)	71		廿一、高田又十郎立身
149(151)	72		廿二、さきかけ草紙
149(151)			廿三、陣中略記上下
149(151)	80		廿四、水戸藩某より文通写
卷百五十(152) 元治2年・慶応元年 (1865)			
乙丑之二 浪徒拾遺 下			
150(152)	3		陣中略記 上卷
150(152)	19		同 下卷
150(152)	40		傍觀紀事
150(152)	63		臥竜窟建白
150(152)	67		阿波侯建白
150(152)	95		藤堂侯建白
150(152)	99		開鎖之議論
150(152)	106		奇鋭隊より大目付御目付江差出書面
150(152)	113		同懐中書
150(152)			右六種傍觀紀事に私附す
卷百五十一(153) 元治2年・慶応元年 (1865)			
乙丑之二 御城書之部 正月より七月に至 全			
151(153)	7		日光御神忌
151(153)	28		御進発
151(153)	54		田安殿焼失
151(153)	57		紀伊殿御先手惣督
151(153)	64		朝廷江貢獻物諸侯割合順年
卷百五十二(154) 元治2年・慶応元年 (1865)			
乙丑之四			
152(154)	1	1月	一、東西三十五名論書張紙
152(154)	3	1月	二、今日歌錦綴集
152(154)	3		三、御届類七通 阿波・越前・小倉・雲州
152(154)	7	2月	四、二月来書拔書等
152(154)	11	2月16日	五、加茂社張紙
152(154)	12		六、毛利大膳願書及国書類
152(154)	15	1月	七、烈公庶子五侯建白
152(154)	16	2月	八、二月東西来簡并両閣老殿下詰問
152(154)	21		九、尾前公長防一件御達御書類
152(154)	27	3月18日	十、三月十八日公義被仰出

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
152(154)	27	3月	十一、京師より被仰出伯耆守殿江御渡二通
152(154)	28	3月	十二、尾老公京都御暇御願一件書類
152(154)	31	3月	十三、三月下旬四月上旬東西簡并祇園町辺焼失
152(154)	33	2月	十四、京師より関東へ御詰問
152(154)	35	3月	十五、越中富山俊臣一件落着
152(154)	37		十六、諸家種々届書 越前・加賀・彦根・淀・秋元・会津・小倉二通、此内小倉は領海通船之庶々并外国人死骸埋葬せし一件也
152(154)	42	3月26日	十七、筑前秋月藩某五卿家来姓名
152(154)	44		十八、日光参向堂上護衛
152(154)	47	4月	十九、御進発被仰出に付而之書類
152(154)	49	4月	廿、江戸并高須来簡
152(154)	51	4月26日	廿一、玄同様へ御先手惣督被仰出一件
152(154)	52	4月21日	廿二、御進発之行軍上覽
152(154)	53	3月	廿三、雑説
152(154)	55	4月	廿四、志州鳥羽江英船渡来
152(154)	56		廿五、東本願寺御門主日光拜礼尾州着
152(154)	57	4月	廿六、尊寿院御神忌

巻百五十三(155) 元治2年・慶応元年 (1865)

乙丑之五

153(155)	1		一、尾州大君一条
153(155)	2		二、江戸来簡并長州一条
153(155)	3	5月	三、常野軍功夫々御賞、神保遠州三百石御加増
153(155)	6	5月	四、御老若御留守方上金
153(155)	7	5月13日	五、加賀侯入京行列
153(155)	8	5月6日	六、大垣人来簡
153(155)	9	5月26日	七、芸州藩士より尾州詰同役江来簡
153(155)	10	5月29日	又六、三君御直命大君一件
153(155)	11	5月	又七、五月江戸張紙、中村敬輔を誘る
153(155)	13	5月	八、御進発に付御建白并備前侯藤堂侯建白
153(155)	22	5月	又八、大垣藩士筆記
153(155)	28	5月	九、御進発一件諸觸、御休泊割御行列
153(155)	48	5月	十、松浦弘(武四郎)来簡(係御進発)
153(155)	50	閏5月	十一、御泊城尾州諸調
153(155)	56		十二、御行軍列
153(155)	59	5月7日	十三、細川家御先鋒之儀在府家老了簡にて出願
153(155)	60		十四、御泊城御献上物
153(155)	62	閏5月	十五、閏五月江戸書類
153(155)	64	閏5月12日	十六、台徳公大猷公江神号勅許
153(155)	65	閏5月	十七、東西時事、御京着
153(155)	67	閏5月15日	十八、唐国商法御改革香港上海江被遣四名
153(155)	67	閏5月	十九、膳所城隠謀人禁錮御参内一条等
153(155)	73		廿、越前侯建白
153(155)	74	閏5月22日	廿一、倫言三ヶ条及御製
153(155)	75	閏5月	廿二、長州家老連署歎願吉川より芸州江差出芸州より尾州江呈上
153(155)	78	閏5月	廿三、閏五月肥後侯建白御進発御途中鳴海駅にて進達
153(155)	80	6月2日	廿四、六月二日江戸来簡二通(組合銃隊、物価騰貴)
153(155)	82	閏5月	廿五、美濃信濃木曾山川大損亡
153(155)	88	6月	廿六、大坂来簡(長州形勢)
153(155)	91	6月17日	廿七、六月十七日江戸来簡(十五日大風雨及小梅小倉庵被召捕)
153(155)	92	6月	廿八、六月中旬七月上旬大坂来簡数通
153(155)	97	6月16日	廿九、異国米輸入一件
153(155)	98	2月	三十、箱館叔子二月来簡、閏五月来簡

巻百五十四(156) 元治2年・慶応元年 (1865)

乙丑之六

154(156)	1	閏5月	一、尾州町触及町方御目付方御用懸并御用達共役割
154(156)	6	閏5月	二、町々心得書
154(156)	7		三、御上洛御殿之記
154(156)	9	5月	四、御先列役々名前書
154(156)	9	閏5月11日	五、御当日御供役々名前書
154(156)	59		六、御供方人数書及宿割書
154(156)	109	閏5月	七、継立人馬入用書
154(156)	110	閏5月18日	八、御後列宿割書
154(156)	111	閏5月	九、美濃路大水切入往還差支伊勢路廻り一条

巻百五十五(157) 慶応元年 (1865)

乙丑之七 上方御城書之部 閏五月十四日より

155(157)	1	閏5月11日	一、閏五月十一日名古屋御泊城廿二日御入京直三御参内廿五日御下坂
----------	---	--------	---------------------------------

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
155(157)	12	6月13日	二、六月十三日玄同様御簾本御後備被為蒙
155(157)	15	7月3日	三、七月三日 毛利淡路吉川監物御呼登被仰出
155(157)	24	8月18日	四、八月十八日中興御小姓久貝相模守事先達而父養翠江被下候千石其俣被下之
155(157)	24	8月19日	五、同十九日毛利淡路吉川監物若・・・左京讃岐并大膳家老之内上坂之命
155(157)	26	9月4日	六、九月四日小笠原老岐守老中格十月九日加判之列同十三日三万俵十月廿一日四品十二月廿五日侍従
155(157)	33	9月16日	七、九月十六日御上洛微命違背候ハ、無余儀族旗を進行可申、廿一日御参内天氣御伺御暇被仰出 廿三日御下坂
155(157)	30	9月14日	八、九月十四日之記外国船摂海江相廻り候由其後追々応接有之
155(157)	42	9月27日	九、九月廿七日玄同様御上京之處橋本より御呼戻朔日猶又御上京
155(157)	44	10月2日	十、十月朔日阿部豊後守松前伊豆守朝廷より官位被召上於在所慎仍御役御免
155(157)	46	10月3日	十一、十月三日為御辭職大阪御発駕御差留条約勅許二条御入城
155(157)	47		十二、玄同様伏見江御出迎以後数旬御粉骨八日朝廷御楽着
155(157)	53	10月16日	十三、十月十六日松平周防守宇都宮へ所替被差止二万石加増、猶追而所替可被仰出旨
155(157)	53	10月16日	同日戸田土佐守御都合も有之に付棚倉へ所替被差止、十月廿八日山陵御成功之故を以本高七万七千八百五十石に被成下、同氏越前守慎御免
155(157)	53	10月17日	十四、十月十七日松平周防守御役御免、同日御勘定奉行松平備中守同断及御勘定奉行松平対馬守・大目付大久保紀伊守・駒井相模守・御目付向山栄五郎メ四人思召有之御役御免差控、且又去る八日御側衆竹本隼人正同断、阿部松前の同事に係る事にや
155(157)	55	10月22日	十五、十月廿二日板倉伊賀守勝静加判之列、和泉守次
155(157)	56	10月26日	十六、月廿六日御参内十一月三日御下坂玄同様七日御下坂
155(157)	61	11月8日	十七、十一月八日大膳父子為御糺問永井戸川松野廿五州行且諸手攻口出勢の令あり
155(157)	70	11月23日	十八、十一月廿三日酒井雅楽頭御役御免如前々溜詰
155(157)	73	11月20日	十九、江戸において十一月廿日松平周防守加判之列伯州次外国懸り、同十九日稲葉幾代翁若年寄田沼之次兵部少輔ニ改、十一月廿六日井上河内守加判之列伊賀守次外国懸り 御進発御供
155(157)	74	12月15日	廿、十二月十五日一橋度喜卿御拜領物、浪徒追討北国御出張之賞

巻百五十六(158) 慶応元年 (1856)

乙丑之八

156(158)	1	6月	一、六月下旬七月上旬上方時事
156(158)	4	6月2日	二、六月二日封廻状(盗賊青木弥太郎初筆小梅小倉藩之党)
156(158)	6	7月14日	三、豊後姫嶋松平中務大輔届書(外国人一件)
156(158)	7	7月20日	四、毛利淡路吉川監物上坂之節警衛方等被仰渡書
156(158)	9	8月	五、玄同様御人数上坂名簿及八月来簡類
156(158)	15	8月	六、岩国徳山之家老出芸申出書面(対州一件等)
156(158)	17	8月23日	七、八月廿三日着小倉詰来簡長州往復
156(158)	22		八、筑前福岡表探索書
156(158)	26	8月21日	九、八月廿一日出大坂来簡
156(158)	28	8月	十、芸州家老野村帯刀上坂内話及大坂来簡
156(158)	32	9月	十一、横浜来簡及異人館之図
156(158)	34	8月	十二、長防土民歎願并完戸備前出芸歎願書類
156(158)	39	9月17日	十三、九月十七日附大坂来簡(仏英米蘭軍艦兵庫渡来公使呈書)
156(158)	45	9月25日	十四、九月廿五日大坂来簡及外国人申立書類
156(158)	51	9月25日	十五、同日一役一人江被仰渡御奏聞書
156(158)	51	10月	十六、十月上方来簡叢 玄同様御勸励ニ係ル
156(158)	62	10月5日	十七、十月五日御所において大議論諸藩名前
156(158)	64	10月7日	十八、十月七日外国人江御書簡及伝奏方江守護職閣老上言
156(158)	66	10月	十九、薩藩在京人建白
156(158)	67	10月11日	廿、秘簡一説并十月十一日出京便
156(158)	71	10月8日	廿一、十月八日在京万石以上一役一人江御読聞せ之大事件及、同九日同十四日惣出仕にて御渡物
156(158)	77	10月	廿二、十月下旬上方来簡風説
156(158)	83		廿三、芸州より早打を以進達長州書類及十月廿二日大坂表にて聞繕書
156(158)	87	10月24日	廿四、水戸藩中御糺書
156(158)	90	10月晦日	廿五、尾州市中町役共江御論書
156(158)	92		廿六、松前侯詩作
156(158)			戲言類

巻百五十七(159) 元治2年・慶応元年 (1865)

乙丑之九 海外新聞 一号より十七号迄

157(159)	1	3月13日	一号
157(159)	7	3月26日	二号
157(159)	14	4月12日	三号

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
157(159)	22	4月28日	四号
157(159)	29	5月11日	五号
157(159)	35	5月26日	六号
157(159)	42	閏5月10日	七号
157(159)	46	閏5月26日	八号
157(159)	50	6月15日	九号
157(159)	54	7月14日	十号
157(159)	56		十一号
157(159)	58		十二号
157(159)	59	10月9日	十三号
157(159)	64	10月28日	十四号
157(159)	67	11月6日	十五号
157(159)	69	11月21日	十六号
157(159)	71	12月12日	十七号

卷百五十八(160) 元治2年・慶応元年 (1865)

乙丑十 日本貿易新聞 日本新聞 同外篇

158(160)			日本貿易新聞
158(160)	1	1月6日	九十一号
158(160)	4	1月13日	九十二号
158(160)	6	1月20日	九十三号
158(160)	8	1月27日	九十四号
158(160)	11	2月4日	九十五号
158(160)	13	2月11日	九十六号
158(160)	15	2月18日	九十七号
158(160)	17	2月25日	九十八号
158(160)	20	3月3日	九十九号
158(160)			日本新聞
158(160)	22	8月17日	五号
158(160)	24	9月1日	七号
158(160)	25	9月8日	八号
158(160)	27	9月15日	九号
158(160)	29	9月22日	十号
158(160)	32	9月29日	十一号
158(160)	34	10月7日	十二号
158(160)	36	10月14日	十三号
158(160)	40	10月21日	十四号
158(160)	42	11月12日	十七号
158(160)	44	11月15日	又一七号
158(160)	50	11月19日	十八号
158(160)	51	11月26日	十九号
158(160)			鹿特堤 (ロッテルダム)
158(160)	53	11月23日	一号
158(160)	59	11月晦日	二号
158(160)			日本新聞外編
158(160)	66	8月11日	一号
158(160)	69	8月18日	二号
158(160)	72	8月25日	三号
158(160)	73	9月2日	四号
158(160)	76	9月16日	五号
158(160)	79	9月下旬	六号
158(160)	81	11月中旬	九号

卷百五十九(161) 慶応元年 (1865)

乙丑十一

159(161)	1	11月1日	一、十一月朔日芸州家老野村帯刀、植田乙次郎、寺尾生十郎、福永助左 <small>ヱ</small> 門登城之節宍戸備前初上坂之心得にて出芸之旨形勢話
159(161)	2		二、膳所藩仕置切腹四人、死罪七人
159(161)	4	11月10日	三、十一月十日出大坂来簡
159(161)	6	11月21日	四、井伊榊原行軍列
159(161)	16	11月	五、公方様御行軍列御改正書
159(161)	25	12月18日	六、十二月十八日同廿日聞繕 (永井・戸川・松野帰坂、長州形勢)
159(161)	27		七、五卿に与し候筑前藩士仕置書
159(161)	29		八、大坂秘説
159(161)	33		九、公用人書類 安芸小倉江御手当被下一橋殿賞文言 増上寺關譽隠居御賞時服 若州大垣江浪士一件賜金 加納大和守松平大和守堀田相模守より浪士降人引渡届書 酒井左衛門尉新徴組御旗本を打殺候一件落着
159(161)	38	12月	十、犬山藩一統末々迄手当被下候節之直書
159(161)	39	12月19日	十一、浅草火

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
159(161)	40		十二、回天新聞誌
159(161)	44		十三、海陸軍両将士階級序
159(161)	49		十四、客中雜纂之抄近年大坂町触/御勝土器吉例
159(161)	63	1865. 11. 20	十五、馬上炮代金英人ヲールメン受取書
159(161)	64		十六、毛利士尊天略縁起奉平行、かゝしの矢文、いろはたとへ

巻百六十(162) 慶応2年 (1866)

慶応二 丙寅之一

160(162)	1	1月1日	一、芸州宿陣割 正月元日、四谷火事
160(162)	4	1月	二、紀公御建白 加賀侯伺、南部侯願
160(162)	8	1月25日	三、大罪女磔罪
160(162)	9	1月6日	四、長激八ヶ条答
160(162)	12		五、宍戸備前答諸隊より差出候答木梨より差出候八ヶ条答其外申次
160(162)	20	2月	六、大垣藩書類、広嶋書簡
160(162)	22	2月	七、大原三位建白
160(162)	24		八、御奏聞長州処置
160(162)	25	3月	九、大夫人江戸御下向及尾時事
160(162)	40	3月	十、三月初旬東西来簡
160(162)	44	3月19日	十一、兵庫豪富高田屋九兵衛被召捕
160(162)	45	3月	十二、御届御達等 堀田真田津輕溝口芸州等
160(162)	52	3月22日	十三、大代官申達 係和宮様御上京
160(162)	53	3月	十四、土浦中津二侯届并芸州使者帰芸之届
160(162)	58	4月2日	十五、四月二日附芸州来簡書類
160(162)	66	3月26日	十六、三月廿六日芸州において御達及於大坂伯耆守殿御渡書付四月書類
160(162)	69	4月2日	十七、四月二日附広島来簡
160(162)	69	4月19日	十八、備中倉敷乱妨来簡
160(162)	70	4月12日	十九、四月十二日江戸来簡
160(162)	71	4月	廿、芸州飛簡及書類紀州七里通用庭瀬侯届川辺村岡田藩来書
160(162)	85		廿一、難波御用金
160(162)	87	4月	廿二、歩兵筆記
160(162)	90	4月	廿三、芸州申立并大坂来書
160(162)	93	4月20日	廿四、熱田大宮御遷宮朝廷御手厚御沙汰
160(162)	94		廿五、長崎伝習人来簡
160(162)	97	5月	廿六、尾州時事
160(162)	109	5月15日	廿七、大坂来簡物価騰貴米屋等乱妨
160(162)	111	5月	廿八、西筋形勢聞書

巻百六十一(163) 慶応2年 (1866)

丙寅二 丙寅之正月より 上方城書之部上

161(163)	2	1月5日	正月五日、玄同様江戸表御手薄に付御留守御心得
161(163)	7	2月4日	二月四日、前大納言様御進発御後備御心得
161(163)	14	4月13日	四月十三日、稻葉民部大輔事加判之列被仰付美濃守と改
161(163)	15	4月15日	同十五日、長州脱走百四五十人有之旨芸州江向申達
161(163)	17	4月17日	同十七日、近江以西諸家へ右脱走人乱妨候ハ、召捕方御達
161(163)	21	4月26日	同廿六日、備中乱妨討取鎮定
161(163)	22	5月6日	五月六日之記、去る朔日広嶋国泰寺において長州名代之輩江小笠原壱岐守殿御裁許申渡
161(163)	29	6月6日	六月六日、毛利大膳末家并家老歎願書御差戻相成品写
161(163)	36	6月7日	六月七日、問罪之師被差向硬命之者御誅鋤之戦書
161(163)	37	6月7日	同日右に付御所より被仰出
161(163)	52	6月19日	六月十九日、合戦大小砲打立追退け候旨大垣達七月九日出ル
161(163)	53	6月14日	六月十四日、合戦神原苦戦達七月十日出ル
161(163)	55	6月17日	六月十七日十八日石州益田駅合戦并援兵願福山達二通七月十三日出ル猶又同侯達七月十五日出ル 同侯浜田より頼越廿一日 廿二日二隊出立候旨七月十七日出ル
161(163)	57	6月15日	浜田勢六月十五十六十七日之達三通津和野軍目付達及亀井達二通
161(163)	59	6月16日	浜田勢六月十六日以来合戦并軍目付三枝討死之旨右藩達七月十八日出ル
161(163)	?	7月18日	七月十八日大坂において松平伯州早々御呼登御糺問之旨
161(163)	63	7月18日	七月十八日細川勢豊前小倉へ相廻候旨達
161(163)	65		同日伊予松山勢打入達合戦達ニ三通有馬繰入達
161(163)	66	6月25日	水野大炊頭六月廿五日朝大野村合戦達七月十八日出ル
161(163)	67	6月25日	六月廿五日敵追退候旨大垣達七月十六日出ル
161(163)	68	6月19日	六月十九日同廿五日之合戦紀州御達二通七月廿二日出ル
161(163)	70	7月25日	七月廿五日因州侯固辞石州路指揮御免
161(163)	72	7月26日	同廿六日松平伯耆守殿御役御免御糺問中大坂御城代御預
161(163)	74	7月13日	七月十三日水野出羽守殿加判之列
161(163)	75	7月18日	七月十八日公方様御所勞御尋勅使
161(163)	78	7月28日	七月廿八日出る伊達遠江守へ申達

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
161(163)	80	8月1日	八月朔日公方様御疲労被為増此上万一御危篤ニも被為至候ハ、御相統之儀一橋一殿云々
161(163)	81	8月6日	八月六日出る浜田城自焼達
161(163)	85	8月5日	八月五日為名代一橋殿御出陣併合隊伍惣称遊撃隊単身独歩
161(163)	87	8月8日	八月八日出る福山勢七月廿日在所へ引揚達明石勢半隊已斐村半隊広島引揚
161(163)	88	8月8日	八月八日松平弾正忠事豊前守若年寄被仰付
161(163)	93	8月6日	八月六日出る榊原勢七日晦日八月二日合戦賊兵追退候達
161(163)	95	8月10日	八月十日出る雲州勢七月十二日勝利達同十六日出ル石州一揆之体雲州達
161(163)	99	8月17日	八月十七日出ル奥平無據孤城に相成援兵願
161(163)	100	8月20日	八月廿日薨御一橋様御相統、上様と奉称旨
161(163)	101	8月15日	八月十五日出る若州達北海蒸気船長州人乗組不日ニ敦賀着之旨
161(163)	101	8月18日	八月十八日出ル彦根勢七月廿八日同晦日戦争届
161(163)	102	8月18日	同日出る浜田家老届、右城自焼引払

巻百六十二(164) 慶応2年(1866)

丙寅三 丙寅正月より 御留守御城書

162(164)	9	2月10日	二月十日玄同様御着府、三月二日より御両卿御部屋江御通り
162(164)	11	3月20日	三月廿日戸田土佐守家山陵奉行戸田大和守江分知七千石、新田三千石合一万石分知
162(164)	14	4月4日	四月四日、加賀黄門隠居家督
162(164)	14	4月8日	同八日、海外諸国江学科修業商業願出次第相済管、且来卯三月仏郎察都府において博覧会有之旨、願次第相済旨
162(164)	16	4月15日	四月十五日、玄同様江清水領十萬石其儘可被進御内意
162(164)	19	4月24日	四月廿四日之記、板倉蒔田届備中国倉敷御代官所賊徒乱妨
162(164)	22	6月15日	六月十五日、稲葉兵部少殿内願之趣も有之若年寄御免右格海軍懸り
162(164)	22	6月19日	同十九日、水野和泉守殿御役御免鷹間差控松周防殿奥州白川へ所替、松縫殿頭殿志中格外国御用陸軍御用井上河内守殿御勝手御入用懸り
162(164)	23	6月20日	同廿日、阿部豊後松前伊豆隠居隠居、同廿二日本多能登守若年寄増山
162(164)	25	6月25日	六月廿五日、上杉侯先年御内意有之通出羽国御預所之内三万石込高被仰付隠居御止
162(164)	30	8月4日	八月四日、稲葉兵部少殿陸軍奉行被仰付若年寄格是迄之通、大関肥後守殿若年寄格海軍より被仰付、同五日松平右京亮初而甲府御城代
162(164)	30	8月8日	八月八日之記、公方様御疲労…此上万一…一橋…云々
162(164)	31	8月10日	八月十日、布衣以上一役一人江長州一条西洋銃と火銃統得失御諭
162(164)	31	8月11日	翌十一日、御軍役人数割御改正、同十四日御先手一同御役御免
162(164)	35	8月18日	八月十八日、箱館奉行小出大和守御目付石川鎌三郎諸大夫撰津守又駿河守魯西亜国へ御使被仰付
162(164)	36	8月	八月日去ル廿日御他界一橋様御相統今日より上様と奉存
162(164)	38	9月6日	九月六日、御尊駭御着船即日西丸江御着棺廿三日御出棺増上寺江御葬送
162(164)	43	9月27日	九月廿七日浅野美作守外国奉行被仰付フランス国に在留合原左衛門尉外国奉行被 仰付英国へ在留被仰付
162(164)	45	10月4日	十月四日、海外諸国へ可相越願之者は御免之印章に人相書記し可相渡候間出願之節人相書相添可願出旨
162(164)	46	10月6日	十月六日、小笠原老岐守殿御役御免逼塞、十一月九日加判之列再任
162(164)		10月8日	十月八日、御門々々勤番組合銃隊頭江被仰付
162(164)	47	10月12日	十月十二日、開成所頭取並松本寿大夫・御勘定吟味役小野友五郎アメリカ国江可被遣旨十一日十二日右之輩并外三人御暇拝領物
162(164)	50	10月24日	十月廿四日、若年寄増山河内守殿田沼玄蕃頭殿御役御免鷹之間出精相勤候付御召被下之
162(164)	50	10月27日	同廿七日松平周防守殿白川へ所替相止武州川越へ所替
162(164)	51	10月20日	同廿 日水野出羽守殿卒去二千石吉太郎相統
162(164)	53	11月6日	十一月六日戎服之儀被仰出
162(164)	57	11月25日	同廿五日御簾中様当分一橋御屋敷ニ被為入候得共御祝儀申上、御機嫌伺并献上物等前々御台様同様可相心得旨
162(164)	58	12月2日	十二月二日、三千石以上之面々英仏其外へ留学御差許可被成旨
162(164)	60	12月8日	同八日、玄同様先達而清水家御相統御内意有之候処深思召有之一橋領十萬石其儘可被進先御内意
162(164)	61	12月14日	同十四日、去ル五日將軍宣下云々駿府御定番被廢
162(164)	64	12月27日	同廿七日、上使井上河内守殿松平周防守殿を以玄同様御事一橋家御相統被仰出、一橋領其儘被進、向後一橋大納言殿或ハ一橋殿と可相唱旨
162(164)	65		御腰物奉行并御細工頭被廢
162(164)	66	12月晦日	同晦日、外国奉行向山隼人正、同組頭田辺太一、同出役箕川貞一郎、調役日比野清作、杉原登蔵、生駒孫太郎、仏蘭西国江御暇拝領物

巻百六十三(165) 慶応2年(1866)

丙寅四

163(165)	1	4月	一、公用人書類 山崎届、備前届、木下届、在江戸長藩士御差戻方御達
163(165)	4	4月20日	二、備中松山藩士通用簡

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
163(165)	6	4月13日	三、芸州来簡(倉敷乱妨)
163(165)	9	4月	四、四月長州使者名前及兵糧弾薬護衛方御達
163(165)	10	4月	五、芸州世子江頼東三郎建白
163(165)	12	5月1日	六、五月朔日御裁許被仰出大略書類
163(165)	19	5月18日	七、吉川監物より御請日延願
163(165)	20	4月	八、丹波園部在焼石降一件
163(165)	21	4月	九、備中板倉宿来簡
163(165)	23	5月19日	十、五月十九日附廿二日附芸州来簡
163(165)	32	5月25日	十一、紀州七里之者廻文
163(165)	33	5月26日	十二、五月廿六日六月二日同十七日江戸来簡
163(165)	35	6月2日	十三、六月二日迄芸州書類
163(165)	54	6月2日	十四、六月二日出同上
163(165)	56	6月	十五、六月江戸来簡類
163(165)	60	6月15日	十六、芸藩より尾州詰同藩へ来簡
163(165)	61	6月14日	十七、彦根侯六月十四日苦戦届
163(165)	62	6月20日	十八、六月廿日出芸州藩より尾州詰同藩江来簡
163(165)	65	6月20日	十九、六月廿日出大坂来簡
163(165)	66	6月	廿、六月下旬江戸来簡(中山道徒党一件御届等)
163(165)	70		廿一、太田宿恐愕狼狽風聞書
163(165)	71	6月16日	廿二、彦根軍目付朝倉家来実説短書
163(165)	72	6月	廿三、在坂通用
163(165)	75	6月	十四、六月下旬尾事
163(165)	78		廿五、浪華大城御堀怪獣死野馬台詩

巻百六十四(166) 慶応2年(1866)

丙寅五

164(166)	1	6月	一、大垣藩士芸州より書類
164(166)	10	6月14日	二、公辺御徒目付手控抜書
164(166)	11	6月19日	三、六月十九日戦争注進并書類
164(166)	13	6月13日	三、六月十三日敦賀来簡(係浪徒子弟)
164(166)	15	6月20日	五、大垣藩士芸州より書類
164(166)	16	6月17日	六、六月十七日小倉戦争他藩通用書
164(166)	17	6月	七、御城附開繕、芸州江
164(166)	18	6月24日	八、石州路出張福山侯届書
164(166)	19	7月9日	九、七月九日大坂御城附開繕(紀州御家老有本左門御使上坂種々話、火縄銃管銃得失紀州御悔悟御改、井伊榊原奮発閣老伯州完戸放返)
164(166)	22	7月6日	十、紀公総督御辞退一件并江戸において御同朋江為御物語之趣
164(166)	25	6月	十一、長防形勢江戸より来候書類
164(166)	28	6月	十二、尾州詰芸州藩士江国許よりの文通採要并芥川来簡
164(166)	31	6月	十三、六月大垣某日記及来簡
164(166)	41	7月14日	十四、長州より帰り候尾州古渡健次郎供詞
164(166)	44	7月11日	十五、七月十一日附京便、春嶽侯建白
164(166)	47	6月25日	十六、六月廿五日池内次郎左衛門探索書
164(166)	49		十七、浜田藩長藩往復
164(166)	51	7月10日	十八、紀老有本左門七月十日登城之趣
164(166)	53		十九、芸阿備三侯建白
164(166)	55	8月	廿、清須問屋達御大切物通行北海騷説
164(166)	55	7月	廿一、七月中旬開繕
164(166)	56	7月	廿二、閣老宮津侯大坂閣老へ書類
164(166)	58		廿三、長州奇兵隊へ入込居候肥後藩名前奇兵隊暴書高札等
164(166)	60		廿四、備前侯建白阿波侯建白
164(166)	64		廿五、長征雜報十八丁
164(166)	82	6月	廿六、御建白
164(166)	83	7月	廿七、偽作建白
164(166)	86	8月	廿八、紀公討死之士へ忠字を賜ひ輕輩へは勇字を賜ふ

巻百六十五(167) 慶応2年(1866)

丙寅之六

165(167)	1	6月	一、詰届等(岩松満次郎一件張訴忠告、若州届、閣老伯耆殿/老岐殿江御達、閣老松山侯家来より届、村岡伊助、峯忠尔上稟)
165(167)	13	6月	二、長州奇兵隊九ヶ条并詰責九ヶ条、小笠原侯英仏公使江被対候、薩州罪状十四条
165(167)	29	6月17日	三、彦根初戦争聞書
165(167)	32	6月21日	四、閣老伯耆殿手勢戦争届
165(167)	34	7月	五、重大御事件
165(167)	50		六、京師薩州覬覦形勢
165(167)	58	8月14日	七、八月十四日三条大橋過激張紙
165(167)	60		八、諸藩係長防事件
165(167)	62	8月26日	九、肥後公子奔走

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
165(167)	63	8月	十、一橋公御暇御参内之節被仰出薨去に付同断
165(167)	64	8月	十一、八月江戸来簡数通
165(167)	67	8月	十二、八月中旬より西筋風説書
165(167)	70	8月	十三、榊原家老原田兵庫文通
165(167)	76		十四、西筋雜報上下
165(167)	99		十五、尾州時事
165(167)	102		十六、戯言、江戸施し番附

卷百六十六(168) 慶応2年 (1866)

丙寅之七 上方御城書 下

166(168)	1	8月21日	八月廿一日薨御之段御相続上様之奉称段夫々御達
166(168)	1		御尊骸御軍艦にて江戸表江被為入増上寺江御葬送之旨
166(168)	3	8月24日	八月廿四日出ル雲州達、七月十五日内村辺へ長入相頭小迫、今十六日紀州勢惣敗軍にて前後に敵を受、無余儀因州勢福山勢申合練引、其上浜田城自焼、諸藩も皆々引揚候付一先引揚、此上繰出し用意仕置候旨
166(168)	3	8月25日	八月廿五日出ル大垣増人数御達に付、八月十二日より追々在所出立候旨、去月十九日大野村戦争之節十九日中間一人、廿五日足輕一人鉄炮疵請候旨
166(168)	6	8月25日	同日出ル松平右近将監雲州江住居之旨届有之雲州よりも届
166(168)	8	8月26日	八月廿六日出ル松平内膳正人数自国保護引揚候旨達
166(168)	9	8月27日	八月廿七日出ル榊原達八月七日敗軍広嶋江引揚達
166(168)	10	8月28日	八月廿八日出ル小笠原左京大夫援兵不残引揚弧城と相成候、無據八月朔日小倉城自焼、領内要害之地に據り相伺居旨達
166(168)	11	8月1日	八月朔日出ル細川家達小笠原家族逗留、城外に差置候旨
166(168)	12	9月2日	九月二日出ル井伊達八月二日戦争達 翌三日同兵申分達書も出ル
166(168)	14	9月3日	九月三日御尊骸御発城
166(168)	16	9月4日	九月四日出ル榊原届八月二日 同七日宮内村合戦死傷達
166(168)	19	9月4日	九月四日夜亥中刻御乗船淀川筋御上洛御供板倉伊勢守殿御跡残小笠原宍崎守殿
166(168)	20	9月4日	同日出ル伊達遠江守届書及長州書面取次相達附松山藩江長州より差送候書面
166(168)	25	9月19日	九月十九日出ル備前達小倉家族之事届等
166(168)	26	9月21日	九月廿一日出ル明石戦争死傷達二通
166(168)	28	9月22日	同廿二日出ル奥平転陣断之届同廿三日出ル奥平届長州使者来候一件
166(168)	31	9月24日	同廿四日出ル中川出張之勢引揚届
166(168)	32	9月25日	九月廿五日彦根達八月七日合戦利なく引揚死傷等
166(168)	36	9月26日	同廿六日廿七日出ル紀州御達石州合戦数通及廿八日出ル芸州合戦御届
166(168)	40	10月2日	十月二日江戸市中并五街道馬車相用候儀御免触
166(168)	40	10月3日	同三日出ル紀州御達八朔大野合戦死傷達
166(168)	42	10月3日	同日 紀州様御出帆御帰国
166(168)	43	10月7日	十月七日出ル八月七日大野村合戦勝利達
166(168)	45	10月9日	同九日出ル黒田家引揚達同十一日鍋嶋家同断
166(168)	46	10月13日	同十三日出ル奥平達小倉領江異国形長州船来り無程無難帰帆
166(168)	46	10月14日	同十四日出ル同藩達、日田御代官江加勢差出候届宇佐神領江悪党屯集也
166(168)	47	10月16日	十月十六日御参内御相続并御除服御礼
166(168)	48	10月18日	同十八日小倉藩より止戦天幕之命奉畏候処、敵よりは日々民家放火乱妨不引払候に付困達
166(168)	49	10月22日	十月廿二日御老中板倉伊賀守殿五千両若年寄松平豊前守殿四千両京都在住家族引越被仰付御金二下之
166(168)	53	10月晦日	十月晦日松平伯耆守殿隠居蟄居
166(168)	54	11月1日	十一月朔日在京面々惣出仕御代替御礼被為請御供之面々ハ羽織襦
166(168)	55	11月5日	十一月五日 御目付敷長谷川久三郎御徒目付 須賀僅三郎/ 御中間目付 清水直次郎 御取調候趣有之早々帰府 久三郎家来士分/六人御締
166(168)	55	11月	十一月追々上京之分 松平加賀守 松平淡路守 松平備前守 松平出羽守 藤堂大学頭 上杉式部大輔 松平甲斐守 松平下野守 酒井河内守
166(168)	57	11月16日	同十六日 筒袖股引次第そき袖羽織 細袴海陸両軍平服と心得其余之向ニハ出火等非常之節右服用但京都において着用之火事具并本文之品物紋所等ハ最前相達候通
166(168)	57	11月18日	十一月十八日紀州家江十津川郷中へ浪士体之者立入候風聞に付取糺方勅命
166(168)	57	11月19日	同十九日出ル小倉藩達去ル七日長人大挙して襲来切所へ引揚相支候旨
166(168)	61	12月1日	十二月朔日会津侯江水戸様御舍弟余九磨養子願濟
166(168)	61		元千代様御上京三月御登營
166(168)	62	12月2日	十二月二日水戸殿御舍弟松平民部大輔長々在京/御警衛に付従四位下少将宣下、且清水家相続御内意未幼年之儀に付公辺へ御引取御世話可被遊旨
166(168)	64	12月4日	同四日松平民部大輔事仏蘭西国江為御使被遣旨被仰出
166(168)	64	12月5日	同五日二条御城において將軍宣下御略式、正二位権大納言右近衛大将
166(168)	65		勅使飛鳥井中納言、野宮中納言親王使中院小納言准后使堀河新三位
166(168)	68	12月6日	同六日元千代様御登營 御印籠/御頂戴 先日オルコール/御頂戴且 天幕より御暇被仰出

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
166(168)	71	12月13日	同十三日紀公御上京に付御登城、立花飛驒守出京に付去ル九日登城/松平淡路守九日御暇
166(168)	72	12月15日	同十五日將軍宣下御推任之為御礼御参内被仰出候処、御所御差支に付御延引主上御痘之御発病に相見終に崩御と相成る
166(168)	72	12月16日	同十六日紀公御登城、御手自御差之御刀備前義元無銘/代金五十枚且御茶御菓子御重詰御拝領
166(168)	72	12月16日	同日稻葉兵部少輔殿老中格被仰付、向後老中之通可相勤旨
166(168)	74	12月25日	同廿五日主上御疱瘡に付天機為御伺御参内
166(168)	74	12月27日	同廿七日同斷
166(168)	75	12月28日	廿八日主上御不予に付為伺御機嫌惣出仕
166(168)	75	12月29日	同廿九日民部大輔殿清水家相続被仰出
166(168)	75		主上今廿九日辰刻崩御 来年頃御礼は無之
166(168)	75	12月晦日	同晦日午刻御参内、崩御に付為伺御機嫌惣出仕

巻百六十七(169) 慶応2年 (1866)

丙寅八 日本新聞

167(169)	1		英人建白 係小銃急務
167(169)	2		横浜新話漫録
167(169)	2		日本新聞
167(169)	7	1月9日	廿五号
167(169)	9	1月23日	廿七号
167(169)	11	1月30日	廿八号
167(169)	12	2月14日	廿九号
167(169)	13	2月24日	三十一号
167(169)	17	3月5日	三十二号
167(169)	19	3月13日	三十三号
167(169)	21	3月20日	三十四号
167(169)	22	4月12日	三十七号
167(169)	24	5月25日	四十三号
167(169)	25	6月10日	(号数不詳)
167(169)	28	6月24日	(号数不詳)
167(169)	29	7月7日	(号数不詳)
167(169)	30	6月17日	(四十六号)
167(169)			日本新聞外編
167(169)	32	6月3日	十三
167(169)	34	7月9日	十五
167(169)	38	7月9日	同原書二百三十四号也

巻百六十八(170) 慶応2年 (1866)

丙寅九

168(170)	1		一、近国人筆記
168(170)	6	8月10日	二、小倉合戦肥後藩通用
168(170)	8	8月14日	三、水泉藩歎望書
168(170)	8	9月5日	四、津山老侯御棺拝見送願
168(170)	9	8月	五、福知山侯伺書
168(170)	11	8月18日	六、福山侯御筒渡り方願
168(170)	12	8月	七、深谷宿来簡米価高直乱妨二係
168(170)	14		八、公辺役々御改革
168(170)	15	8月27、30日	九、明石侯芸州戦争届因州侯但州生野農兵取立方御免願
168(170)	18		十、長藩より薩州江差出候書付
168(170)	19		十一、於芸州勝安房守応接及事情書上之写
168(170)	24		十二、阿波侯建白
168(170)	26	8月25、26日	十三、尹宮関白野宮広橋四奸会福二賊と唱候張紙
168(170)	27		十四、係長征近国人筆記
168(170)	32	9月	十五、毛利大膳家老中書面
168(170)	34	9月1日	十六、九月朔日緡紳徒党廿余人朝参六ヶ条
168(170)	36	9月6日	十七、上様御建白
168(170)	37		十八、英国より各国江密使大意各国各答
168(170)	39		十九、薩州より山階宮江申立五ヶ条
168(170)	40	9月	廿、諸藩登京之勅命
168(170)	40	9月2日	廿一、戸山御邸異説、玄同様并御簾中様市谷江御移御逗留
168(170)	41	9月10日	廿二、徳川家恩願之臣と有之投文紀邸江差置
168(170)	45		廿三、熱田大宮正遷宮、勅使及御式書并林相模守明細記
168(170)	78	9月	廿四、九月下旬東西簡
168(170)	81	10月19日	廿五、越前家擾乱之密説、出頭本多四郎左衛門に迫窘殺害
168(170)	83	10月13日	廿六、十月十三日芸州町人芥川平八郎来簡
168(170)	84	10月	廿七、十月中江戸来簡数通
168(170)	95		廿八、御備講一件

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
巻百六十九(171) 慶応2年 (1866)			
丙寅十 ヒコ海外新聞			
169(171)	2	4月17日	十八号
169(171)	7	5月5日	十九号
169(171)	11	5月27日	廿号
169(171)	14	6月23日	廿一号
169(171)	17	7月5日	廿二号
169(171)	19	7月20日	廿三号
169(171)	22	8月25日	廿四号
巻百七十(172) 慶応2年 (1866)			
丙寅十一			
170(172)	1	10月26日	一、十月廿六日山科宮初堂上徒党貶動
170(172)	4		二、諸侯建白数通
170(172)	8	10、11月	三、横浜火江戸大火書類
170(172)	19		四、尾州時事(御勝手御多事、違作給知撫育、御城下御救小屋)
170(172)	24		五、近国藩筆記
170(172)	30		六、同上 春嶽殿建白二通入
170(172)	41	11月	七、薩州再強達
170(172)	42	12月	八、長州小倉と止戦人質一件
170(172)	43	11月	九、加賀建白備前阿波連名建白
170(172)	44		十、東西来簡(元千代様御上京)
170(172)	46		十一、松浦弘来簡、箱館叔子来簡
170(172)	51	12月18日	十二、尾州時事(国枝、太田、村田、野崎御札)
170(172)	54	12月20日	十三、長崎通辞訳解伝郎西朝鮮一件
170(172)	55	12月	十四、主上御痲瘡并公用人書類
170(172)	61	10月	十五、百年昔鑑
巻百七十一(173) 慶応3年 (1867)			
丁卯之一			
171(173)	1		就守伴氏元日之作
171(173)	1		近国人筆記略抄
171(173)	3		丁卯春所得、旧臘より御葬送等御次第書類
171(173)	5	12月	丙寅十二月山陵奉行戸田大和守建白
171(173)	7	12月	丁卯所得、旧臘中津侯届書
171(173)	8	12月18日	小倉藩旧臘十八日談判振 丁卯正月十八日付書簡之添
171(173)	13	1月9日	長崎木下志賀介来簡(木下逸雲の跡目なり)
171(173)	16	1月27日	横浜商人役 正月廿七日出二月十六日着
171(173)	17		禅僧崎陽風説
171(173)	19	1月15日	正月十五日摂政殿御渡
171(173)			京師より書簡
171(173)	22	1月27日	外題、路のべの松明、凶略之
171(173)	31	1月	近国人筆記
171(173)	31	1月8日	大坂より帰候人之話
171(173)	31	2月6日	二月六日風聞
171(173)	32	1月23日	卯正月廿三日伊賀守殿板倉御渡
171(173)	32	1月28日	正月廿八日京都より之書簡 二月四日江戸江着
171(173)	33		上方より江戸江来簡之由市谷人所得写
171(173)	37	1月	丁卯正月長藩より小倉藩江相渡候書面
171(173)	39		田中芳男香港より来簡 乱写不可読ケ所多し
171(173)	45	1月15日	木村宗三上海より之書状抄 丁卯正月十五日附二月廿日到来と有之
171(173)	46	1月29日	丁卯正月廿九日附、民部大輔様御供尻印度より之来簡
171(173)	47	2月6日	丁卯二月六日仏蘭西ミニストル浪華登城之節手續書
171(173)	50	2月	丁卯二月、幕府江芸州藩より届書
171(173)	50	2月7日	上田清蔵一件
171(173)	51		仏蘭西国ミニストル申立之趣
171(173)	52	2月21日	二月廿一日出京便
171(173)	53	2月	長防歎願書丁卯二月
171(173)	57	2月25日	二月廿五日御所より被仰出
171(173)	57	3月16日	肥前侯届書
171(173)	58	2月	二月中旬頃御封書を以兵庫開港被仰立之儀に付見込申立候様従幕府被仰渡候由にて左之通、因州歎とあり
171(173)	60		薩州侯届式通
171(173)	60	3月29日	卯三月廿九日所司代衆江伝奏者より御達し之写
171(173)	62	4月17日	丁卯四月十七日被仰渡
171(173)	63	3月	丁卯三月兵庫開港之儀に付願書写
171(173)	67		近国人筆記写
171(173)	71	1月29日	正月廿九日出神機妙用禅師京使 此一書好事の激徒詐説疑ふへからす

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
卷百七十二(174) 慶応3年 (1867)			
丁卯二 上方御城書之部			
172(174)	1		慶応三年正月元日～慶応四年正月七日
卷百七十三(175) 慶応3年 (1867)			
丁卯三 御留守方御城書之部			
173(175)	1		慶応三年正月元日～十二月晦日
卷百七十四(176) 慶応3年 (1867)			
丁卯之四			
174(176)	1	3月	近国人筆記写
174(176)	6	3月	三月下旬大坂来簡
174(176)	7		長崎来簡
174(176)	8	4月2日	府下米倉町伏見丁通七丁目也大工嘉市、四月二日長崎より差立候書状、同十九日着坂拔萃、紀州蒸気軍艦にて兵庫江之便夫より陸便
174(176)	9	4月	丁卯四月紀公御建白
174(176)	11	4月23日	二本松侯建白
174(176)	12	4月3日	四月三日夕出京都吉田御屋敷詰来簡
174(176)	15	4月5日	丁卯四月五日出大坂通用
174(176)	16		越後より来状之写
174(176)	17	4月15日	四月十五日出大坂便
174(176)	18	3月10日	高家織田氏口宣返上被仰出之事
174(176)	19	4月21日	在京方より之来簡
174(176)	20	4月16日	近国人筆記 (丁卯四月十六日四卿御辭職之事)
174(176)	24	4月23日	丁卯四月廿三日夜二本松薩州邸江張紙之写
174(176)	25	4月	四月会津侯御請書之写
174(176)	25	4月	四月御建白
174(176)	26	4月22日	卯四月廿二日江戸来簡
174(176)	27	5月1日	丁卯五月朔日京都において板倉伊賀守等殿御渡
174(176)	29	5月22日	五月廿二日出東便
174(176)	31	5月26日	五月廿六日出京師商家来簡
174(176)	32	5月27日	五月廿七日所得飛説
174(176)	33	5月15日	極密、慶応三丁卯五月十五日宗対馬守家来差出
174(176)	37		近国人筆記
174(176)	49	6月10日	卯六月十日出大坂より之来書
174(176)	49	6月	卯六月大坂新町方同心大八木四郎次郎より当卯六月八日大坂町人富家之者京地江被召出御老中方より兵庫開港引請方被仰渡候上左之通被仰付
174(176)	51	6月10日	卯六月十日小笠原壱岐守殿江家来御呼出左之通御書付御渡有之
174(176)	54	6月	丁卯六月東都来簡
174(176)	61		長崎来簡
174(176)	63	6月9日	六月九日在坂之長崎人来簡
174(176)	64	2月晦日	二月晦日仏蘭西より木村宗三書状
174(176)	65	3月10日	同年三月十日附清水卯三郎書状
174(176)	68	3月18日	七月取得三月十八日附、仏蘭西都府より書状
174(176)	69	5月14日	丁卯五月十四日附、仏蘭西国より木村宗三来簡
174(176)	70		丁卯夏、支那上海親見之記
174(176)	72	7月26日	七月廿六日附巴黎に差立之来簡
174(176)	72		山高石州家来井川儀左衛門話説
174(176)	74		小出和州随従人魯西垂紀行抜萃井川氏より所得
174(176)	76		箱館在住之叔子来簡抜萃
174(176)	85		仏蘭西帝国概略
174(176)	90	7月11日	七月十一日附箱館来簡
卷百七十五(177) 慶応3年 (1867)			
丁卯之五 万国新聞			
175(177)			万国新聞
175(177)	2	1月中浣	(第一号)
175(177)	9	2月中浣	第二号
175(177)	23	3月下浣	第三集
175(177)	40	5月下浣	第四集
175(177)	58	6月中旬	第五集
175(177)			倫敦新聞紙
175(177)	74	7月下旬	一号
175(177)	80	10月	第二集
卷百七十六(178) 慶応3年 (1867)			
丁卯之六			
176(178)	1		大坂穢多渡辺村より歎願書写

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
176(178)	2	6月8日	丁卯六月八日宇和嶋老侯薩邸江御持参之由
176(178)	3	6月10日	丁卯六月十日新撰組へ被仰渡候格式左之通
176(178)	10	6月	丁卯六月新撰組建白
176(178)	12	6月26日	丁卯六月廿六日、近衛殿より御建白
176(178)	14	8月9日	八月九日頃大坂差立之来簡 京地より十五日出
176(178)	15		三条通寺町角に張紙写
176(178)	16		御中間方聞取書之写
176(178)	18		鈴恒等板倉殿江差出候封事
176(178)	20	8月7日	八月七日出江戸来簡
176(178)	21	8月8日	八月八日附大坂来簡
176(178)	21		木曾人来簡
176(178)	22		近国人筆記
176(178)	27		先写御目付原一之進を殺害せし鈴木恒太郎等の三士は元水藩にして武田耕雲齋の党たりしか当時陸軍奉行竹中丹後守組なりし由近国人の筆記に見たり、又板倉侯江差上し書といふものも彼筆記と本文同様なれと追書あり、今其進書をここに写す
176(178)	27		近国人筆記
176(178)	32	7月10日	卯七月十日於北御番所与力外国方調役
176(178)	33	7月27日	七月廿七日町方届
176(178)	34	8月	八月陸軍奉行並より差控伺書
176(178)	34	8月	八月江戸来簡
176(178)	35		芸州町人芥川平八郎来簡之抄
176(178)	36	8月4日	長崎来簡 八月四日出帆兵庫大坂碇泊
176(178)	37	8月	八月下旬江戸来簡中
176(178)	38		外国人神戸居留地取立之事
176(178)	43	9月	丁卯九月下旬所得
176(178)	44	8月8日	因州侯建白 丁卯八月八日使者三次半次小泉十兵衛を以若年寄格永井玄藩頭殿江被差出
176(178)	46		極秘備前侯建白
176(178)	51	9月	卯九月板倉伊賀守殿より差出候土州建白
176(178)	54		九月廿日、伝奏衆雑掌より夫々通達之写
176(178)	55		九月廿九日、芸州侯より御届
176(178)	56	9月	卯九月大坂来状
176(178)	58		准后御方新殿御造立日時
176(178)	60	9月	卯九月大久保彦左衛門願書
176(178)	61		江戸風聞
176(178)	63	9月	九月下旬より十月上旬迄京撰并道中之記
176(178)	64		京便
176(178)	65	10月	丁卯十月從幕府諸大名江被仰出御書付写
176(178)	67	10月16日	十月十六日戌刻京都口飛切秘書に二条御城江布衣以上御呼出御老中演達
176(178)	68	10月	十月取得近国人筆記之抄
176(178)	73	9月	九月下旬十月上旬江戸来簡二通之抄

巻百七十七(179) 慶応3年 (1867)

丁卯之七

177(179)	1	9月	丁卯九月江戸来簡
177(179)	2	10月16日	十月十六日伝奏衆江本願寺より届口上之覚
177(179)	3	10月	丁卯十月諸家建白
177(179)	8		丁卯年日門様御建白
177(179)	9	10月	丁卯十月秘説
177(179)	10	10月17日	十月十七日御奏聞
177(179)	10	10月22日	十月廿二日、御所御仮建所江諸藩罷出候一件
177(179)	11	10月25日	右同廿五日諸藩伺書取等如差
177(179)	13	10月	丁卯十月京師書類
177(179)	14	10月	丁卯十月東武書類
177(179)	16	10月	公用人書類写
177(179)	18	10月5日	因州侯届
177(179)	19	10月6日	卯十月六日芸州侯建白、一説薩州
177(179)	21		米藩名義世運諭解
177(179)	25		不亦臧乎行
177(179)	27	10月13日	十月十三日撰政殿より両役衆江之御書面
177(179)	27	10月25日	同月廿五日、幕府より天朝江御伺書
177(179)	29	10月20日	十月廿日伝奏衆江左之家より達
177(179)	30	10月27日	十月廿七日、十万石以下諸侯上京出立見合可被致候
177(179)	31		近国人筆記之写
177(179)	36	10月	十月下旬京便
177(179)	36	11月6日	十一月六日出京便
177(179)	38		角田錦江事

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
177(179)	39	10月晦日	丁卯十月晦日附長崎来簡
177(179)	41	11月2日	丁卯十一月二日夜江戸張訴写
177(179)	42	11月3日	丁卯十一月三日今度御復政に付江戸表において紀州様より御譜代諸侯江御示被仰出之写
177(179)	47	11月	彦根侯願書
177(179)	47	11月9日	越後長岡侯伺書
177(179)	49	11月	卯十一月探索書
177(179)	50		丁卯冬東都風説
177(179)	52	11月9日	丁卯十一月九日此日附未確、但未ニ相見候を見合候得ハ九日頃なるへし被仰出
177(179)	52	11月5日	十一月五日御伺書
177(179)	53	11月	老公御建白
177(179)	55	11月15日	丁卯十一月十五日、幕府及尾越両家江被仰出、猶又改而同十七日御沙汰有之御書面写
177(179)	55	11月	京師来簡抄日附無之何れ十一月也
177(179)	56	11月25日	京都来簡 十一月廿五日附也
177(179)	56	11月21日	芸州侯届書
177(179)	59	11月24日	十一月廿四日披封江戸来簡
177(179)	61	11月22日	又別簡
177(179)	63	11月2日	十一月二日、松平周防守殿被申渡夫々如左御固被仰付
177(179)	66	12月3日	十二月三日夕稻葉美濃守殿より大目付江被相渡候書付写
177(179)	67	12月	十二月月上旬京便抜萃

巻百七十八(180) 慶応3年 (1867)

丁卯之八

178(180)	1	12月9日	十二月九日、公家衆宥免
178(180)	2	12月11日	十二月十一日、一文字便書類
178(180)	5	12月9日	同便別人簡、但九日之一条而已
178(180)	6	12月8日	十二月八日、御所より被仰出、大政御一新に付
178(180)	9	12月13日	丁卯十二月十三日、加賀侯御引取御届
178(180)	10	12月	肥後侯初十八藩建言
178(180)	11	12月	京都御触
178(180)	12	12月	丁卯十二月江戸町触
178(180)	12	12月	十二月中旬京伏見書類
178(180)	15	12月	十二月京説
178(180)	16	12月	十二月日被仰出書
178(180)	17		吉田御屋敷来簡中
178(180)	18	12月	京師日記
178(180)	18	12月12日	十二月十二日夕形勢
178(180)	20	12月	十二月月上旬江戸町触
178(180)	20	12月21日	十二月廿一日出京都来簡
178(180)	23	12月16日	十二月十六日京便
178(180)	26		薩藩建白
178(180)	30	11月9日	薩州留守居用箱之内に有之候文通之写
178(180)	32	12月21日	十二月廿一日出京都来簡
178(180)	34	12月	重大御奏聞
178(180)	36	12月晦日	十二月晦日夜五時頃三度飛脚書面
178(180)	36		月迫処聞風説
178(180)	37	12月25日	十二月廿五日出一文字便
178(180)	37	12月25日	丁卯十二月廿五日江戸急報
178(180)	43	12月27日	丁卯十二月廿七日八日九日京都書類
178(180)	45	12月晦日	十二月晦日附京都来簡
178(180)	46	12月29日	三条大橋新架御書札 十二月廿八九日より
178(180)	46	11月	江戸日本橋張札
178(180)	47	12月23日	慶応三年丁卯十二月廿三日江戸御本丸二之丸炎上、怪火と云未詳
178(180)	47	12月26日	市谷御屋形江品川宿より
178(180)	48	12月23日	薩州届
178(180)	48	12月	丁卯月迫、御辞職御願
178(180)	49	1月	再御願書
178(180)	49	1月3日	同三日左之通被仰出、尾張大納言
178(180)	50		尊攘風談
178(180)	53		祇園新地芸者見立
178(180)	54		困兵党新政所

巻百七十九(181) 慶応3年 (1867)

丁卯之九 尾事之部

179(181)	1	2月9日	慶応三年丁卯二月九日御目付より被仰出
179(181)	4	2月9日～	御目付触数通
179(181)	5	5月29日	御側御用人通辞
179(181)	8	2月23日～	尾藩諸役被仰付

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
179(181)	28	6月2日	明倫堂惣教より出候書付二通、堂中において督学読聞写
179(181)	29	6月18日	明倫堂訓導等被仰付
179(181)	32	6月	尾州町触二通
179(181)	33	6月	明倫堂読書次第
179(181)	39		鱸図
179(181)	40	8月5日	小普請頭江之御達
179(181)	41	10月21日	尾藩諸役御免
179(181)	42		君川西岸松翁筆記之略写
179(181)	50		町奉行所にて総数ノ高写 八月二十八日より九月十五日迄
179(181)	57		町奉行所にて申達候分 八月二十八日より九月三日迄
179(181)	60		武士小路へあまくたりの分
179(181)	61		町々図
179(181)	75		尾張雑事風説等
179(181)	85		大垣人筆記之抄
179(181)	87	10月晦日	十月晦日出京便
179(181)	87	11月6日	十一月六日出京状
179(181)	88		御書写
179(181)	89		此節京流行之手拭之形左に
179(181)	90	11月	十一月中旬江戸来簡
179(181)	90	10月27日	十月廿七日出勢州津来簡
179(181)	91		勢州桑名領
179(181)	91		濃州郡上八幡
179(181)	92	10月21日	十月廿一日尾州一役一人江御城において御書等左之通被仰出候写
179(181)	93		公边より御達之御書付 内一通は朝廷より被仰出候御書付と同様
179(181)	93		朝廷より被仰出候御書付写
179(181)	93		大納言様より朝廷江之御建白写
179(181)	94		以上五通、外に幕府江御請之写左之通
179(181)	95	12月3日	丁卯十二月三日
179(181)	97		丁卯冬京師日記
179(181)	102	12月	卯十二月下旬御目付触
179(181)	103		米藩名義世運輸解
179(181)	108		江戸日本橋張紙之由
179(181)	109		探索
179(181)	111		新作大垣政政、チヨボクレ文句
179(181)	112		流言童謡言オメコニカミハレヤブレタラマタハレ
179(181)	114		不亦臧乎行
179(181)	115		十月秋元氏御作事奉行卯兵衛京紀行之中ニ

巻百八十(欠)

巻百八十一(182) 慶応3年(1867)

丁卯之十 万国新聞 六より十一迄

181(182)	1		万国新聞紙第六集 英国教師ペーリー編
181(182)	15	10月	万国新聞紙第七集 英国教師ペーリー編 慶応三年十月月上旬横浜出版
181(182)	24	11月	万国新聞紙第八集 千八百六十七年 英国教師ペーリー編 慶応三年十一月月上旬 横浜出版
181(182)	37	12月	万国新聞紙第九集 千八百六十八年 英国ヘーリー編 慶応三年丁卯十二月下旬 横浜出版
181(182)	52	1月	万国新聞第十集 千八百六十八年 英国教師ヘーリー編 慶応四年戊辰正月下旬 横浜出版

巻百八十二(183) 慶応4年・明治元年(1868)

戊辰之一 正月中之記

182(183)	1	1月	戊辰正月元日二日頃ニヤ再御奏聞
182(183)	2		京師諸職
182(183)	4	1月4日	戊辰正月四日附京便
182(183)	6	1月5日	東本願寺誓状
182(183)	7	1月5日	定日飛脚率領庄吉儀去ル五日朝京都出立、昨六日夜帰着彼地形勢申達候書付
182(183)	8	1月	正月上旬出京便
182(183)	9	1月	戊辰正月上旬京便
182(183)	9	1月3日	正月三日少老通用
182(183)	10	1月4日	京師正月四日来簡
182(183)	14	1月6日	上様去ル六日大坂城御立披之節之御書写
182(183)	14		正月日御所より被仰出書写
182(183)	14		判形之写
182(183)	17	1月5日	正月五日夜二条御城御預に相成候付、六日晚御目付梅沢孫太郎より引渡相済右江御渡之御書付
182(183)	18		上方雑報

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
182(183)	21	1月6日	正月六日 両隊長江御達写
182(183)	22	1月6日	正月六日 出京便之内
182(183)	22	1月6日	正月六日 伏見人来簡
182(183)	24	1月6日	正月六日 出京便
182(183)	24	1月6日	正月六日 予州大洲藩士在京人書面
182(183)	25	1月9日	正月九日 出大坂来簡
182(183)	25	1月11日	正月十一日 出京便
182(183)	26	1月11日	芸藩より御関所断状
182(183)	27	1月	辰正月 京都諸色直段付
182(183)	28	1月11日	正月十一日 取得上方書類
182(183)	31	1月9日	正月九日 四日市より書状
182(183)	32		美濃より聞書
182(183)	33	1月8日	正月八日 夜三条大橋に新架高札写
182(183)	34		御側組同心聞取之覚
182(183)	37		大垣確説
182(183)	38	1月12日	桑名の模様佐屋御代官進達写
182(183)	41	1月13日	正月十三日 夜着一文字便二
182(183)	41		上方風説及近日雜報
182(183)	43	1月	辰正月中旬見聞書
182(183)	48	1月16日	辰正月十六日 東便
182(183)	50	1月	辰正月 西丸覚
182(183)	51	1月20日	正月廿日 吳竹書状
182(183)	53	1月	正月諸家達書等教通
182(183)	62	1月17日	正月十七日 山崎村戸田左太郎申趣書取
182(183)	63	1月17日	同日 夜五時聞取
182(183)	64	1月17日	御所において左之通、内国時勢懸り被仰付
182(183)	64		今般賊徒追討被仰出
182(183)	66	1月18日	正月十八日 任役被仰出之写
182(183)	69		丹州路籐本領江高札之写条々
182(183)	70		土州少將他官軍出兵被仰出事
182(183)	71		大納言様江朝廷より被仰出写 御目付触ニ出ル
182(183)	72	1月18日	戊辰正月十八日 御城附より申来候趣
182(183)	74	2月1日	辰二月朔日 出京便
182(183)	76	1月	辰正月 濃州笠松に相立候高札写
182(183)	77	1月28日	辰正月廿八日 北方御代官竹ヶ鼻村江廻村近郷庄屋呼出申聞相成候写左之通
182(183)	78	1月21日	辰正月廿一日 讃州丸亀より来状
182(183)	79	1月29日	正月廿九日 京坂町人凡百五十人程 二条御城江御呼出七十畳之御間にて被仰渡左之通
182(183)	80		日光御門主御建白
182(183)	83		姫路攻落城之事藩州高砂より来状
182(183)	84	1月	辰正月 大坂町触

卷百八十三(184) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰之二 江戸御城書

巻(冊)	丁	年代	事項
183(184)	1		江戸 慶応四戊辰年
183(184)	1	1月1日	正月朔日 水戸様御登城御白書院御椽頼御老中江御逢年頭之御祝儀被仰上相済而御退出被遊候
183(184)	2	1月2日	正月二日 浅野美作守殿今朝御軍艦にて大坂表江出帆被致候
183(184)	2	1月9日	正月九日 稲葉美濃守殿より此度御府内御取締筋之儀被仰出候に付而ハ...
183(184)	3	1月10日	正月十日 稲葉美濃守殿より被相達候趣
183(184)	4	1月11日	正月十一日 稲葉美濃守殿より松平修理大夫好臣共兵伏を以宮闕ニ迫り...
183(184)	5	1月12日	正月十二日 稲葉美濃守殿より被相渡候書付写
183(184)	5	1月13日	正月十三日 水戸様昨日於御座間御対顔并井上河内守酒井左衛門尉松平大和守丹羽左京大夫松平薫次郎其外諸大名且御役人御目見被仰付左之通上意
183(184)	10	1月27日	正月廿七日 板倉伊賀守殿より被相達候趣
183(184)	12	2月1日	二月朔日 小笠原老岐守殿より昨夜御渡書付、伊賀守事内願之趣有之候付御役御免隠居被仰付候事
183(184)	20	2月12日	二月十二日分 左之通被仰出東叡山江御謹慎中西城之儀ハ田安殿松平確堂江御頼被成候旨被仰出候間是迄之通相勤候様可被致候事
183(184)	24	2月16日	二月十六日 御目付より相達候趣
183(184)	30	2月28日	二月廿八日 美作守より相達之趣、此度從京都表御軍勢御差向相成既に東海道筋江御先鋒発行之由ニ相聞...
183(184)	32	2月29日	二月廿九日 美作守より相達候趣、上様思召之御旨も被為在候付御退隠被遊...
183(184)	33	3月3日	三月三日 川勝備後守相達候趣、此程相触候通從京都表御軍勢御差向...

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
183(184)	36	3月10日	三月十日 此度追討使被差向候に付未々に迄不敬之儀無之様此程精々被仰付候御事なかく猶又御諭遊候処思召候
183(184)	39	3月13日	三月十三日 御達書、今度尾張殿女中向之儀不殘国許へ為差登候間差向勤筋且御仕向筋共答御容赦之儀差向宜申達置候様被申付候
183(184)	39		御達書、尾張殿市谷屋形之儀暫都合も被有之
183(184)	40		備後守江御渡候御書付之写
183(184)	40		水戸様より昨日御達候書之写

巻百八十四(185) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰之三 御在京日記 正月廿一日より四月廿三日迄

184(185)	1	1月21日	元千代様御上京御供日記
----------	---	-------	-------------

巻百八十五(186) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰四 正月下旬ヨリ二月中

185(186)	1		桑名御追討之注進書
185(186)	1	1月	東海鎮撫將軍より御家江被仰出并御請
185(186)	2	2月6日	二月六日桑名表辻々江張出し相成候万之助様御書之写
185(186)	3	2月	桑名人民江被仰出候書付
185(186)	4	1月20日	辰正月廿日 北陸道鎮撫使京地仰出馬御行粧
185(186)	5	1月21日	正月廿一日 東山道鎮撫使御出馬御行化粧
185(186)	6	2月	二月京師被仰出先鋒出張藩々
185(186)	6		内国懸り松尾伯耆相渡如例東海道筋江相触候様被仰出候旨申聞候書類
185(186)	8	2月	二月岩倉殿附より信州路先触
185(186)	8		戊辰春京師より来説
185(186)	10	2月2日	大坂町触二通
185(186)	11	2月	辰二月京師より被仰出
185(186)	11	2月2日	京都町触
185(186)	12	2月3日	二月三日出京便
185(186)	12	1月11日	備前家老日置帯刀去月十一日神戸通行之砌外国公使江対し発砲いたし候付処罰
185(186)	13	2月6日	二月六日尾州おいて諸役被仰付
185(186)	14	2月	二月江戸旗本御家人触
185(186)	15	2月	辰二月諸家届書等
185(186)	23	2月	二月上旬江戸来簡
185(186)	24		京師被仰出先鋒出張藩々
185(186)	24		御親征任役
185(186)	26		総軍兵糧輜重方心得
185(186)	26		東海道出兵
185(186)	27		東山道出兵
185(186)	28	2月	二月大総督官様御入込先触
185(186)	31	2月7日	辰二月平戸侯建白 原書悪乱不可読もの多く頗困候、私推を不加といへ共増訛不可量
185(186)	32	2月7日	辰二月作州国論之証翰、家老より用人江相渡候書取也、原書前同上増訛不可量
185(186)	35		御所書取之部
185(186)	36	2月	辰二月尾州町触
185(186)	37		議定以下六藩建白
185(186)	40	2月	戊辰二月薩藩建言遷都之一挙
185(186)	42	2月	辰二月大政官代被仰出
185(186)	44	2月18日	左之一通、国懸り松尾伯耆相渡、英国人宿所警衛事
185(186)	45	2月18日	戊辰二月十八日軽井沢一条 周施方より所得
185(186)	46		おほろ月夜拔萃
185(186)	49		徳川慶喜判逆軍配之次第
185(186)	51	2月23日	辰二月廿三日泉州堺州国寺にて切腹即刻宿屋町宝珠院江遺骸埋葬相成
185(186)	52	2月22日	辰二月廿二日京師被仰出入京被免候事
185(186)	53	2月26日	二月廿六日左之通被仰出候旨にて無事態松尾但馬御書付相渡如例御触下江も御布告相成候様申聞候由
185(186)	54	2月28日	戊辰二月廿八日より京三条大橋張札之写
185(186)	55	2月	戊辰二月信州小諸侯御請書
185(186)	57	2月	二月下旬京便
185(186)	61	2月26日	戊辰二月廿六日阿波侯建白
185(186)	62	3月	長州奇兵隊より建白
185(186)	62		三条大橋目安箱へ短冊に認入有之歌

巻百八十六(187) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰五 五月四日之記 閏四月

186(187)	1	3月2日	戊辰三月二日御進発 奥州追討之総督御行粧
186(187)	2	3月1日	三月朔日京便
186(187)	3	3月3日	辰三月三日下々諏訪おいて嚮導隊御仕置
186(187)	4	3月12日	三月十二日京師御沙汰書

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
186(187)	6	3月	戊辰三月四十五藩より弁事局江差出候書面
186(187)	9	3月16日	三月十六日出同十九日出同廿一日出京便
186(187)	12	3月	会津侯老臣差出候書面 九条殿江差出候由
186(187)	15	3月1日	三月朔日出京便敷通探要
186(187)	16	3月12日	会津討入之儀仙台表より三月十二日出を以江戸江申来り、同廿一日を以江戸より申越候写
186(187)	17	2月22日	辰二月廿二日越後新潟祝融
186(187)	17	3月	三月中旬上州相生より
186(187)	17	3月	江戸町触三通
186(187)	18		東叡山御門張出候歌
186(187)	19	3月16日	三月十六日附三度飛脚達
186(187)	20	3月19日	三月十九日所聞
186(187)	20	3月16日	三月十六日出東便
186(187)	21	3月19日	三月十九日大坂御宿
186(187)	22	3月	辰三月備後福山応接説
186(187)	23	3月19日	三月十九日東便に東叡山御謹慎中御歌とて
186(187)	24	3月27日	三月廿七日朝四条橋詰ニ竹の先に差貫候首級
186(187)	24	3月28日	三月廿八日出難波より来簡
186(187)	26	3月晦日	三月晦日所聞東説
186(187)	27	3月	三月下旬挙記秘説、外国内情探索密書
186(187)	28	4月22日	四月廿二日午刻過熱田駅之届
186(187)	29	4月	華洛威音院来書
186(187)	30	4月	自飯山信州路鎮圧方江差出候愁願書
186(187)	33	閏4月7日	閏四月七日出江戸来簡及見聞録
186(187)	42		關東形勢書類
186(187)	48	4月3日	四月三日出浪華来簡
186(187)	50	4月	四月上旬江州より来簡
186(187)	51	4月6日	四月六日江戸表出同十日着通用之趣
186(187)	53	4月	麾下有志之臣檄文
186(187)	55		建白懇願之事
186(187)	56	4月17日	四月十七日三条西橋詰江張出し有之写
186(187)	57	4月	四月中旬難波詰尾商来簡 辰四月より閏四月初旬
186(187)	58		關東形勢書簡
186(187)	65	4月23日	四月廿三日信州路より
186(187)	65		江戸より鳴海酒造屋江之通用略
186(187)	67		信州飯山戦争之次第
186(187)	70	閏4月14日	閏月十四日所得東便
186(187)	71	4月24日	江戸上野三枚橋際木戸并飯田町堀留木戸ニ張紙有之、四月廿四日夜より同廿五日七時頃迄料紙西之内に認彰義隊之由風聞
186(187)	72		討幕論 或云是ハ会津侯ノ檄文ニシテ下野壬生人入京ノ路尾州ヲ経ル片携来ヲ或人ニ与ヘ去ルト云、壬生ニテ五度戦フト云フ
186(187)	73	閏4月2日	大坂より書状
186(187)	73	閏4月4日	江州田上郡石畑村より書状
186(187)	73	閏4月14日	同上書状
186(187)	74		同所より右以前に到着之書状
186(187)	75		八幡舟橋姉崎木更津戦争一件
186(187)	77	閏4月	大総督府より会津江御沙汰并御請
186(187)	78	閏4月	林易之助表出候書付
186(187)	79	閏4月	閏四月中旬江戸前之張出し写
186(187)	85	閏4月29日	閏四月廿九日一役一人江筑前守殿御渡
186(187)	88		慶応四戊辰年大小
186(187)	89		会慶喜附
186(187)	92		見立、伊賀越六段目抜文句
186(187)	93		いろはたとへ
186(187)	94		環海航路新図序

巻百八十七甲(188) 慶応4年・明治元年(1868)

戊辰六 太政官日誌一より十一迄 行在所日記一より七迄 太政官日誌十二より十五迄

187甲(188)	1		太政官日誌第一 小形印本売物写
187甲(188)	3	2月	太政官日誌第二 慶応四年戊辰二月
187甲(188)	10	3月	太政官日誌第三 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	12	3月	太政官日誌第四 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	17	3月	太政官日誌第五 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	20	3月	太政官日誌第六 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	28	3月	太政官日誌第七 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	33	3月	太政官日誌第八 慶応四年戊辰三月
187甲(188)	39	4月	太政官日誌第九 慶応四年四月
187甲(188)	42	4月	太政官日誌第十 慶応四年四月
187甲(188)	46	4月	太政官日誌第十一 慶応四年戊辰四月

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
187甲(188)	53	3月25日	御親征/行幸中 行在所日誌第一号 慶応四戊辰三月廿五日
187甲(188)	61	3月26日	御親征/行幸中 行在所日誌第二号 慶応四戊辰三月廿六日
187甲(188)	64	4月7日	御親征/行幸中 行在所日誌第三号 慶応四戊辰四月七日
187甲(188)	68	4月15日	御親征/行幸中 行在所日誌第四号 慶応四戊辰四月十五日
187甲(188)	72	閏4月2日	御親征/行幸中 行在所日誌第五号 慶応四戊辰閏四月二日
187甲(188)	75	閏4月5日	御親征/行幸中 行在所日誌第六号 慶応四戊辰閏四月五日
187甲(188)	78	閏4月6日	御親征/行幸中 行在所日誌第七号 慶応四戊辰閏四月六日
187甲(188)	81		太政官日誌第十二
187甲(188)	85		太政官日誌第十三
187甲(188)	96		太政官日誌第十四
187甲(188)	103	閏4月	太政官日誌第十五 戊辰閏四月

巻百八十七乙(189) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰紀聞 無号 正月より十二月迄

187乙(189)	1		東海鎮撫將軍より御家江仰出并御請
187乙(189)	1		桑名御追討之注進書
187乙(189)	2	2月6日	二月六日桑名表辻々江御張出し被成候万之助様御書之写
187乙(189)	3		桑名人民江被仰出書付
187乙(189)	4	3月	辰三月東本願寺誓状
187乙(189)	5		慶応四年戊辰御目付触
187乙(189)	10	1月29日	正月廿九日京坂町人凡百五拾人程二条御城江御呼出し七拾量之御間にて被仰渡左之通
187乙(189)	11		姫路攻落城之事 播州高砂より来状
187乙(189)	12	1月21日	辰正月廿一日讃州丸亀より来状
187乙(189)	13		戊辰春薰子建言
187乙(189)	17	2月2日	二月二日大坂御触二通
187乙(189)	17	2月	二月上旬桑名書類
187乙(189)	19	2月10日	二月十日町触
187乙(189)	20		金城触下諸侯
187乙(189)	21	2月12日	二月十二日関東御沙汰書
187乙(189)	23		左之二通内国懸り松尾伯耆相渡如例東海道筋江相触候様被仰出候旨申聞候由
187乙(189)	25		金城触下諸侯
187乙(189)	26	2月	二月尾州御触書
187乙(189)	26	2月19日	二月十九日御直命
187乙(189)	36		(晒首の図)
187乙(189)	37	4月2日	四月二日 辰之刻より 広小路牢屋前において左之図之如く晒し者有之 巳の刻/まで 建札左之通
187乙(189)	38		信州探索書
187乙(189)	40	閏4月14日	閏四月十四日取得東便
187乙(189)	42	4月24日	江戸上野三枚橋際木戸并飯田町堀留木戸際に張紙有之料紙西之丸に認、四月廿四日夜より同廿五日七時頃迄、彰義隊ノ由風聞
187乙(189)	43	7月	新聞論破湊川躍餘 慶応四戊辰年七月
187乙(189)	49		形勢論 活字版/禁売買
187乙(189)	53		活板国病論
187乙(189)	56		桑名へ所用有之相越候に付右地より之見聞書
187乙(189)	58		辰五月会津城下に掲候高札写
187乙(189)	59	9月27日	戊辰九月廿七日 (紙の図)
187乙(189)	60	9月22日	九月廿二日附東京便 大総督官/警命之人より
187乙(189)	61	10月2日	十月二日出羽十三日参州嘉河之人より
187乙(189)	62	10月6日	卯十月六日藝州候建白 一説/薩州トモ
187乙(189)	66	10月	戊辰十月行政官より被仰出候書付写
187乙(189)	66		御用人衆通辞書
187乙(189)	68	10月	戊辰十月東京町触写
187乙(189)	69	11月	十一月初旬南勢より
187乙(189)	72		大垣人来簡之由掲要
187乙(189)	73		京都来簡二通之掲要
187乙(189)	74		滅方畏無正也多羅尼
187乙(189)	76		舎連札
187乙(189)	76		実若剣吞経
187乙(189)	77		日本国中米品位階

巻百八十八(190) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰七 二月より四月二至る 内外新報前記百四迄 中外新聞一より十一迄 内外新報一より十一迄

188(190)	1		中外新聞
188(190)	2		内外新報前記序例
188(190)	2		第一号
188(190)	3		内外新報前記第二号
188(190)	3		内外新報前記第三号

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
188(190)	3		同第四号
188(190)	4	1月	大和五条高札江懸り候制札之写
188(190)	4	1月11日	正月十一日朝 杭岡村江急廻達写
188(190)	5		偽勅条目 本書詳二前記十一号二記セリ
188(190)	6	2月24日	中外新聞第一号 慶応四年二月廿四日
188(190)	9	2月28日	中外新聞第二号 慶応四年二月廿八日出板 三月再板
188(190)	13	3月2日	中外新聞第三号 慶応四年三月二日
188(190)	17	3月26日	中外新聞第四号 慶応四年 三月廿六日出板/三月下旬再板
188(190)	21	3月7日	中外新聞第五号 慶応四年三月七日出板 三月下旬/再板
188(190)	23	3月13日	中外新聞第六号 慶応四年三月十三日
188(190)	26	3月18日	中外新聞第七号 慶応四年三月十八日
188(190)	29	3月21日	中外新聞第八号 慶応四年三月廿一日
188(190)	33	3月28日	中外新聞第九号 慶応四年三月廿八日
188(190)	37	4月1日	中外新聞第十号 慶応四年四月朔日出板
188(190)	40	4月5日	中外新聞第十一号 慶応四年四月五日
188(190)	43	4月10日	内外新報第一号 慶応四年四月十日
188(190)	47	4月13日	内外新報第二号 慶応四年四月十三日
188(190)	48	4月15日	内外新報第三号 慶応四年四月十五日
188(190)	51	4月16日	内外新報第四号 慶応四年四月十六日
188(190)	54	4月17日	内外新報第五号 慶応四年四月十七日
188(190)	58	4月18日	内外新報第六号 慶応四年四月十八日
188(190)	61	4月19日	内外新聞第七号 慶応四年四月十九日
188(190)	62	4月24日	内外新聞第八号 慶応四年四月廿四日
188(190)	64	4月26日	内外新報第九号 慶応四年四月廿六日
188(190)	65	4月29日	内外新報第十号 慶応四年四月廿九日
188(190)	68	閏4月3日	内外新報第十一号 慶応四年閏四月三日
188(190)	70		別紙 覚

巻百八十九(191) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰之八 正月より閏四月二至る 内外新聞十一より廿七迄 同外篇一より七迄

189(191)	1	4月10日	中外新聞第十二号 慶応四年四月十日
189(191)	4	4月13日	中外新聞第十三号 慶応四年四月十三日/同月再板
189(191)	4	4月19日	中外新聞第十四号 慶応四年四月十九日
189(191)	7	4月21日	中外新聞第十五号 慶応四年四月廿一日
189(191)	8	4月23日	中外新聞第十六号 慶応四年四月廿三日
189(191)	13	4月25日	中外新聞第十七号 慶応四年四月廿五日
189(191)	17	4月27日	中外新聞第十八号 慶応四年四月廿七日
189(191)	22	4月29日	中外新聞第十九号 慶応四年四月廿九日
189(191)	27	閏4月3日	中外新聞第二十号 慶応四年閏四月三日
189(191)	31	閏4月6日	中外新聞第二十一号 慶応四年閏四月六日
189(191)	35	閏4月8日	中外新聞第二十二号 慶応四年閏四月八日
189(191)	38	閏4月10日	中外新聞第二十三号 慶応四年閏四月十日
189(191)	42	閏4月12日	中外新聞第二十四号 慶応四年閏四月十二日
189(191)	46	閏4月16日	中外新聞第二十五号 慶応四年閏四月十六日
189(191)	47	閏4月20日	中外新聞第二十六号 慶応四年閏四月廿日
189(191)	51	閏4月22日	中外新聞第二十七号 慶応四年閏四月廿二日
189(191)	57		中外新聞外篇 自卷之一/至卷之七 之抄
189(191)	57	4月	(卷之一)
189(191)	59	4月	卷之二 慶応四年四月
189(191)	62	閏4月	卷之三 慶応四年閏四月
189(191)	62	閏4月	卷之四 慶応四年閏四月
189(191)	64	4月	卷之五 慶応四年四月
189(191)	67	4月	卷之六 慶応四年四月
189(191)	71	閏4月	卷之七 慶応四年閏四月

巻百九十(192) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰之九 四月より五月初迄 遠近新聞一より七迄 東新報内外新聞一より五迄 もしほくさ一より七迄

190(192)	1		遠近新聞緒言
190(192)	2	閏4月10日	遠近新聞第一号 慶応四年閏四月十日
190(192)	3	閏4月13日	遠近新聞第二号 慶応四年閏四月十三日
190(192)	4	閏4月15日	遠近新聞第三号 慶応四年閏四月十五日
190(192)	6	閏4月17日	遠近新聞第四号 慶応四年閏四月十七日
190(192)	6	閏4月21日	遠近新聞第五号 慶応四年閏四月廿一日
190(192)	9	閏4月23日	遠近新聞第六号 慶応四年閏四月廿三日
190(192)	10	閏4月25日	遠近新聞第七号 慶応四年閏四月廿五日
190(192)	15	閏4月17日	内外新聞第一 閏四月十七日 第七日目毎出板 知新館
190(192)	15	4月28日	神戸新聞 西洋第五月廿日出/我四月廿八日
190(192)	24	閏4月24日	知新館内外新聞第二号 閏四月廿四日/第七日目毎出板
190(192)	24	閏4月1日	神戸新聞 第五月廿三日出/我閏四月朔日

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
190(192)	33	5月1日	知新館内外新聞第三号 戊辰五月朔日
190(192)	33	閏4月1日	神戸新聞 第五月廿三日出/我閏四月朔日
190(192)	41	5月8日	知新館内外新聞第四 戊辰五月八日
190(192)	41		神戸新聞の訳
190(192)	52	5月15日	知新館内外新聞第五 戊辰五月十五日
190(192)	52	5月4日	神戸新聞訳 第六月廿日/我五月四日
190(192)	60		横濱新板 定価壹匁
190(192)	60	4月11日	もしほ草第一帙 慶応四年戊辰四月十一日
190(192)	66	閏4月17日	もしほ草第二篇 定価壹匁 九十三番ウエンリー/慶応四年戊辰閏四月十七日
190(192)	71	4月29日	もしほ草第三篇 戊辰四月廿九日/九十三番ウエンリート
190(192)	76	閏4月21日	もしほ草第四 慶応四年戊辰閏四月廿一日
190(192)	80	4月24日	横濱/新板もしほ草第五篇 戊辰四月廿四日
190(192)	84	4月25日	もしほくさ第六篇 慶応四年戊辰四月廿五日
190(192)	86	4月28日	もしほくさ第七篇 慶応四年閏四月廿八日

巻百九十一(193) 慶応4年・明治元年 (1868)
 戊辰十 新聞鑒定表 公私雑報一より七迄 江湖新聞一より十二迄 日々新聞一二 新聞事略一二 随日新談一
 都鄙新聞一

191(193)	1		新聞鑒定表
191(193)	7		公私雑報
191(193)	8	4月27日	公私雑報第一号 慶応四年四月廿七日
191(193)	9	4月29日	公私雑報第二号 慶応四年四月廿九日
191(193)	11	閏4月7日	公私雑報第三号 慶応四年閏四月七日
191(193)	13	閏4月10日	公私雑報第四号 慶応四年閏四月十日
191(193)	16	閏4月10日	公私雑報第五号 慶応四年閏四月十日
191(193)	17	閏4月13日	公私雑報第六号 慶応四年閏四月十三日
191(193)	19	閏4月17日	公私雑報第七号 慶応四年閏四月十七日
191(193)	21	閏4月3日	江湖新聞 慶応四年戊辰閏四月三日
191(193)	24	閏4月7日	江湖新聞第二号 慶応四戊辰閏四月七日
191(193)	27	閏4月6日	江湖新聞第三号 慶応四戊辰閏四月六日
191(193)	31	閏4月9日	江湖新聞第四集 戊辰閏四月九日
191(193)	32	閏4月10日	江湖新聞第五号 戊辰閏四月十日
191(193)	34	閏4月12日	江湖新聞第六号 戊辰閏四月十二日
191(193)	38	閏4月15日	江湖新聞第七号 慶応四年閏四月十五日
191(193)	45	閏4月17日	江湖新聞第八号 慶応四年閏四月十七日
191(193)	47	閏4月19日	江湖新聞第九号 閏四月十九日
191(193)	51	閏4月21日	江湖新聞第十号 戊辰閏四月廿一日
191(193)	55	閏4月23日	江湖新聞第十一号 戊辰閏四月廿三日
191(193)	59	4月25日	江湖新聞第十二号 定価八分 戊辰四月廿五日
191(193)	64	閏4月18日	日々新聞 慶応四年閏四月十八日出板
191(193)	64		日々新聞第一輯之抄
191(193)	66	閏4月22日	日々新聞第二輯之抄 閏四月廿二日出板
191(193)	68	閏4月	新聞事略第一号 慶応四年閏/四月発行
191(193)	68	閏4月	新聞事略第二号 同年同月
191(193)	71	閏4月	新聞事略第三号 慶応四年閏四月発行
191(193)	73		随時新談
191(193)	77		都鄙新聞会社告人
191(193)	78		都鄙新聞第一

巻百九十二(194) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十一 内外新報十三より廿六迄

192(194)	1	閏4月	内外新報第十三号 慶応四年閏四月
192(194)	3	閏4月15日	内外新報第十四号 慶応四年閏四月十五日
192(194)	5	閏4月17日	内外新報第十五号 慶応四年閏四月十七日
192(194)	9	閏4月18日	内外新報第十六号 慶応四年閏四月十八日
192(194)	11	閏4月20日	内外新報第十七号 慶応四年閏四月廿日
192(194)	14	閏4月22日	内外新報第十八号 慶応四年閏四月廿二日
192(194)	16	閏4月23日	内外新報第十九号 慶応四年閏四月廿三日
192(194)	17	閏4月	内外新報第二十号 慶応四年閏四月
192(194)	20	閏4月24日	内外新報第二十一号 慶応四年閏四月廿四日
192(194)	24	閏4月25日	内外新報第二十二号 慶応四年閏四月廿五日
192(194)	28	閏4月25日	内外新報第二十三号 慶応四年閏四月廿五日
192(194)	32	閏4月26日	内外新報第二十四号 慶応四年閏四月廿六日
192(194)	35	閏4月27日	内外新報第二十五号 慶応四年閏四月廿七日
192(194)	39	閏4月28日	内外新報第二十六号 慶応四年閏四月廿八日

巻百九十三(195) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十二 内外新報廿七より四十二迄

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
193(195)	1	5月2日	内外新報第廿七号 慶応四年五月二日
193(195)	4	5月4日	内外新報第廿八号 慶応四年五月四日
193(195)	8	5月3日	内外新報第廿九号 慶応四年五月三日
193(195)	8	5月4日	内外新報第三十号 慶応四年五月四日
193(195)	9	5月2日	内外新報第三十一号 慶応四年五月二日
193(195)	13	5月2日	内外新報第三十二号 慶応四年五月二日
193(195)	14	5月6日	内外新報第三十三号 慶応四年五月六日
193(195)	18	5月12日	内外新報第三十四号 慶応四年五月十二日
193(195)	22	5月9日	内外新報第三十五号 慶応四年五月九日
193(195)	25	5月12日	内外新報第三十六号 慶応四年五月十二日
193(195)	29	5月11日	内外新報第三十七号 慶応四年五月十一日
193(195)	33	5月14日	内外新報第三十八号 慶応四年五月十四日
193(195)	37	5月14日	内外新報第三十九号 慶応四年五月十四日
193(195)	39	5月15日	内外新報第四十号 慶応四年五月十五日
193(195)	43	5月19日	内外新報第四十一号 慶応四年五月十九日
193(195)	46	5月19日	内外新報第四十二号 慶応四年五月十九日
193(195)	49	5月21日	内外新報第四十三号 慶応四年五月廿一日
193(195)	52	5月22日	内外新報第四十四号 慶応四年五月廿二日
193(195)	55	5月23日	内外新報第四十五号 慶応四年五月廿三日
193(195)	59	5月25日	内外新報第四十七号 慶応四年五月二十五日

巻百九十四(196) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十三 太政官日誌十六より廿五二至る

194(196)	1	5月	太政官日誌第十六 戊辰五月
194(196)	8	5月	太政官日誌第十七 戊辰五月
194(196)	17	5月	太政官日誌第十八 戊辰五月
194(196)	24	5月	太政官日誌第十九 戊辰五月
194(196)	32	5月	太政官日誌第二十 戊辰五月
194(196)	41	5月	太政官日誌第廿一 戊辰五月
194(196)	49	5月	太政官日誌第廿二 戊辰五月
194(196)	58	5月	太政官日誌第廿三 戊辰五月
194(196)	64	5月	太政官日誌第廿四 戊辰五月
194(196)	73	5月	太政官日誌第廿五 戊辰五月

巻百九十五(197) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十四 江城日誌一より十五迄 鎮台日誌一二三四五六七八

195(197)	1	5月5日	江城日誌第一号 慶応四年戊辰五月五日
195(197)	4		江城日誌第二号
195(197)	7	5月13日	江城日誌第三号 戊辰五月十三日
195(197)	11	5月15日	江城日誌第四号 戊辰五月十五日
195(197)	14	5月16日	江城日誌第五号 戊辰五月十六日
195(197)	18	5月17日	江城日誌第六号 戊辰五月十七日
195(197)	22	5月17日	江城日誌第七号 戊辰五月十七日
195(197)	27	5月18日	江城日誌第八号 戊辰五月十八日
195(197)	31	5月21日	江城日誌第九号 戊辰五月廿一日
195(197)	36	5月25日	江城日誌第十号 戊辰五月廿五日
195(197)	37	5月26日	江城日誌第十一号 戊辰五月廿六日
195(197)	42	5月29日	江城日誌第十二号 戊辰五月廿九日
195(197)	45	5月31日	江城日誌第十三号 戊辰五月三十日
195(197)	49	5月	江城日誌第十四号 戊辰五月
195(197)	53	5月	江城日誌第十五号 戊辰五月
195(197)	57	6月1日	鎮台日誌第一 自六月朔日至同月七日
195(197)	62	6月7日	鎮台日誌第二 自六月七日至同月十三日
195(197)	69	6月13日	鎮台日誌第三 自六月十三日至同月十九日
195(197)	75	6月24日	鎮台日誌第四 自六月廿四日/至同月廿九日
195(197)	80	7月1日	鎮台日誌第五 自七月朔日至同二日
195(197)	83	7月4日	鎮台日誌第六 自七月四日至同六日
195(197)	88	7月9日	鎮台日誌第七 自七月九日至同十日
195(197)	94	7月10日	鎮台日誌第八 戊辰七月十日

巻百九十六(198) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十五 市政日誌一より八迄

196(198)	1		官/許市政日誌 第一号 (表紙図)
196(198)	2		市政日誌小引
196(198)	3	5月	市政日誌第一号 慶応四年戊辰五月
196(198)	7	5月	市政日誌第二号 慶応四年戊辰五月
196(198)	12	6月	市政日誌第三号 慶応四年戊辰六月
196(198)	15	6月	市政日誌第四号 戊辰六月
196(198)	19	6月	市政日誌第五号 戊辰六月

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
196(198)	24	6月	市政日誌第六号 戊辰六月
196(198)	28	6月	市政日誌第七号 戊辰六月
196(198)	33	6月8日	市政日誌第八号 戊辰六月八日

卷百九十七(199) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十六 四月 閏四月 五月之記

197(199)	1		会津領初奥羽越後迄建札
197(199)	2	4月9日	慶応四年戊辰四月九日/大納言様信州御進発御行軍列
197(199)	5		關東形勢叢
197(199)	23	閏4月24日	閏四月廿四日出京便
197(199)	24	4月	辰四月飯山より京都表江御届として加藤新吾と申人木曾福嶋おいて咄の趣
197(199)	25	4月25日	信州飯田荒町役所慶長年中より千村原右衛門御領之役所にて役人共定誌也より四月廿五日差立久々利江申来候書面写
197(199)	28		飯山陣屋より飯田荒町役所江通達書之抄
197(199)	29	閏4月5日	閏四月五日飯田役所差立同七日詠着
197(199)	32	閏4月5日	閏四月五日京師御事書同
197(199)	34		奥州磐城表江出来手紙写
197(199)	35		長崎切支丹一件
197(199)	36		中津川山村家陣屋下仮出府説話之趣
197(199)	37	閏4月17日	飯田荒町役所より久々利江通用閏四月十七日着
197(199)	37		飯田町人小坂屋市太郎去ル十日江戸より罷帰
197(199)	37		別紙高屋藩士中村中蔵より飯田読市岡鉄叟江之書状書拔
197(199)	39	閏4月7日	閏四月七日京便京都周旋方当時総督府使当也
197(199)	42	閏4月28日	閏四月廿八日附にて下野国壬生より差立候大垣家充通用注進状之写
197(199)	45		会津候江御諭御請等
197(199)	46		越後戦況千賀隊書記係より来簡
197(199)	49	閏4月29日	閏四月廿九日越後国小千谷出五月十二日朝久々利着出兵通用状
197(199)	51	5月7日	五月七日越後国小千谷宿出同十四日久々利へ到着詠出候副隊長深尾官兵衛より同人宅江書状片貝戦争之趣書取
197(199)	54	5月3日	五月三日越後国片貝村戦争覚書
197(199)	57	5月11日	五月十一日差立越後便
197(199)	60	5月7日	五月七日出御旅館より之一文字便
197(199)	60	閏4月	閏四月越後にて戦争之次第、千賀殿より川上庄七郎を以成瀬殿江注進有之趣左之通
197(199)	62	5月15日	五月十五日江戸大變大火
197(199)	62	5月24日	五月廿四日出沼津宿より之廻状
197(199)	63	5月24日	五月廿四日朝定日宰領申出候趣
197(199)	65		勢州桑名侯之尾州人手帳之抄
197(199)	67	閏4月	奥州泉藩衣笠鏡藏平藩緒形善右衛門等より内話、尚探索之趣実説ニ可有之書取 閏四月下旬
197(199)	68		仙台參謀岡田賢治小濱より罷越帰路面会 緒形善右衛門承之
197(199)	69		越後より公私雜報
197(199)	76	5月16日	五月十六日江戸来簡
197(199)	77		右焼場所一枚摺之抜書 図一枚添別ニ写す

卷百九十八(200) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十七 太政官日誌廿六より三十六迄

198(200)	1	6月	太政官日誌第廿六 戊辰六月
198(200)	7		太政官日誌第廿七
198(200)	15		太政官日誌第廿八
198(200)	21	6月	太政官日誌第廿九 戊辰六月
198(200)	27	6月	太政官日誌第三十 戊辰六月
198(200)	33		太政官日誌第三十一
198(200)	38	6月	太政官日誌第三十二 戊辰六月
198(200)	43	6月	太政官日誌第三十三 戊辰六月
198(200)	49	6月	太政官日誌第三十四 戊辰六月
198(200)	54	6月	太政官日誌第三十五 戊辰六月
198(200)	59	6月	太政官日誌第三十六 戊辰六月

卷百九十九(201) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十八 太政官日誌三十七より四十七ニ至

199(201)	1	6月	太政官日誌第三十七 戊辰夏六月
199(201)	7	7月	太政官日誌第三十八 戊辰秋七月
199(201)	13	7月	太政官日誌第三十九 戊辰秋七月
199(201)	20	7月	太政官日誌第四十 戊辰秋七月
199(201)	26	7月	太政官日誌第四十一 戊辰秋七月
199(201)	34	7月	太政官日誌第四十二 戊辰秋七月
199(201)	40	7月	太政官日誌第四十三 戊辰秋七月

青窓紀聞 目次

巻(冊)	丁	年代	事項
199(201)	45		太政官日誌第四十四
199(201)	53	7月	太政官日誌第四十五 戊辰秋七月
199(201)	60	7月	太政官日誌第四十六 戊辰秋七月
199(201)	64	7月	太政官日誌第四十七 戊辰秋七月

巻二百(202) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰十九 五月六月七月八月九月之記

200(202)	1	5月14日	東叡山屯集脱走追討人数割
200(202)	2	5月1日	江戸来簡五月朔日出同十五日川支にて/下旬廿八日夕一時ニ到着
200(202)	3	5月2日	五月二日出越後便父子通用
200(202)	5	5月	五月勅令東下に付今京都風説
200(202)	6	5月6日	五月六日附高橋民部殿御家来通用
200(202)	8	5月11日	五月十一日差立越後便
200(202)	9	5月17日	伊藤江戸居より差立便
200(202)	10	5月26日	五月廿六日暁三条大橋西詰南側に張出有之写
200(202)	11	5月26日	御達書
200(202)	12	5月25日	五月廿五日東武巨商通用状
200(202)	15		御高札之写二通
200(202)	16	5月22日	五月廿二日江戸町之御触書写
200(202)	17	5月24日	(五月廿四日付御年寄書状)
200(202)	18	5月	辰五月越後国之陸軍より御触書
200(202)	19	6月21日	六月廿一日出越後よりの書簡
200(202)	21	6月28日	六月廿八日越後国関原陣中より之書簡七月十二日着
200(202)	22	5月29日	五月廿九日附越後小千谷便六月廿五日/到着
200(202)	23	6月8日	六月八日出同所同人より同廿六日/到着
200(202)	25	6月13日	六月十三日出同所同人より同廿六日/到着
200(202)	26	6月16日	六月十六日出同所同人より七月朔日/到着
200(202)	27	5月18日	太政官探索書之由京都より
200(202)	27	6月8日	六月八日江戸仕立飛脚通用
200(202)	28		奥羽大小名
200(202)	30	5月	五月御達死傷写
200(202)	38		越後表死傷姓名
200(202)	39		越後日記
200(202)	51		越後出張某日記
200(202)	56	7月6日	七月六日出江戸来簡
200(202)	57	7月12日	七月十二日京便
200(202)	58	8月1日	八月朔日出京便
200(202)	59		北越奥羽形勢書簡
200(202)	62	9月6日	九月六日附江戸来簡
200(202)	63	8月18日	八月十八日出同廿七日出奥州便
200(202)	66	9月12日	九月十二日出越後蒲原郡新発田より之報知
200(202)	68	9月4日	九月四日附奥州より来状
200(202)	69	9月27日	戊辰九月廿七日辰刻熱田神宮江御神納
200(202)	71		愚仏説不知法蓮華經

巻二百一(203) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰廿 もしほ草八より廿迄

201(203)	1	5月2日	もしほ草第八篇 慶応四年戊辰五月二日
201(203)	5	5月5日	もしほ草第九篇 戊辰五月五日
201(203)	9	5月10日	もしほ草第十篇 戊辰五月十日
201(203)	13	5月12日	もしほ草第十一篇 戊辰五月十二日
201(203)	16	5月15日	もしほ草第十二篇 戊辰五月十五日
201(203)	20	5月晦日	もしほ草第十三篇 戊辰五月晦日
201(203)	24	6月2日	もしほ草第十四篇 戊辰六月二日
201(203)	28	6月4日	もしほ草第十五篇 戊辰六月四日
201(203)	32	6月5日	もしほ草第十六篇 戊辰六月五日
201(203)	36	6月10日	もしほ草第十七篇 戊辰六月十日
201(203)	40	7月28日	もしほ草第十八篇 戊辰七月廿八日
201(203)	43	8月25日	もしほ草第十九篇 八月廿五日
201(203)	47	8月27日	もしほ草第二十篇 八月廿七日

巻二百二(204) 慶応4年・明治元年 (1868)

戊辰二十一 太政官日誌四十八より六十六迄

202(204)	1	8月	太政官日誌第四十八 戊辰秋八月
202(204)	6	8月	太政官日誌第四十九 戊辰秋八月
202(204)	10	8月	太政官日誌第五十 戊辰秋八月
202(204)	15	8月	太政官日誌第五十一 戊辰秋八月
202(204)	20	8月	太政官日誌第五十二 戊辰秋八月
202(204)	25	8月	太政官日誌第五十三 戊辰秋八月

青窓紀聞 目次

卷(冊)	丁	年代	事項
202(204)	30	8月	太政官日誌第五十四 戊辰秋八月
202(204)	36	8月	太政官日誌第五十五 戊辰秋八月
202(204)	41	8月	太政官日誌第五十六 戊辰秋八月
202(204)	47	8月	太政官日誌第五十七 戊辰秋八月
202(204)	53	8月	太政官日誌第五十八 戊辰秋八月
202(204)	60	8月	太政官日誌第五十九 戊辰秋八月
202(204)	66	8月	太政官日誌第六十 戊辰秋八月
202(204)	71	8月	太政官日誌第六十一 戊辰秋八月
202(204)	76		太政官日誌第六十二
202(204)	82	8月	太政官日誌第六十三 戊辰秋八月
202(204)	88	8月	太政官日誌第六十四 戊辰秋八月
202(204)	93	8月	太政官日誌第六十五 戊辰秋八月
202(204)	100	8月	太政官日誌第六十六 戊辰秋八月

「幕末維新書簡集」内訳目録

「幕末維新書簡集」内訳目録 凡例

- ・本目録は名古屋市蓬左文庫が所蔵する下記資料（全 13 件）の内訳目録である。

資料名	請求番号
(1) 慶応二年書翰集	27-101
(2) 元治元年書翰	27-102
(3) 慶応元年書翰集	27-103
(4) 明治三年來翰	27-104
(5) 慶応三年書翰集	27-105
(6) 明治元年書翰集	27-106
(7) 文久三年書翰（尾張家）	27-107
(8) 元治元年書翰集	27-108
(9) 元治元年書翰集	27-109
(10) 文久三年書翰集	27-110
(11) 慶応元年書翰集	27-111
(12) 明治元年書翰	27-112
(13) 明治二年書翰	27-113

- ・上記 13 件を下記のとおり年代順に配列した。

(7)、(10)、(8)、(9)、(2)、(11)、(3)、(1)、(5)、(12)、(6)、(13)、(4)

ただし、各書簡集のなかの配列は変更せず、原本に従った。

- ・「名称」欄の〔 〕は、原本に外題等がない場合、内容に応じて付したものである。
- ・「和暦」「西暦」欄の〔 〕は推定である。また、和暦を西暦に換算する際、新暦／旧暦のずれは考慮していない。
- ・（ ）は備考、補足を示す。
- ・「差出」「宛名」で判読できなかった文字のうち、字数が分かるものは□、字数が不明なものは〔 〕で示した。

謝辞

本目録の作成にあたり、下記の方々にご助言・ご協力いただきました。（敬称略・五十音順）

志村敬子 末松美咲 羽賀祥二 堀内亮介 山田裕輝

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
文久三年書翰(尾張家) 27-107							
27	107	1~140	文久三亥年書翰				
27	107	1~11	第一括				
27	107	1	為御達振写(木曾谷村々困窮につき預所仰付け願)	[文久3年]	[1863]	3月	
27	107	2	[一橋中納言上京の件につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	10月	
27	107	3	[横浜鎖港等につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	4	演達書取(西丸普請材木につき演達書取)	[文久3年]	[1863]		
27	107	5	[時勢切迫につき留守見舞状]	[文久3年]	[1863]	3月13日	小瀬新太郎 水野彦三郎
27	107	6	[国財仕法立その他につき定下書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	7	[無沙汰につき詫状]	[文久3年]	[1863]	12月5日	小池興左衛門 水野彦三郎
27	107	8	口述(春日望山の歌につき口述書)	[文久3年]	[1863]	2月7日	高松三位
27	107	9	[浪士の処置等につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	10	[頼談のため昇殿依頼書]	[文久3年]	[1863]		伊丹藏人・山田勘解由 水野彦三郎
27	107	11	[名前書付]	[文久3年]	[1863]		
27	107	12~28	第二括				
27	107	12	[板倉侯御供につき書状]	[文久3年]	[1863]		
27	107	13	[座順につき願書]	[文久3年]	[1863]		若年寄 有馬遠江守
27	107	14	[隼人正御呼につき書付]	[文久3年]	[1863]	9月22日	水野彦三郎
27	107	15	[帰宅予定問合につき書状]	[文久3年]	[1863]	27日	石見介 彦三郎
27	107	16	[正二位辞退につき願書写]	[文久3年]	[1863]	4月21日	
27	107	17	[將軍帰府につき建言書写]	[文久3年]	[1863]	3月11日	
27	107	18	[朝倉幸之助下坂引留につき詫状写]	[文久3年]	[1863]	5月1日	
27	107	19	[幸之助党類出訴につき手当方願書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	20	[朝倉幸之助下坂引留につき詫状下書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	21	[幸之助党類交名]	[文久3年]	[1863]		
27	107	22	[幸之助の科条等につき鷹司家へ仰立る演達書]	[文久3年]	[1863]	4月29日	
27	107	23	[將軍帰府につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]	3月11日	
27	107	24	[天ノ川辻において分取る穀物の処置につき届書]	[文久3年]	[1863]	10月26日	藤野和泉守家来 松内三郎兵衛
27	107	25	[名前書付]	[文久3年]	[1863]		
27	107	26	[九十九里浜防禦につき書付]	[文久3年]	[1863]		
27	107	27	[示談のため出殿依頼書]	[文久3年]	[1863]	10月5日	松井市兵衛・沢田庫之進 水野彦三郎
27	107	28	[鎖港につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]		
27	107	29~42	第三括				
27	107	29	[献上物・餞別につき札状]	[文久3年]	[1863]	10月9日	尹宮御内 武田相模守 水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	107	30 [今晚御出に及ばざる旨書状]	[文久3年]	[1863]	9月15日	辻七郎左衛門	水野彦三郎
27	107	31 [京都日雇値段につき書付]	[文久3年]	[1863]	5月		
27	107	32 [長門守の封物を差越す旨書状]	[文久3年]	[1863]	9月24日	松井市兵衛	水野彦三郎
27	107	33 一橋様江御書通摘要(閣老御供 につき書状摘要)	[文久3年]	[1863]			
27	107	34 [海浜・伊勢宮・熱田宮防禦につ き建言書下書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	35 [撰海守衛辞退につき書状下書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	36 [家督相続につき書状]	[文久3年]	[1863]	9月13日	富三郎	彦三郎
27	107	37 [家督相続につき書状]	[文久3年]	[1863]	9月4日	富三郎	彦三郎
27	107	38 [明朝面会したき旨書状]	[文久3年]	[1863]	8月29日	富三郎	彦三郎
27	107	39 [拝借の別紙返上につき礼状]	[文久3年]	[1863]	9月24日	小室金五郎	水野彦三郎
27	107	40 [鎖港につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	41 [久安慎方につき書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	42 [名前書付]	[文久3年]	[1863]		辻七郎左衛門	水野彦三郎
27	107	43~55 第四括		[1863]			
27	107	43 [閣老御服之事等諸事書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	44 [今般買上の船の名につき申渡 書]	[文久3年]	[1863]	正月19日	横井孫右衛門	水野彦三郎
27	107	45 [江戸への御使につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	12月29日	肥田孫三郎	水野彦三郎
27	107	46 [攘夷先鋒仰付につき建言書下 書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	47 [巨砲製造等につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	48 [内談のため立寄られたき旨書 状]	[文久3年]	[1863]	正月6日		
27	107	49 [神宮守衛につき書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	50 [神宮守衛の陣営場所人数につ き書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	51 [生麦事件吟味につき報告書下 書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	52 [出帆船の人数・積荷等につき書 付]	[文久3年]	[1863]		荒井郁之助	
27	107	53 [軍艦奉行等名前書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	54 [出府・定府等人名書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	55 [生麦事件吟味につき報告書]	[文久3年]	[1863]		西筑右衛門	
27	107	56~90 第五括					
27	107	56 [旅行手当下付願]	[文久3年]	[1863]	4月	奥御儒者 水野彦 三郎	
27	107	57 十月発足の市御諸書付	[文久3年]	[1863]			
27	107	58 [明日出殿すべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	10月18日	青山保吉	水野彦三郎
27	107	59 [江戸へ罷下るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	10月18日		
27	107	60 [書付添書]	[文久3年]	[1863]	10月18日	石河竹次郎	水野彦三郎
27	107	61 [木曾路旅行願につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月23日	肥田孫三郎	水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	107	62 [書付添書]	[文久3年]	[1863]	8月4日	林藤左衛門	水野彦三郎
27	107	63 [手当金渡方につき間合并申渡]					
27	107	63(1) [手当金渡方につき間合書]	[文久3年]	[1863]	7月23日	奥儒者 水野彦三郎 御徒格支配勘定組頭並 蒲五兵衛	御小納戸頭取衆
27	107	63(2) [手当金渡方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	64 [夜中御門出入につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	8月		水野彦三郎
27	107	65 [一橋様御屋形へ罷出るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	8月11日	長野七郎右衛門	水野彦三郎
27	107	66 [明日御城へ罷出るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月17日	肥田孫三郎	水野彦三郎
27	107	67 [書付添書]	[文久3年]	[1863]	8月6日	渋谷三左衛門	水野彦三郎
27	107	68 屋敷小則	[文久3年]	[1863]			
27	107	69 [御目見以上仰付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月		水野彦三郎
27	107	70 [定詰解任につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月		水野彦三郎
27	107	71 [時服・御紋附衣服着用方につき間合并申渡]					
27	107	71(2) [時服・御紋附衣服着用方につき間合書]	[文久3年]	[1863]	7月	奥御儒者 水野彦三郎	
27	107	71(2) [時服・御紋附衣服着用方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月		
27	107	72 [御切米渡方につき間合并申渡]					
27	107	72(1) [御切米渡方につき間合書]	[文久3年]	[1863]	5月	奥御儒者 水野彦三郎	
27	107	72(2) [御切米渡方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	9月		
27	107	73 [名前・居所書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	74 [明日河原御殿へ罷出るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月12日	渡辺半九郎	水野彦三郎
27	107	75 [御加増米につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月		水野彦三郎
27	107	76 [御加増米当年渡り方につき間合并申渡]	[文久3年]	[1863]			
27	107	76(1) [御加増米当年渡り方につき間合書]	[文久3年]	[1863]	2月13日	奥御儒者 水野彦三郎	
27	107	76(2) [御加増米当年渡り方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月	小笠原三郎右衛門	水野彦三郎
27	107	77 [明日河原御殿へ罷出るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月18日	渡辺半九郎	水野彦三郎
27	107	78 [永々御徒格以上仰付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月		水野彦三郎
27	107	79 [御足米渡り方につき間合并申渡]					
27	107	79(1) [御足米渡り方につき間合書]	[文久3年]	[1863]	6月	奥御儒者 水野彦三郎	
27	107	79(2) [御足米渡り方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	7月	小笠原三郎右衛門	水野彦三郎
27	107	80 [前大納言帰国の御供仰付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月		水野彦三郎
27	107	81 [大納言上京御供の渡り物につき申渡書写]	[文久3年]	[1863]	正月20日	石河竹次郎	水野彦三郎
27	107	82 [参内行列減方探索につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月17日		水野彦三郎
27	107	83 [明日妙顕寺旅館へ罷出るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月朔日	小瀬新太郎	水野彦三郎
27	107	84 [輪講につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月		水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	107	85 [上京御供仰付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	正月		水野彦三郎
27	107	86 [松平春嶽への御内使仰付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	2月3日	佐藤弥平次 小瀬新太郎	水野彦三郎
27	107	87 [蒸菓子下置かれるにつき礼状]	[文久3年]	[1863]	1月28日	中野惣太郎	水野彦三郎
27	107	88 [船中の弁当につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	正月20日	石河竹次郎	水野彦三郎
27	107	89 [発駕の日限につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	正月18日		
27	107	90 [書付添書]	[文久3年]	[1863]	正月8日	石河竹次郎	水野彦三郎
27	107	91~111 第六括					
27	107	91 [周旋筋手当金下付につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月		水野彦三郎
27	107	92 [書付添書]	[文久3年]	[1863]	6月20日	渡辺半九郎	水野彦三郎
27	107	93 [病中失敬につき詫状]	[文久3年]	[1863]	3月	遠山寺平	水野彦三郎
27	107	94 [両都の儀等諸事につき書付]	[文久3年]	[1863]	17日		
27	107	95 佐賀老公等ノ詩	[文久3年]	[1863]			
27	107	96 [山城国寺院半減すべき旨建言書]	[文久3年]	[1863]		石見介	彦三郎
27	107	97 [方今天下の形勢につき建言書下書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	98 [正月23日大坂天誅の高札写]	[文久3年]	[1863]			
27	107	99 [帰宅予定問合につき書状]	[文久3年]	[1863]	3月9日	浅井将監	水野彦三郎
27	107	100 [御増禄一条につき書状]	[文久3年]	[1863]	3月29日	安藤石見介	水野彦三郎
27	107	101 [上京されたき旨願書]	[文久3年]	[1863]	30日	安藤石見介	水野彦三郎
27	107	102 [建言事項書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	103 鎖横浜服過激破開国	[文久3年]	[1863]			
27	107	104 [只今より御出あるべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月12日	板倉周防守内 高田通 辻七郎左衛門	尾張大納言 水野彦三郎
27	107	105 [只今より御出あるべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	6月12日	板倉周防守内 高田通 辻七郎左衛門	尾張大納言 水野彦三郎
27	107	106~110 [文久3年6月在坂中受取書]					
27	107	106 覚(在坂中諸費用につき覚書)	[文久3年]	[1863]	6月		
27	107	107 [食費等につき覚書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	108 覚(食費等受取書)	[文久3年]	[1863]	6月13日	升式	
27	107	109 覚(食費等受取書)	[文久3年]	[1863]	6月12日	升式	
27	107	110 [食費等につき覚書]	[文久3年]	[1863]			
27	107	111 [延着につき詫状]	[文久3年]	[1863]	6月10日	梅沢弥太郎	水野彦三郎 植松狗治
27	107	112~140 第七括					
27	107	112 [都合次第に参るべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	12月23日	磯野三右衛門	斎藤永左衛門
27	107	113 書状	[文久3年]	[1863]	11月14日	[]	彦三郎
27	107	114 御大老松平大和守公用人を以て面会被成候也	[文久3年]	[1863]	11月20日	[]	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	107	115 [明日御出なさる様申渡書]	[文久3年]	[1863]	11月13日	柴田大之丞・大嶋九郎左衛門・庄野慈父左衛門・北汎五右衛門	水野彦三郎
27	107	116 [清水疇太郎派遣につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月6日	龍野三右衛門	水野彦三郎
27	107	117 [増方につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	12月10日	永左衛門	彦三郎
27	107	118 [明日御出下さる様依頼書]	[文久3年]	[1863]	12月10日	安藤文兵衛	水野彦三郎
27	107	119 [別紙四通取斗依頼書]	[文久3年]	[1863]	12月2日	永左衛門	彦三郎
27	107	120 [廿六日出候一人到着につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月朔日	永左衛門	彦三郎
27	107	121 [請取申御借米之事・請取申御切米之事(写)]	[文久3年]	[1863]	11月	水野彦三郎	
27	107	122 [今日入来されたき旨依頼書]	[文久3年]	[1863]	12月7日	鈴木知二郎	水野彦三郎
27	107	123 舌代	[文久3年]	[1863]	極月14日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	107	124 [出殿依頼書]	[文久3年]	[1863]	11月27日	間宮伴左衛門	水野彦三郎
27	107	125 [書面貸附金につき申渡書写]	[文久3年]	[1863]			
27	107	126 [伊藤退輔への下物につき問合并申渡]					
27	107	126(1) [伊藤退輔への下物につき問合書]	[文久3年]	[1863]	10月	水野彦三郎	
27	107	126(2) [伊藤退輔への下物につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	10月		
27	107	127 [御使宅へ御出有様依頼書]	[文久3年]	[1863]	9月14日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	107	128 [下物等につき問合并依頼書]					
27	107	128(1) [下物等につき問合書]	[文久3年]	[1863]	9月	水野彦三郎	
27	107	128(2) [下物等につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	10月		
27	107	129 [拝謁したき旨書状]	[文久3年]	[1863]	11月23日	内藤喜左衛門	水野彦三郎
27	107	130 [前大納言上洛につき書状]	[文久3年]	[1863]	11月14日	百井富三郎	水野彦三郎
27	107	131 [示談につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月朔日	永左衛門	彦三郎
27	107	132 [明日面談したき旨依頼書]	[文久3年]	[1863]	11月26日	百井富三郎	水野彦三郎
27	107	133 [間宮伴左衛門につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月2日	山風甚兵衛	水野彦三郎
27	107	134 口上(写差上る旨口上書)	[文久3年]	[1863]	10月28日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	107	135 [景美院百回忌につき書付]	[文久3年]	[1863]			
27	107	136 口上(出張願につき口上書)	[文久3年]	[1863]	極月9日	申楽町 小笠原	水野
27	107	137 [明朝御出あるべき旨書状]	[文久3年]	[1863]	11月8日	喜兵衛	彦三郎
27	107	138 [明日御出なさる様申渡書]	[文久3年]	[1863]	11月3日	酒井雅楽頭内柴田大之丞・大嶋九郎左衛門・庄野慈父左衛門・小汎五右衛門	水野彦三郎
27	107	139 [大和一揆につき報告書]	[文久3年]	[1863]	9月26日	井伊掃部頭兼馬属橋本軍八郎	
27	107	140 [周旋願につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月12日	喜兵衛	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名	
27	110	1~44	[文久三亥年書翰并記録]					
27	110	1	[鎮撫中大坂政務委任等につき 申渡書]	[文久3年]	[1863]			
27	110	2	[周防守との面会等につき書状 下書]	[文久3年]	[1863]	8月6日		
27	110	3	[一橋侯との面会等につき書状 下書]	[文久3年]	[1863]	6月6日		
27	110	4	[小笠原図書一体の書付写につ き書状下書]	[文久3年]	[1863]	8月18日	田子	
27	110	5	[横浜鎖港につき書状]	[文久3年]	[1863]	8月6日		
27	110	6	[辞表指出等につき書状]	[文久3年]	[1863]	8月2日	間島萬治郎	水野彦三郎
27	110	7	[茂徳登坂辞退につき書状]	[文久3年]	[1863]	8月[8日]		
27	110	8	[茂徳登坂辞退につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	8月9日		
27	110	9	[茂徳登坂等辞退につき書状下 書]	[文久3年]	[1863]	[8月9日]		
27	110	10	亥八月京師風聞	[文久3年]	[1863]			
27	110	11	[茂徳退隠等につき書状]	[文久3年]	[1863]	8月22日	新太郎	彦三郎
27	110	12	[茂徳退隠等につき書状]	[文久3年]	[1863]	9月4日	新太郎	彦三郎
27	110	13	[茂徳退隠等につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	9月11日		小瀬
27	110	14	[茂徳退隠等につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	9月12日		小瀬
27	110	15	[茂徳退隠等につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	9月13日		松市
27	110	16	[茂徳退隠等につき書状]	[文久3年]	[1863]	9月10日	松井市兵衛	水野彦三郎
27	110	17	[今夕御出あるべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	9月15日	辻七郎左衛門	彦三郎
27	110	18	演舌書(隼人正につき演舌書)	[文久3年]	[1863]	9月16日	下條長門守	水野彦三郎
27	110	19	[隼人正等につき書状下書]	[文久3年]	[1863]	9月25日		長門守・板倉侯
27	110	20	[茂徳退隠等につき書状]	[文久3年]	[1863]	10月6日	新太郎	彦三郎
27	110	21	[攘夷別勅使下向につき建白書 写]	[文久3年]	[1863]	9月	中納言茂承・前大 納言慶勝	
27	110	22	[攘夷別勅使下向等につき建白 書写]	[文久3年]	[1863]	10月	前大納言慶勝	
27	110	23	[増貢米・攘夷別勅使副使等につ き書状]	[文久3年]	[1863]	10月1日	保實	成瀬隼人正老臣 高田治右衛門
27	110	24	[嶋津三郎位階推挙につき建白 書写]	[文久3年]	[1863]	9月		
27	110	25	[松平肥後守爵禄につき建白書 写]	[文久3年]	[1863]	10月		
27	110	26	[山内兵之助位階につき建言書]	[文久3年]	[1863]	10月		
27	110	27	[大樹公上洛につき書状写]	[文久3年]	[1863]	10月25日		一橋黄門公
27	110	28	[大樹公上洛につき書状写]	[文久3年]	[1863]	10月25日		水野和泉守・板倉 周防守
27	110	29	[公武一和・攘夷成功につき達 写]	[文久3年]	[1863]			
27	110	30	[上京すべき旨申渡書]	[文久3年]	[1863]	10月		紀伊中納言
27	110	31	[大樹公上京等につき書状]	[文久3年]	[1863]	11月13日	松井市兵衛・澤田 庫之進	水野彦三郎
27	110	32	[大樹公上京等につき書状]	[文久3年]	[1863]	11月29日	松井市兵衛・澤田 庫之進	水野彦三郎
27	110	33	[女中減員につき書付]	[文久3年]	[1863]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	110	34 一橋様江被遣御書翰写	[文久3年]	[1863]			
27	110	35 [江戸城炎上等につき書状]	[文久3年]	[1863]	11月21日	赤坂勘次郎正富	水野霞洲
27	110	36 [鎖港等につき書状]	[文久3年]	[1863]	11月26日	尾崎銀三郎	彦三郎
27	110	37 案[諸大夫増人につき建言書]	[文久3年]	[1863]	12月		
27	110	38 [鞍置馬下さる旨仰出書]	[文久3年]	[1863]	12月3日		
27	110	39 [馬拝領につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	12月3日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	110	40 [板倉侯御供等につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月25日	澤田	
27	110	41 [隼人正上京御供につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月8日	退輔	彦三郎
27	110	42 [上京御供等につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月25日	半唯	霞洲老墓
27	110	43 [鎖港延引等につき書状]	[文久3年]	[1863]	12月5日	松井市兵衛・澤田 庫之進	水野彦三郎
27	110	44 [文久三亥年諸事書付]	[文久3年]	[1863]			

元治元年書翰集 27-108

27	108	1~65 [元治元年書翰并記録]					
27	108	1 [上京すべき旨書付]	[元治元年]	[1864]	正月		水野彦三郎
27	108	2 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	正月3日	四瀬権左衛門	水野彦三郎
27	108	3 [長藩伏見人数等につき書状]	[元治元年]	[1864]	正月3日	銀三郎	彦三郎
27	108	4 [国事御用掛等につき書状]	[元治元年]	[1864]	正月22日	保實	水野彦三郎
27	108	5 [前公上京等につき書状]	[元治元年]	[1864]	正月22日	松井市兵衛	
27	108	6 [上京用途融通につき書状]	[元治元年]	[1864]	正月		
27	108	7 [面話したき旨書状]	[元治元年]	[1864]	正月28日	本多彦三郎	水野彦三郎
27	108	8 [広敷女中減員等につき書状]	[元治元年]	[1864]	正月22日	新太郎	彦三郎
27	108	9 [義弘太刀身一振につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月4日	保實	水野彦三郎
27	108	10 [諸大夫仰付につき礼状]	[元治元年]	[1864]	2月4日	成瀬豊前守正桓	水野彦三郎
27	108	11 覚(二條城へ罷出るべき旨申渡書)	[元治元年]	[1864]	2月9日		水野彦三郎
27	108	12 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	2月9日	寺山鞞負	水野彦三郎
27	108	13 [集会出席者につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月10日		
27	108	14 [義弘之劍身の値等につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月12日	保實	尾州公周旋役 水 野彦三郎
27	108	15 [刀の値段につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	108	16 [神宮供料増加等につき建白書]	[元治元年]	[1864]			
27	108	17 [老公上京等につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月16日	新太郎	彦三郎
27	108	18 [集会欠席につき詫状]	[元治元年]	[1864]	2月	清一郎	彦三郎
27	108	19 [集会参加につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月17日	高久半之助・佐々 木只三郎	水野彦三郎
27	108	20 [認物延引につき詫状]	[元治元年]	[1864]	2月17日	保實	水野彦三郎
27	108	21 [九中豫人性勘察等につき書付]	[元治元年]	[1864]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	108	22 [一橋様へ御出下さる様依頼書]	[元治元年]	[1864]	2月17日	安達清一郎	水野彦三郎・若井 鉄吉
27	108	23 [馬具拝借につき願書]	[元治元年]	[1864]	2月19日	保實	水野彦三郎
27	108	24 [岩橋氏会議につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月17日	沖探三	水野彦三郎
27	108	25 [横浜鎖港につき書付]	[元治元年]	[1864]	2月20日		
27	108	26 [旅宿迄足労ありたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	2月29日	水野和泉守内 値 賀七左衛門・牧田 幾右衛門	水野彦三郎
27	108	27 [中川御殿迄御出ありたき旨願 書]	[元治元年]	[1864]	3月1日	武田相模守	水野彦三郎・尾崎 銀三郎
27	108	28 [参殿ありたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月9日	高嶋右衛門	水野彦三郎
27	108	29 [参殿ありたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月13日	倉澤右兵衛	水野彦三郎
27	108	30 [禁中増米等につき建言書写]	[元治元年]	[1864]			
27	108	31 [銀三郎と共に参殿すべき旨申 渡書]	[元治元年]	[1864]	3月14日	倉澤右兵衛	水野彦三郎
27	108	32 [清水と参会されたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月13日	大野・廣澤	水野
27	108	33 [明日参上する旨書状]	[元治元年]	[1864]	3月7日	清一郎	彦三郎・鉄吉
27	108	34 [明朝御出下さる様願書]	[元治元年]	[1864]	3月5日	黒田山城	水野彦三郎
27	108	35 [手紙差上につき書状]	[元治元年]	[1864]	3月18日	水野内 値賀七左 衛門・牧田幾右衛 門	水野彦三郎
27	108	36 [二條城へ出仕ありたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月18日	値賀七左衛門・牧 田幾右衛門	水野彦三郎
27	108	37 [蒲生へ御托申越すべき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月22日	弥三郎	彦三郎
27	108	38 [高松家元服につき書状]	[元治元年]	[1864]	3月23日	大野	水野・浅井
27	108	39 覚(寄贈品につき覚書)	[元治元年]	[1864]	3月23日	高松家奥向	水野彦三郎・大野 英馬・浅井将監・其 外御中
27	108	40 [参殿されたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月23日	高嶋右衛門	水野彦三郎
27	108	41 [尹宮へ罷出るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	4月24日	田宮弥太郎	水野彦三郎
27	108	42 [拙宅へ来訪されたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	3月27日	小宝	水野
27	108	43 [諸家旧弊等につき書状]	[元治元年]	[1864]	4月2日	新太郎	彦三郎
27	108	44 副密(内洩ありたき旨願書)	[元治元年]	[1864]	[4月2日]		
27	108	45 [鎖港等につき書状]	[元治元年]	[1864]	4月17日		総裁・閣老
27	108	46 書付(摂海防衛につき書付)	[元治元年]	[1864]	4月3日	[水野泉州]	
27	108	47 [新川一条につき書状]	[元治元年]	[1864]	4月3日	高嶋右衛門	水野彦三郎
27	108	48 [別封一通取次願書]	[元治元年]	[1864]	4月8日	手代木直左衛門	水野彦三郎・若井 鉄吉
27	108	49 [明朝訪問したき旨書状]	[元治元年]	[1864]	4月9日	尹宮御内 倉澤右 兵衛	水野彦三郎
27	108	50 [滞京費用等につき書状]	[元治元年]	[1864]	4月17日	冬道	水野左醒
27	108	51 [訪問したき旨書状]	[元治元年]	[1864]	4月17日	鞆負	彦三郎
27	108	52 [参殿ありたき旨書状]	[元治元年]	[1864]	4月6日	尹宮御内 倉澤右 兵衛	水野彦三郎
27	108	53 [立寄られたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	4月18日	田宮弥三郎	水野彦三郎・若井 鉄吉
27	108	54 [参殿時刻等につき書状]	[元治元年]	[1864]	4月18日	高嶋八之進	水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	108	55 [旅宿へ御出ありたき旨願書]	[元治元年]	[1864]	4月23日	水野和泉守内 値 賀七左衛門・牧田 幾右衛門	水野彦三郎
27	108	56 [登城につき書状]	[元治元年]	[1864]	5月4日	尾崎八右衛門	水野彦三郎
27	108	57 [在江戸家来高橋源之丞事等につ き書状]	[元治元年]	[1864]	5月4日	保實	水野彦三郎
27	108	58 [餞別につき礼状]	[元治元年]	[1864]	5月16日	前田十郎	水野彦三郎
27	108	59 喚舌(茨木桜集会欠席につき書 状)	[元治元年]	[1864]	5月5日	安達清一郎	水野彦三郎
27	108	60 [御礼賜進につき書状]	[元治元年]	[1864]	5月	小森久太郎・野村 左兵衛・手代木直 左衛門・小島機兵 衛	水野彦三郎
27	108	61 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	5月6日	林五郎四郎	水野彦三郎・若井 歙吉
27	108	62 [酒井雅楽頭書付添書]	[元治元年]	[1864]			水野彦三郎・若井 歙吉
27	108	63 覚(大坂にて御目見仰付につき 書付写)	[元治元年]	[1864]			水野彦三郎・若井 歙吉
27	108	64 [明日大坂登城あるべき等につ き申渡書写]	[元治元年]	[1864]	5月13日		元千代・御城附
27	108	65 [和泉守よりの指図につき書状]	[元治元年]	[1864]	5月13日	若井歙吉	水野彦三郎

元治元年書翰集 27-109

27	109	1~31 [元治元年書翰并記録]					
27	109	1 [在江中の優遇につき礼状写]	[元治元年]	[1864]			
27	109	2 [成瀬の取扱等につき書状写]	[元治元年]	[1864]			
27	109	3 [古高俊太郎一味探索につき達 写]	[元治元年]	[1864]	6月		
27	109	4 御直書添御願書写 (成瀬隼人正旧領回復につき願 書写)	[元治元年]	[1864]	5月		
27	109	5 [成瀬隼人正旧領回復につき書 付]	[元治元年]	[1864]			
27	109	6 [御内献の品につき書状下書]	[元治元年]	[1864]	6月22日		
27	109	7 [領地支配等につき建言書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	109	8 [領地支配等につき建言書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	109	9 [京中浮浪輩召捕方等につき書 状]	[元治元年]	[1864]	6月15日	五郎四郎	彦三郎
27	109	10 [米価上昇等につき書状]	[元治元年]	[1864]	8月10日	承太郎	彦三郎
27	109	11 [急務三策建言次第につき書付]	[元治元年]	[1864]	6月		
27	109	12 [拝領物等につき礼状]	[元治元年]	[1864]	6月20日	八木銀次郎雕	水野彦三郎
27	109	13 [御役御免につき書付]	[元治元年]	[1864]	6月27日		
27	109	14 [御役仰付につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	109	15 [御役仰付につき書付]	[元治元年]	[1864]	6月26日		
27	109	16 [幕府模様相変につき書状]	[元治元年]	[1864]	6月23日	方田五右衛門	水野彦三郎
27	109	17 [京都における長会の状勢等につ き書状]	[元治元年]	[1864]	6月29日		
27	109	18 [幕府挽回等につき書状下書]	[元治元年]	[1864]	7月2日		
27	109	19 [請書を持参されたき旨等につ き伝言書付]	[元治元年]	[1864]	7月5日	辻七郎左衛門	

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	109	20 [西丸出勤の人別役につき願書]	[元治元年]	[1864]	7月5日	水野彦三郎・若井	役懸衆
27	109	21 [長藩の京都潜伏等につき書状下書]	[元治元年]	[1864]	7月12日		
27	109	22 [横浜鎖港等につき値賀等よりの伝達條々書状下書]	[元治元年]	[1864]	7月13日		
27	109	23 [阿部豊後守上京につき書状下書]	[元治元年]	[1864]			
27	109	24 [老公上京猶予等につき書状]	[元治元年]	[1864]	7月14日	市兵衛	
27	109	25 [上使猶予等につき書状]	[元治元年]	[1864]	7月17日	松井市兵衛	水野彦三郎
27	109	26 [阿部侯上京等につき書状下書]	[元治元年]	[1864]	7月17日		
27	109	27 [人数引連上京すべき旨達]	[元治元年]	[1864]	7月5日		
27	109	28 [官方等附ヶ人書付]	[元治元年]	[1864]			
27	109	29 [上京すべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	8月5日	肥田孫三郎	水野彦三郎
27	109	30 [東下すべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	8月14日		水野彦三郎
27	109	31 [手当金下附につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	8月		水野彦三郎

元治元年書翰 27-102

27	102	1~94 元治元子年 文武把持ス[元治元年文武関係書翰]					
27	102	1 [上京者姓名取調につき書状]	[元治元年]	[1864]	3月18日	松平田宮	水野彦三郎
27	102	2 [上京者姓名書付]	[元治元年]	[1864]		[松平田宮]	
27	102	3 手控(下賜物につき控)	[元治元年]	[1864]			
27	102	4 [兩氏参殿の周旋につき礼状]	[元治元年]	[1864]	4月20日	高松内 高島八之進	水野彦三郎、若井 鋳吉
27	102	5 目録(下賜物につき目録)	[元治元年]	[1864]			
27	102	6 [書籍名書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	7 [横浜休港等につき建言書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	8 [官方等附ヶ人書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	9 [京師情勢等につき書状下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	10 [老公上京につき書状]	[元治元年]	[1864]	2月22日	大道寺主水	水野彦三郎
27	102	11 [御手当金下附につき申渡書]	[元治元年]	[1864]			水野彦三郎
27	102	12 [粟田御殿へ罷出るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	3月6日	肥田孫三郎	水野彦三郎
27	102	13 [御隠居御家督に骨折の賞下附につき申渡書]	[元治元年]	[1864]			水野彦三郎
27	102	14 [粟田御殿へ罷出るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	[4月4日]	肥田孫三郎	水野彦三郎
27	102	15 [明倫堂教授次座仰付につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	4月		水野彦三郎
27	102	16 [尹宮へ入るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	4月7日	五味織江	水野彦三郎
27	102	17 [定詰解任するも当分江戸にて相勤むべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	5月		水野彦三郎
27	102	18 [所々御屋敷御門通行につき問合并申渡]					
27	102	18(1) [所々御屋敷御門通行につき問合書]	[元治元年]	[1864]	7月	明倫堂教授次座、奥儒者 水野彦三郎	
27	102	18(2) [所々御屋敷御門通行につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	7月		水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	102	19 [尾州へ立帰るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	7月		水野彦三郎
27	102	20 [尾州へ立帰るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	8月		水野彦三郎
27	102	21 [長州征伐出陣につき書状]	[元治元年]	[1864]	8月26日	平角	
27	102	22 [公辺向模様久野良蔵仰含べき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	9月12日		水野彦三郎
27	102	23 [周旋方につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	9月23日		水野彦三郎
27	102	24 [四ッ谷人数につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	9月		水野彦三郎
27	102	25 [京都へ立帰るべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	9月26日	渡辺半九郎	水野彦三郎
27	102	26~44 征長書類					
27	102	26 [長州勢大坂入立等につき書状]	[元治元年]	[1864]	6月29日	江戸屋 伊平次 多七	
27	102	27 監軍心得	[元治元年]	[1864]			
27	102	28 制札之文(制札の文写)	[元治元年]	[1864]			
27	102	29 [西国諸藩書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	30 [征長終了につき書状下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	31 関東より御否次第副将閣老大小 監察江相談之條目	[元治元年]	[1864]			
27	102	32 [摂海守備等建言書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	33 [長州処置につき歎願書写]	[元治元年]	[1864]	10月27日	吉川監物	
27	102	34 [吉川監物歎願につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	35 [吉川監物歎願につき書付]	[元治元年]	[1864]	11月3日		
27	102	36 [征長総督御請等につき書状]	[元治元年]	[1864]	9月12日	富岡平角	水野彦三郎
27	102	37 [三條実美等請取関係書類写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	38 [毛利大膳処置につき申渡書下 書]	[元治元年]	[1864]	11月		
27	102	39 [毛利大膳処置関係書類写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	40 [禁門の変長州参謀につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	41 [毛利大膳父子処置につき願書]	[元治元年]	[1864]	12月3日		
27	102	42 [五卿遷座につき書付写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	43 [毛利大膳父子服罪等書類写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	44 [内話のため足労されたき旨願 書]	[元治元年]	[1864]	12月8日	富岡平角	水野彦三郎
27	102	45~53 子秋上京東下					
27	102	45 演説書(帰洛につき演説書)	[元治元年]	[1864]	7月27日		
27	102	46 [征長総督辞退につき願書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	47 [登城すべき旨申渡書]	[元治元年]	[1864]	7月24日	水野和泉守内 値 賀七左衛門、富岡 平角	水野彦三郎
27	102	48 [征長総督辞退につき願書写]	[元治元年]	[1864]	8月22日		
27	102	49 [諸事條々書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	50 [書簡伝達依頼につき書状]	[元治元年]	[1864]	8月5日	篤輝	水野

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	102	51 [征長総督辞退周旋につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	52 当子八月申上候書付写(市谷尾張屋敷火防方につき書付写)	[元治元年]	[1864]	8月		
27	102	53 文久元年西五月久世大和守殿江申上候書付写(市谷尾張屋敷火防方につき書付写)	[元治元年]	[1864]			
27	102	54~55 [元治元年書翰]					
27	102	54 [老公上使の用筋につき書状]	[元治元年]	[1864]	7月11日	占部	彦三郎
27	102	55 [征長総督辞退につき願書下書]	[元治元年]	[1864]			
27	102	56~65 子年冬来翰					
27	102	56 [内命一條につき書状]	[元治元年]	[1864]	10月17日	松江市兵衛	水野彦三郎
27	102	57 [御出殿あるべき旨依頼書]	[元治元年]	[1864]	12月4日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	102	58 [御出殿あるべき旨依頼書]	[元治元年]	[1864]	11月6日	高木八衛門	水野彦三郎
27	102	59 [銅払下ヶにつき書状]	[元治元年]	[1864]	10月27日	高木八右衛門	水野彦三郎
27	102	60 [御出下さる様願書]	[元治元年]	[1864]	12月4日	富岡平角	水野彦三郎
27	102	61 [面会したき旨願書]	[元治元年]	[1864]	12月27日	永田権介	水野彦三郎
27	102	62 [御用之品々勝手交易禁止につき達写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	63 [縮緬・着料預置につき書状]	[元治元年]	[1864]	11月24日	富岡平角	水野彦三郎
27	102	64 [水戸浪士中山道通行につき届写]	[元治元年]	[1864]			
27	102	65 [面会したき旨願書]	[元治元年]	[1864]	18日		
27	102	66~71 [在府之輩調練関係書類]					
27	102	66 [書付取次につき書状]	[元治元年]	[1864]	11月16日	斎藤永左衛門	水野彦三郎
27	102	67 [在府之輩調練につき申渡書]	[元治元年]	[1864]	12月18日	長野七郎右衛門	水野彦三郎
27	102	68 [在府之輩調練につき条々書付]	[元治元年]	[1864]	11月		水野彦三郎
27	102	69 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	11月18日	下條数馬	水野彦三郎
27	102	70 [調練の際出入口につき書付]	[元治元年]	[1864]	11月20日		水野彦三郎
27	102	71 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	11月20日	長野七郎右衛門	水野彦三郎
27	102	72~89 文武備(文武修行等関係書類)					
27	102	72 [乗船者名書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	73 萬一郎算書出版願(算書出板につき問合并申渡写)					
27	102	73(1) [算書出板につき問合書]	[文久3年]	[1863]	3月		
27	102	73(2) [算書出板につき申渡書]	[文久3年]	[1863]	11月		
27	102	74 [在府輩文武修行につき書状]	[元治元年]	[1864]			
27	102	75 [警衛方につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	76 [名前書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	77 [学問所等につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	78 [履歴書付]	[元治元年]	[1864]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	102	79 [学問所・講武所等につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	80 [諸役人数につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	81 [人数書付断簡]	[元治元年]	[1864]			
27	102	82 [人数支配につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	83 [人数支配につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	84 [武場へ罷出ざる輩名前書付]	[元治元年]	[1864]	7月		
27	102	85 [学校・武校につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	86 [書付添書]	[元治元年]	[1864]	10月17日	渋谷三左衛門	水野彦三郎
27	102	87 [書付包紙]	[元治元年]	[1864]			
27	102	88 [弘道館一等規模につき願書写]	[元治元年]	[1864]	10月	奥御儒者 水野彦三郎	
27	102	89 [御家中文武修行につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	90~94 [諸書類一括]					
27	102	90 [柳原民之助御書院番仰付につき願書下書]	[元治元年]	[1864]	7月		
27	102	91 弥七郎身の上申立之扣	[元治元年]	[1864]	2月28日		
27	102	92 [学生につき書付]	[元治元年]	[1864]			
27	102	93 当七月より十月迄両手之輩出席度数	[元治元年]	[1864]	11月		
27	102	94 警衛一手両組姓名	[元治元年]	[1864]			

慶応元年書翰集 27-111

27	111	1~44 [慶応元年書翰并記録]					
27	111	1 [長州藩処置につき建言書写]	[元治元年]	[1864]	12月		
27	111	2 [長州御処置振写]	[元治元年]	[1864]	[12月]		
27	111	3 [長州陣払等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]	正月8日	水野彦三郎	
27	111	4 舌代(御城附につき舌代)	[慶応元年]	[1865]	正月14日		
27	111	5 [相談につき願書]	[慶応元年]	[1865]	正月17日	半九郎	彦三郎
27	111	6 [参府につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	7 [前大納言参府等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	正月15日	内藤喜左衛門	水野彦三郎
27	111	8 [参府延引につき届写]			12月		
27	111	9 [上京・参府につき内達]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	10 [帰坂等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	正月17日		
27	111	11 [朝幕両命困惑につき伺書写]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	12~17 [長州征伐関係書類]					
27	111	12 [大膳父子差下際附添人数につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	13 [毛利大膳父子差下につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	14 [毛利大膳父子・三條以下処置につき伺書写]	[慶応元年]	[1865]	正月		

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	111	15 [名代成瀬隼人正上京につき言 上状写]	[慶応元年]	[1865]	正月		
27	111	16 [長州征伐処置につき問答]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	17 [長州征伐処置につき問答下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	18 [参府につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	19 [参府等につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	20 [和泉守との面会につき書状]	[慶応元年]	[1865]	正月24日	富岡尹角	水野彦三郎
27	111	21 [参府すべき旨を伝う様書状]	[慶応元年]	[1865]	正月24日	富岡尹角	水野彦三郎
27	111	22~23 [老公上京につき書状下書]					
27	111	22 [老公病により上京しがたき旨書 状下書]	[慶応元年]	[1865]	2月1日		
27	111	23 [老公病により上京しがたき旨書 状下書]	[慶応元年]	[1865]	2月3日		
27	111	24 [病療用のため暇願]	[慶応元年]	[1865]	2月		
27	111	25 [上坂につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	26 [御城書之内申渡之覚]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	27 [老公上京等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	2月2日	五兵衛	彦三郎
27	111	28 [日記書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	29 [日記送付につき添書]	[慶応元年]	[1865]	2月8日	蒲五兵衛	水野
27	111	30 [日記書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	31 [入京懇願等諸事条々書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	32 [日記書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	33 [日記書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	34 [日記送付につき添書]	[慶応元年]	[1865]	2月7日	蒲五兵衛	水野
27	111	35 [水府騒乱の処置につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	36 [水府揚り屋入寺人名]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	37 [即刻御宿陣へ罷出るべき旨申 渡書]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	38 [犬公籠居等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	2月24日	桂園	水野
27	111	39 [降伏父子周旋等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	3月1日		
27	111	40 [老公帰国等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	3月5日		
27	111	41 [水戸家処置等につき書付]	[慶応元年]	[1865]	3月		
27	111	42 [前大納言帰国につき奉書写]	[慶応元年]	[1865]	3月	御目付	
27	111	43 [老公帰国等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	111	44 [御勘定所一條等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	4月12日	顕良	肪彦

慶応元年書翰集

27-103

27	103	1~72 [慶応元年書翰并記録]					
27	103	1 [老公上洛上坂等につき書状下 書]	[慶応元年]	[1865]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	103	2 [内使勤方につき申渡書]	[慶応元年]	[1865]	4月28日	弓場勘三郎	水野彦三郎
27	103	3 [老公総督辞退につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	4 [軋山一条につき周旋願下書]	[慶応元年]	[1865]	5月朔日		
27	103	5 [長防事件等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]	5月2日		
27	103	6 [行軍上覧等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	7 [前公総督辞退につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	8~9 [惣督任命等につき書状]					
27	103	8 [主意伺につき書状副書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	9 [惣督任命等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	5月5日	新太郎	彦三郎
27	103	10 [内蔵元につき書状]	[慶応元年]	[1865]	5月7日	半九郎	彦三郎
27	103	11 [相州侯公用人面会等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	12 [石川内蔵元一条につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	13 [惣督一条等につき演説書取]	[慶応元年]	[1865]	5月14日	水野彦三郎	
27	103	14 [長州一條等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	15 [惣督辞退等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	16 [附属の者厳罰につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	17 [玄同惣督一条等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	18 [惣督御免等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	19 [惣督御免等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	20 [惣督周旋につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	21~22 [惣督等につき書状下書]					
27	103	21 [今般進務等周旋につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	22 [玄同総督仰出につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	23 [玄同総督仰付につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]	5月13日	治右衛門	彦三郎
27	103	24 泉州侯江御具書再案	[慶応元年]	[1865]	5月13日		
27	103	25 舌代(伯耆守への御聞繕願舌代)	[慶応元年]	[1865]	5月14日		
27	103	26 [徳川玄同先手総督御免につき書付写]	[慶応元年]	[1865]			下條長門守
27	103	27 [軋侯処遇につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	28 [建白筆稿等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	5月14日	治右衛門	彦三郎
27	103	29 [尾張殿家老諸大夫人数につき書付]	[慶応元年]	[1865]	5月		
27	103	30 例書(諸大夫仰付につき書付例書)	[慶応元年]	[1865]			
27	103	31 [長防再征につき書状]	[慶応元年]	[1865]	5月25日		
27	103	32~33 [神奈川貿易等につき書状下書]					
27	103	32 [神奈川貿易等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	103	33 [金子借用につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	34 [出殿あるべき旨申渡書]	[慶応元年]	[1865]	閏月12日	弓場勘三郎	水野彦三郎
27	103	35 [長防処置等につき書付]	[慶応元年]	[1865]	5月24日		
27	103	36 [老公賢公出京につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	37 [発輿泊城等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	壬月15日	治右衛門	彦三郎
27	103	38 [泊城等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	壬5月10日		
27	103	39 [老公・玄同上京につき書状]	[慶応元年]	[1865]	壬5月12日	治右衛門	彦三郎
27	103	40 [征長等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	壬5月14日	詔澤	水蒲両君
27	103	41 [泊城等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	42~44 [書状等下書]					
27	103	42 [玄侯上京・従軍等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	43 [御広敷御小納戸仰付につき願書下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	44 [上納金等につき書付]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	45 [泊城等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	壬5月25日	治右衛門	彦三郎
27	103	46 [明日出張すべき旨申渡書]	[慶応元年]	[1865]	6月15日	高木八右衛門	水野彦三郎
27	103	47 [橋君帰京等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	48 [玄同・老君の上京につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	49 [玄様・老公様上京等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	50 [用人再勤等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	51~52 [再勤等につき書状]					
27	103	51 [再勤等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	7月20日	高田治右衛門	彦三郎
27	103	52 松井より高治へ返書写	[慶応元年]	[1865]	7月16日		
27	103	53 [長防出役等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	7月	松井市兵衛、澤田庫之進	水野彦三郎、蒲五兵衛
27	103	54 [老公西上等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	55 [老公上坂等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	56 [小笠原世子上坂等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	57 [小笠原壱岐守発足等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	58 [上坂等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	8月15日	澤田庫之進	水野彦三郎
27	103	59~60 [鷺津貞助学業人物等心附につき問合并返答]					
27	103	59 [鷺津貞助学業人物等心附につき問合書]	[慶応元年]	[1865]	8月4日		
27	103	60 [鷺津貞助学業人物等心附につき返答下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	61 [開成所横浜新聞紙取寄方につき申渡書]	[慶応元年]	[1865]	8月		水野彦三郎
27	103	62 [朝陽艦品川沖へ乗廻につき申渡書]	[慶応元年]	[1865]	8月22日		水野彦三郎
27	103	63 [馬場七右衛門取扱につき申渡書]	[慶応元年]	[1865]	8月		水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	103	64 [小笠原世子通行等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	9月10日	澤田庫之進	水野彦三郎
27	103	65 [蒸気船貸渡につき書付]	[慶応元年]	[1865]	9月		
27	103	66 [諸大夫増人につき書付]	[慶応元年]	[1865]	9月		
27	103	67 [長陽艦見分につき書付]	[慶応元年]	[1865]	10月4日	長野七郎右衛門	水野彦三郎
27	103	68 演説書取(別紙条々につき返答演説書取)	[慶応元年]	[1865]			水野彦三郎
27	103	69~71 [書状一括]					
27	103	69 [長州征伐のため大樹公上洛等につき書状下書]	[慶応元年]	[1865]	9月25日		
27	103	70 [書状下書]	[慶応元年]	[1865]			
27	103	71 [玄公様上京等につき書状]	[慶応元年]	[1865]	10月5日	松井市兵衛、澤田庫之進	水野彦三郎
27	103	72 [開成所より新聞取寄等につき条々書付]	[慶応元年]	[1865]	9月	水野彦三郎	

慶応二年書翰集 27-101

27	101	1~85 [慶応二年書翰并記録]					
27	101	1 [板倉侯への御直書・御返書等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	2 [板・笠侯周旋につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	3 [東下留守につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	4 [防州侯・泉侯拜謁等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	5 [玄公様御一条につき書状]	[慶応2年]	[1866]	正月		
27	101	6 [玄公御参府発駕等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	正月21日	新太郎	彦三郎
27	101	7 [玄公御参府等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	2月2日		
27	101	8 [宍戸備後守の書付につき書状]	[慶応2年]	[1866]	2月20日		水野・蒲
27	101	9 [水戸の奸人等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]	2月22日		
27	101	10 [笠君西発・備州上坂等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	2月29日		粹賢
27	101	11 [水の奸人等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	12~15 [書状一括]					
27	101	12 [長防居合等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月5日		
27	101	13 被下品入記	[慶応2年]	[1866]	4月5日		
27	101	14 [御内賜につき書付]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	15 [大坂様子等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	3月25日		
27	101	16 [芸世子上坂延引等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月5日		霞洲老墓
27	101	17 [大膳父子名代出芸等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月10日		佳洲老墓
27	101	18 [水一条等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月20日		霞洲老墓
27	101	19 [長防御請等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月25日		水彦・蒲五
27	101	20 [長州御呼出につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月29日		粹比古・佳比古
27	101	21 [長人御処置等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	端午	彦三右衛門・紀次郎	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	101	22 [長防形勢等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	4月25日		
27	101	23 [幕土周旋等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	5月		
27	101	24 [長防期限猶予等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	5月25日	大坂兩人	江戸兩人
27	101	25 [長州名代等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	26 [長防期限等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	5月		霞洲老墓
27	101	27 [長防追討につき書状]	[慶応2年]	[1866]	6月		假周公
27	101	28~29 [書状下書一括]					
27	101	28 [仏軍艦借用等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	29 [妨害の徒等につき書状下書]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	30 [長州軍形勢等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	6月19日		
27	101	31 [若歛急使不工合等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	6月20日		
27	101	32~33 [防長大変等につき書状等一括]					
27	101	32 [長防大變等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	6月29日	浪華の獵士	江戸の粹
27	101	33 [浪士騷擾につき書状断簡]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	34 [大君所労等につき書状]	[慶応2年]	[1866]		雪陵	霞洲先生
27	101	35 [相続・征長等の件につき書状]	[慶応2年]	[1866]	8月5日		粹原老臺
27	101	36 [幕府改革等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	8月27日	中島養丞	水野彦三郎
27	101	37 [劍鎗調練につき書状]	[慶応2年]	[1866]	8月27日	勝太郎	彦三郎
27	101	38 [橋君將軍就任・征長等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	8月27日		霞洲大先生
27	101	39 [金公様御遊歩等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	8月30日		
27	101	40 [金公其後等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	9月2日		
27	101	41 [玄同公ニ意恨有浪士一件等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	9月27日		
27	101	42 [機密漏洩等に付書状]	[慶応2年]	[1866]			水野公
27	101	43 [佐藤十右衛門一件等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月12日		彦三郎
27	101	44 [江戸参府等見合に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月7日	松井市兵衛	水野彦三郎
27	101	45 [上京の勅命に付書状写]	[慶応2年]	[1866]	10月5日		
27	101	46 備前侯呈書(上京日程等に付書状写)	[慶応2年]	[1866]	10月5日		
27	101	47 阿波守江御返書下写(上京に付返書写)	[慶応2年]	[1866]			
27	101	48 備前江御返書御写(登京の件に付返書写)	[慶応2年]	[1866]			
27	101	49 [殿下上京御辞退等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月17日	武兵衛	彦三郎
27	101	50 [諸藩動向等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月23日	若井歛吉	水野彦三郎
27	101	51 [朝廷蟄居仰出等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月28日		
27	101	52 [老公上京等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	10月30日	木科源	酔現
27	101	53 [老公上京等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月5日	歛吉	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	101	54 [山科宮蟄居等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月5日	寺源	酔原
27	101	55~58 [書状一括]					
27	101	55 [諸藩出京の様子等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月5日		
27	101	56 [娘死去に付書状]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	57 [清一条に付書状]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	58 [日時書付]	[慶応2年]	[1866]	10月29日		
27	101	59 [山科宮謹慎等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月7日		
27	101	60 [老公上京・清一件等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月8日	伊右衛門	彦三郎
27	101	61 [元公上京等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月14日	松井武兵衛	水野彦三郎
27	101	62 [元公御登京等に付書状]	[慶応2年]	[1866]	11月22日	戈止	顕良
27	101	63 [元公御上京・御滞京等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	11月22日		
27	101	64 [橋本享造一件等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	11月25日	市兵衛	彦三郎
27	101	65 [賀陽宮縁談等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	11月29日	市兵衛	
27	101	66 [御簾中様引移につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月3日	松井市兵衛	水野彦三郎
27	101	67 [稲葉閣老より呼出の件等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月3日		
27	101	68 [続柄一条につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月3日		
27	101	69 [元千代登宮等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月5日	市兵衛	彦三郎
27	101	70 [元様発駕等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月11日	若井鉄吉成章	水野彦三郎
27	101	71 [玄同儀御内意一条につき書状写]	[慶応2年]	[1866]	12月15日		松平周防守
27	101	72 [彦三郎身元等につき書状写]	[慶応2年]	[1866]			小笠原
27	101	73 [救民心得条々書付]	[慶応2年]	[1866]			
27	101	74 [元千代着城等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月13日	市兵衛	彦三郎
27	101	75 [高取六太郎よりの差立物等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月15日	市兵衛	彦三郎
27	101	76 [橋本享造面会等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月15日	市兵衛	彦三郎
27	101	77~78 [書状一括]					
27	101	77 [元君御上京等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月15日	間萬	水彦
27	101	78 [功勞につき書状]	[慶応2年]	[1866]	19日		
27	101	79 [上京・帰発等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月19日	新太郎	彦三郎
27	101	80 [発表期限・引移場所等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月19日	市兵衛	
27	101	81 [発表・引移等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月22日	鉄吉	彦三郎
27	101	82 [御手元金等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月24日	吉甫	
27	101	83 [玄廉様御住居引移等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	12月26日		
27	101	84 [主上不豫等につき書状]	[慶応2年]	[1866]	[12月31日]		
27	101	85 [不豫につき書状]	[慶応2年]	[1866]			霞洲

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
慶応三年書翰集		27-105					
27	105	1~52 [慶応三年書簡并記録]					
27	105	1 [六人衆等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月3日	吉甫	
27	105	2 [御統柄等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月5日	市兵衛	彦三郎
27	105	3 [角久様等上京につき書付]	[慶応3年]	[1867]			
27	105	4 [御統柄一条等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月10日	市兵衛	
27	105	5 [御統一件等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月12日	歟吉	彦三郎
27	105	6 [御統柄一條等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月20日	市兵衛	
27	105	7 [御統一條・御国元改革等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月24日	市兵衛	
27	105	8 [御統柄・御一新等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月29日	雪馨	霞洲大先生
27	105	9 [勤向につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月4日	吉甫	
27	105	10~11 [玄同相統につき書状]					
27	105	10 [橋公元公御統一条等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月10日	新太郎	彦三郎
27	105	11 [若井歟吉より来翰写(玄同様一橋御相統につき書状)]	[慶応3年]	[1867]			
27	105	12 [今般御改革等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月15日	市兵衛	
27	105	13 [御一新御取調等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月18日	若井歟吉	水野彦三郎
27	105	14 [御国是・御統柄等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月25日		
27	105	15 [一橋様御中臆懐妊につき書状]	[慶応3年]	[1867]	正月23日	新太郎	彦三郎
27	105	16 [統柄・改革等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	2月26日	市兵衛	彦三郎
27	105	17 [参政衆東下等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月5日	柳隠・雪馨	霞洲大先生
27	105	18 [諸改革等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月5日	甲斐守	彦三郎
27	105	19 [御統一件・波三等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月10日	吉甫	
27	105	20 [御一新等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月10日	八木雕	霞洲老先生
27	105	21 [兵庫開港等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月20日	雪馨・柳隠	霞洲老詞基
27	105	22 [兵庫開港の議論等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月25日	吉甫	
27	105	23 [困米買入につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月25日		
27	105	24 [開港一條等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月25日	八木雕	霞洲大先生
27	105	25 [一橋御簾中様引移手順につき書状]	[慶応3年]	[1867]	3月25日	喜左衛門・頼母	彦三郎
27	105	26 [庫港一條につき書状]	[慶応3年]	[1867]	4月5日	雪馨清・柳隠雕	霞洲老基
27	105	27 [藩政改革之直命]	[慶応3年]	[1867]	2月		
27	105	28 [江戸屋敷改革につき條々下書]	[慶応3年]	[1867]			
27	105	29 [御一新等につき書状]	[慶応3年]	[1867]		雪馨	霞洲老先生
27	105	30 [越薩土宇和開港評議等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	5月25日	雪馨	霞洲先生
27	105	31 [京師の様子等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	5月28日	角久	水源

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	105	32 [大樹公兵開港仰出につき書状]	[慶応3年]	[1867]	5月29日	巳別	霞洲先生
27	105	33 [御玄關メ切等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月4日		
27	105	34 [兵庫長防之事等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月5日	歟吉	彦三郎
27	105	35 [兵庫開港勅許・長防処置等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月6日	八木雕	霞洲老墓
27	105	36 [水戸藩浅田富之丞等来着等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月10日	雪馨	霞洲先生
27	105	37 [板俣尾国御下り等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月15日	雪馨	霞洲大先生
27	105	38 [防州殿・稲葉殿江差遣品々等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月15日	新太郎	彦三郎
27	105	39 [防州侯・稲葉殿江被差遣御品等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月20日	新太郎	彦三郎
27	105	40 [關老方へ被遣品等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	6月25日	新太郎	彦三郎
27	105	41 [軋侯上京等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	8月5日	市兵衛	
27	105	42 [元様之浮説・英仏応接等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	8月10日	歟吉	彦三郎
27	105	43 [御賄所メ切一条等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	8月20日		
27	105	44 [奥向洋学等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	8月20日	本多	霞洲老先生
27	105	45 [長州上坂・英船応接等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	9月13日	歟吉	彦三郎
27	105	46 [水戸情実につき内報]	[慶応3年]	[1867]			
27	105	47 [薩軍艦品川沖入込等につき書状]	[慶応3年]	[1867]	11月7日	蔬義貨	水野大先生
27	105	48 [辞職願下書]	[慶応4年]	[1868]	3月		
27	105	49 [頂戴物につき礼状]	[慶応3年]	[1867]	霜月17日	池上七郎右衛門	水野彦三郎
27	105	50 [前大納言へ贈物執成願]	[慶応3年]	[1867]	11月9日	松井哲之助・坂口松之允・多胡奥太郎・加瀬銈之助	水野彦三郎 御家来中
27	105	51 [堀割一条書付美濃守一見につき返書]	[慶応3年]	[1867]	11月28日	松井哲之助	水野彦三郎
27	105	52 [王政復古の経過につき書状]	[慶応3年]	[1867]	12月16日	雪馨	霞洲先生

明治元年書翰 27-112

27	112	1~70 [明治元(慶応4)年書翰并記録]					
27	112	1 [行列・御供衆等につき条々下書]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	2~3 [参府の節御供につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	2 [参府等御供女中人数につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	3 [参府の節御供につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	4 [行列人数につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	5~7 [面談・奏聞等につき書付一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	5 御奏聞書之事	[慶応4年]	[1868]			
27	112	6 [小瀬との面会等につき書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	7 [隼人正不出等につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	8 [山田藤大夫同道にて沼津駅へ御越下さる様奉書]	[慶応4年]	[1868]	3月21日	橋本少将雜掌 伊藤左近	水野彦四郎
27	112	9~10 [橋本少将への書状一括]	[慶応4年]	[1868]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	112	9 [橋本少将との面談等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	3月24日	渋谷三左衛門	水野彦三郎
27	112	10 [奉蒙候大任承伏につき書状]	[慶応4年]	[1868]	3月17日	山田藤太夫真言	橋本少将 参人々御中
27	112	11 [江城請取等につき書状下書]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	12 [藤大夫、大総督宮内使たる旨書状]	[慶応4年]	[1868]	3月16日	渋谷三左衛門	大津甚之丞
27	112	13~14 [静寛院宮御事私周旋の咎救免歎願書]	[慶応4年]	[1868]	辰 4月	一手組 山田藤太夫	
27	112	13 手続書(静寛院宮還京の周旋につき手続書)	[慶応4年]	[1868]	辰 4月	一手組 山田藤太夫	
27	112	14 乍恐以書付御歎願奉申上候(静寛院宮御事私周旋の咎救免歎願書)	[慶応4年]	[1868]	辰 4月	一手組 山田藤太夫	
27	112	15 御談書写(御用向候に付急速尾へ罷登べき旨御談書写)	[慶応4年]	[1868]	4月12日	勝野正太郎	
27	112	16~17 [山田藤大夫一件につき調書]	[慶応4年]	[1868]	4月21日	勝野正太郎	
27	112	16 山田藤大夫一件二付内密申上候書付	[慶応4年]	[1868]	4月21日	勝野正太郎	
27	112	17 演説書取(江戸での交渉につき演説書取)	[慶応4年]	[1868]	4月21日	勝野正太郎	
27	112	18~20 [椀類之義・元服之義等につき書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	18 覚(手紙受取につき覚)	[慶応4年]	[1868]	後4月22日	中山撰津守内 嘉東千壽	尾州御上榴 水野忠四郎 御役衆中
27	112	19 [岩倉殿帰府・大原殿帰京等諸事書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	20 [吸物椀差上・元服之義等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	後4月23日	仲四郎	彦三郎
27	112	21 [飛脚不要の旨書状]	[慶応4年]	[1868]	壬4月23日	中山撰津守	水野沖四郎
27	112	22 [密ニ尽力する旨書状]	[慶応4年]	[1868]		隼人正	水野彦三郎
27	112	23 [本宗家伏罪書指上をやめ、急行東下尽力する旨書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	24 [錦旗御止り方歎訴のための謝罪状案]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	25 [此屋形へ出仕する様大納言様仰の旨につき書状]	[慶応4年]	[1868]	2月29日	中根長十郎・川村清輔	水野彦三郎
27	112	26 [法王御使僧之儀等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	2月22日	矩林行	水野老監兄
27	112	27 [明朝会いたき旨書状]	[慶応4年]	[1868]	2月29日	矩林行	
27	112	28 [徳川慶喜謝罪状案]	[慶応4年]	[1868]	3月		
27	112	29 [錦旗差向のため謝罪上る旨書状]	[慶応4年]	[1868]	2月28日	一橋茂栄	尾張大納言
27	112	30 [両日中御屋形へいすれか出仕すべき旨書状]	[慶応4年]	[1868]	2月27日	市ヶ谷 水野彦三郎・同 仲四郎	小石川 御小姓頭取中
27	112	31~32 [慶喜宥免のための謝罪状案一括]				徳川茂栄・徳川慶頼	
27	112	31 [慶喜宥免のための謝罪状案一括]	[慶応4年]	[1868]	3月	徳川茂栄・徳川慶頼	
27	112	32 [慶喜宥免のための謝罪状案一括]	[慶応4年]	[1868]	3月	徳川茂栄・徳川慶頼	
27	112	33 [周旋・尽力願等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	4月24日	向證院	水彦三郎
27	112	34 二本松謝罪状(慶喜宥免のため謝罪状案)	[慶応4年]	[1868]		丹羽左京大夫	
27	112	35~37 [江戸城明渡等につき書状并別紙]	[慶応4年]	[1868]	[4月4日]		
27	112	35 両卿御入城御三家御聞江徳川使遣	[慶応4年]	[1868]	4月4日	天野民之助	
27	112	36 [本月11日迄に各件処置すべき旨申渡書写]	[慶応4年]	[1868]	[4月4日]		

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	112	37 [江戸城・武器引渡等処置につき 条々写]	[慶応4年]	[1868]	[4月4日]		
27	112	38 [江戸城明渡につき条々]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	39 [江戸城明渡につき条々問合]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	40 [大澤君につき書状]	[慶応4年]	[1868]		吉村玄漸	水野彦三郎
27	112	41 [江戸城請取につき条々]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	42 [江戸城請取につき条々問合]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	43~44 [江戸城請取につき書状]	[慶応4年]	[1868]	4月10日		
27	112	43 [兵器請取の後、城請取べき旨 等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	4月10日	仲四郎	彦三郎
27	112	44 [諸事につき使者宇野銀次郎に 打合すべき旨書状]	[慶応4年]	[1868]	4月10日	平岡荘七	水野彦三郎
27	112	45~47 [江戸城請取の節城内案内者に つき書状等一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	45 [江戸城請取につき書状]	[慶応4年]	[1868]	4月10日	平岡荘七	水野彦三郎
27	112	46 [江戸城請取の節城内案内者書 付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	47 [江戸城請取の節城内案内者書 付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	48~49 [江戸城警衛につき覚一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	48 先鋒随附属人覚	[慶応4年]	[1868]			
27	112	49 江城番兵ノケ所	[慶応4年]	[1868]			
27	112	50 江城門戸之数	[慶応4年]	[1868]			
27	112	51 [江戸城請取時刻につき書状下 書]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	52~53 [江戸城請取の際警固につき書 付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	52 [江戸城請取内外警固につき書 付]	[慶応4年]	[1868]	4月10日		
27	112	53 [江戸城請取の際、不平輩暴等 には臨機の処置あるべき旨申渡 書案]	[慶応4年]	[1868]	4月10日	先鋒副将・先鋒総 督	
27	112	54~59 [東進先鋒関係書状一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	54 [両総督入城につき申渡書案]	[慶応4年]	[1868]	4月12日	木梨精一郎・海江 田武次	各隊長中
27	112	55 [両卿入城につき御固御迎人覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	56 [京摂事件処置につき願書写]	[慶応4年]	[1868]	2月	徳川慶喜	
27	112	57 [田安家出向・参謀書状等につき 書状]	[慶応4年]	[1868]	4月11日	藤大夫	彦三郎
27	112	58 [朝鮮馬場拝見邊固につき書状 案]	[慶応4年]	[1868]	4月13日		山下勝太郎
27	112	59 達章(明早朝参陣すべき旨達章)	[慶応4年]	[1868]		先鋒総督府 参謀	尾藩 水野彦三郎
27	112	60~62 [総督入城関係書類一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	60 [明日御賄一件につき田安館へ 御下さる書状]	[慶応4年]	[1868]	4月16日		
27	112	61 [総督等入城の支度につき書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	62 [総督入城の警備につき達書]	[慶応4年]	[1868]	4月15日	東海道総督府 参 謀	
27	112	63~64 [幕府軍艦関係書類一括]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	63 [軍艦の数につき書付]	[慶応4年]	[1868]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	112	64 [幕府軍艦朝廷へ差上べき旨達 写]	[慶応4年]	[1868]	4月	東海道先鋒 総 督・副将	田安中納言
27	112	65~67 [登城すべき旨申渡并返書]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	65 [隊長の御用につき即刻登城す べき旨申渡書]	[慶応4年]	[1868]	4月22日	植林竹助	水野彦三郎
27	112	66 [風雨・疝痛のため登城難渋の旨 書状下書]	[慶応4年]	[1868]	4月22日	水野彦三郎	植林竹助
27	112	67 [養症の後登城すべき旨書状下 書]	[慶応4年]	[1868]			
27	112	68 [徳川家名、田安亀之助相続の 旨達書写]	[慶応4年]	[1868]	壬4月		
27	112	69 [明日一橋殿邸にて妻木氏等と 共に面談したき旨書状]	[慶応4年]	[1868]	4月24日	神谷銚之助	水先生
27	112	70 [関東の形勢等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	壬月17日	武五郎	彦三郎

明治元年書翰集 27-106

27	106	1~94 [明治元(慶応4)年書翰并記録]					
27	106	1 [鳥羽伏見戦の形勢につき書状]	[慶応4年]	[1868]	正月9日		
27	106	2 赤坂館にて御家中へ之御触(京 師異変につき非常の覚悟あるべ き旨触書写)	[慶応4年]	[1868]			
27	106	3 [勤王遵奉の証書写]	[慶応4年]	[1868]	2月	高八千石寄合 板 倉小次郎他10名	
27	106	4~5 [東京引払の留守関係書類一 括]					
27	106	4 [東京引払の際留守につき書状 下書]	[慶応4年]	[1868]	3月16日		御兩人様
27	106	5 [東京引払の際留守につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	6 [不正者処罰につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	7 [尾張姦徒討伐のため禁中警衛 暇願下書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	8 [紀州中納言叛意等につき書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	9 三職分保	[慶応4年]	[1868]	正月19日		
27	106	10 [日記]	[慶応4年]	[1868]	正月2日 ~15日		
27	106	11 [鳥羽伏見の情勢につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	12 [京都戦争等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	正月10日	川村	水野
27	106	13 [贈物につき礼状]	[慶応4年]	[1868]	睦月8日	川邨信濃守	水野彦三郎
27	106	14 [諸書状の写]	[慶応4年]	[1868]	正月		
27	106	15 [二条城・大坂城引渡につき書状 下書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	16 [今般之失策・吉田屋集会等に つき書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	17 [御用向に付京都に罷登るべき 旨書状]	[慶応4年]	[1868]	正月13日	津田太郎兵衛	水野彦三郎
27	106	18 風聞書取(会津勢放火等につき 聞取書)	[慶応4年]	[1868]	4月	鈴木谷三郎・岡田 新助・三輪繁十郎・ 平野宗十郎	
27	106	19~24 [賊徒防御等関係書類一括]					
27	106	19 [名前書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	20 [系図書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	21 [賊徒防御手落あるべからざる旨 達]	[慶応4年]	[1868]	壬4月18日		水野摂津守

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	106	22 [彰義隊との戦闘につき記録]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	23 [水野日向守上京免除願并附礼写]	[慶応4年]	[1868]	2月28日	水野日向守重臣・鈴木半之丞・差添佐藤津左衛門	
27	106	24 [彰義隊の動向等につき記録]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	25 [大坂城引渡の様子につき書状]	[慶応4年]	[1868]	11月21日	頼矩	
27	106	26 [監察役所引払見合等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	4月18日	渋谷三左衛門	水野彦三郎
27	106	27~28 [市野内匠百姓召使関係書類]			閏4月	井上河内守家来・佐々木四郎兵衛	
27	106	27 [当春雇集の弊藩領民本業に復し無断召使なき様願書]	[慶応4年]	[1868]	閏4月	井上河内守家来・佐々木四郎兵衛	
27	106	28 [市野内匠弊藩領民召使等につき伺書]	[慶応4年]	[1868]	閏4月8日	井上河内守家来・佐々木四郎兵衛	
27	106	29 [大坂城焼失につき覚書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	30 [豆相州騒動鎮静等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	閏4月28日	後藤善治	水埜彦三郎
27	106	31 [津田帯刀江戸繰出等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	閏4月22日	頼母	
27	106	32 [味鏡川見聞人別役につき書状]	[慶応4年]	[1868]		生頼母	水彦三郎
27	106	33 [古四文銭・文久銭増通用方御布告につき書状]	[慶応4年]	[1868]	5月2日	久次郎	小五郎・彦三郎
27	106	34 [武三郎・甚太郎交代方につき書状]	[慶応4年]	[1868]	5月4日	角田久次郎	茜部小五郎・水野彦三郎
27	106	35 [入鹿堤破壊の被害につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	36 [入鹿堤切入の被害につき届書]	[慶応4年]	[1868]	5月	生駒頼母	
27	106	37~38 [欠勤届]					
27	106	37 [明日欠勤につき軍費金等取扱願書]	[慶応4年]	[1868]	5月21日	内藤喜左衛門	水野彦三郎
27	106	38 留書(下痢につき欠勤届)	[慶応4年]	[1868]		内藤喜左衛門	奉行衆
27	106	39 [願書]	[慶応4年]	[1868]	5月	石河佐渡守	
27	106	40 [都筑九郎右衛門精鋭隊隊長任命につき書状案]	[慶応4年]	[1868]	5月10日		間宮外記
27	106	41 [甲信州事変鎮定につき撤兵すべき旨上書写]	[慶応4年]	[1868]	5月		
27	106	42 [塩尻出張人員の覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	43 [塩尻出陣につき申渡書写]	[慶応4年]	[1868]	5月		渡邊対馬守
27	106	44 [小田原脱走人追捕につき書状]	[慶応4年]	[1868]	5月29日	仲四郎	彦三郎
27	106	45 [戊辰戦争につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	46 [東京引払後の留守居等につき條々願書案]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	47~48 [東京情勢関係書類]					
27	106	47 [正親町殿賄路受取一件等につき書状]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	48 [当府諸圀の臨時会議のため諸藩隊長中軍溜り之間へ出勤すべき旨申渡書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	49~52 [信州取締所関係書類]					
27	106	49 [信州取締所詰人覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	50 [信州取締所人数につき書状]	[慶応4年]	[1868]	5月9日	三沢謙蔵	水野彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	106	51 [旧幕手代につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	52 [中之条取締につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	53 [塩尻取締の心得等条々書付]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	54 [銃隊越後路線込につき問合并申渡]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	54(1) [銃隊越後路線込につき問合]	[慶応4年]	[1868]	6月7日	水野彦三郎	角田久次郎其外
27	106	54(2) [銃隊越後路線込につき申渡書]	[慶応4年]	[1868]	6月12日	小五郎、久次郎	彦三郎
27	106	55 [銃隊越後路線込願等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	6月3日	信州会田より丹羽信四郎	水野彦三郎
27	106	56 [北陸兵隊進退につき問合案]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	57 [江戸・奥州の形勢等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	6月26日		
27	106	58 [戦争手負人書上]	[慶応4年]	[1868]	5月		
27	106	59 [戦争手負人等書上]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	60 [越後兵士繰出しにつき願書]	[慶応4年]	[1868]	6月3日	山上甚之丞	軍事奉行衆
27	106	61 覚(奥州出兵・朝倉落城につき覚)	[慶応4年]	[1868]			
27	106	62 [奥州出兵につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	63 [休兵申立一件につき書状]	[慶応4年]	[1868]	7月3日	佐枝金市	
27	106	64 [北越戦争につき覚]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	65 [北越戦争榎峠の形勢につき覚]	[慶応4年]	[1868]	5月	尾州	
27	106	66 農兵組立方豫手順	[慶応4年]	[1868]			
27	106	67 [信州取締所塩尻陣屋・農兵組立につき届書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	68 [農兵組立方につき触書案]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	69 [農兵組織案]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	70~71 [信州取締関係書類]					
27	106	70 [歩兵銃塩尻廻方につき書状]	[慶応4年]	[1868]		中之条詰 早川曾衛門	
27	106	71 [信州村々惣括・世話方名前書上]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	72 [信州取締朝廷移管につき申渡書]	[慶応4年]	[1868]	7月6日		
27	106	73 松代藩差出候書付写(水戸藩兵隊通行につき書付写)	[慶応4年]	[1868]	8月11日		
27	106	74~75 [水戸兵隊通行関係書類]					
27	106	74 覚(水戸兵隊通行につき先触書)	[慶応4年]	[1868]	7月27日	水戸 目付方	
27	106	75 [中之条詰合人等名前書上]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	76 小諸宿 水府人宿割写	[慶応4年]	[1868]			
27	106	77 [水藩人数通行につき返答案]	[慶応4年]	[1868]	8月14日		千賀
27	106	78 [水戸藩人数通行一件につき日記覚書]	[慶応4年]	[1868]			
27	106	79 [返書願につき書状]	[慶応4年]	[1868]	8月14日		彦三郎
27	106	80 [三総管仰出書写]	[慶応4年]	[1868]	8月8日		

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	106	81 [回答届方等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	8月9日	東松孫太郎	水野彦三郎
27	106	82 [江戸の情勢等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	8月7日	仲四郎	彦三郎
27	106	83 [仲四郎病気につき発足延引の旨書状]	[慶応4年]	[1868]	8月27日	水野、有馬	吉田猿松
27	106	84 [尾州よりの呼寄等につき書状]	[慶応4年]	[1868]	8月25日	瞞若	霞洲
27	106	85 [御東幸につき書状]	[明治元年]	[1868]			彦三郎
27	106	86 [住江甚兵衛等に面会されたき旨書状]	[明治元年]	[1868]	11月19日	澤村脩蔵	水野彦三郎
27	106	87 [領内通行等につき書状]	[明治元年]	[1868]	12月22日	鎌田平十郎	水野彦三郎、勝野金之允
27	106	88 [参遠駿諸藩の様様につき探索書上]	[明治元年]	[1868]	9月		
27	106	89 [内密書(浜松藩脱人探索等につき書上)]	[明治元年]	[1868]	9月13日		
27	106	90 [駿遠三探索諸入用書上]	[明治元年]	[1868]			
27	106	91 [行幸通輦の節所置方につき書上]	[明治元年]	[1868]	9月22日	内藤金一郎家来 小川逸平	
27	106	92 [堀田・高野登用等につき書状]	[明治元年]	[1868]	12月22日	新太郎	彦三郎
27	106	93 [訪問の節の饗応等につき謝状]	[明治元年]	[1868]	12月15日	吉田古今吾文行	水野彦三郎
27	106	94 [訪問の節の饗応等につき謝状]	[明治元年]	[1868]	12月23日	小島喜兵衛実勝、 篠原長兵衛長孺	

明治二年書翰

27-113

27	113	1~82 [明治2年書翰并記録]					
27	113	1 [桑名人民願訴につき附書写]	[明治2年]	[1869]			
27	113	2 [公議人・公用人改定名簿]	[明治2年]	[1869]	4月23日		
27	113	3~4 [条々書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	3 [御徒目付詰之事等条々書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	4 [金子出納筋館九兵衛より申上候事等条々書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	5 [版籍返上につき申上書下書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	6 [人事案]	[明治2年]	[1869]	4月		
27	113	7 [外国御交際ノ儀御下問ニ付奉申上候(下書)]	[明治2年]	[1869]	5月		
27	113	8 [理財ノ儀御下問ニ付奉申上候]	[明治2年]	[1869]	5月		
27	113	9 [勅語奉わるにつき書状下書]	[明治2年]	[1869]	5月		
27	113	10 [竹腰伊予守領知一万石返上につき問合并申渡]					
27	113	10(1) [竹腰伊予守領知一万石返上につき問合書]	[明治2年]	[1869]	5月		
27	113	10(2) [竹腰伊予守領知一万石返上につき申渡書]	[明治2年]	[1869]	5月		
27	113	11 [御垂問の答書等につき書状下書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	12 [大久保一蔵への文通等につき書状下書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	13 [案(賞典禄辞退につき上書案)]	[明治2年]	[1869]	6月17日	徳川大納言 慶 勝・徳川三位中将 徳成	弁事御中
27	113	14 [御添達案(賞典禄辞退につき上書添書案)]	[明治2年]	[1869]	6月17日	徳川三位中将重臣	弁事御役所
27	113	15 [諸藩参内につき覚]	[明治2年]	[1869]			

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	113	16 [参内供奉人につき条々書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	17 [参内供奉人数につき覚]	[明治2年]	[1869]			
27	113	18 [参内の行列につき覚]	[明治2年]	[1869]			
27	113	19 [参内人足員数につき覚]	[明治2年]	[1869]			
27	113	20 [参内供奉人数につき覚]	[明治2年]	[1869]			
27	113	21 [参内供奉の目籠につき覚]	[明治2年]	[1869]			
27	113	22 [京都・東京間休息・宿泊所につ き書付写]	[明治2年]	[1869]			
27	113	23 [書札礼につき書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	23(1) [書札礼につき書付]	[明治2年]	[1869]			
27	113	23(2) [文書雛形]	[明治2年]	[1869]			
27	113	24 [於御内輪之唱方調試]	[明治2年]	[1869]			
27	113	25 [敬称につき答書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	25(1) 御縁家様方(敬称につき答書)	[明治2年]	[1869]			
27	113	25(2) [敬称につき答書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	26 [浅野近江守の敬称につき答書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	27 [戸山邸譲渡につき覚]	[明治2年]	[1869]	5月3日		
27	113	28 [隼人正東下等につき書状]	[明治2年]	[1869]	5月23日	雪馨	霞洲大先生
27	113	29 [贈物につき礼状]	[明治2年]	[1869]	星月21日	小原是水	水野彦三郎
27	113	30 [同姓跡目の問合につき答書]	[明治2年]	[1869]	7月24日	信実	水野大君
27	113	31 [同姓跡目問合につき答書]	[明治2年]	[1869]	[7月]24日	又蔵	水野賢兄
27	113	31(1) [同姓跡目の問合につき答書]	[明治2年]	[1869]	初秋24日	又蔵	水野賢兄
27	113	31(2) [同姓跡目問合につき答書別紙]	[明治2年]	[1869]	[7月24日]		
27	113	32 [静岡様へ麦ヲ御贈り之事]	[明治2年]	[1869]			
27	113	33 [麦二百石の賑恤につき礼状]	[明治2年]	[1869]	7月17日	務	霞塘先生
27	113	34 [金札引換等につき面談したき旨 書状]	[明治2年]	[1869]	9月16日	関口	水野老契
27	113	35 [東京新聞借覧願につき答書]	[明治2年]	[1869]	9月15日	伊藤友四郎	水野先生
27	113	36 [條公・岩卿への直書伝達等につ き書状下書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	37 [借用の馬具返却につき書状]	[明治2年]	[1869]	8月	ふしまろ	水参事
27	113	38 [権大参事につき問合并申渡]					
27	113	38(1) [権大参事につき問合]	[明治2年]	[1869]	10月		
27	113	38(2) [権大参事につき申渡]	[明治2年]	[1869]	10月		
27	113	39 [職禄制管轄中取調等につき書 状下書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	40 [山村一条等につき書状]	[明治2年]	[1869]	10月10日	正蔭	水野霞洲
27	113	41 [職禄制差出等につき書状]	[明治2年]	[1869]	10月28日	如雲	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	113	42 [当月二十六日出張されたき旨書状]	[明治2年]	[1869]	10月24日	山内信実	水野彦三郎
27	113	43 [大榎屋会につき書状]	[明治2年]	[1869]	9月1日	野口次郎	水野彦三郎
27	113	44 [藩知事賞典禄等につき書状]	[明治2年]	[1869]	10月2日	半唯	霞洲老先生
27	113	45 [藩々伺書等につき書状]	[明治2年]	[1869]	10月15日	小原寛	水野少参藩事
27	113	46 [丹羽等に面謁したき旨書状]	[明治2年]	[1869]	11月3日	小原寛	水野参事
27	113	47 [渡邊家直三十郎儀につき願書]	[明治2年]	[1869]	10月28日	高力平八郎	水彦三郎
27	113	48 [東京新聞差上等につき願書]	[明治2年]	[1869]	10月20日	伊藤友四郎	水野彦三郎
27	113	49 [小田均一郎風邪の旨書状]	[明治2年]	[1869]	11月4日	長尾順之丞	水埜彦三郎
27	113	50 [職禄制・千村山村一件等につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月14日	如雲	彦三郎
27	113	51~52 [藩諸役任命書写]	[明治2年]	[1869]			
27	113	51 [藩諸役任命書添書写]	[明治2年]	[1869]	11月20日	生駒	大津武五郎
27	113	52 [藩諸役任命書写]	[明治2年]	[1869]			
27	113	53 [正二位様出京願につき書状案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	54~55 [諸藩飛地等につき書付案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	54 [諸藩飛地等につき書付案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	55 [添書]	[明治2年]	[1869]			
27	113	56~57 [申渡一括]	[明治2年]	[1869]	11月		水野彦三郎
27	113	56 [長谷川岩蔵隠密用向につき申渡]	[明治2年]	[1869]	11月		水野彦三郎
27	113	57 [伊藤真次郎遊学につき申渡]	[明治2年]	[1869]	11月		水野彦三郎
27	113	58~59 [別帳藩士兵卒人数につき書状案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	58 [書取(民部省租税司大祐内藤四郎につき書取)]	[明治2年]	[1869]	11月12日	水野彦三郎	
27	113	59 [別帳藩士兵卒人数等につき書状案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	60 [役所引払の反故・下帳切払代料につき覚]	[明治2年]	[1869]	10月		
27	113	61 [三河史・六国史買上方につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月15日	生駒頼母	大津武五郎 〔「水野彦三郎江」の付箋あり〕
27	113	62 御作事向手順書	[明治2年]	[1869]			
27	113	63 [従一位辞表并申渡写]					
27	113	63(1) [従一位辞表写]	[明治2年]	[1869]	10月	正二位慶勝	弁官御中
27	113	63(2) [従一位辞表につき申渡写]	[明治2年]	[1869]			
27	113	64~66 [賞典・従一位辞表案]	[明治2年]	[1869]			
27	113	64 [賞典・従一位辞表案]	[明治2年]	[1869]	12月	正二位慶勝	弁官御中
27	113	65 御手紙案 御賞典 御固辞	[明治2年]	[1869]	9月		丹羽
27	113	66 [賞典・従一位辞表案]	[明治2年]	[1869]	10月		
27	113	67 [賞典禄拜命につき礼状案]	[明治2年]	[1869]		名古屋藩 田宮篤輝	弁官御中
27	113	68 [賞典禄拜命につき礼状案]	[明治2年]	[1869]	11月	名古屋藩 大参事 田宮篤輝	弁官御中

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	113	69 [小原君御集会の周旋につき返書]	[明治2年]	[1869]	11月4日	山田信実	水野
27	113	70 [贈物につき礼状]	[明治2年]	[1869]	11月5日	龍吉	水野
27	113	71 [伊達への面会延期につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月12日	伊藤	水野
27	113	72 [悴病死につき書状]	[明治2年]	[1869]	12月13日	間嶋従五位	水野彦三郎
27	113	73 [江州飛地の替につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月23日	如雲	水野先生
27	113	74 [野呂瀬綱太郎帰国等につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月24日	(花押)	水野老墓
27	113	75 [渡井量蔵学政筋推挙願]	[明治2年]	[1869]	11月5日	菊池	水野先生
27	113	76 [越藩中根・伊藤へ談判されたき旨書状]	[明治2年]	[1869]		渡井	水野先生
27	113	77 [明日有明楼にて集会ある旨書状]	[明治2年]	[1869]	11月22日	永田	水野大先生
27	113	78 [有明楼集会につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月23日	関口	水野老契
27	113	79 [角力御一覧の義につき書状]	[明治2年]	[1869]	11月28日	伊藤・永田	水野興墓
27	113	80 [明九日筆葉亭へ来られたき旨書状]	[明治2年]	[1869]	12月8日	静岡様 野口次郎	名古屋様 水野彦三郎
27	113	81 [徴士懇願等につき書状]	[明治2年]	[1869]	12月25日	丹羽実	水野権力大力参事
27	113	82 [少参事拜命等につき書状]	[明治2年]	[1869]	12月15日	八木銀次郎	霞洲老先生

明治三年来翰 27-104

27	104	1~112	明治三午年来翰				
27	104	1~3	[権少参事宣下につき書状等一括]				
27	104	1	[権少参事宣下につき書状]	[明治3年]	[1870]	正月	
27	104	2	[少参事、権少参事任命予定役職、氏名書上]	[明治3年]	[1870]	[正月]	
27	104	3	[間宮六郎少参事任命につき伺書写]	[明治3年]	[1870]	正月	名古屋藩知事
27	104	4	[従一位御請け猶予願下書]	[明治3年]	[1870]		正二位御名(徳川慶勝)
27	104	5~7	[慶勝位階昇進の御礼献上につき書付等一括]				
27	104	5	[慶勝位階昇進御礼献上につき伺書写]	[明治3年]	[1870]	4月6日	弁官御役所
27	104	6	[松平大学別当等位階昇進御礼献上につき覚写]				
27	104	7	[松平大学別当等・浅野正二位位階昇進御礼献上書写]				
27	104	8	[飛び地の儀等につき覚]	[明治3年]	[1870]		[水野彦三郎]
27	104	9	[丹羽氏出府等につき書状]	[明治3年]	[1870]	2月29日	間宮
27	104	10	[松平春岳より書紀集解に関し直書につき書状]	[明治3年]	[1870]	2月15日	伊藤
27	104	11	[高須隣村上地等につき書状]	[明治3年]	[1870]	2月28日	杉浦座好寺(会津藩 亘三郎左門)
27	104	12	[大参事清水公へ土居藩面会につき書状]	[明治3年]	[1870]	2月3日	稲垣鄙生(稲垣藩大参事公議人)
27	104	13	[会合につき礼状]	[明治3年]	[1870]	仲春(2月)	三宅君一(芸州公用人三宅栄太夫)
27	104	14	御願振 北海道御替地(北海道反配置替地願)	[明治3年]	[1870]	2月	御官
27	104	15~17	[参事任免願控一括]				
27	104	15	[渡辺権大参事、岡田権少参事免職願控]	[明治3年]	[1870]	2月	名古屋藩知事

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名	
27	104	16	[渡辺権大参事、岡田権少参事 免職願控]	[明治3年]	[1870]	2月	名古屋藩知事	弁官中
27	104	17	[勝野釜之丞・荒川甚作権大参 事任命願控]	[明治3年]	[1870]	2月	名古屋藩知事	弁官中
27	104	18	御書写(土族免職および給禄等 につき藩知事、監察布達写)	明治3年	1870	正月	藩知事、監察	
27	104	19~22	[学生規則につき書類]					
27	104	19	[学生規則について往復書簡]	[明治3年]	[1870]	正月10日	生駒権大参事	大伴権大参事
27	104	20	[学生規則案につき申渡しならび に意見書]			12月		会計権判事
27	104	21	[学生規則につき書付]			12月	遊学生取締役	
27	104	22	柳川春蔭方差出候書付洋學修 行順次大略				柳川春蔭	
27	104	23	内家人員(内家人書上)					
27	104	24	午三月田宮大参事辞表(田宮篤 輝大参事免職願)	明治3年	1870	3月	田宮篤輝	
27	104	25	午二月長官人名(名官省長官等 人名書上)	明治3年	1870	2月		
27	104	26~27	[江戸城諸門圭吾につき書類]					
27	104	26	午三月諸御門々之規律書御渡 相成候付申上候書付	明治3年	1870	3月10日	遠山大十郎(四等 聯隊長)	
27	104	27	諸御門警戒号規律(写)	[明治3年]	[1870]	3月	兵部省	
27	104	28~29	二月尾州産物売捌所を役名也し 者吟味之件 内密書					
27	104	28	[尾州産物会所を名乗るものにつ き報告]	[明治3年]	[1870]	3月17日		
27	104	29	[尾州糖売捌所木札、提桃等図] (28と一括か)	[明治3年]	[1870]	[3月17日]		
27	104	30	[尾州糖売捌所役人と名乗るもの 姓名等につき報告]	[明治3年]	[1870]	3月18日		
27	104	31	[尾州産物会所許可等関係書類 等一括]	[明治3年]	[1870]			
27	104	32	[仏人雇入れにつき書状]	[明治3年]	[1870]	3月	(丹羽)賢	水野
27	104	33	[宇都宮子出迎え等につき書状]	[明治3年]	[1870]	4月17日	(丹羽)賢	水(野)参事
27	104	34	[短刀贈るにつき書状]	[明治3年]	[1870]	3月16日	(水戸藩長谷川作 十郎)	
27	104	35	[鎌術の集会欠席につき書状]	[明治3年]	[1870]	3月4日	関谷(良輔)	水野
27	104	36	[東京新聞につき書状]	[明治3年]	[1870]	3月26日	伊藤輔	水野
27	104	37	午三月加州藩(篠原権大参事方 へ招集につき書状)	明治3年	1870	3月24日	実之助	彦三郎
27	104	38	[柳橋竹田屋にて集会につき書 状]	[明治3年]	[1870]	3月13日	堀田口 平岡新七	水野彦三郎
27	104	39	[大垣藩邸へ来駕につき書状]	明治3年	1870	3月2日	小原醉生	水野大醉兄
27	104	40	[静岡藩安藤徴夫の身上問合せ につき書状]	[明治3年]	[1870]	4月23日	信寅	水野
27	104	41	老公御出京の口被召候者(慶勝 上京につき同行者申渡書及び名 札)	明治3年	1870	4月		
27	104	42	[参殿につき官吏名簿]	[明治3年]	[1870]	4月		
27	104	43	[参殿につき官吏名簿]	[明治3年]	[1870]	[4月]		
27	104	44	[参殿時刻につき書状]	明治3年	1870	4月16日	西田権正	水野権少参事
27	104	45	[知事への贈答につき書状]	明治3年	1870	4月28日	松本暢	水野権大参事
27	104	46	[浪華幸馬雇入并漢洋学試験等 につき書状]	明治3年	1870	4月17日	(丹羽)賢	水野参事

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	104	47 撃劔試合人名 老公御出京の節	[明治3年]	[1870]	[4月]		
27	104	48 [官途周旋等につき書状]	[明治3年]	[1870]	4月17日	八木雕	霞州老君
27	104	49 [阿波出張につき拝謁取次願状]	明治3年	1870	4月24日	(田中)不二麿	水野参事
27	104	50~58 [慶勝在京中供のものにつき書付]					
27	104	50 [供の者部屋割りにつき書付]	[明治3年]	[1870]			
27	104	51 [諸手当につき書付]	[明治3年]	[1870]			
27	104	52 [権大参事衆等人数書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	53 [部屋割り書付]	[明治3年]	[1870]			
27	104	54 [御作事掛人名人数書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	55 [公用方属吏人名書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	56 [公用方属吏見習人名書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	57 [公用方属吏等役向人名書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	58 [勘定所、納戸人名書上]	[明治3年]	[1870]	7月		
27	104	59~65 [公用方御中間手当につき書付]					
27	104	59 [中間手当改正高書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	60 [公用方御中間給米高書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	61 [切府取繰上げ等につき書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	62 [切米、切付勘定書付]	[明治3年]	[1870]			
27	104	63 [公用方御中間給米、年数書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	64 火之元廻十二人一ヶ年御入用様	[明治3年]	[1870]			
27	104	65 [役別人数書上]	[明治3年]	[1870]			
27	104	66 [浅草邸寄寓の者等につき書状]	明治3年	1870	5月11日	棲碧	霞州
27	104	67 五月十六日 神田多町老丁目 三河屋久兵衛ヲイテ西洋料理 (西洋料理メニュー)	明治3年	1870	5月16日		
27	104	68 [篠原他二名につき書状]	明治3年	1870	5月25日	妻木 栖碧	水野 霞州
27	104	69 [議院幹事等につき書状]	明治3年	1870	5月29日	栖碧(妻木)	霞州
27	104	70 後宮へ御贈り物(慶勝より宗家後 宮へ贈り物につき書状)	明治3年	1870	5月2日	栖碧(妻木)	露州
27	104	71 英人雇ノ事(英人ステヘンスの雇 入れにつき書状)	明治3年	1870	5月8日	宇都宮大助教	水野権少参事
27	104	72 三年五月尾州邸云々 別紙懇願 書(浅草邸寄寓三名につき懇願 書)	明治3年	1870	5月	(妻木)務	彦三郎
27	104	73 兵隊御番所(桜田御門ならびに 新関門五ヶ所の夜食につき嘆願 書)	明治3年	1870	5月20日	二番大隊 中隊長	
27	104	74 御番所勤割(嘆願書添付別紙勤 割)	[明治3年]	[1870]	5月		
27	104	75 [河田・小永井・大野のこと等 につき書状]	明治3年	1870	5月17日	丹羽賢	水参事
27	104	76 [拝借金百円返納につき書状]	明治3年	1870	5月27日	松本	水野参事
27	104	77 [賞典禄請取方などにつき書状]	[明治3年]	[1870]		良順	彦三郎

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	104	78 [慶勝御帰藩、川田の件、漢学生・英学生のことなどにつき書状]	[明治3年]	[1870]	5月5日後2日	(丹羽)賢	水野参事
27	104	79 米利堅江注文 書籍目録(アメリカへの洋書注文書)	[明治3年]	[1870]			
27	104	80 [知事公より下賜につき御礼および伊藤清八を内膳大令史に雇うことにつき書状]	明治3年	1870	6月6日	行中(松本)	水野先生
27	104	81 小永井登程(小永井小舟尾州に来訪につき書状)	明治3年	1870	6月22日	小永井八郎	水野参事公
27	104	82 [替屋敷のことなどにつき書状]	明治3年	1870	6月28日	伊藤修	参事水公閣下
27	104	83 [尾州邸への招きを辞すことにつき書状]	[明治3年]	[1870]		伊達宗興	丹羽先生 水野先生
27	104	84 [尾州邸への招きを辞すことにつき書状]	明治3年	1870	6月25日	妻木務	丹羽 水野 両先生
27	104	85 [梅川楼にて集会につき書状]	明治3年	1870	6月22日	山内	水野先生
27	104	86 宣下書付紛失(宣下書付紛失につき伺)	[明治3年]	[1870]	8月	名古屋藩水野権少参事	名古屋藩
27	104	87 [浅草邸の件につき書状]	明治3年	1870	7月15日	口譜(渡辺小華)	水野先生
27	104	88 [宮家・公家のうち遊学・勤学者書付]	[明治3年]	[1870]			
27	104	89 [藩知事職掌委任願]	[明治3年]	[1870]	7月4日	水野和泉守	[太政官]
27	104	90 [遠州亭親藩会へ丹羽を招待につき書状]	明治3年	1870	8月21日	妻木務	露洲先生
27	104	91 [水戸藩綿引氏帰国につき書状]	明治3年	1870	8月19日	綿引	水野先生
27	104	92 [職制写内覧の件および御大切な品返上につき書状]	明治3年	1870	8月14日	鈴木三蔵	水野先生
27	104	93 [徳川徳成幼少につき大参事等に政務委任願]	明治3年	1870	7月	名古屋藩知事源(徳川)徳成	弁官御中
27	104	94 [拝借金返上につき書状]	明治3年	1870	9月24日	犬飼殿广吕(殿麿)	水野彦三郎
27	104	95 [御簾舟に御供できない件につき書状]	明治3年	1870	8月[16日]	西田	水野老台
27	104	96 [丹羽大参事昇進につき書状]	[明治3年]	[1870]	9月14日	志水武雄	水野様参事様
27	104	97 [病状見舞につき書状]	明治3年	1870	9月21日	松本新作	水野彦三郎
27	104	98 [丹羽大参事昇任、八木兄近況につき書状]	明治3年	1870	9月19日	田中(不二麿)	水野先生
27	104	99 [藩制施行につき大参事等任命伺写]	[明治3年]	[1870]	[10月]	名古屋藩知事	[太政官]
27	104	100 [高橋石斎への金子三十円落手につき書状]	明治3年	1870	10月23日	水谷三造	水野先生
27	104	101 [藩政変革等につき書状]	明治3年	1870	10月5日	[八木雕]	
27	104	102 [近況につき書状](101の別紙か)	明治3年	1870	10月5日	八木雕	露洲老台
27	104	103 [病中見舞品呈上につき書状]	明治3年	1870	10月28日	田中(田中不二麿)	水野兄
27	104	104 [淡水亭落成等につき書状](103の別紙か)	[明治3年]	[1870]	[10月]	[田中不二麿]	
27	104	105 [浅草邸より出張の由につき書状]	明治3年	1870	10月24日	不貳麻呂(田中不二麿)	水野参事
27	104	106 [十二時出会につき書状]	明治3年	1870	10月	不貳麻呂(田中不二麿)	参事水の君
27	104	107 [病中見舞および贈答品落手につき礼状]	明治3年	1870	10月16日	丹羽銚次郎	水野少参事
27	104	108 [山崎彦太郎・天野小藤治ら依田困泥の者七尾天神に集結につき書状]	明治3年	1870	10月19日	丹羽賢	水野権少参事
27	104	109 [御去留の件につき書状]	明治3年	1870	11月10日	不二まる(田中不二麿)	水野老台
27	104	110 午十一月松本着尾(松本良順着藩につき書状)	明治3年	1870	11月21日	丹羽賢	口(水カ)野参事公

幕末維新書翰集 内訳目録

請求 番号	枝番	名称	和暦	西暦	月日	差出(作成)	宛名
27	104	111 [山邨家司農のことにつき書状]	明治3年	1870	12月16日	承太郎	彦三郎
27	104	112 [東行の件につき書状]	明治3年	1870	12月25日	(志水)武雄	彦三郎

名古屋市蓬左文庫所蔵資料目録（1）
『青窓紀聞』目次
「幕末維新書簡集」内訳目録

発 行 日 平成 30 年 3 月 1 日
編集／発行 名古屋市蓬左文庫
〒461-0023
名古屋市東区徳川町 1001
製 本 ダイアローグ



